Ⅳ　結果の分析

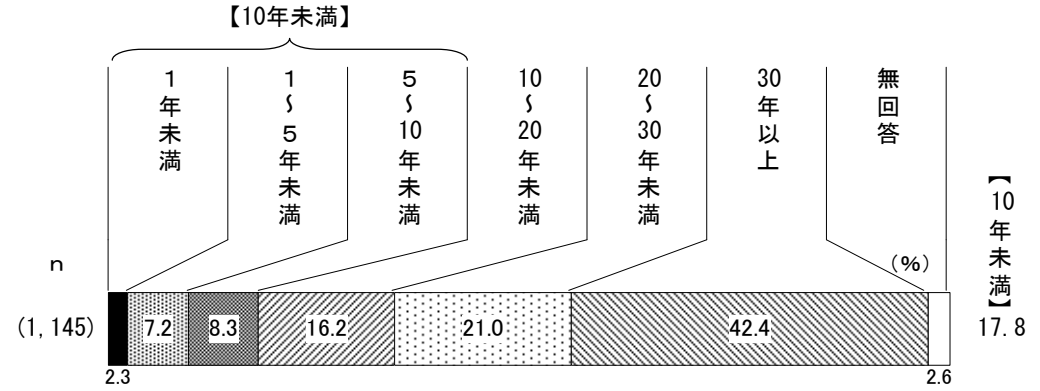
１．定住意識

（１）居住年数

◇「30年以上」が４割強

問１　あなたは、福生市に住んで何年になりますか。次の中から１つだけ選んでください。
（○は１つ）

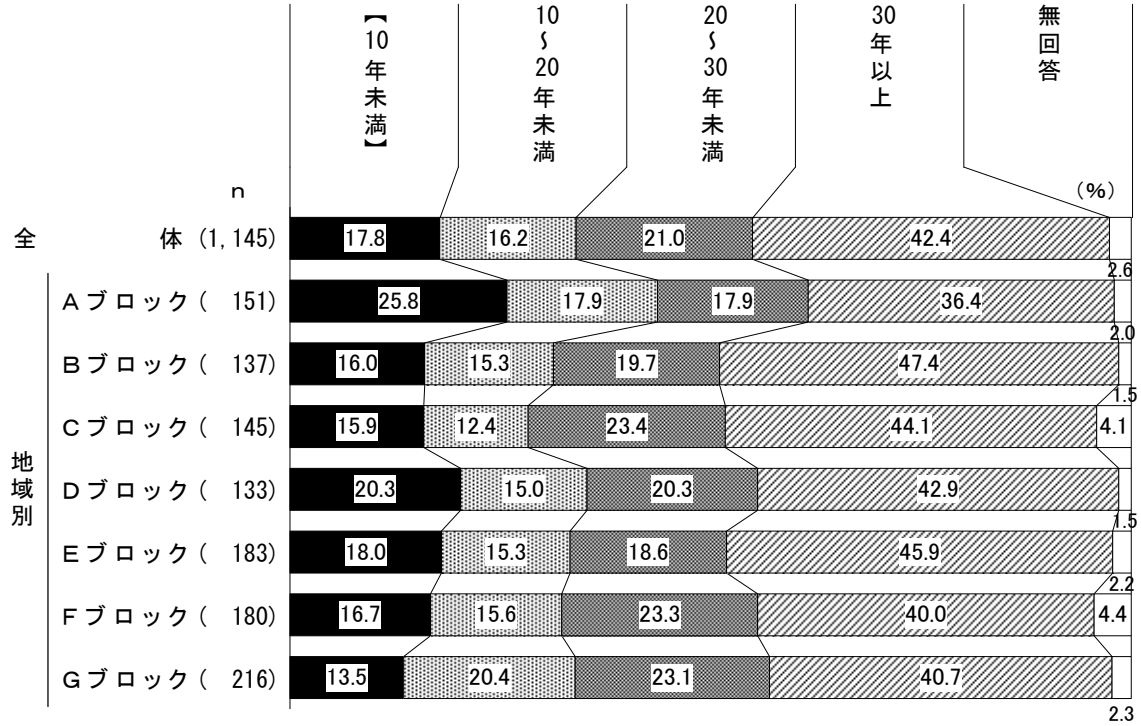
＜図表１－１＞居住年数



居住年数を聞いたところ、「30年以上」（42.4%）が４割強で最も高く、次いで「20～30年未満」（21.0%）が約２割、「10～20年未満」（16.2%）が２割弱となっている。「１年未満」（2.3%）と「１～５年未満」（7.2%）、「５～10年未満」（8.3%）の３つを合わせた【10年未満】（17.8%）は２割弱となっている。（図表１－１）

地域別でみると、「30年以上」はＢブロック（47.4%）で５割弱と高くなっている。【10年未満】はＡブロック（25.8%）で２割台半ばと高くなっている。（図表１－２）

＜図表１－２＞居住年数／地域別

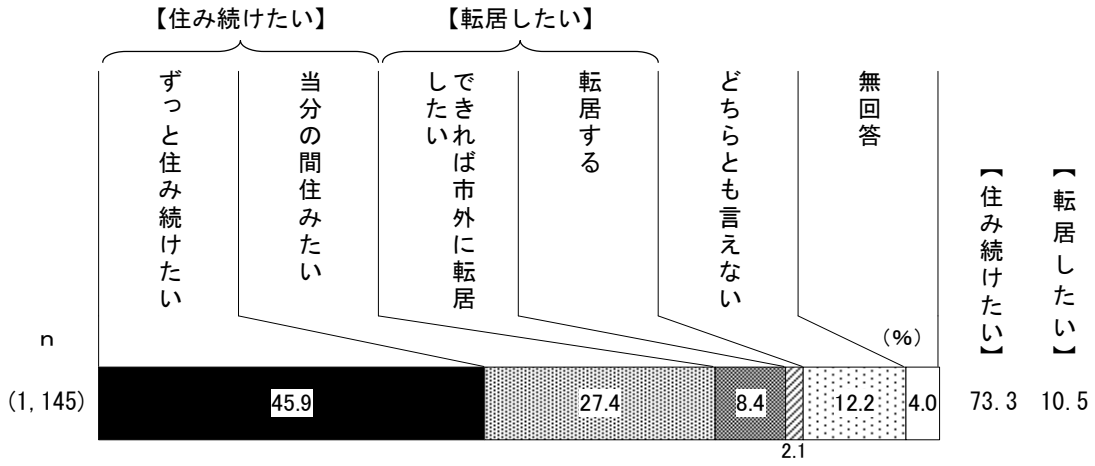


（２）定住意向

◇【住み続けたい】が７割強

問２　あなたは、今後も福生市に住み続けたいと思いますか。それとも市外に転居したいと思いますか。次の中から１つだけ選んでください。（○は１つ）

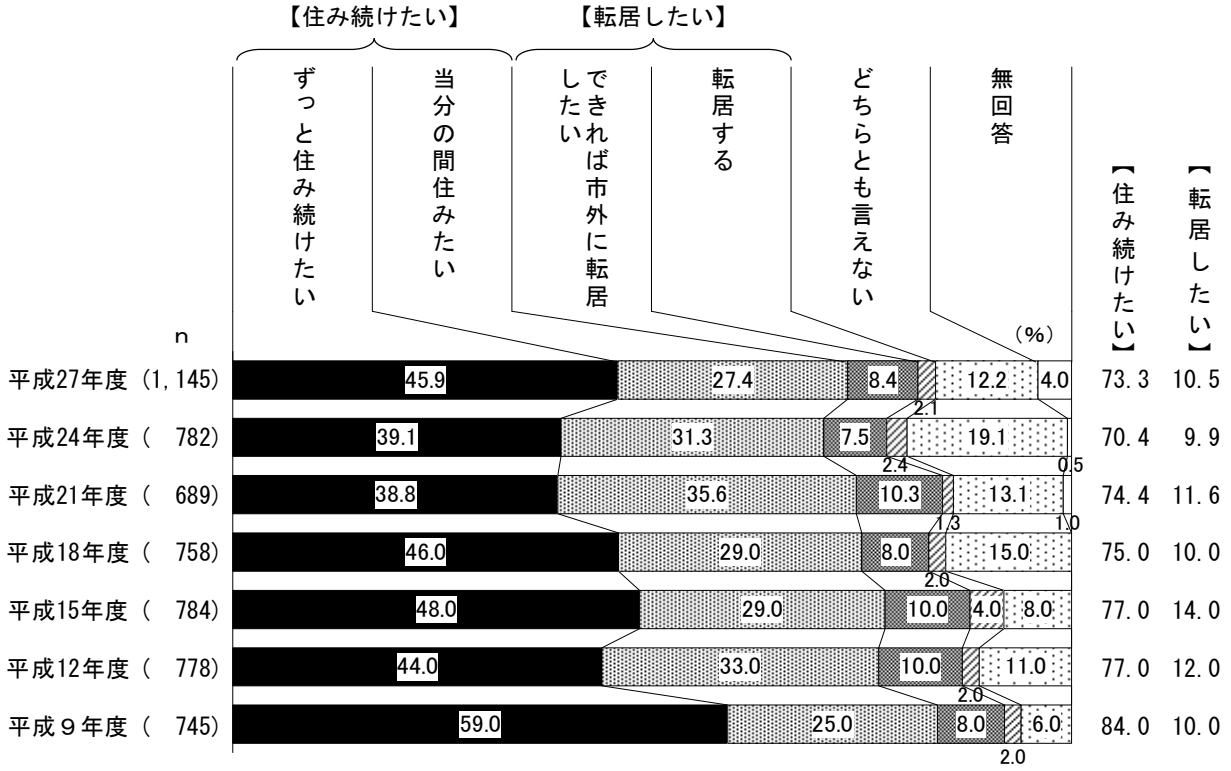
＜図表１－３＞定住意向



定住意向を聞いたところ、「ずっと住み続けたい」（45.9%）と「当分の間住みたい」（27.4%）の２つを合わせた【住み続けたい】（73.3%）が７割強と高くなっている。一方、「できれば市外に転居したい」（8.4%）と「転居する」（2.1%）の２つを合わせた【転居したい】（10.5%）は約１割となっている。（図表１－３）

過年度の調査結果の推移をみると、【住み続けたい】は平成12年度以降７割台で推移している。（図表１－４）

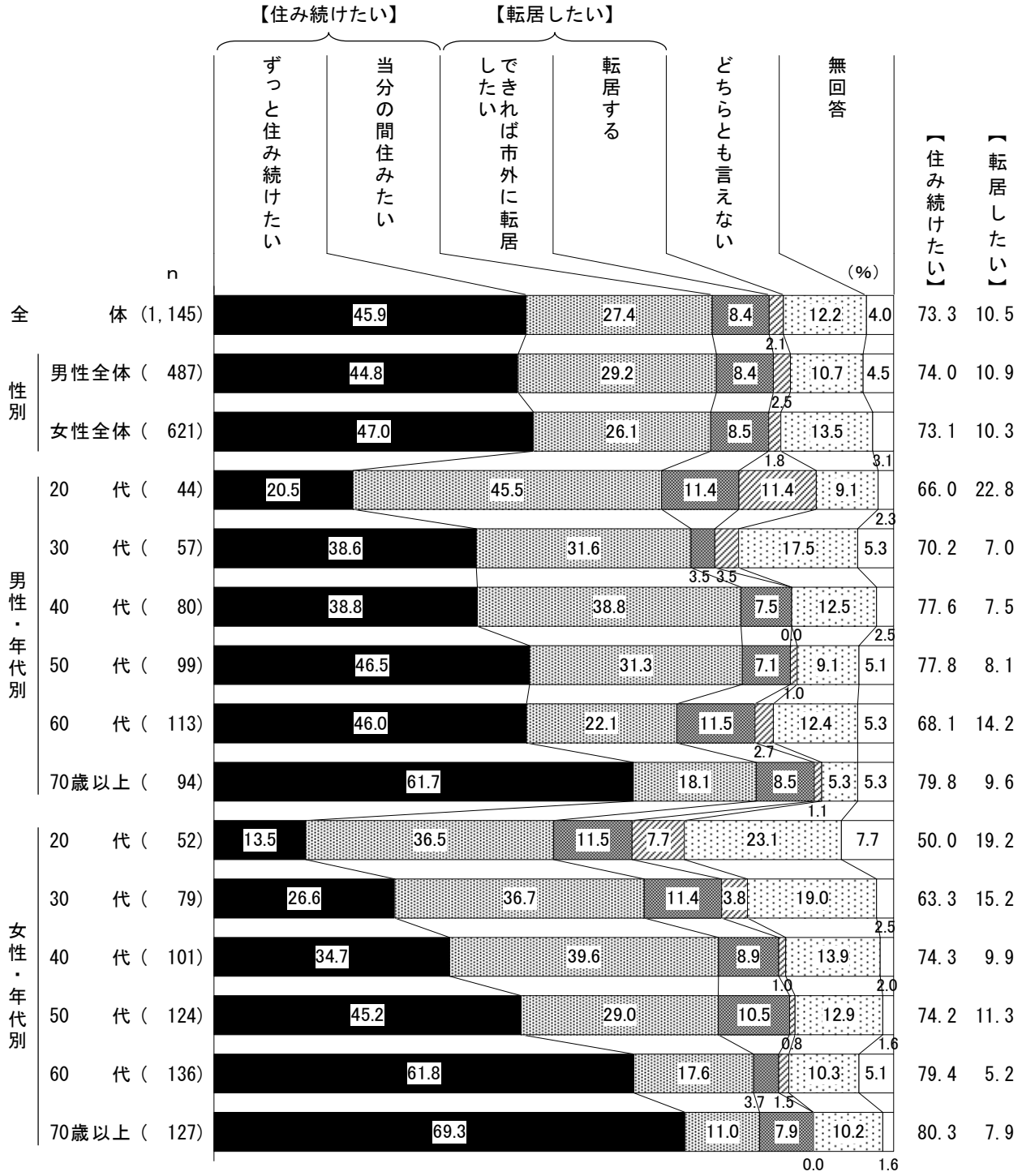
＜図表１－４＞定住意向／過年度推移



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

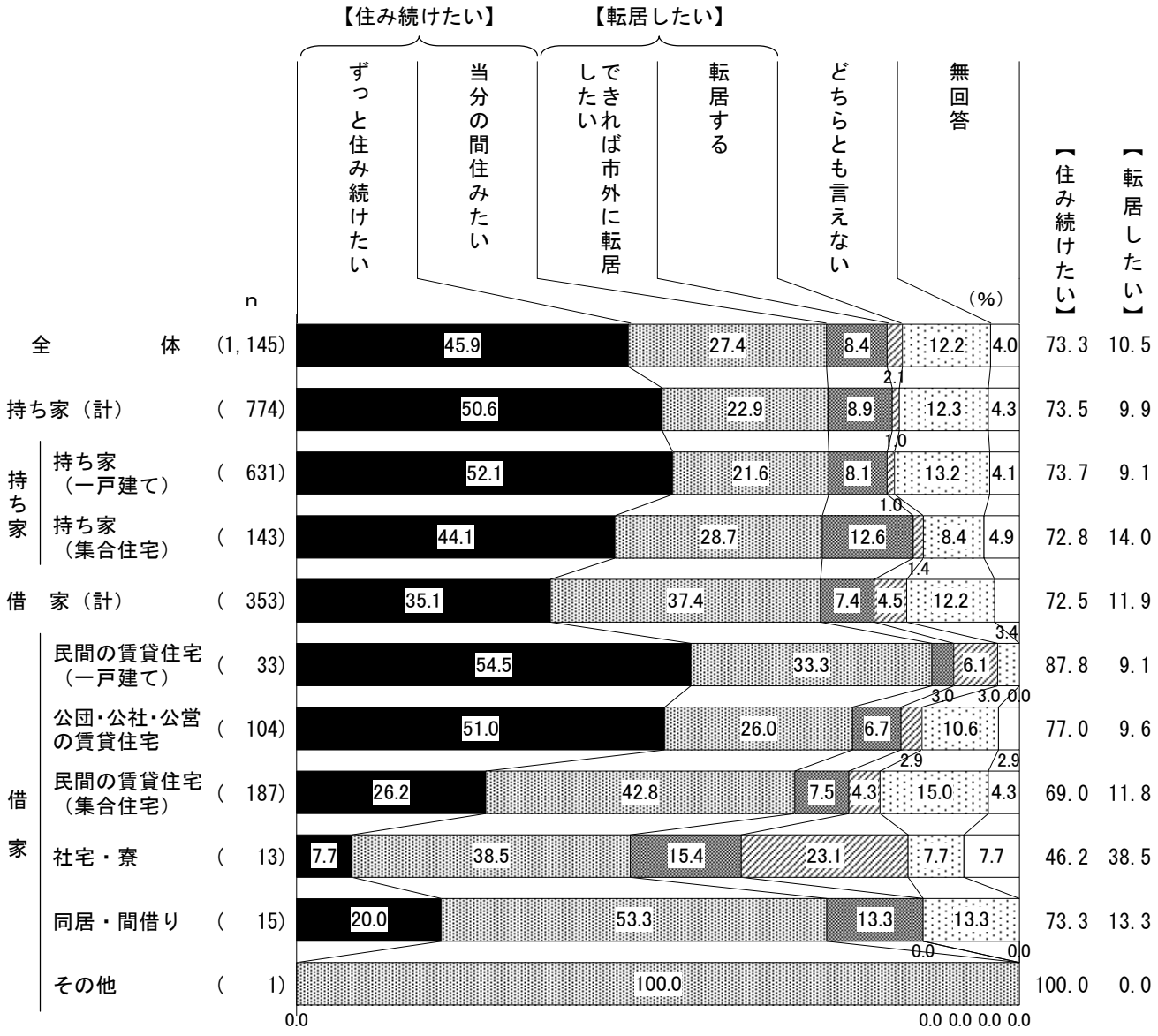
性・年代別でみると、【住み続けたい】は男性70歳以上（79.8%）と女性60代（79.4%）・女性70歳以上（80.3%）で約８割と高くなっている。「ずっと住み続けたい」は女性では高い年代ほど割合が高くなっている。【転居したい】は男性20代（22.8%）で２割強、女性20代（19.2%）で約２割となっている。（図表１－５）

＜図表１－５＞定住意向／性別、性・年代別



住居形態別でみると、【住み続けたい】は民間の賃貸住宅（一戸建て）（87.8%）で９割弱と高くなっている。また、【住み続けたい】は持ち家（計）では73.5%、借家（計）では72.5%となっており、大きな差はみられない。（図表１－６）

＜図表１－６＞定住意向／住居形態別



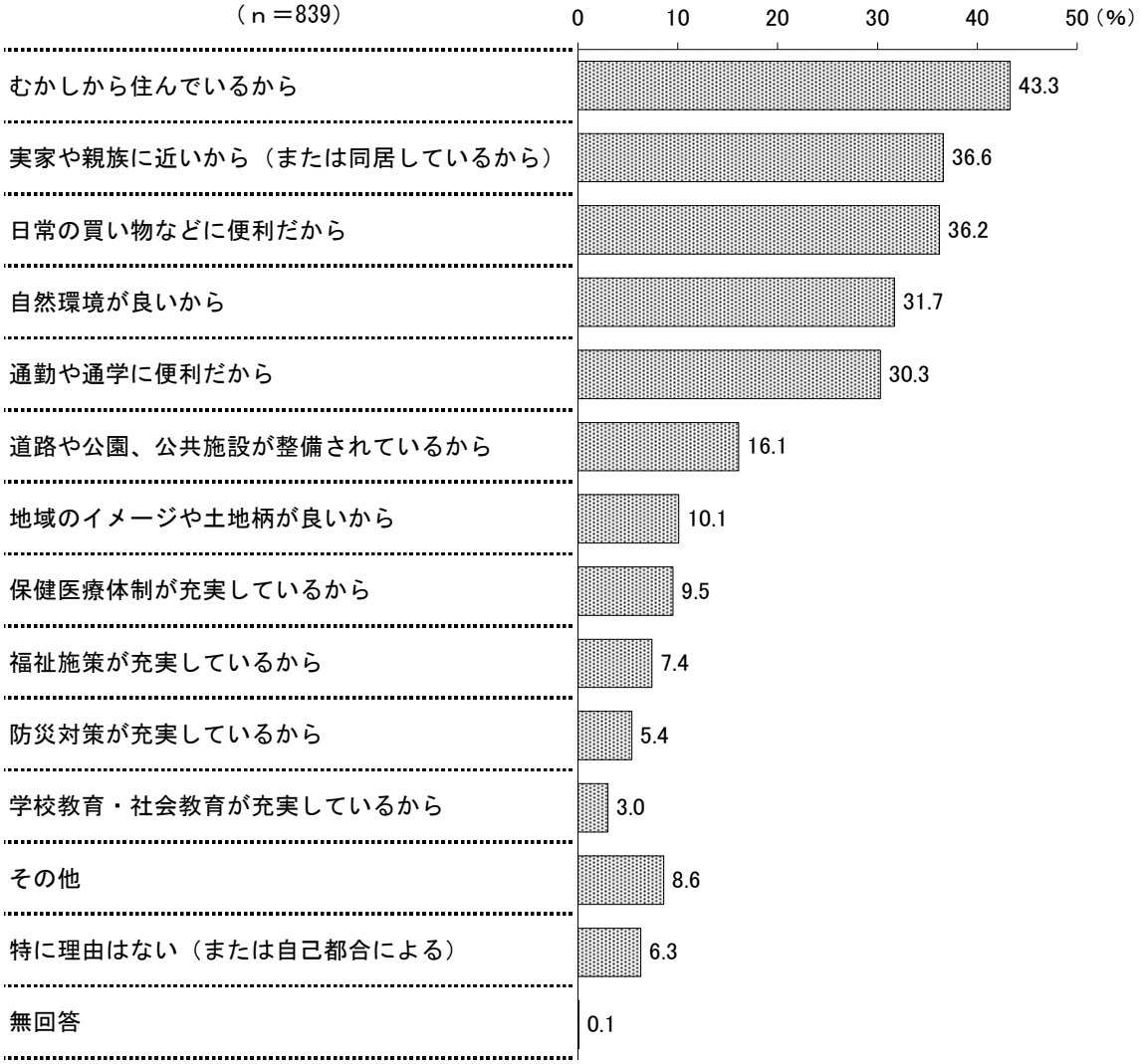
（３）定住したい理由

◇「むかしから住んでいるから」が４割強

（問２で、「ずっと住み続けたい」または「当分の間住みたい」を選んだ方に）

問２－１　あなたが福生市に住み続けたいと思った理由は何ですか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。（○はいくつでも）

＜図表１－７＞定住したい理由

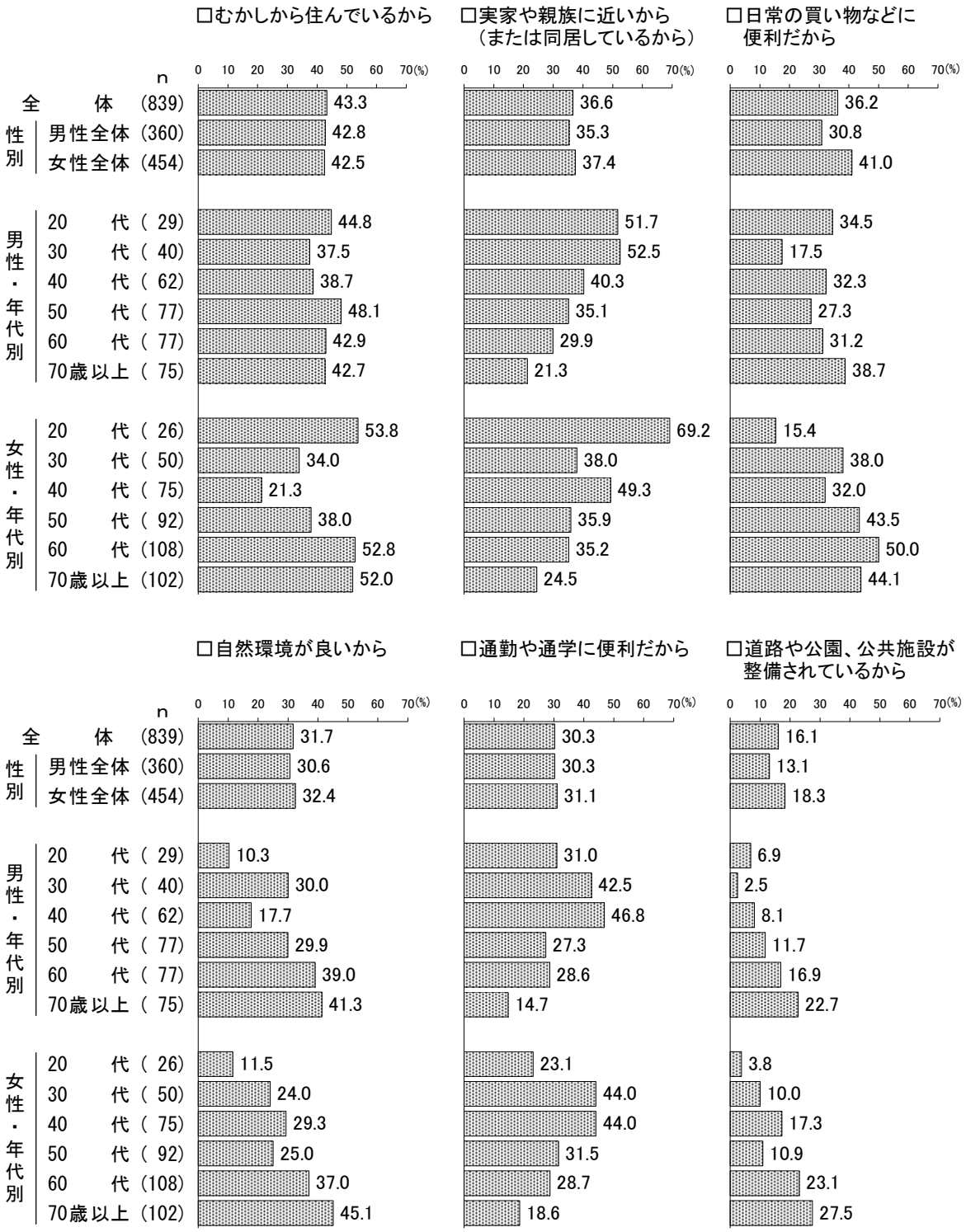


問２で「ずっと住み続けたい」または「当分の間住みたい」と答えた方に、定住したい理由を聞いたところ、「むかしから住んでいるから」（43.3%）が４割強で最も高く、次いで「実家や親族に近いから（または同居しているから）」（36.6%）、「日常の買い物などに便利だから」（36.2%）、「自然環境が良いから」（31.7%）、「通勤や通学に便利だから」（30.3%）となっている。（図表１－７）

上位６項目について性別でみると、「日常の買い物などに便利だから」は女性（41.0%）が男性（30.8%）より10.2ポイント高く、「道路や公園、公共施設が整備されているから」は女性（18.3%）が男性（13.1%）より5.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「むかしから住んでいるから」は女性20代（53.8%）と女性60代（52.8%）・女性70歳以上（52.0%）で５割強と高くなっている。「実家や親族に近いから（または同居しているから）」は女性20代（69.2%）で約７割と高くなっている。「日常の買い物などに便利だから」は女性60代（50.0%）で５割と高くなっている。（図表１－８）

＜図表１－８＞定住したい理由／性別、性・年代別（上位６項目）



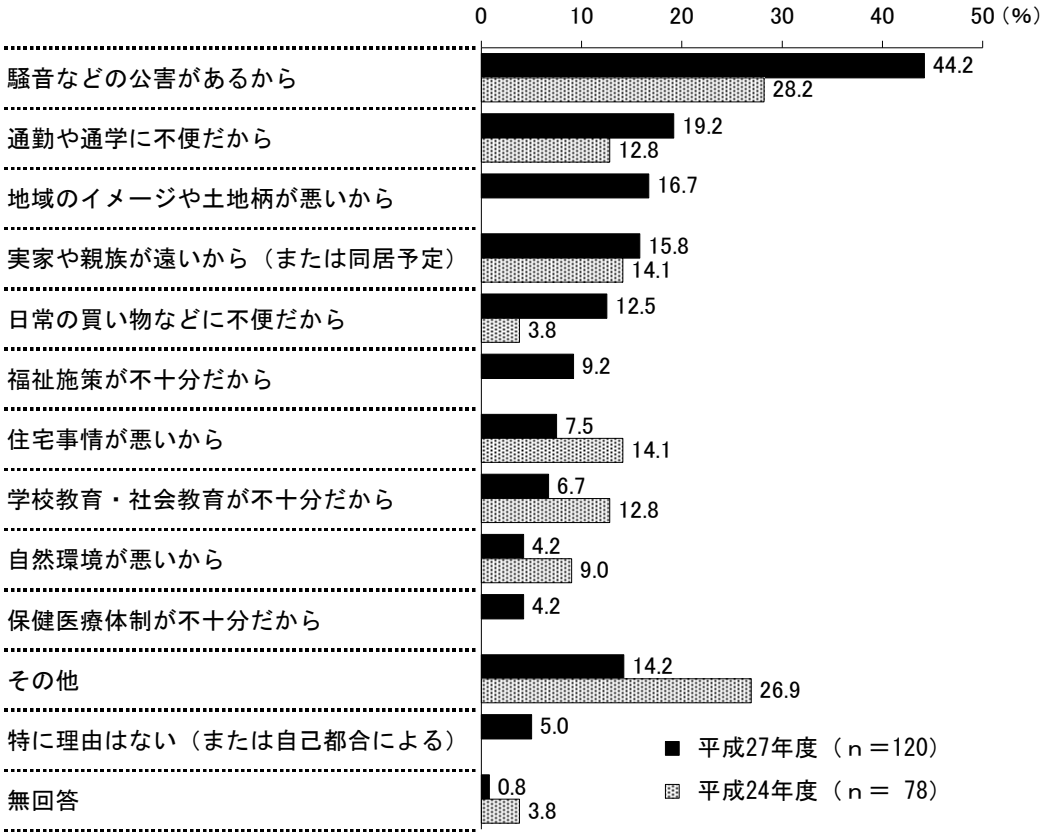
（４）移転したい理由

◇「騒音などの公害があるから」が４割台半ば

（問２で、「できれば市外に転居したい」または「転居する」を選んだ方に）

問２－２　「転居したい」または「転居する」とお思いの理由を次の中から２つまで選んでください。（○は２つまで）

＜図表１－９＞移転したい理由



（注）「地域のイメージや土地柄が悪いから」と「福祉施策が不十分だから」、「保健医療体制が不十分だから」、「特に理由はない（または自己都合による）」は、今回調査で追加した選択肢である。
「通勤や通学に不便だから」は、前回調査では「交通が不便」としていた。
「実家や親族が遠いから（または同居予定）」は、前回調査では「家族の都合」としていた。
「日常の買い物などに不便だから」は、前回調査では「買い物が不便」としていた。
「住宅事情が悪いから」は、前回調査では「住宅の都合」としていた。
「学校教育・社会教育が不十分だから」は、前回調査では「子どもの教育環境が悪い」としていた。
また、前回調査で選択肢としていた「仕事の都合」（11.5%）、「近隣との人間関係が悪い」（6.4%）、「公共施設が不十分」（3.8%）、「道路などの整備が遅れている」（1.3%）、「商業やその他事業に不利・不向き」（1.3%）は、今回調査では選択肢に加えていない。

問２で、「できれば市外に転居したい」または「転居する」と答えた方に、移転したい理由を聞いたところ、「騒音などの公害があるから」（44.2%）が４割台半ばで最も高く、次いで「通勤や通学に不便だから」（19.2%）、「地域のイメージや土地柄が悪いから」（16.7%）、「実家や親族が遠いから（または同居予定）」（15.8%）、「日常の買い物などに不便だから」（12.5%）となっている。（図表１－９）

前回の調査結果との比較は、多くの選択肢が追加・変更されているため参考にとどまるが、「騒音などの公害があるから」は前回調査に引き続き第１位となっている。（図表１－９）

２．生活環境評価

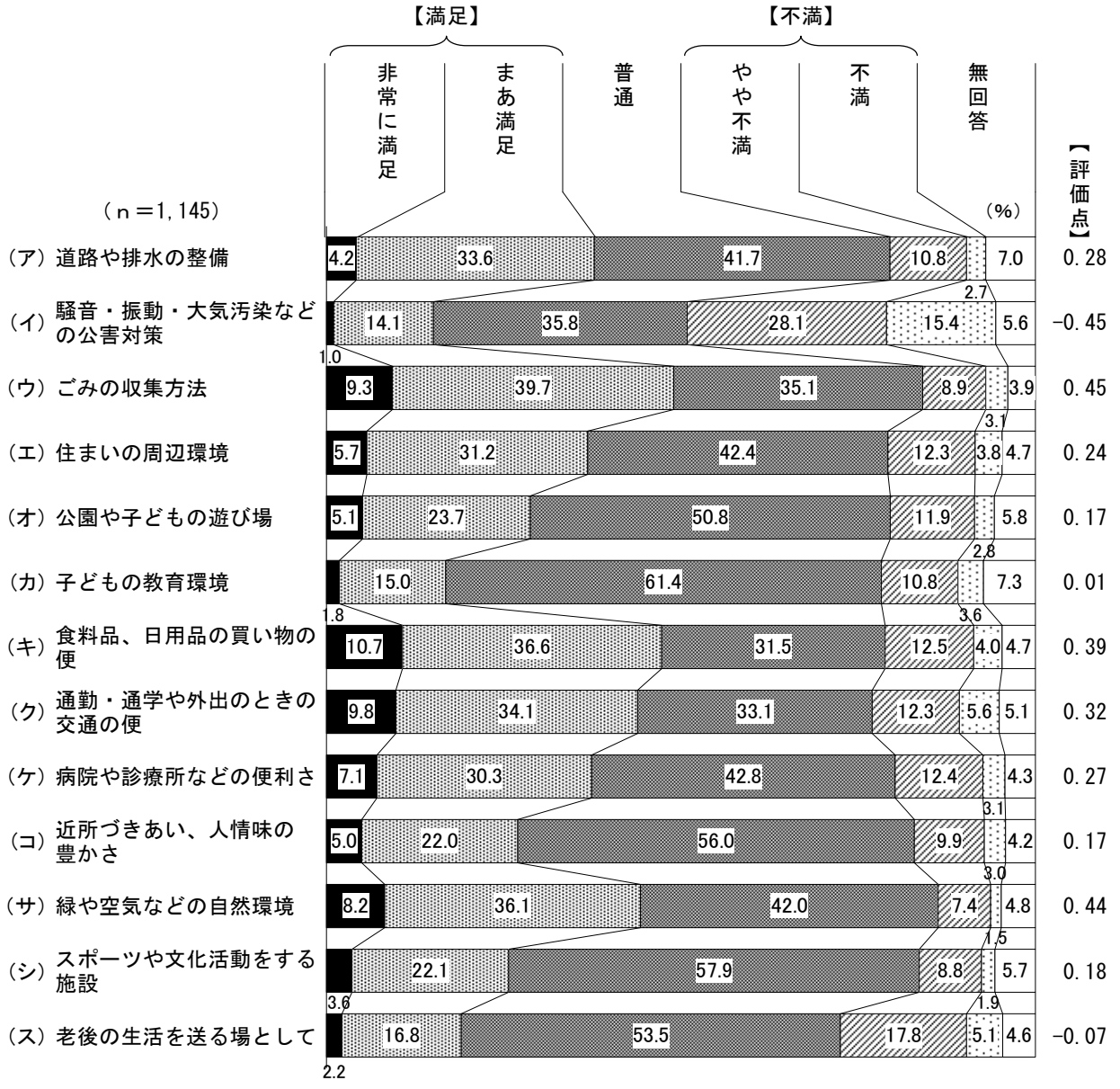
（１）地域の生活環境評価

◇【満足】が最も高いのは「ごみの収集方法」で約５割

問３　あなたは、「地域の住みよさ」について、普段どのように感じていますか。次の（ア）から（ス）までの項目について、それぞれ１つずつ選んで番号に○をつけてください。

（○はそれぞれ１つずつ）

＜図表２－１＞地域の生活環境評価



地域の住みよさについて、13項目に分けて評価を聞いたところ、「非常に満足」と「まあ満足」の２つを合わせた【満足】は、（ウ）ごみの収集方法（49.0%）が約５割で最も高く、次いで（キ）食料品、日用品の買い物の便（47.3%）、（サ）緑や空気などの自然環境（44.3%）、（ク）通勤・通学や外出のときの交通の便（43.9%）となっている。

一方、「やや不満」と「不満」の２つを合わせた【不満】は、（イ）騒音・振動・大気汚染などの公害対策（43.5%）が４割強で最も高く、次いで（ス）老後の生活を送る場として（22.9%）となっている。（図表２－１）

生活環境の評価を比率でみるのとは別に、その比較をより明確にするために加重平均値による数量化を行った。これは、以下の計算式にあるように、評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出する方法である。

評価点の算出方法

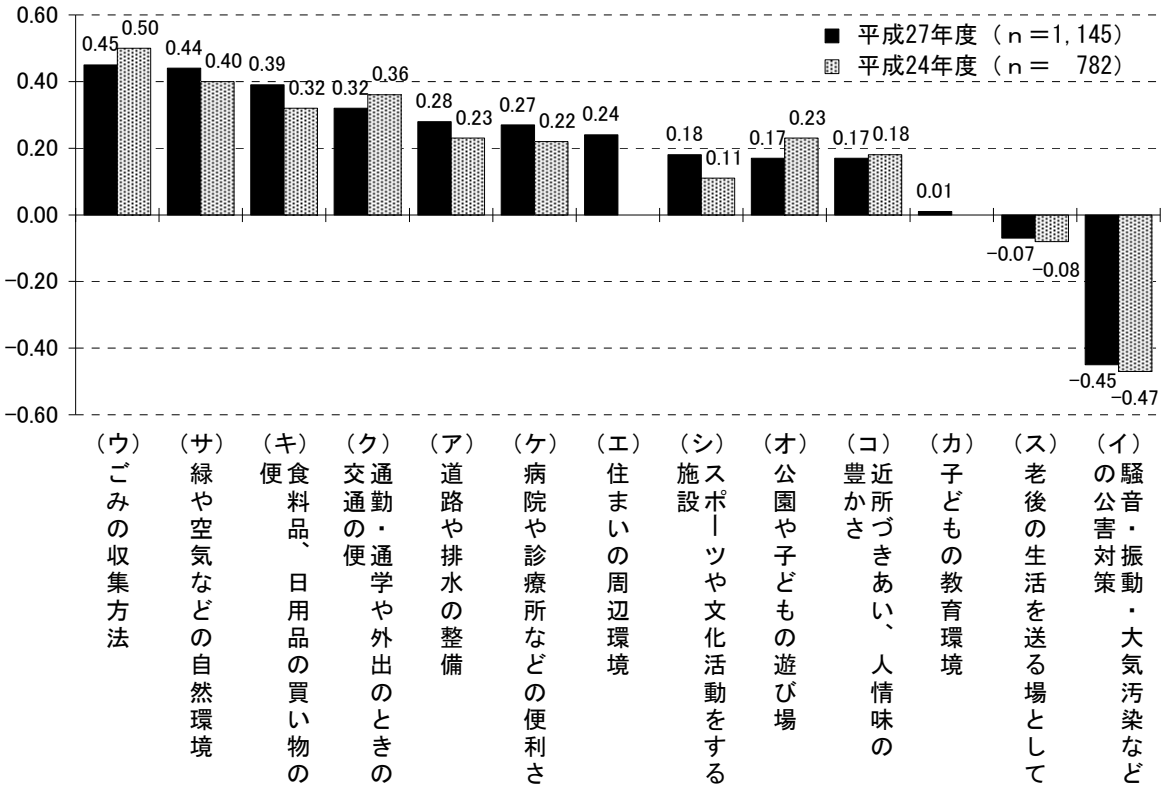
$$評価点 = \frac{\begin{array}{l}「非常に満足」の回答数\times\ 2点 \\ +「まあ満足」の回答数\times\ 1点 \\ +「普\quad 通」の回答数\times\ 0点 \\ +「やや不満」の回答数\times -1点 \\ +「非常に不満」の回答数\times -2点\end{array}}{(回答者数)-(無回答者数)}$$

この算出方法では、評価点は＋2.00点～－2.00点の間に分布し、中間点の0.00点を境に、＋2.00点に近いほど評価が高く、逆に－2.00点に近いほど評価が低いことになる。

評価点が最も高い項目は（ウ）ごみの収集方法（0.45）で、次いで（サ）緑や空気などの自然環境（0.44）、（キ）食料品、日用品の買い物の便（0.39）となっている。一方、（イ）騒音・振動・大気汚染などの公害対策（-0.45）と（ス）老後の生活を送る場として（-0.07）の２項目はマイナスの評価点となっている。（図表２－２）

前回の調査結果と比較すると、（キ）食料品、日用品の買い物の便と（シ）スポーツや文化活動をする施設はともに0.07ポイント増加している。一方、（オ）公園や子どもの遊び場は0.06ポイント減少し、（ウ）ごみの収集方法は0.05ポイント減少している。（図表２－２）

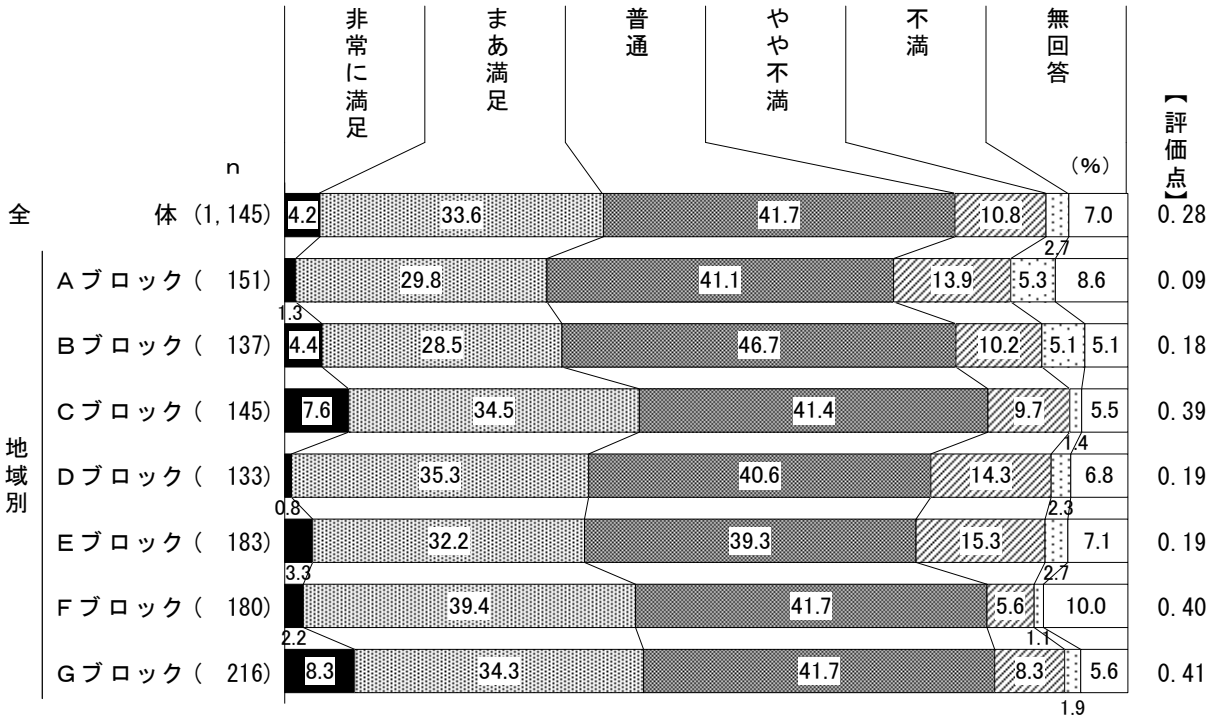
＜図表２－２＞地域の生活環境評価／評価点の過年度推移



（注）（エ）住まいの周辺環境と（カ）子どもの教育環境は、今回調査で追加した項目である。
また（イ）騒音・振動・大気汚染などの公害対策は、前回調査では騒音・振動・大気汚染などの公害としていた。

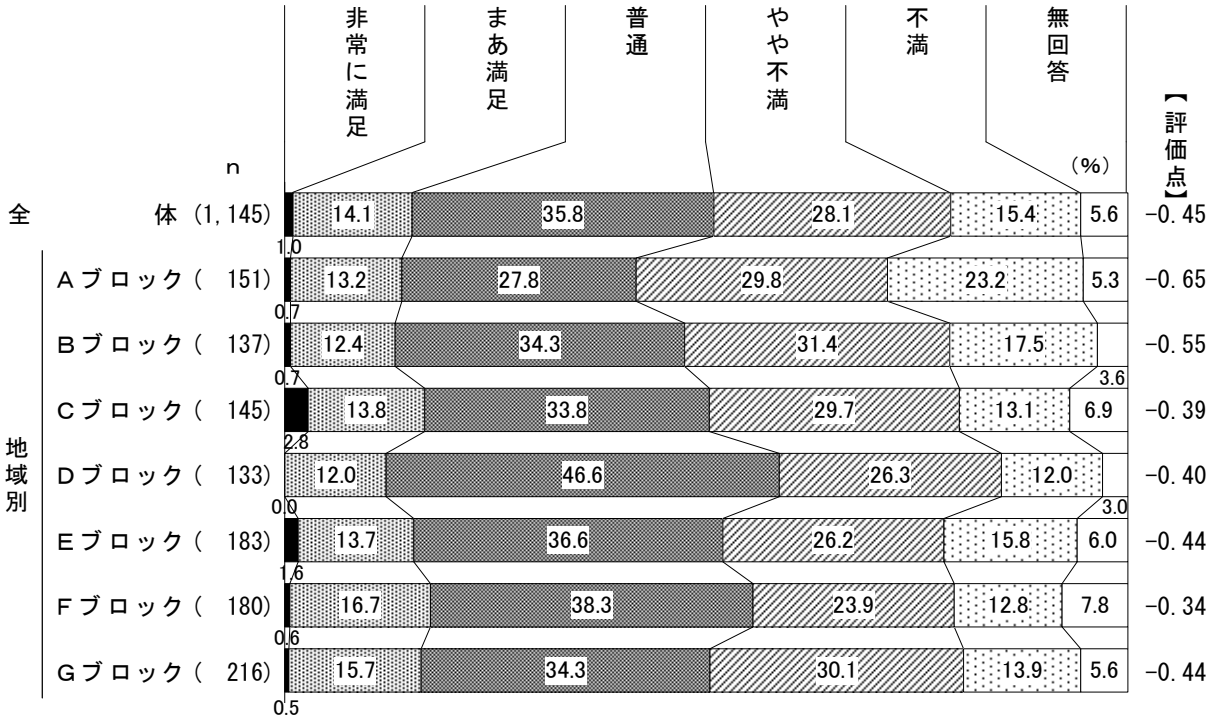
（ア）道路や排水の整備について地域別でみると、Ｆブロック（0.40）で最も評価点が高く、次いでＣブロック（0.39）が高くなっている。一方、Ａブロック（0.09）では最も評価点が低くなっている。（図表２－３）

＜図表２－３＞地域の生活環境評価（ア）道路や排水の整備／地域別



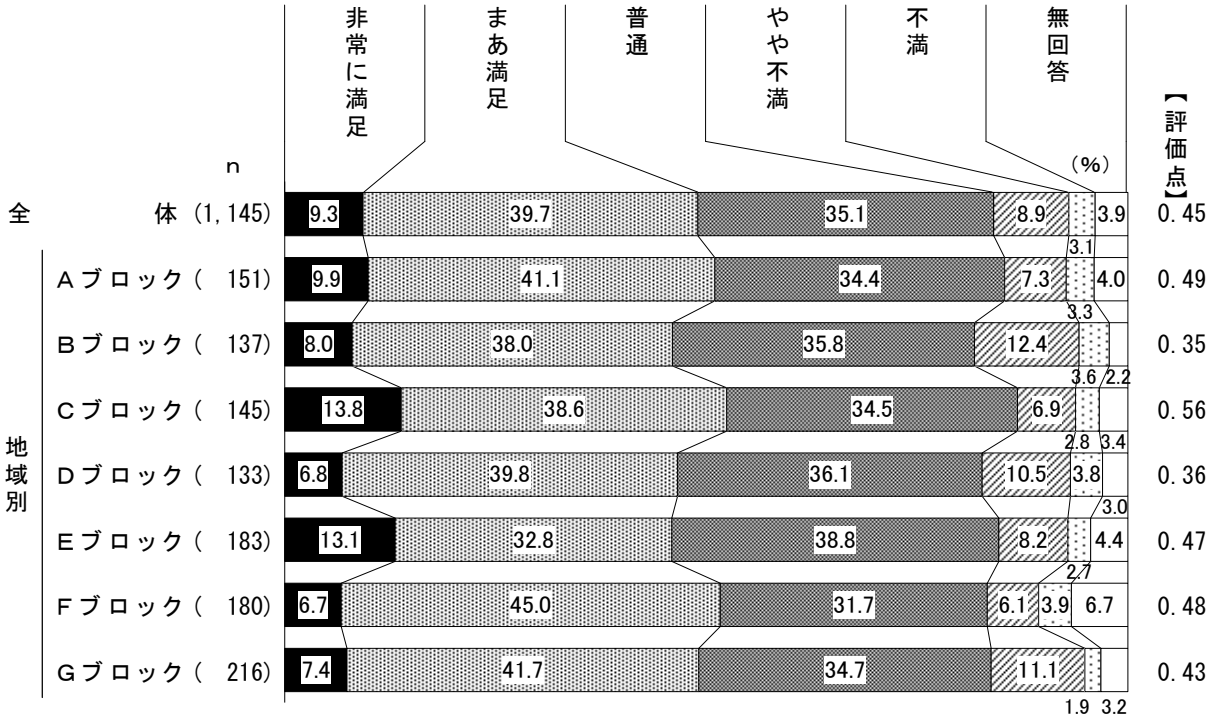
（イ）騒音・振動・大気汚染などの公害対策について地域別でみると、すべてのブロックで評価点がマイナスとなっており、Ａブロック（-0.65）で最も評価点が低くなっている。（図表２－４）

＜図表２－４＞地域の生活環境評価（イ）騒音・振動・大気汚染などの公害対策／地域別



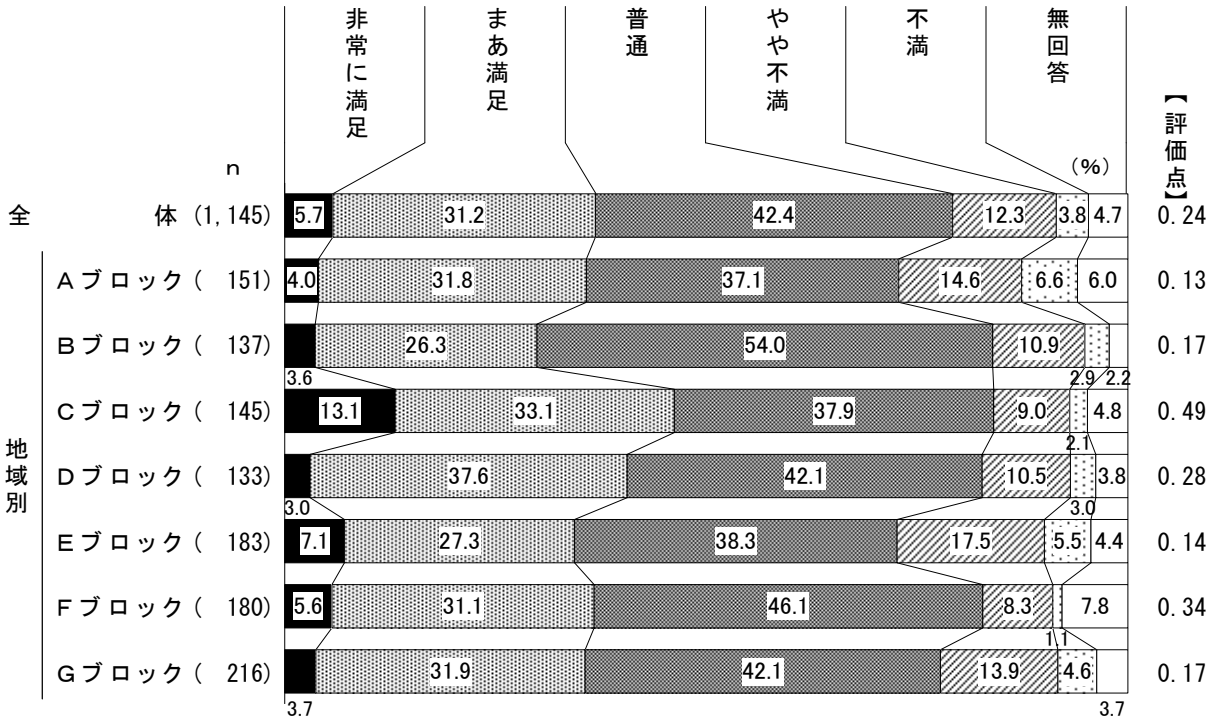
（ウ）ごみの収集方法について地域別でみると、Cブロック（0.56）で最も評価点が高くなっている。一方、Bブロック（0.35）では最も評価点が低くなっている。（図表２－５）

＜図表２－５＞地域の生活環境評価（ウ）ごみの収集方法／地域別



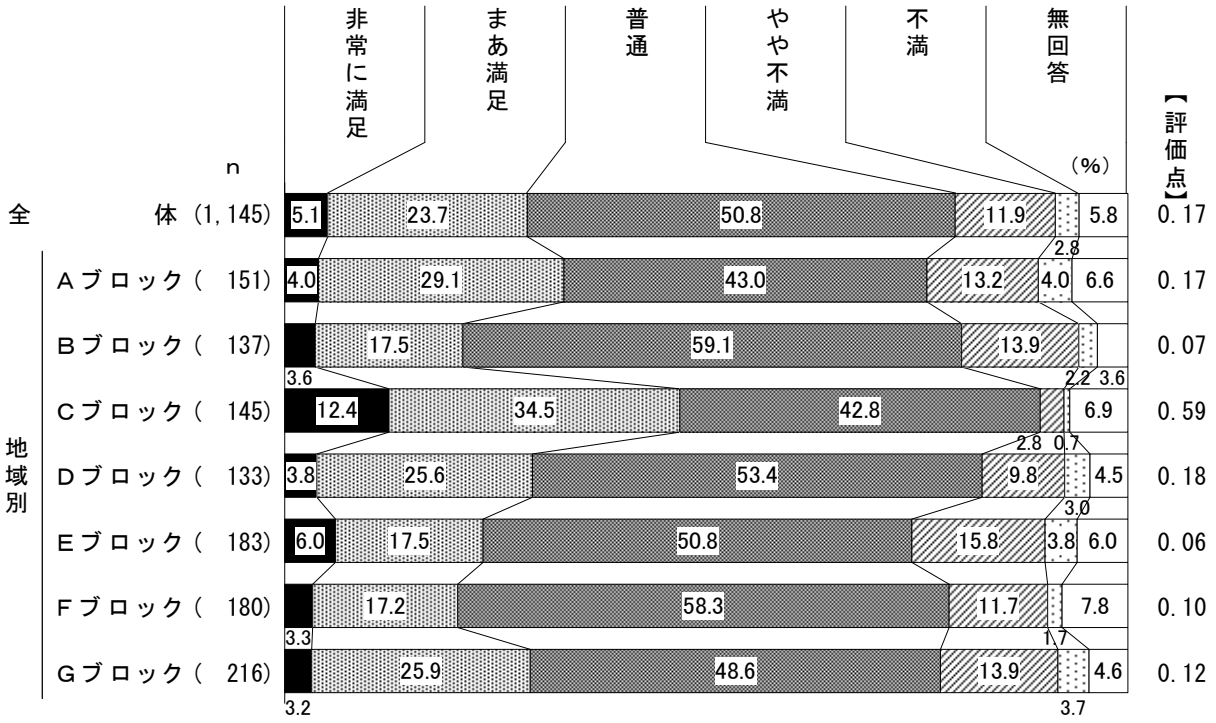
（エ）住まいの周辺環境について地域別でみると、Cブロック（0.49）で最も評価点が高く、次いでFブロック（0.34）、Dブロック（0.28）となっている。（図表２－６）

＜図表２－６＞地域の生活環境評価（エ）住まいの周辺環境／地域別



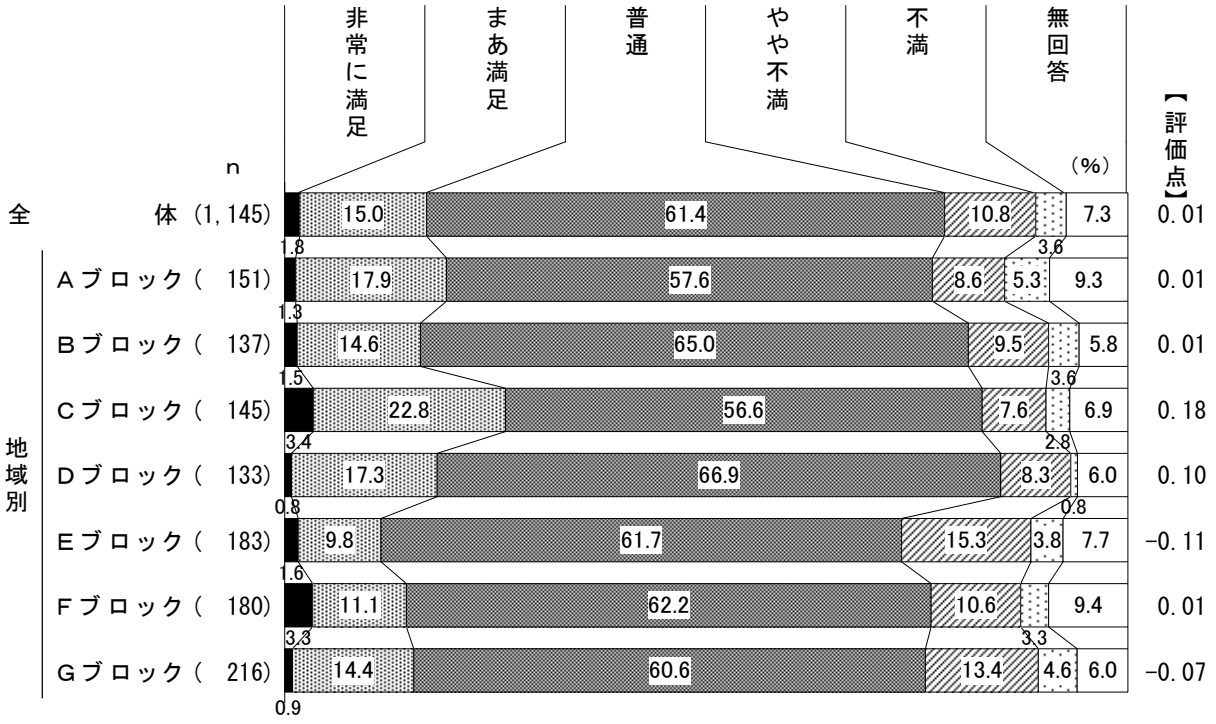
（オ）公園や子どもの遊び場について地域別でみると、Ｃブロック（0.59）で最も評価点が高くなっている。一方、Ｅブロック（0.06）では最も評価点が低く、次いでＢブロック（0.07）、Ｆブロック（0.10）となっている。（図表２－７）

＜図表２－７＞地域の生活環境評価（オ）公園や子どもの遊び場／地域別



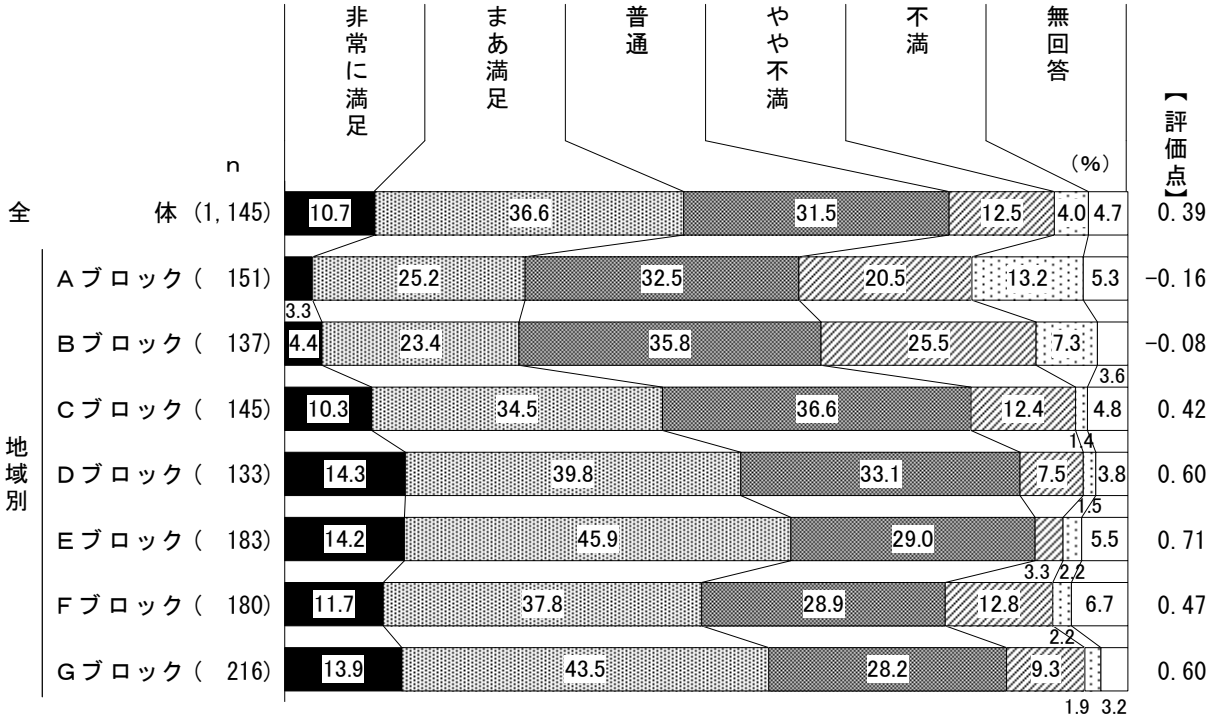
（カ）子どもの教育環境について地域別でみると、Ｃブロック（0.18）で最も評価点が高くなっている。一方、Ｅブロック（-0.11）とＧブロック（-0.07）では評価点がマイナスとなっている。（図表２－８）

＜図表２－８＞地域の生活環境評価（カ）子どもの教育環境／地域別



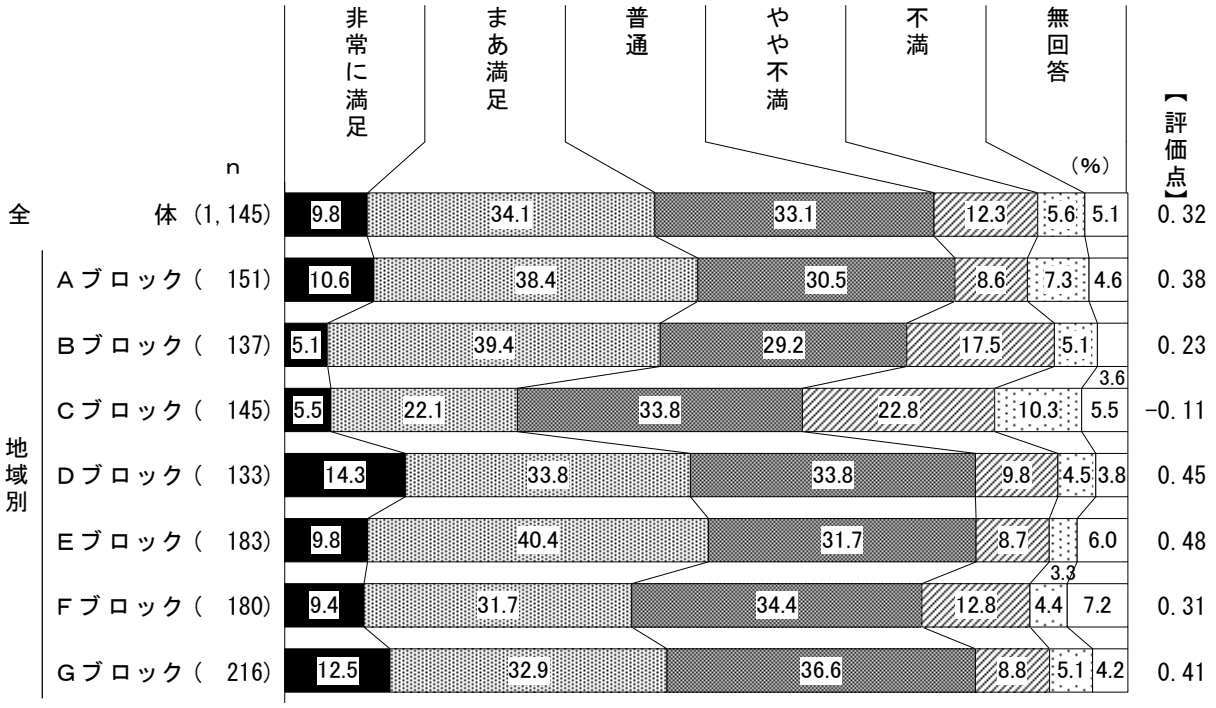
（キ）食料品、日用品の買い物の便について地域別でみると、Ｅブロック（0.71）で最も評価点が高く、次いでＤブロック（0.60）、Ｇブロック（0.60）となっている。一方、Ａブロック（-0.16）とＢブロック（-0.08）では評価点がマイナスとなっている。（図表２－９）

＜図表２－９＞地域の生活環境評価（キ）食料品、日用品の買い物の便／地域別



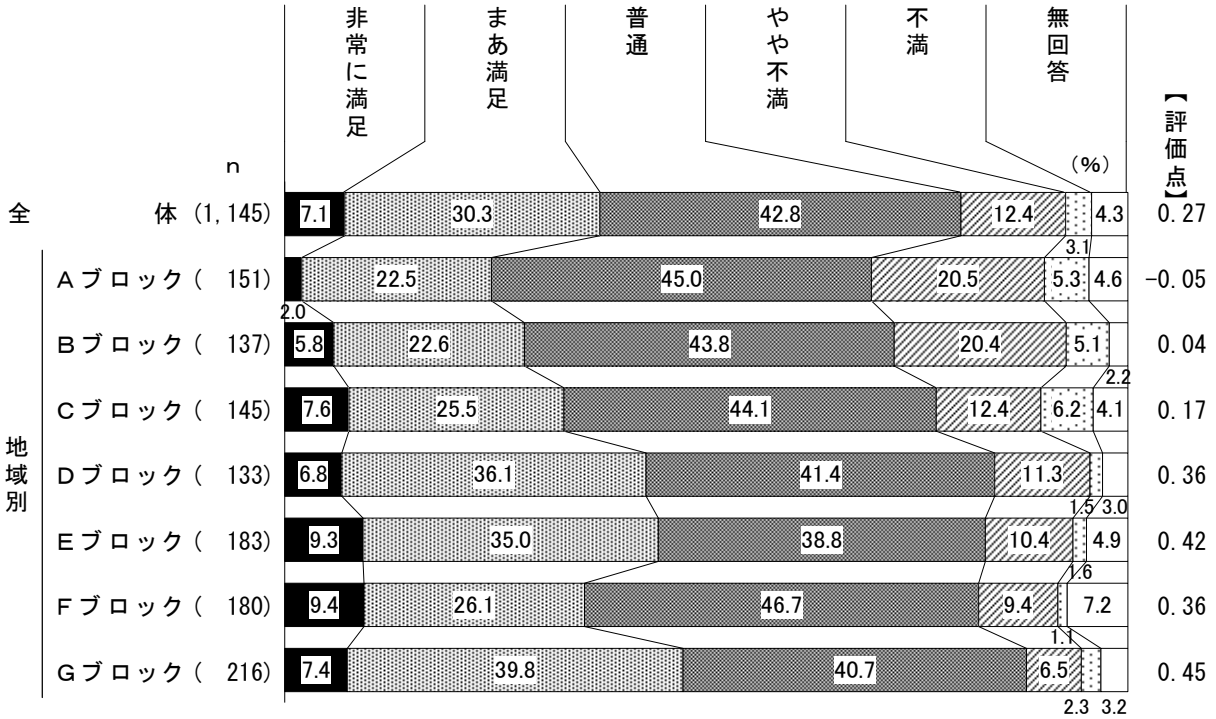
（ク）通勤・通学や外出のときの交通の便について地域別でみると、Ｅブロック（0.48）で最も評価点が高く、次いでＤブロック（0.45）、Ｇブロック（0.41）となっている。一方、Ｃブロック（-0.11）では評価点がマイナスとなっている。（図表２－10）

＜図表２－10＞地域の生活環境評価（ク）通勤・通学や外出のときの交通の便／地域別



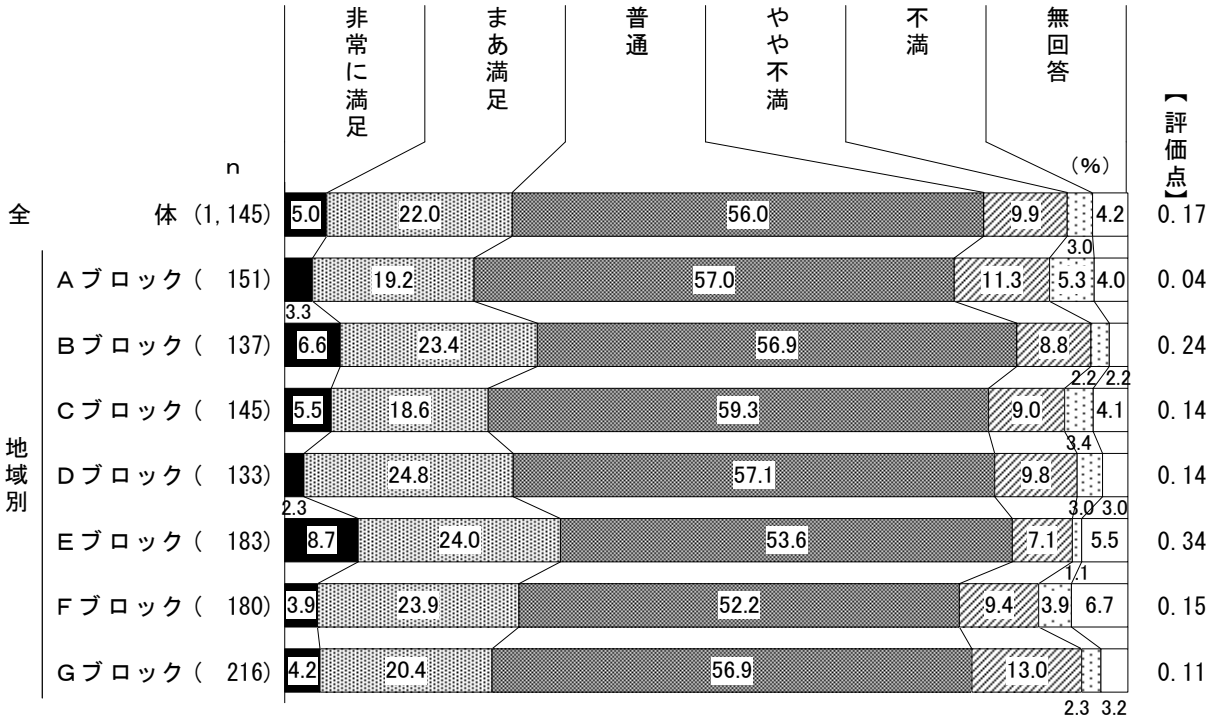
（ケ）病院や診療所などの便利さについて地域別でみると、Gブロック（0.45）で最も評価点が高く、次いでEブロック（0.42）が高くなっている。一方、Aブロック（-0.05）では評価点がマイナスとなっている。（図表２－11）

＜図表２－11＞地域の生活環境評価（ケ）病院や診療所などの便利さ／地域別



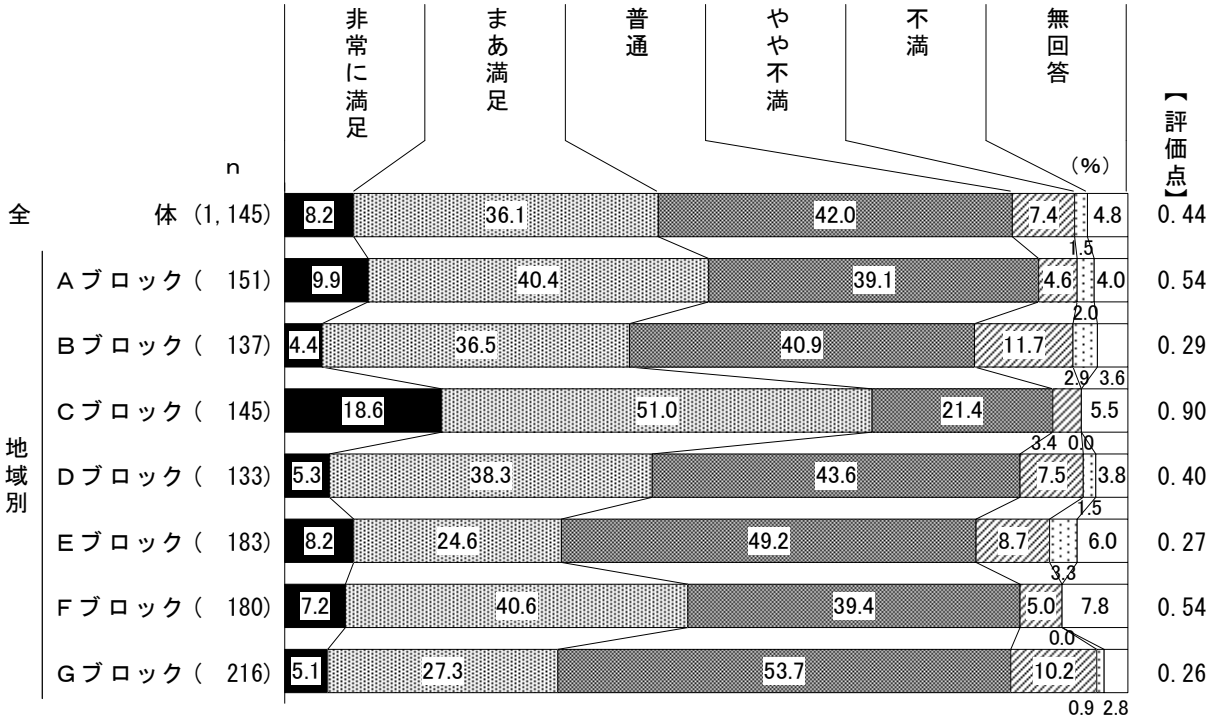
（コ）近所づきあい、人情味の豊かさについて地域別でみると、Eブロック（0.34）で最も評価点が高く、次いでBブロック（0.24）が高くなっている。一方、Aブロック（0.04）では最も評価点が低くなっている。（図表２－12）

＜図表２－12＞地域の生活環境評価（コ）近所づきあい、人情味の豊かさ／地域別



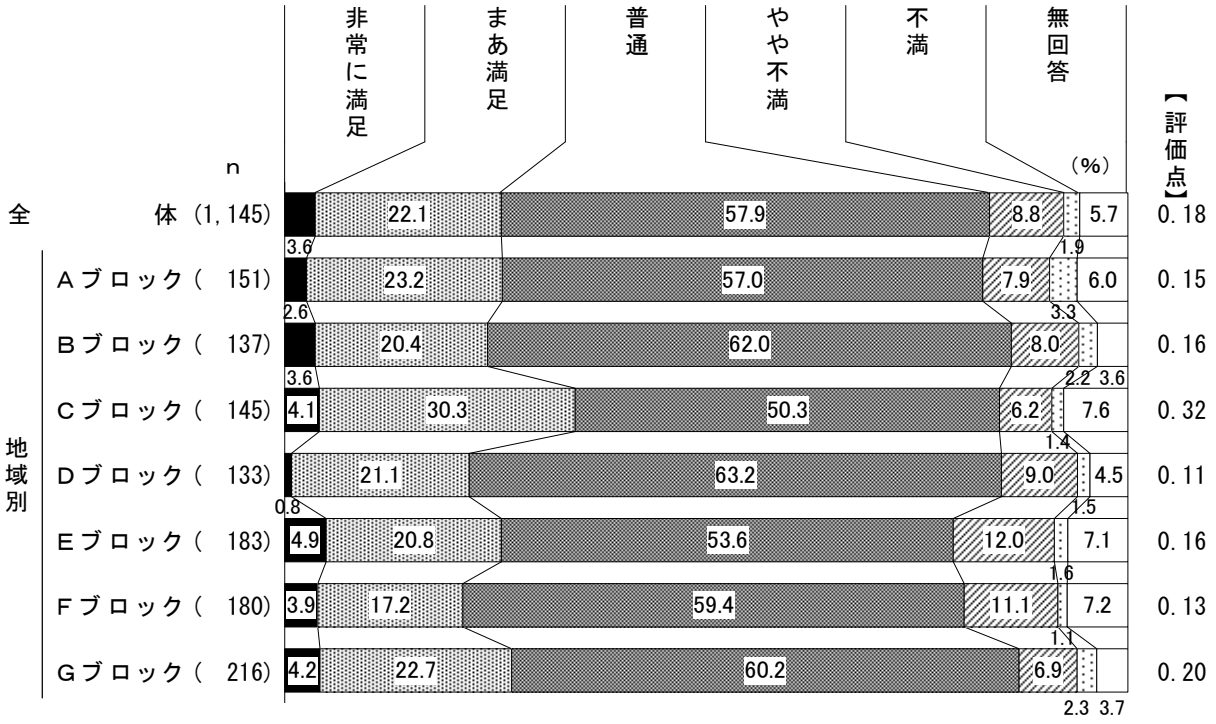
（サ）緑や空気などの自然環境について地域別でみると、Cブロック（0.90）で最も評価点が高く、次いでAブロック（0.54）、Fブロック（0.54）となっている。一方、Gブロック（0.26）では最も評価点が低く、次いでEブロック（0.27）、Bブロック（0.29）となっている。（図表２－13）

＜図表２－13＞地域の生活環境評価（サ）緑や空気などの自然環境／地域別



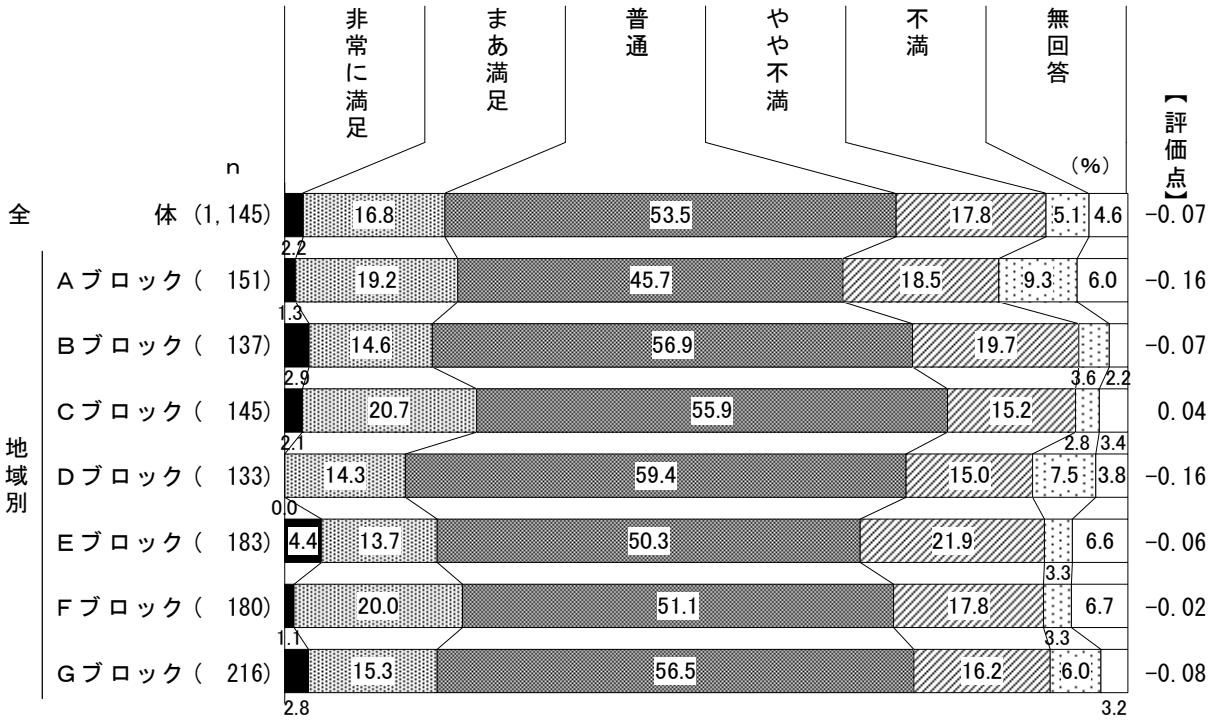
（シ）スポーツや文化活動をする施設について地域別でみると、Cブロック（0.32）で最も評価点が高く、次いでGブロック（0.20）が高くなっている。（図表２－14）

＜図表２－14＞地域の生活環境評価（シ）スポーツや文化活動をする施設／地域別



（ス）老後の生活を送る場としてについて地域別でみると、Cブロック（0.04）で最も評価点が高くなっている。一方、Cブロック以外ではいずれも評価点がマイナスとなっており、Aブロック（-0.16）とDブロック（-0.16）では最も評価点が低くなっている。（図表２－15）

＜図表２－15＞地域の生活環境評価（ス）老後の生活を送る場として／地域別

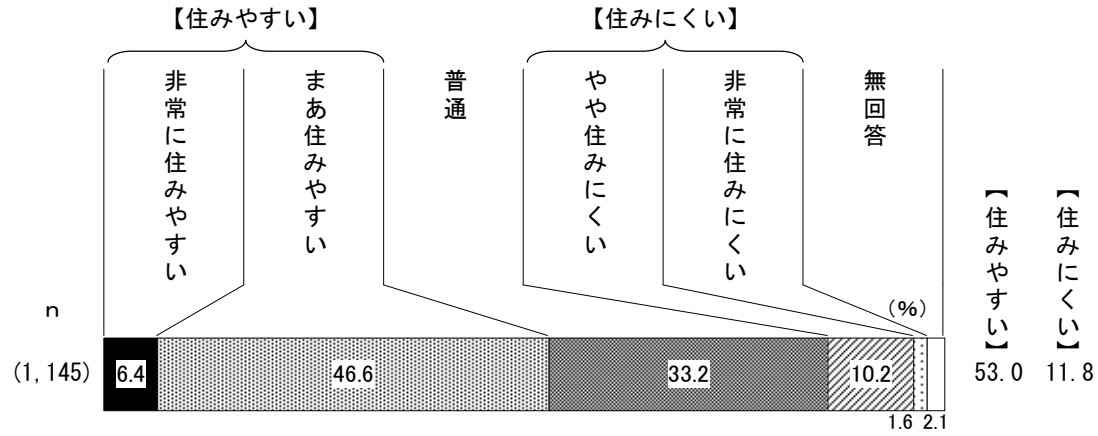


（２）総合評価

◇【住みやすい】が５割強

問４　一口に言って、福生市は住みよい所だと思いますか。それとも住みにくい所だと思いますか。次の中から１つだけ選んでください。（○は１つ）

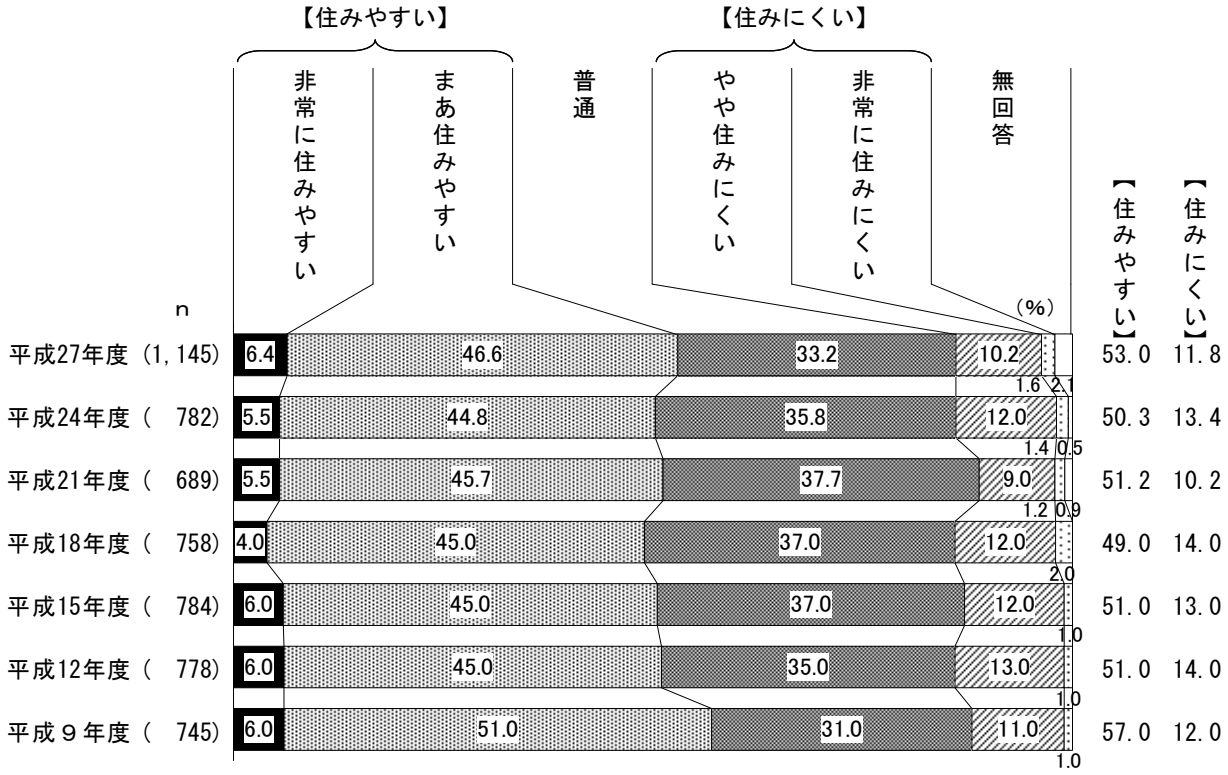
＜図表２－16＞総合評価



生活環境の総合評価を聞いたところ、「非常に住みやすい」(6.4%) と「まあ住みやすい」(46.6%) の２つを合わせた【住みやすい】(53.0%) が５割強と高くなっている。「普通」(33.2%) は３割強となっており、「やや住みにくい」(10.2%) と「非常に住みにくい」(1.6%) の２つを合わせた【住みにくい】(11.8%) は１割強となっている。(図表２－16)

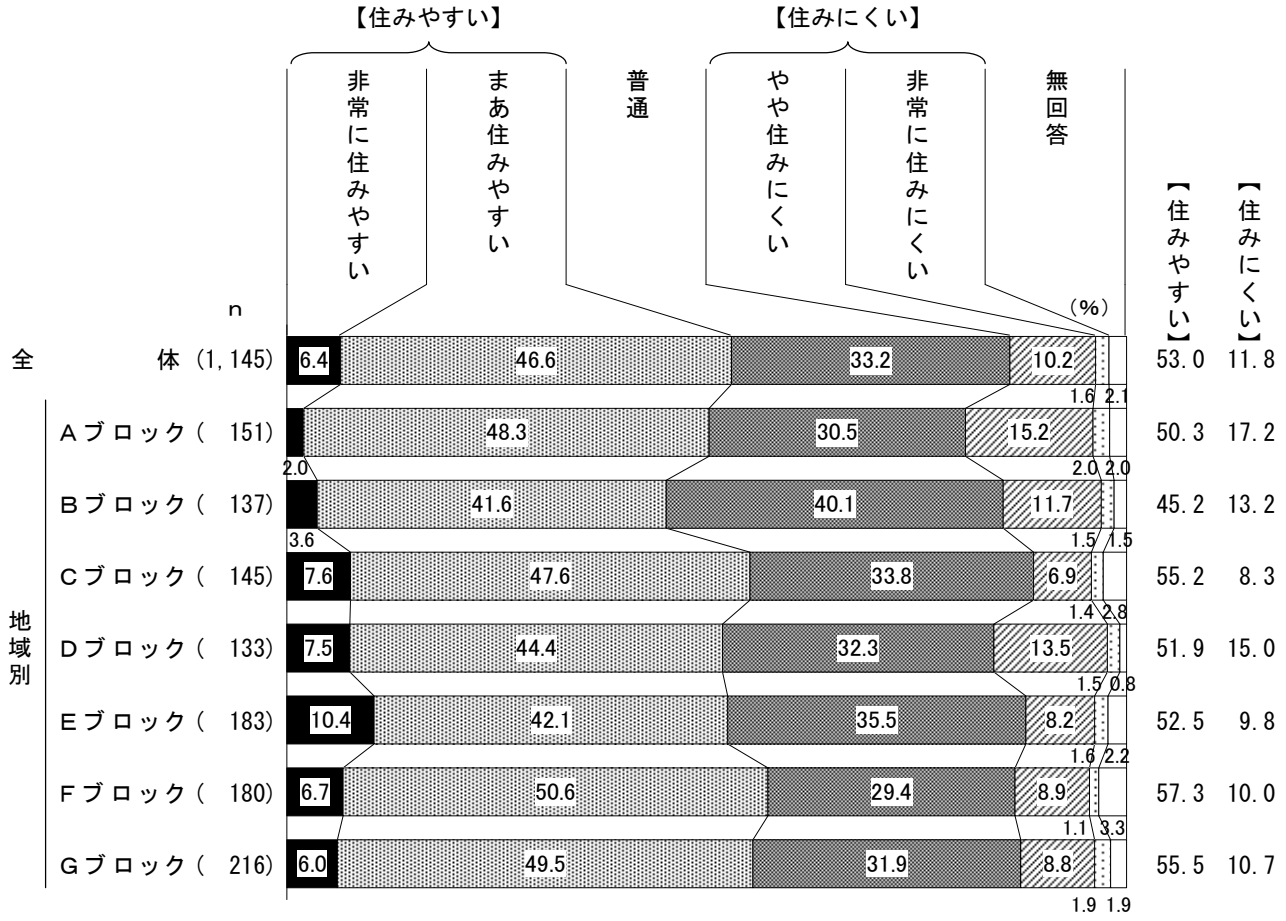
過年度の調査結果の推移をみると、【住みやすい】は平成24年度と比べて2.7ポイント増加している。(図表２－17)

＜図表２－17＞総合評価／過年度推移



地域別でみると、【住みやすい】はＦブロック（57.3%）で６割弱と高くなっている。一方、【住みにくい】はＡブロック（17.2%）で２割弱となっている。（図表２－18）

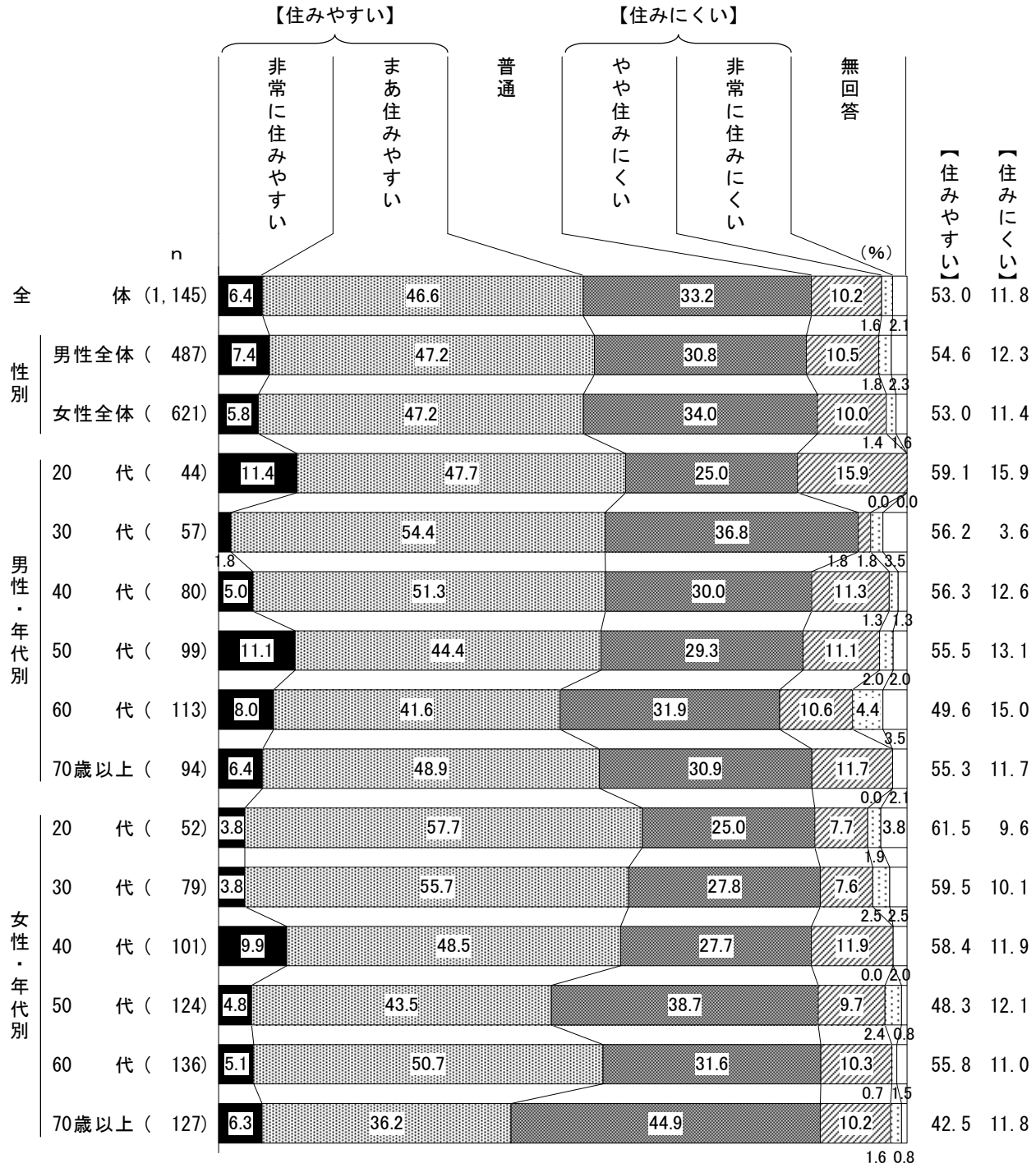
＜図表２－18＞総合評価／地域別



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

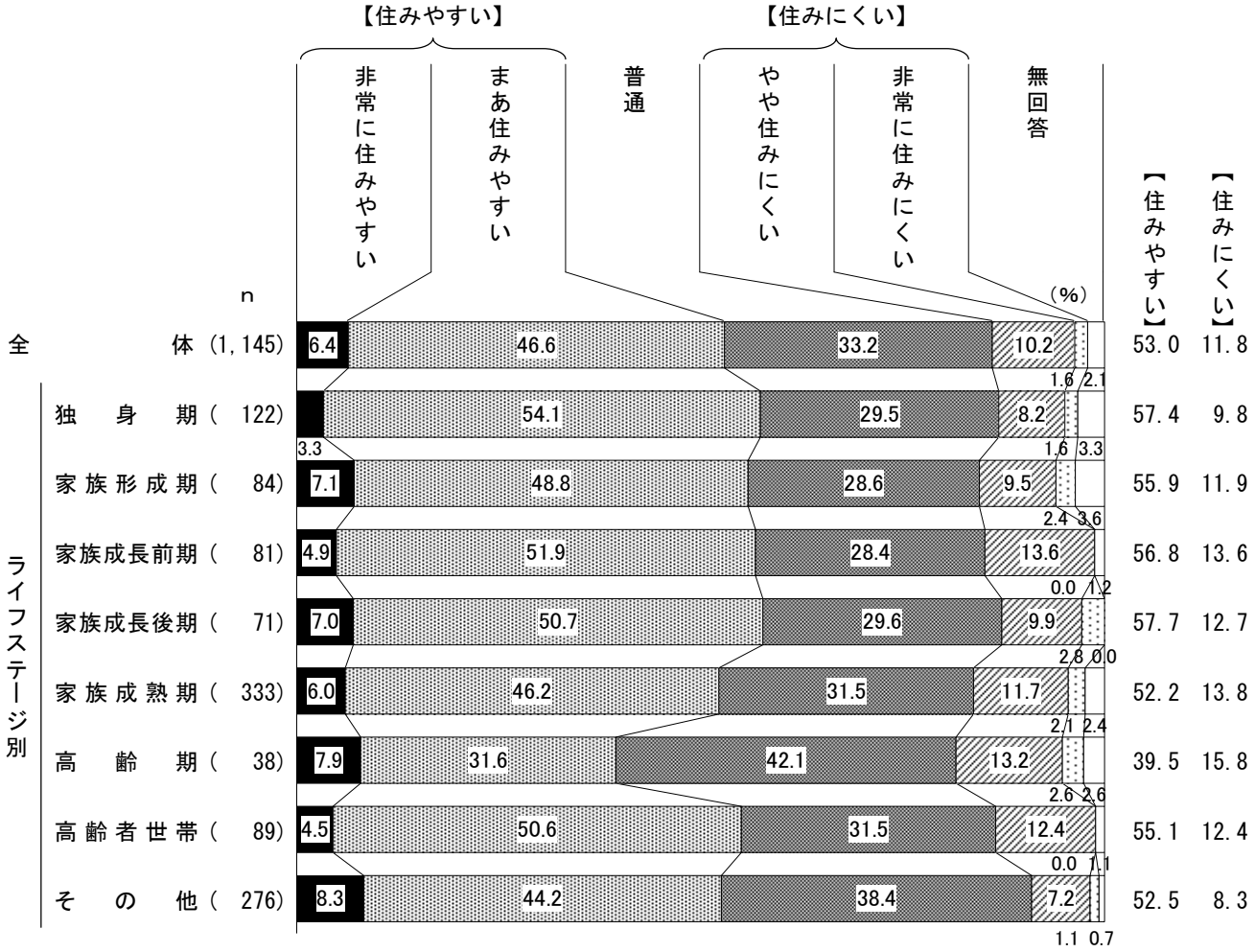
性・年代別でみると、【住みやすい】は女性20代（61.5%）で６割強と高くなっている。一方、【住みにくい】は男性20代（15.9%）と男性60代（15.0%）で１割台半ばとなっている。（図表２－19）

＜図表２－19＞総合評価／性別、性・年代別



ライフステージ別でみると、【住みやすい】は独身期（57.4%）と家族成長前期（56.8%）・家族成長後期（57.7%）で６割弱と高くなっている一方、高齢期（39.5%）では約４割と低くなっている。（図表２－20）

＜図表２－20＞総合評価／ライフステージ別



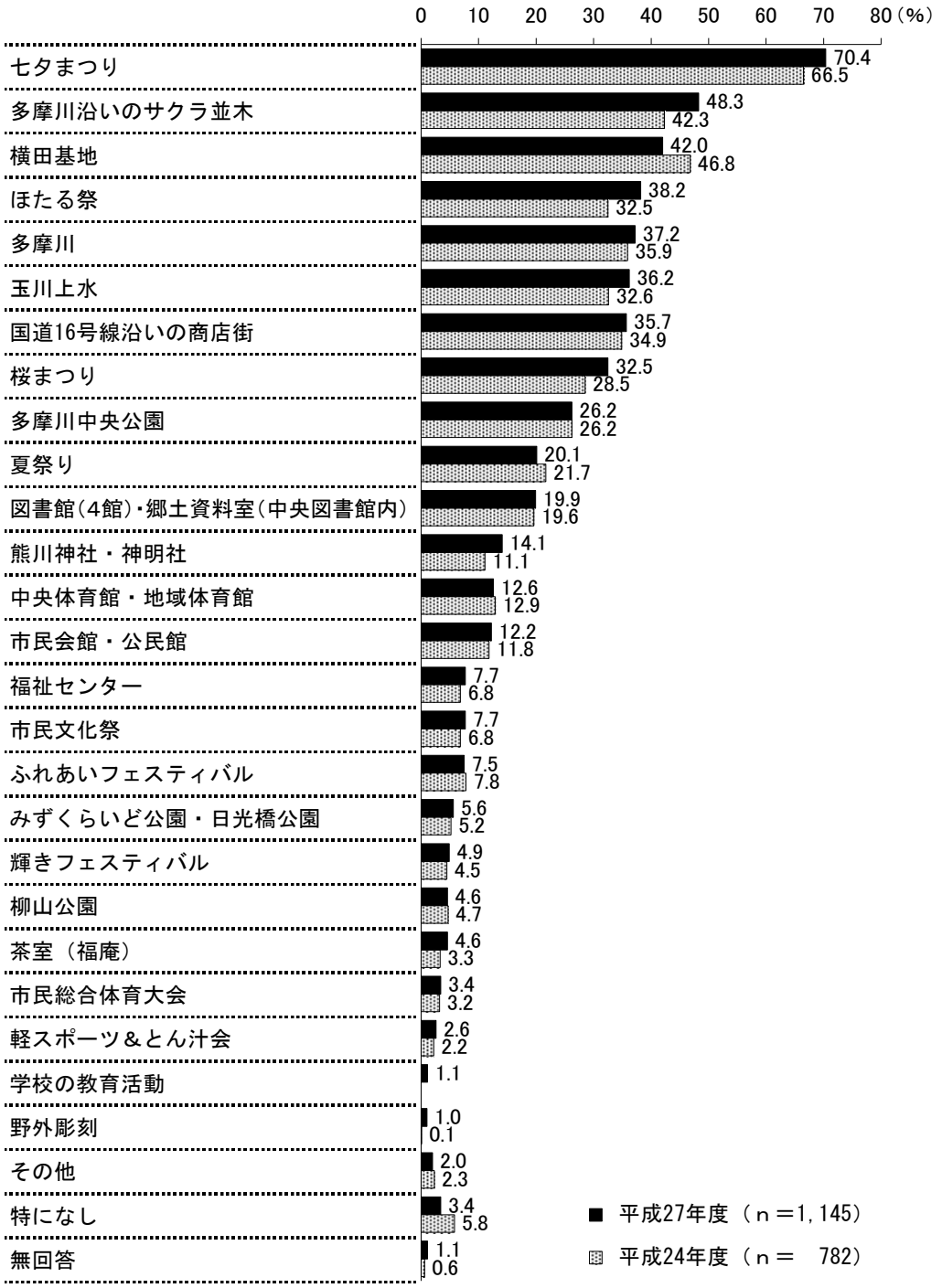
３．福生市の魅力と将来像

（１）福生市の魅力

◇「七夕まつり」が約７割

問５　福生市内の施設や行事の中で、あなたが福生市らしい魅力を感じるものはどれですか。
次の中からあてはまるものを全て選んでください。（○はいくつでも）

＜図表３－１＞福生市の魅力



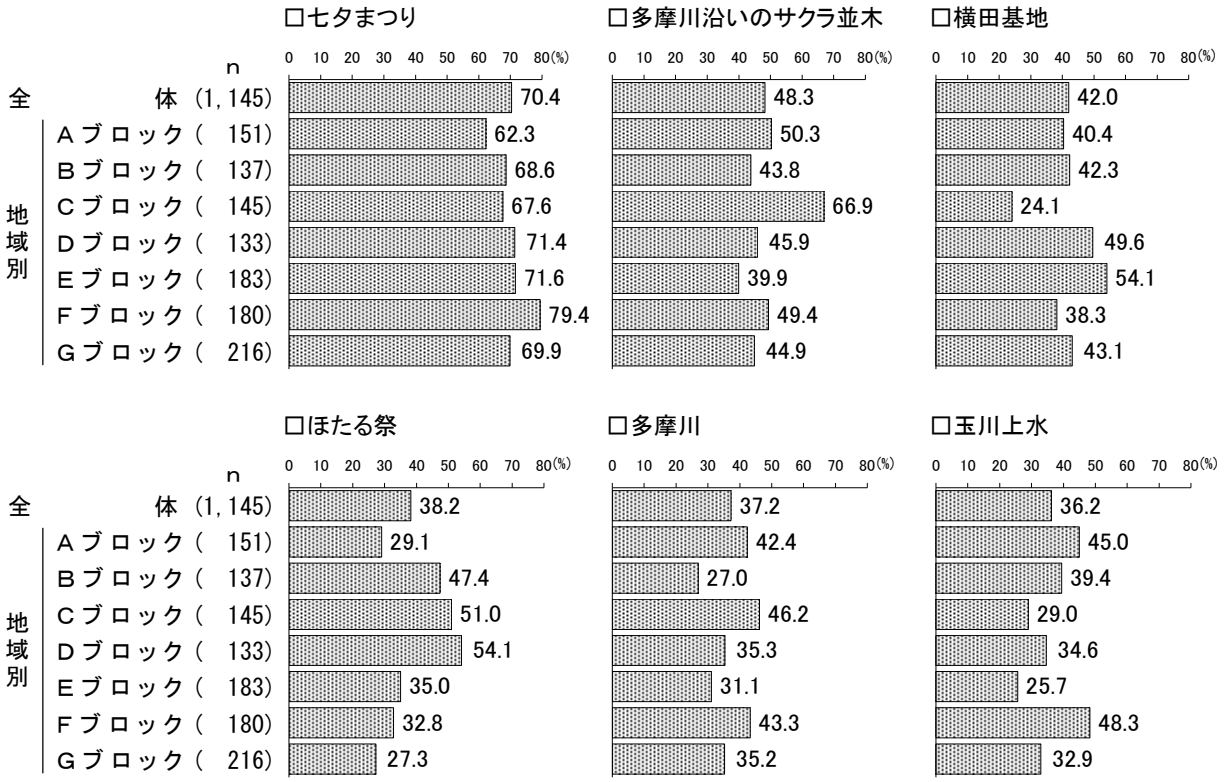
（注）「学校の教育活動」は、今回調査で追加した選択肢である。

福生市内の施設や行事の中で、福生市らしい魅力を感じるものを聞いたところ、「七夕まつり」（70.4%）が約７割で最も高く、次いで「多摩川沿いのサクラ並木」（48.3%）、「横田基地」（42.0%）、「ほたる祭」（38.2%）、「多摩川」（37.2%）となっている。（図表３－１）

前回の調査結果と比較すると、「多摩川沿いのサクラ並木」は6.0ポイント増加し、「ほたる祭」は5.7ポイント増加している。一方、「横田基地」は4.8ポイント減少している。（図表３－１）

上位６項目について地域別でみると、「多摩川沿いのサクラ並木」はＣブロック（66.9%）で７割弱と高くなっている。「横田基地」はＥブロック（54.1%）で５割台半ばと高くなっている。「ほたる祭」はＤブロック（54.1%）で５割台半ばと高くなっている。「多摩川」はＣブロック（46.2%）で５割弱と高くなっている。「玉川上水」はＦブロック（48.3%）で５割弱と高くなっている。
（図表３－２）

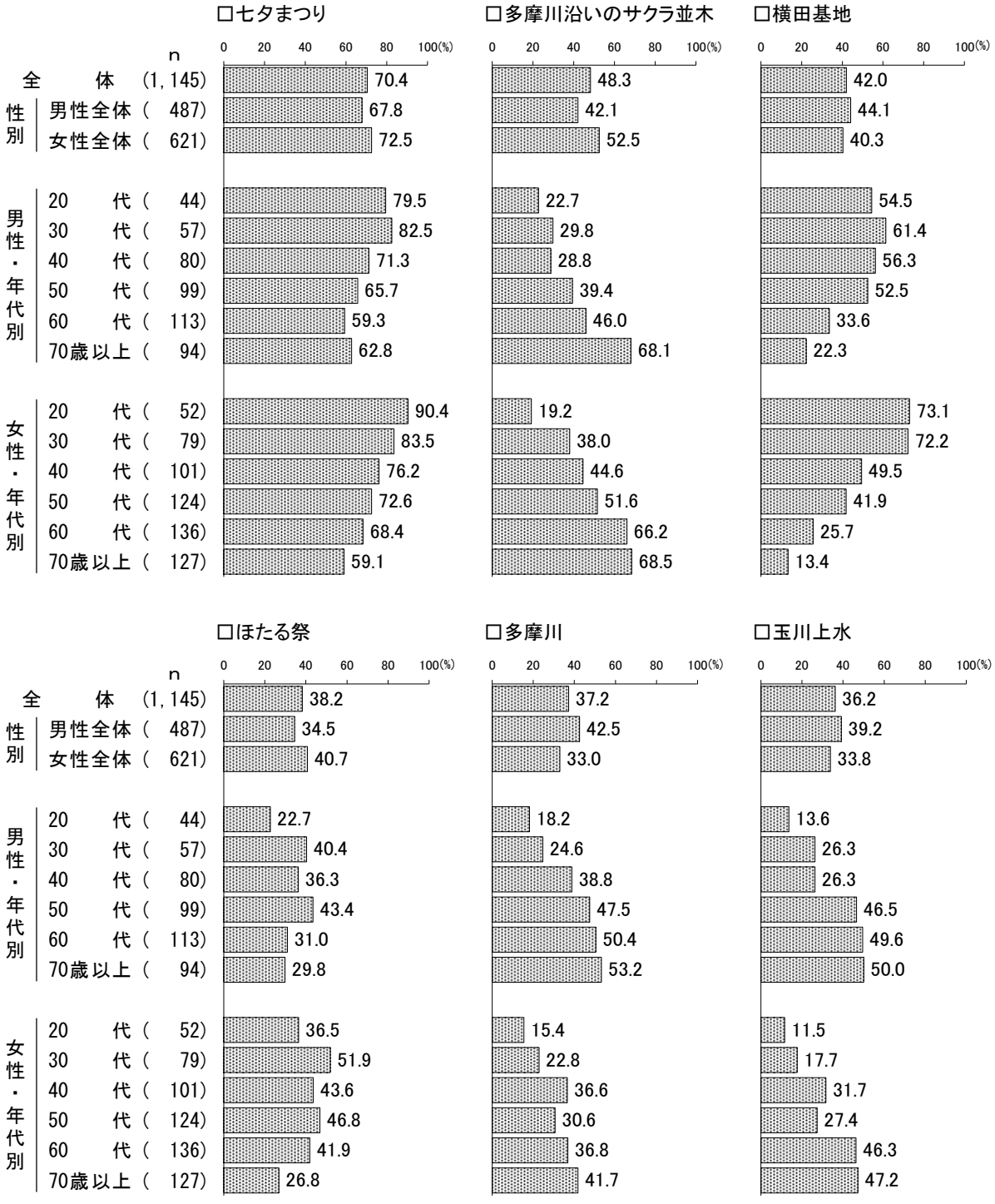
＜図表３－２＞福生市の魅力／地域別（上位６項目）



上位６項目について性別でみると、「多摩川沿いのサクラ並木」は女性（52.5%）が男性（42.1%）より10.4ポイント高くなっている。「多摩川」は男性（42.5%）が女性（33.0%）より9.5ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「七夕まつり」は女性20代（90.4%）で約９割と高くなっている。「多摩川沿いのサクラ並木」は男性70歳以上（68.1%）と女性60代（66.2%）・女性70歳以上（68.5%）で７割弱と高くなっている。「横田基地」は女性20代（73.1%）と女性30代（72.2%）で７割強と高くなっている。（図表３－３）

＜図表３－３＞福生市の魅力／性別、性・年代別（上位６項目）

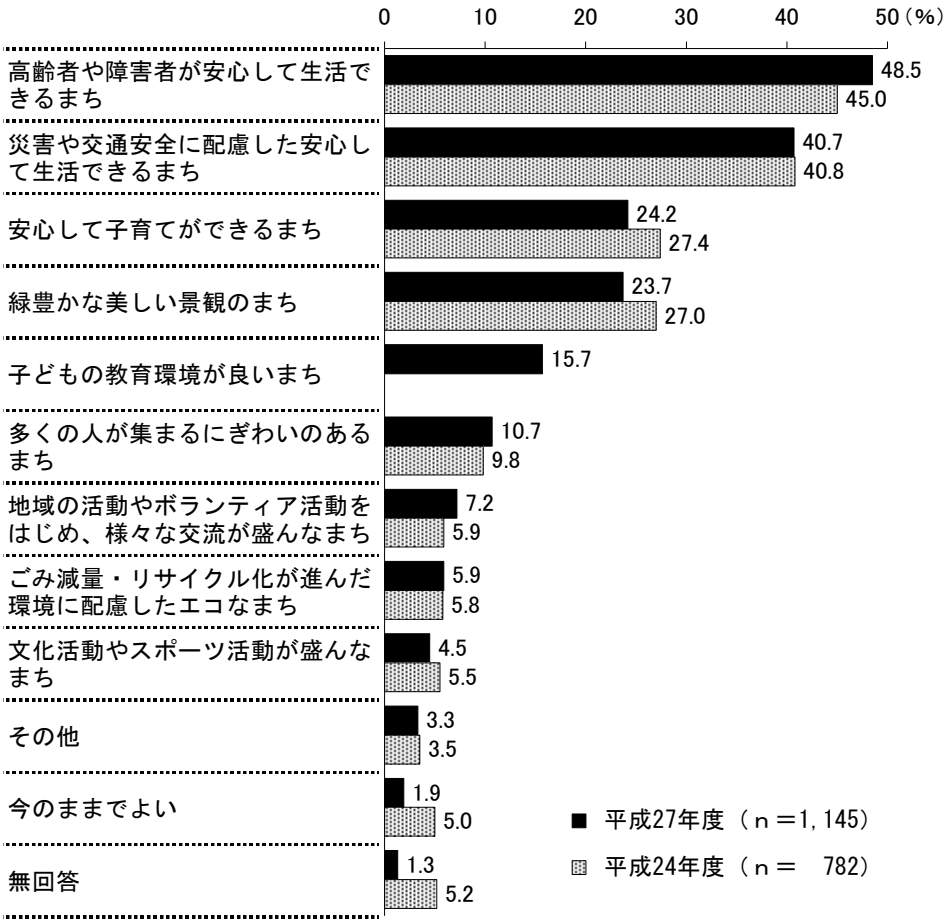


（２）福生市の将来像

◇「高齢者や障害者が安心して生活できるまち」が５割弱

問６　将来の福生市はどのようなまちであってほしいと思いますか。あなたが希望するまちを次の中から２つまで選んでください。（○は２つまで）

＜図表３－４＞福生市の将来像



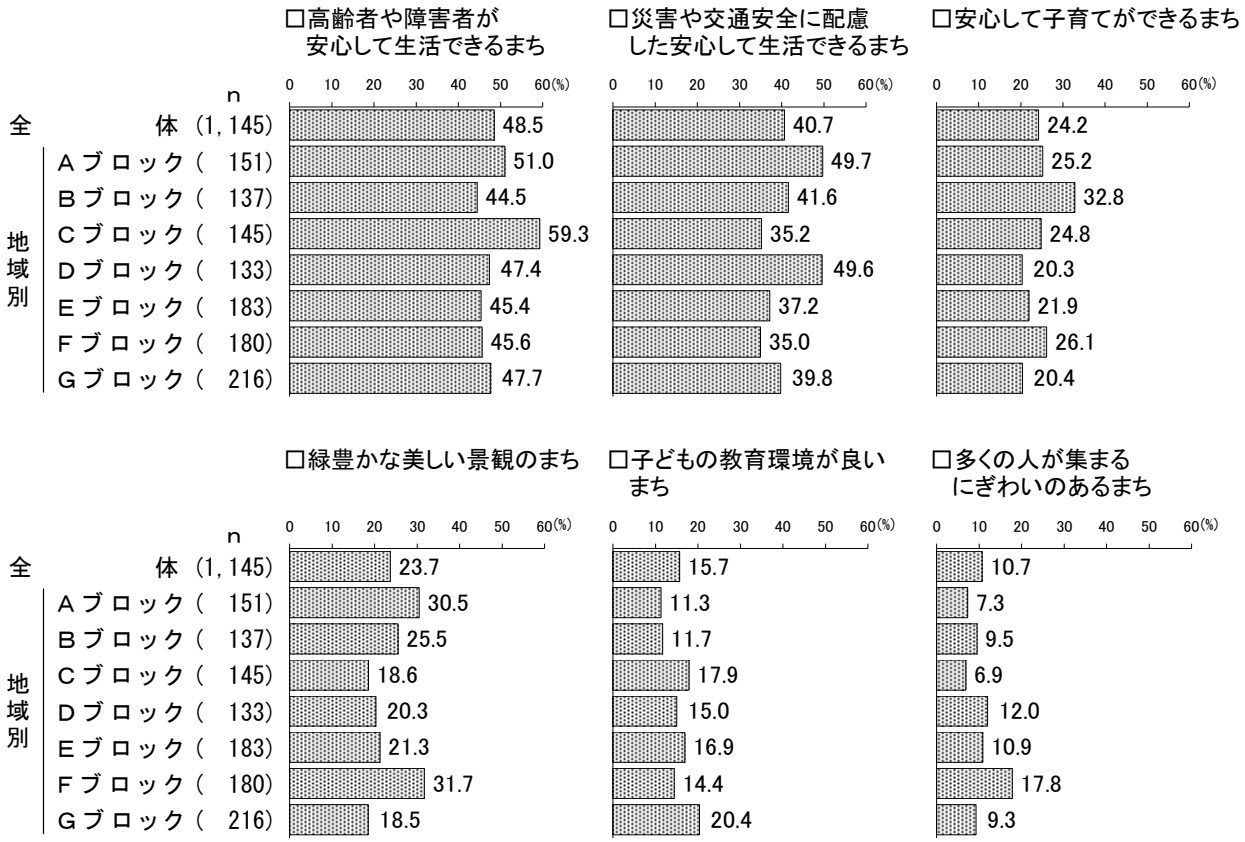
（注）「子どもの教育環境が良いまち」は、今回調査で追加した選択肢である。
「ごみ減量・リサイクル化が進んだ環境に配慮したエコなまち」は、前回調査では「ごみ減量・リサイクル化が進んだ環境に配慮したまち」としていた。

将来の福生市はどのようなまちであってほしいか聞いたところ、「高齢者や障害者が安心して生活できるまち」（48.5%）が５割弱で最も高く、次いで「災害や交通安全に配慮した安心して生活できるまち」（40.7%）、「安心して子育てができるまち」（24.2%）、「緑豊かな美しい景観のまち」（23.7%）、「子どもの教育環境が良いまち」（15.7%）となっている。（図表３－４）

前回の調査結果との比較は、選択肢が追加・変更されているため参考にとどまるが、前回調査に続いて「高齢者や障害者が安心して生活できるまち」が第１位、「災害や交通安全に配慮した安心して生活できるまち」が第２位となっている。（図表３－４）

上位６項目について地域別でみると、「高齢者や障害者が安心して生活できるまち」はＣブロック（59.3%）で約６割と高くなっている。「災害や交通安全に配慮した安心して生活できるまち」はＡブロック（49.7%）とＤブロック（49.6%）で約５割と高くなっている。「安心して子育てができるまち」はＢブロック（32.8%）で３割強と高くなっている。「緑豊かな美しい景観のまち」はＦブロック（31.7%）で３割強と高くなっている。（図表３－５）

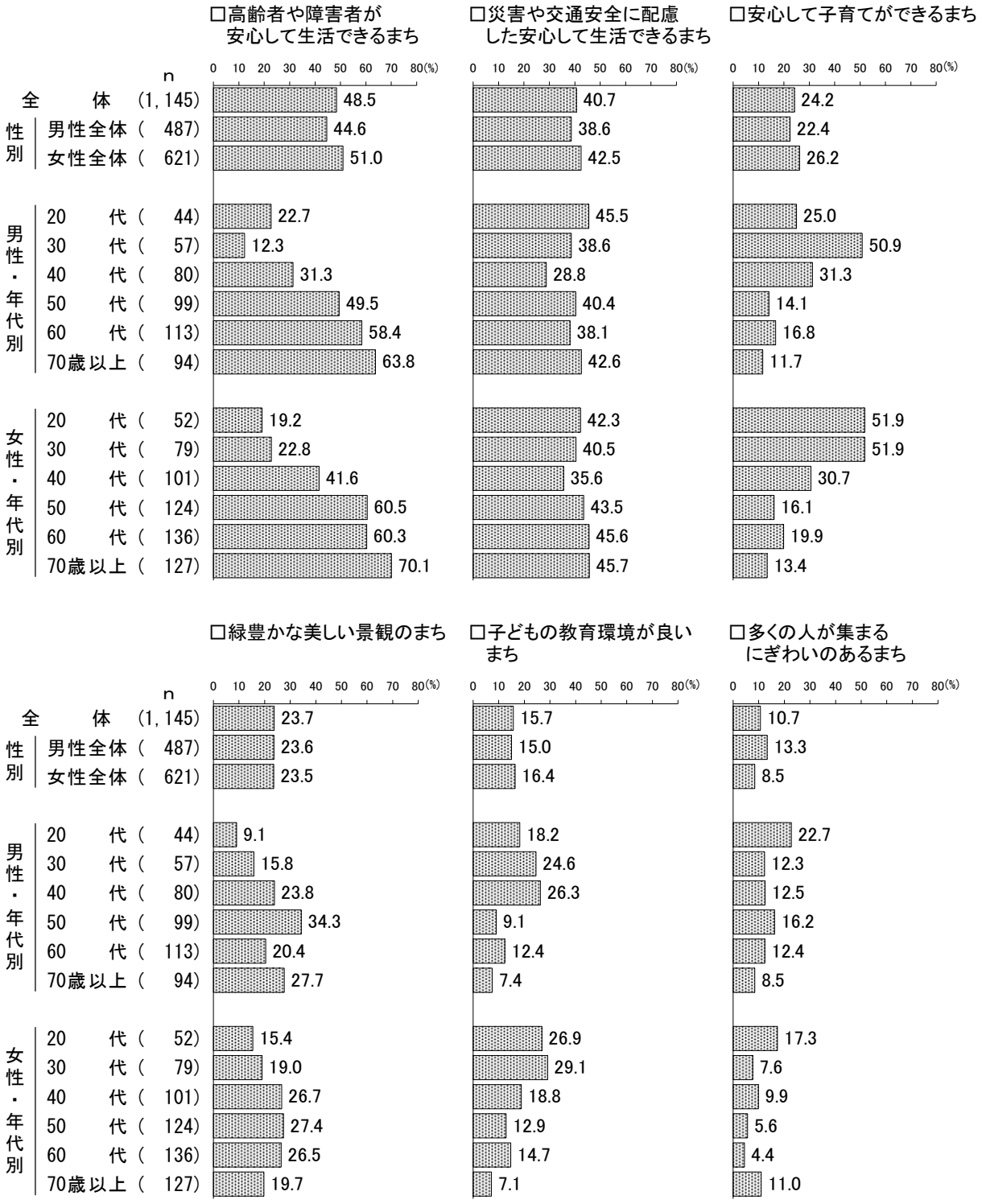
＜図表３－５＞福生市の将来像／地域別（上位６項目）



上位６項目について性別でみると、「高齢者や障害者が安心して生活できるまち」は女性（51.0%）が男性（44.6%）より6.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「高齢者や障害者が安心して生活できるまち」は女性70歳以上（70.1%）で約７割、男性70歳以上（63.8%）で６割強と高くなっている。「安心して子育てができるまち」は女性20代（51.9%）と女性30代（51.9%）で５割強と高くなっている。「緑豊かな美しい景観のまち」は男性50代（34.3%）で３割台半ばと高くなっている。（図表３－６）

＜図表３－６＞福生市の将来像／性別、性・年代別（上位６項目）

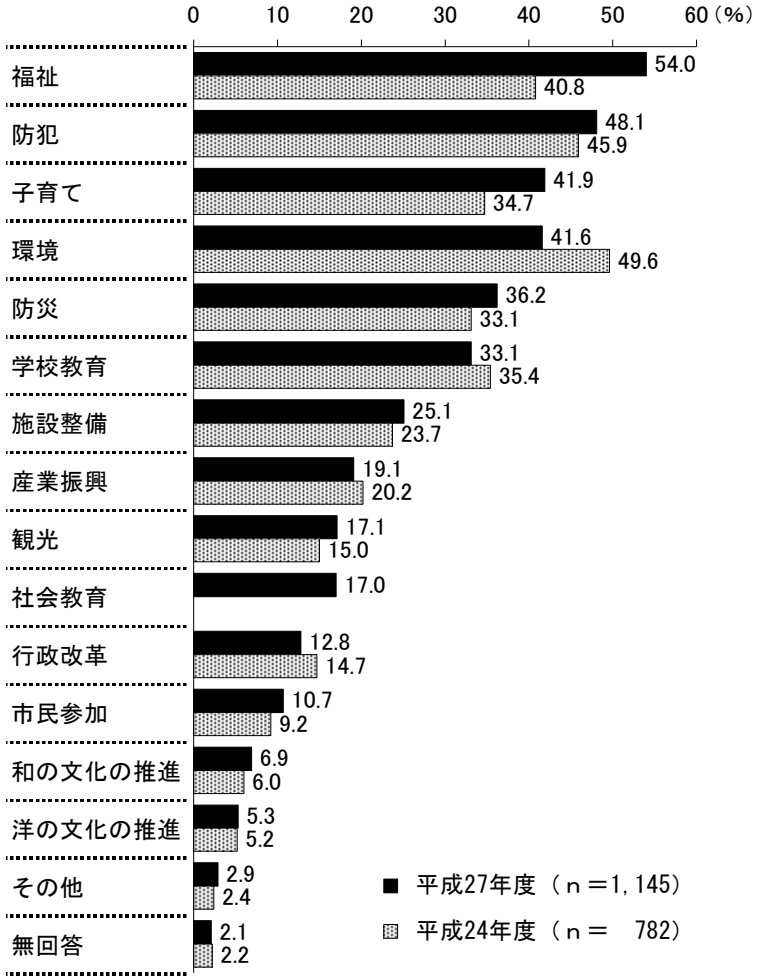


（３）まちの魅力を高めるために、重点を置くべき分野

◇「福祉」が５割台半ば

問７　まちの魅力を高めるためには、どの分野に重点をおくべきでしょうか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。（○はいくつでも）

＜図表３－７＞まちの魅力を高めるために、重点を置くべき分野



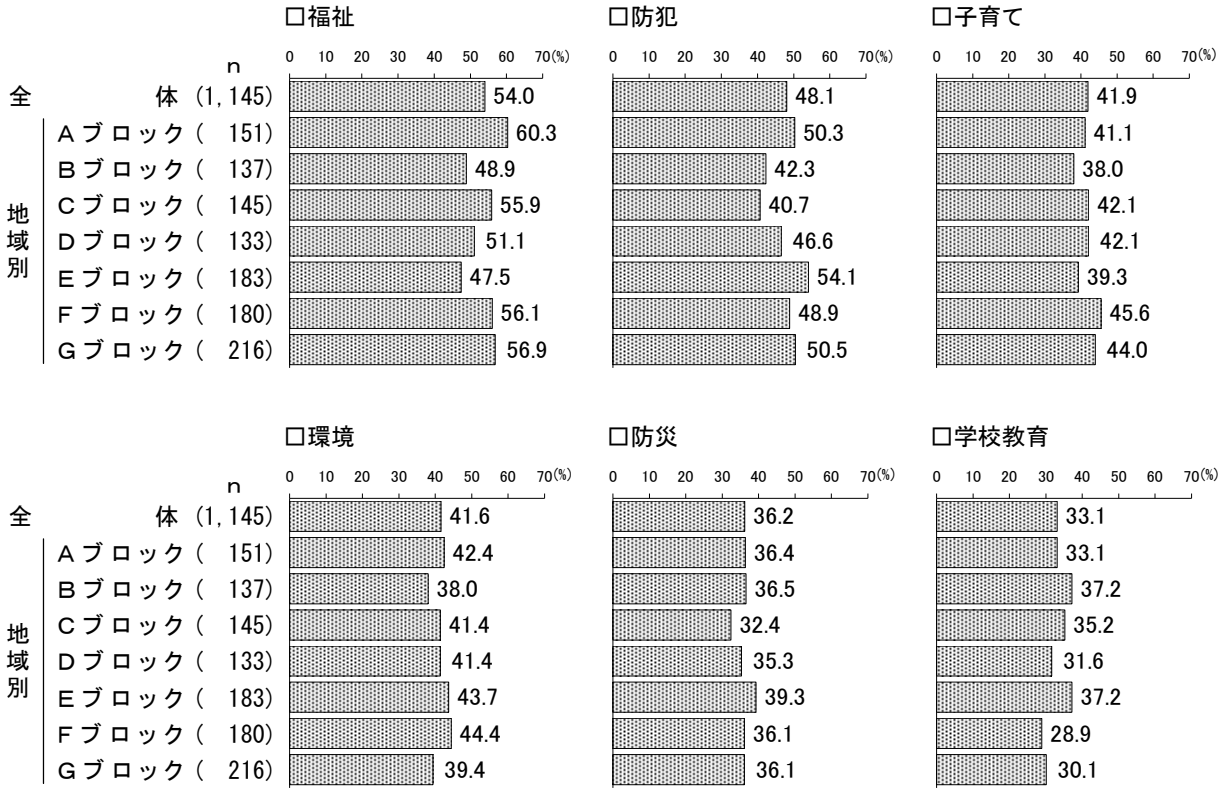
（注）「学校教育」と「社会教育」は、今回調査で追加した選択肢である。
また、前回調査で選択肢としていた「教育」（35.4%）は、今回調査では選択肢に加えていない。
図表３－７では便宜上、前回調査の「教育」（35.4%）を「学校教育」と並べて比較した。
「和の文化の推進」は、前回調査では「和の文化」としていた。
「洋の文化の推進」は、前回調査では「洋の文化」としていた。

まちの魅力を高めるために、重点を置くべき分野を聞いたところ、「福祉」（54.0%）が５割台半ばで最も高く、次いで「防犯」（48.1%）、「子育て」（41.9%）、「環境」（41.6%）、「防災」（36.2%）となっている。（図表３－７）

前回の調査結果との比較は、選択肢が追加されているため参考にとどまるが、「福祉」は13.2ポイント増加し、「子育て」は7.2ポイント増加している。一方、「環境」は8.0ポイント減少している。（図表３－７）

上位６項目について地域別でみると、「福祉」はＡブロック（60.3％）で約６割と高くなっている。「防犯」はＥブロック（54.1％）で５割台半ばと高くなっている。（図表３－８）

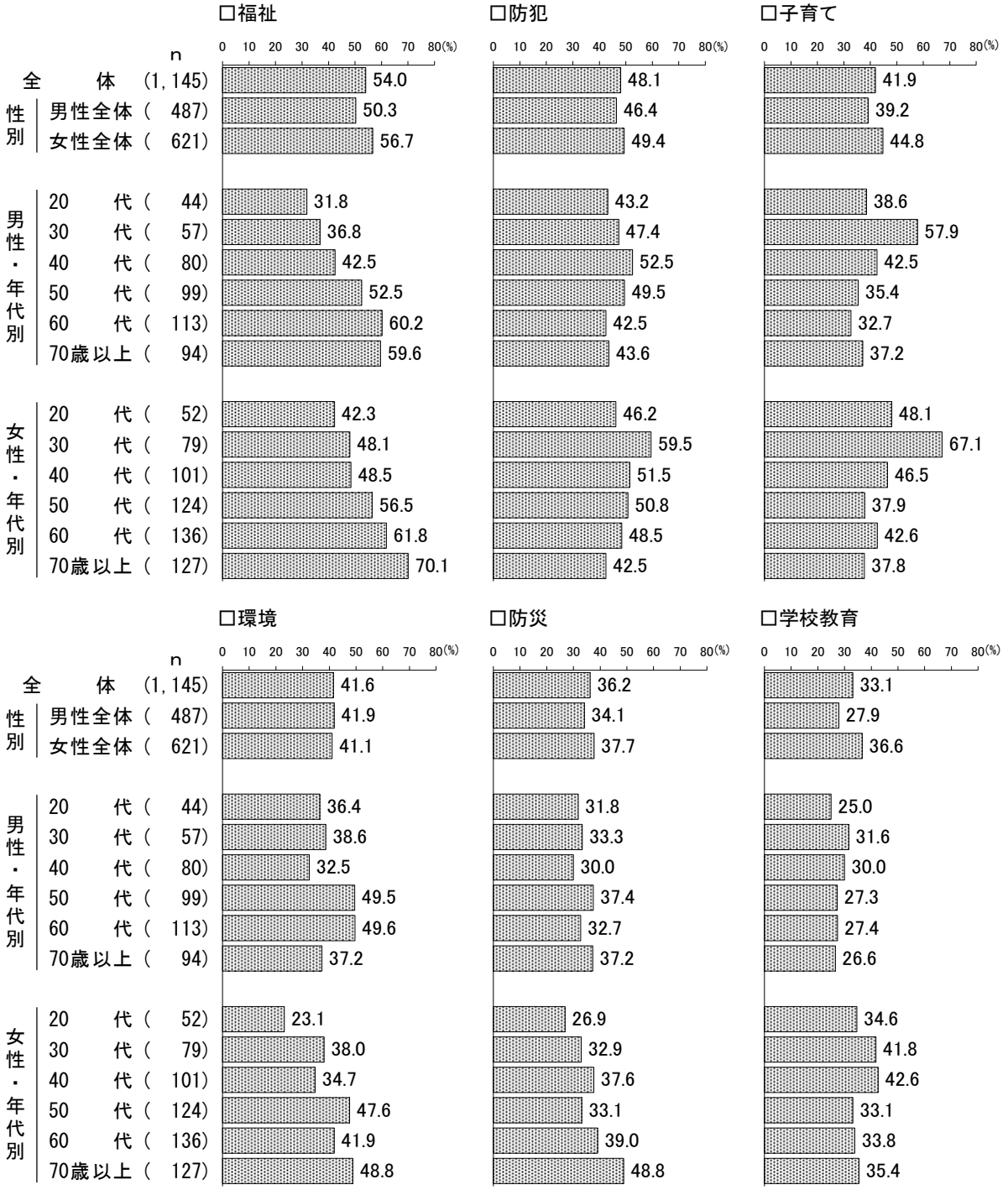
＜図表３－８＞まちの魅力を高めるために、重点を置くべき分野／地域別（上位６項目）



上位６項目について性別でみると、「学校教育」は女性（36.6%）が男性（27.9%）より8.7ポイント高く、「福祉」は女性（56.7%）が男性（50.3%）より6.4ポイント高くなっている。「子育て」は女性（44.8%）が男性（39.2%）より5.6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「福祉」は女性70歳以上（70.1%）で約７割と高くなっている。「防犯」は女性30代（59.5%）で約６割と高くなっている。「子育て」は女性30代（67.1%）で７割弱と高くなっている。「環境」は男性50代（49.5%）と男性60代（49.6%）で約５割と高くなっている。「防災」は女性70歳以上（48.8%）で５割弱と高くなっている。（図表３－９）

＜図表３－９＞まちの魅力を高めるために、重点を置くべき分野／性別、性・年代別（上位６項目）



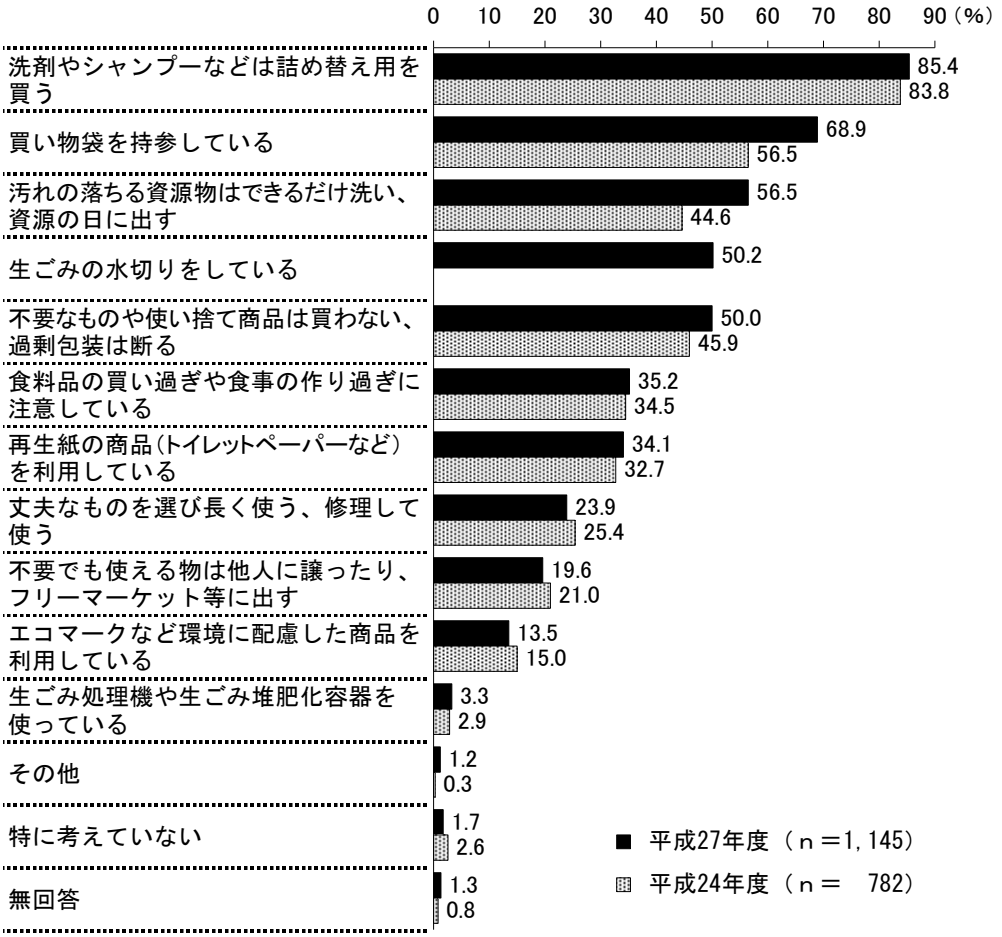
４．環境問題

（１）ごみ減量やリサイクルのために心がけていること

◇「洗剤やシャンプーなどは詰め替え用を買う」が８割台半ば

問８　あなたがごみ減量やリサイクルを進める上で、日常心がけていることは何ですか。
次の中からあてはまるものを全て選んでください。（○はいくつでも）

＜図表４－１＞ごみ減量やリサイクルのために心がけていること



（注）「生ごみの水切りをしている」は、今回調査で追加した選択肢である。
「汚れの落ちる資源物はできるだけ洗い、資源の日に出す」は、前回調査では「繰り返して使えなくなった物は、分別して資源としてリサイクルする」としていた。
「不要でも使える物は他人に譲ったり、フリーマーケット等に出す」は、前回調査では「不要でも使える物は他人に譲ったり、ガレージセールに出したりする」としていた。

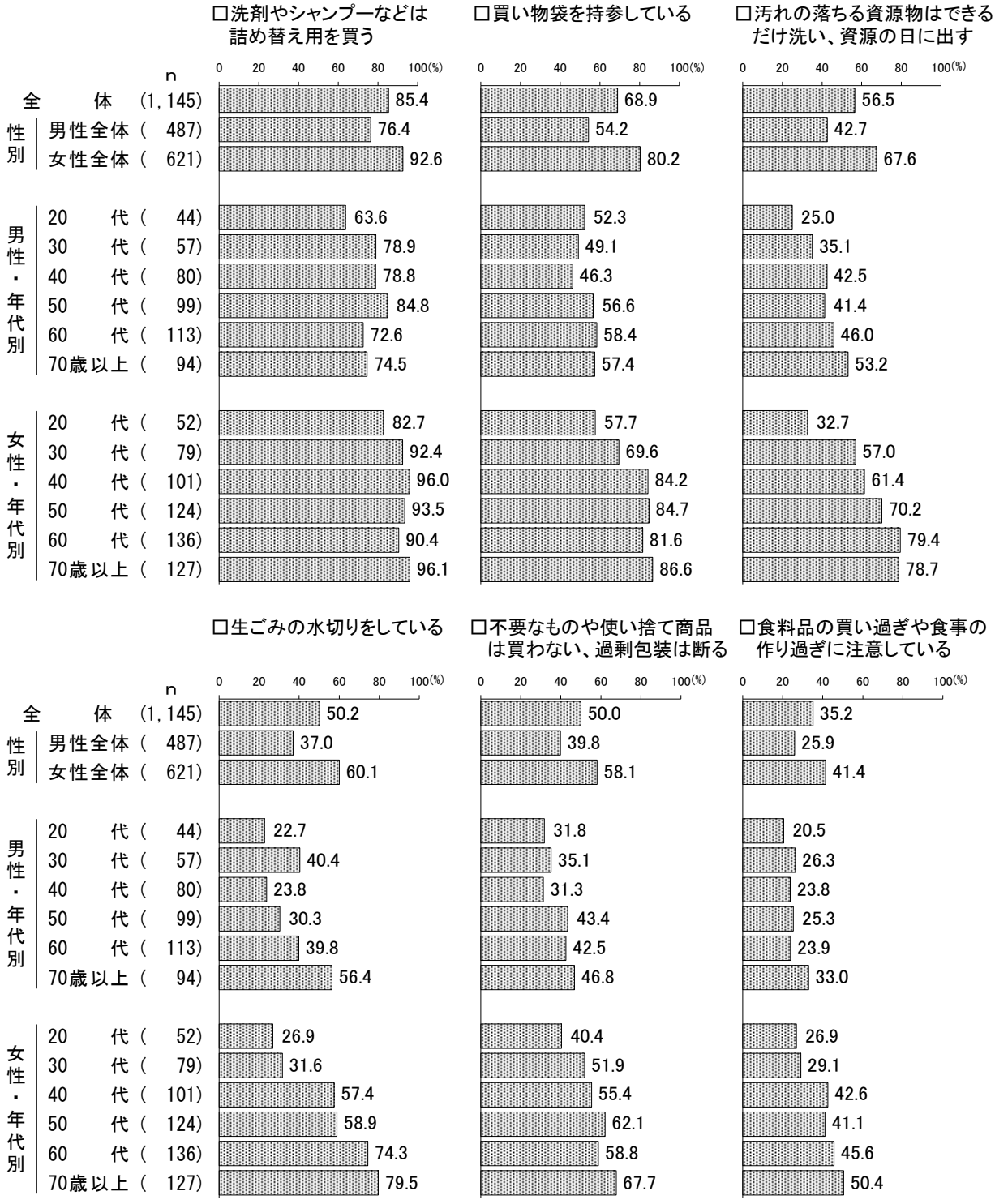
ごみ減量やリサイクルのために心がけていることを聞いたところ、「洗剤やシャンプーなどは詰め替え用を買う」(85.4%) が８割台半ばで最も高く、次いで「買い物袋を持参している」(68.9%)、「汚れの落ちる資源物はできるだけ洗い、資源の日に出す」(56.5%)、「生ごみの水切りをしている」(50.2%)、「不要なものや使い捨て商品は買わない、過剰包装は断る」(50.0%) となっている。（図表４－１）

前回の調査結果との比較は、選択肢が追加・変更されているため参考にとどまるが、「買い物袋を持参している」は12.4ポイント増加し、「汚れの落ちる資源物はできるだけ洗い、資源の日に出す」は11.9ポイント増加している。（図表４－１）

上位６項目について性別でみると、６項目すべてで女性が男性を上回っており、特に「買い物袋を持参している」は26.0ポイント、「汚れの落ちる資源物はできるだけ洗い、資源の日に出す」は24.9ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「買い物袋を持参している」は女性の40代以上の年代でいずれも８割台と高くなっている。「汚れの落ちる資源物はできるだけ洗い、資源の日に出す」は女性の50代以上の年代でいずれも７割台と高くなっている。「生ごみの水切りをしている」は女性70歳以上（79.5%）で約８割、女性60代（74.3%）で７割台半ばと高くなっている。（図表４－２）

＜図表４－２＞ごみ減量やリサイクルのために心がけていること／性別、性・年代別（上位６項目）

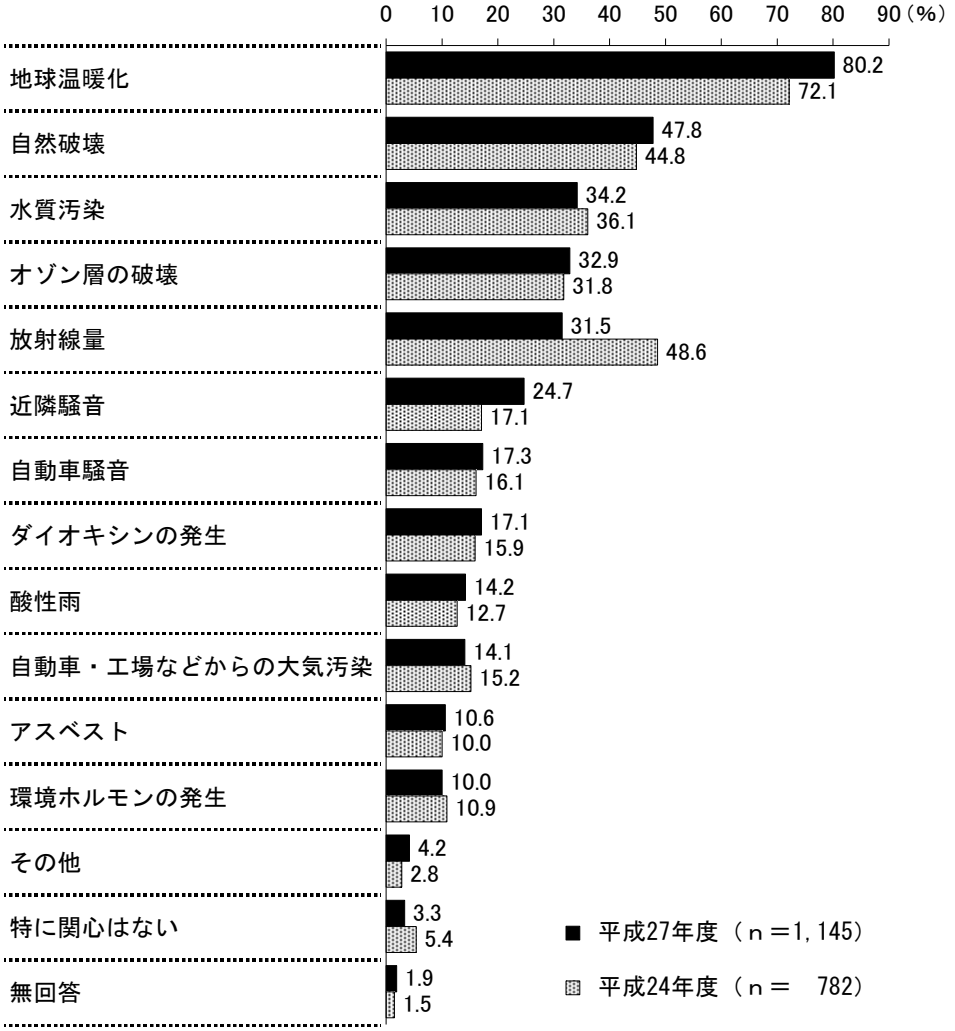


（２）関心のある環境問題

◇「地球温暖化」が約８割

問９　あなたは環境問題について、最近どのような事柄に関心がありますか。関心のあるものを次の中から全て選んでください。（○はいくつでも）

＜図表４－３＞関心のある環境問題



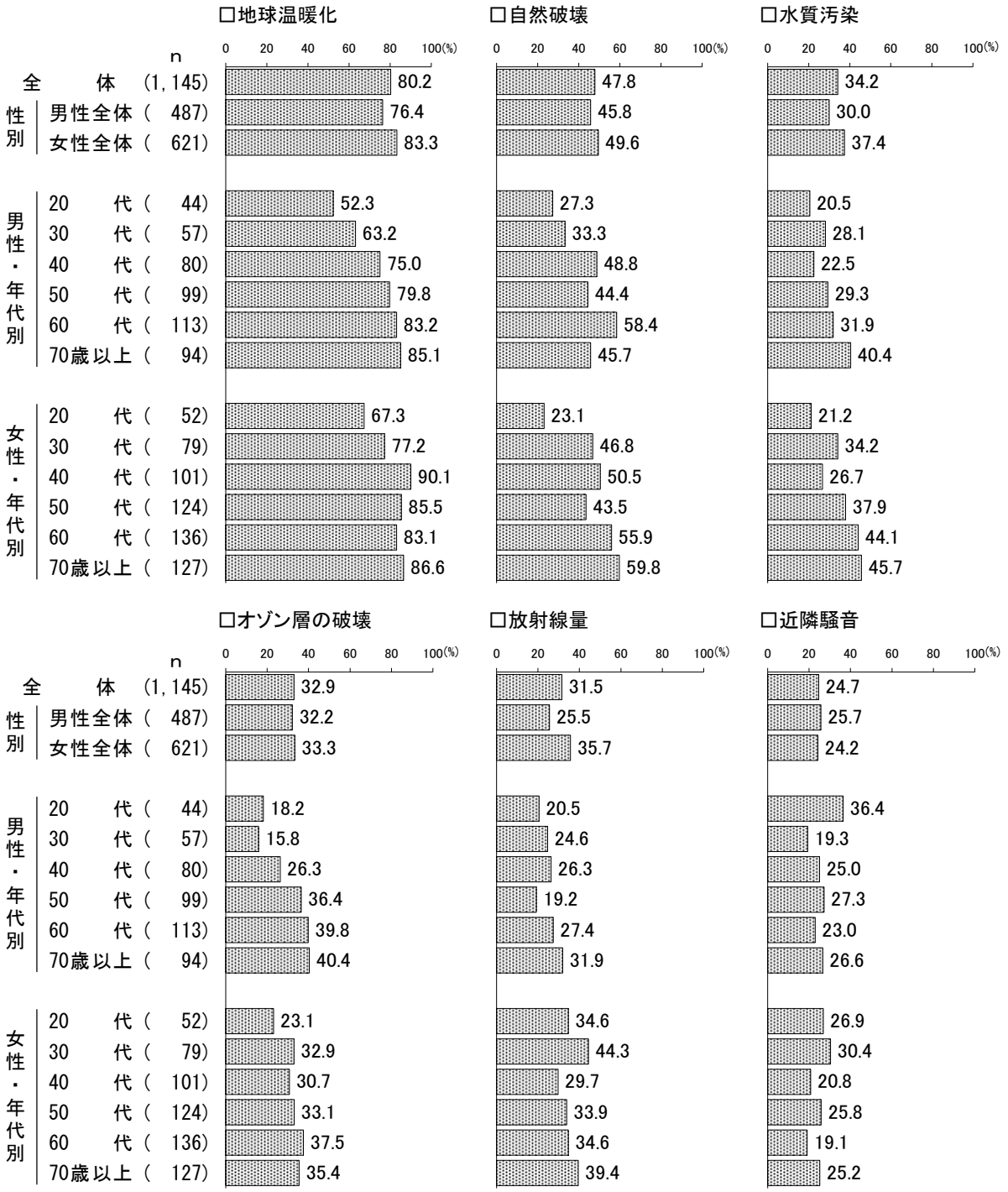
関心のある環境問題を聞いたところ、「地球温暖化」（80.2%）が約８割で最も高く、次いで「自然破壊」（47.8%）、「水質汚染」（34.2%）、「オゾン層の破壊」（32.9%）、「放射線量」（31.5%）となっている。（図表４－３）

前回の調査結果と比較すると、「地球温暖化」は8.1ポイント増加している。一方、「放射線量」は17.1ポイント減少している。（図表４－３）

上位６項目について性別でみると、「放射線量」は女性（35.7%）が男性（25.5%）より10.2ポイント高く、「水質汚染」は女性（37.4%）が男性（30.0%）より7.4ポイント高くなっている。「地球温暖化」は女性（83.3%）が男性（76.4%）より6.9ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「地球温暖化」は女性40代（90.1%）で約９割と高くなっている。「自然破壊」は女性70歳以上（59.8%）で約６割と高くなっている。「水質汚染」は女性60代（44.1%）と女性70歳以上（45.7%）で４割台半ばと高くなっている。「放射線量」は女性30代（44.3%）で４割台半ばと高くなっている。（図表４－４）

＜図表４－４＞関心のある環境問題／性別、性・年代別（上位６項目）



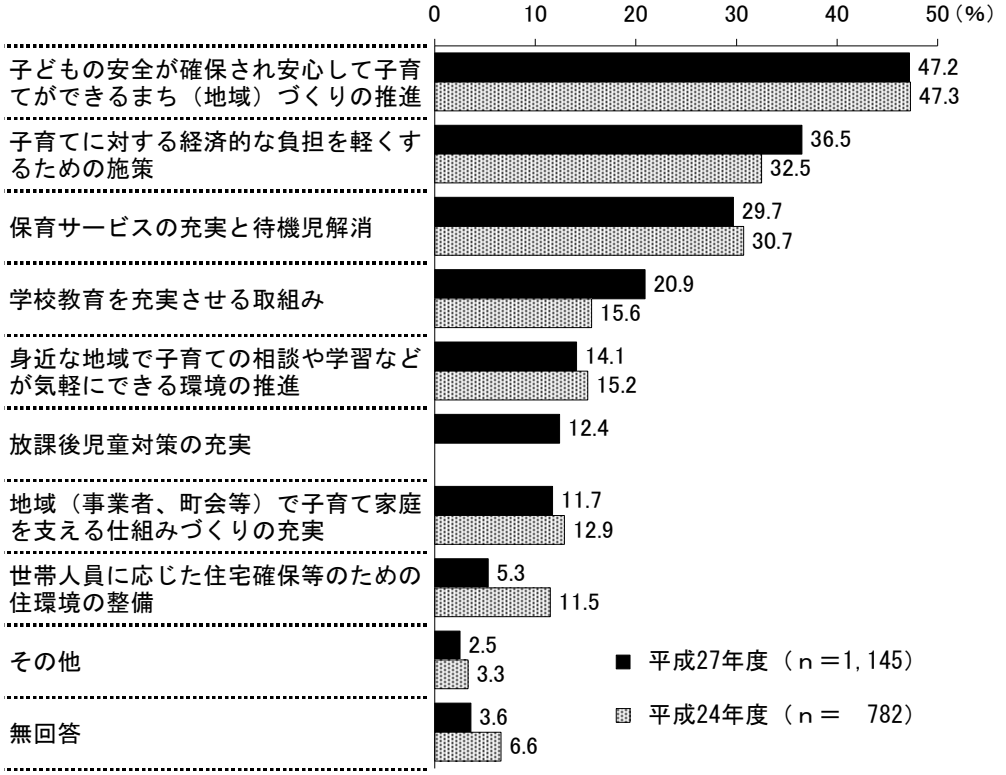
５．福祉社会

（１）子育てに必要な施策

◇「子どもの安全が確保され安心して子育てができるまち（地域）づくりの推進」が５割弱

問10　「子育てするならふっさ」と実感できる社会環境づくりのためには、どのような施策が必要だと思いますか。次の中から２つまで選んでください。（○は２つまで）

＜図表５－１＞子育てに必要な施策



（注）「放課後児童対策の充実」は、今回調査で追加した選択肢である。
「保育サービスの充実と待機児解消」は、前回調査では「保育サービスの充実（０歳児保育・延長保育・休日保育等）」としていた。
「学校教育を充実させる取組み」は、前回調査では「教育環境を充実させる取組み」としていた。

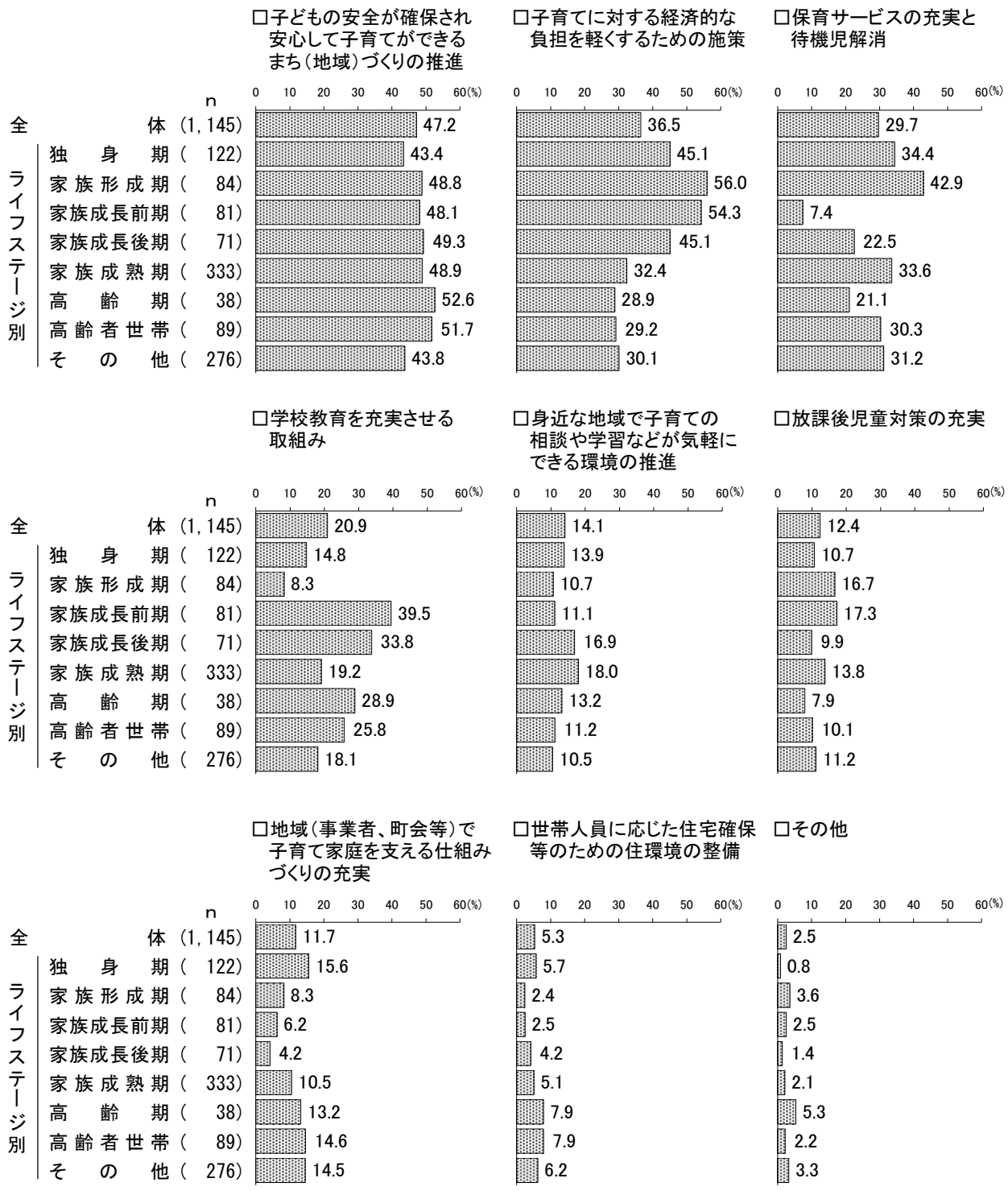
子育てに必要な施策を聞いたところ、「子どもの安全が確保され安心して子育てができるまち（地域）づくりの推進」（47.2%）が５割弱で最も高く、次いで「子育てに対する経済的な負担を軽くするための施策」（36.5%）、「保育サービスの充実と待機児解消」（29.7%）、「学校教育を充実させる取組み」（20.9%）、「身近な地域で子育ての相談や学習などが気軽にできる環境の推進」（14.1%）となっている。（図表５－１）

前回の調査結果との比較は、選択肢が追加・変更されているため参考にとどまるが、上位５項目は前回調査と同じ順位となっている。（図表５－１）

ライフステージ別でみると、「子育てに対する経済的な負担を軽くするための施策」は家族形成期（56.0%）と家族成長前期（54.3%）で５割台半ばと高くなっている。「保育サービスの充実と待機児解消」は家族形成期（42.9%）で４割強と高くなっている。「学校教育を充実させる取組み」は家族成長前期（39.5%）で約４割、家族成長後期（33.8%）で３割強と高くなっている。

（図表５－２）

＜図表５－２＞子育てに必要な施策／ライフステージ別

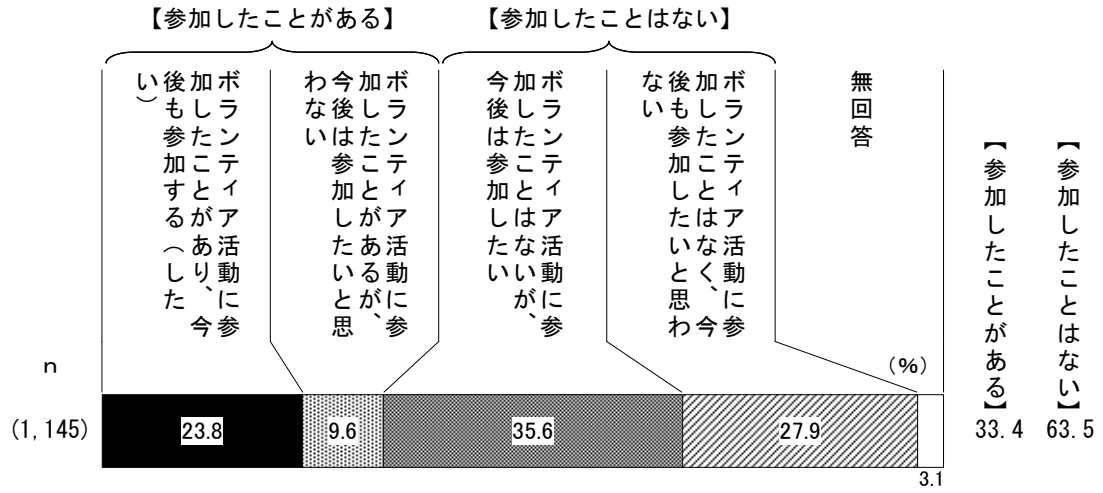


（２）ボランティア活動の経験

◇【参加したことがある】が３割強

問11　地域で様々なボランティア活動が行われていますが、ボランティア活動についてあてはまるものを次の中から１つだけ選んでください。（○は１つ）

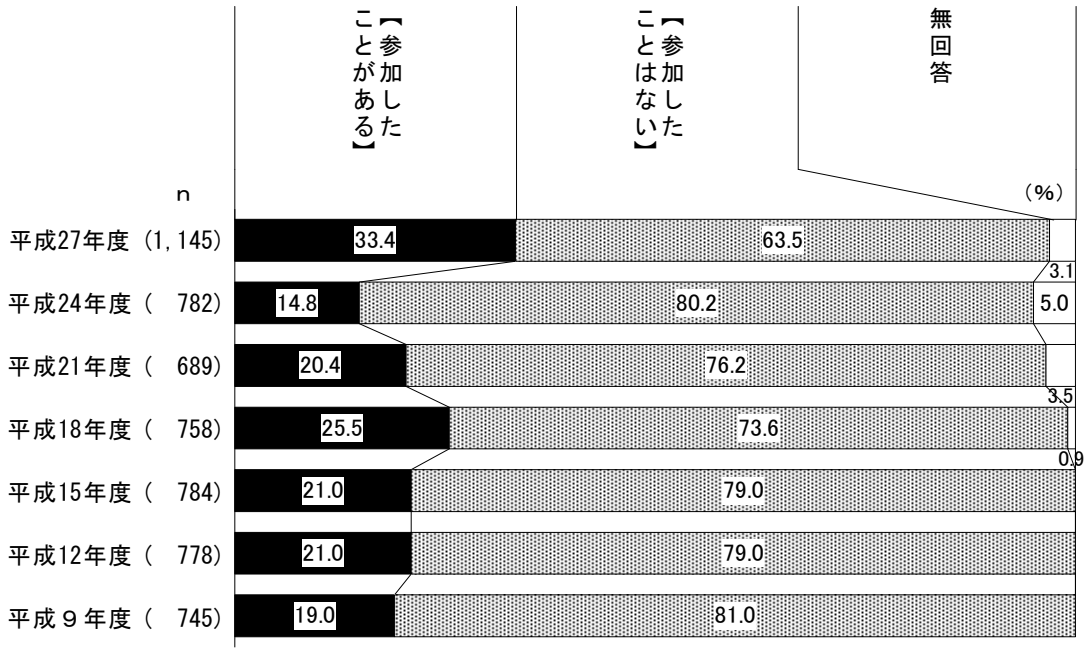
＜図表５－３＞ボランティア活動の経験



ボランティア活動の経験を聞いたところ、「ボランティア活動に参加したことがあり、今後も参加する（したい）」（23.8％）と「ボランティア活動に参加したことがあるが、今後は参加したいと思わない」（9.6％）の２つを合わせた【参加したことがある】（33.4％）が３割強となっている。一方、「ボランティア活動に参加したことはないが、今後は参加したい」（35.6％）と「ボランティア活動に参加したことはなく、今後も参加したいと思わない」（27.9％）の２つを合わせた【参加したことはない】（63.5％）は６割強となっている。（図表５－３）

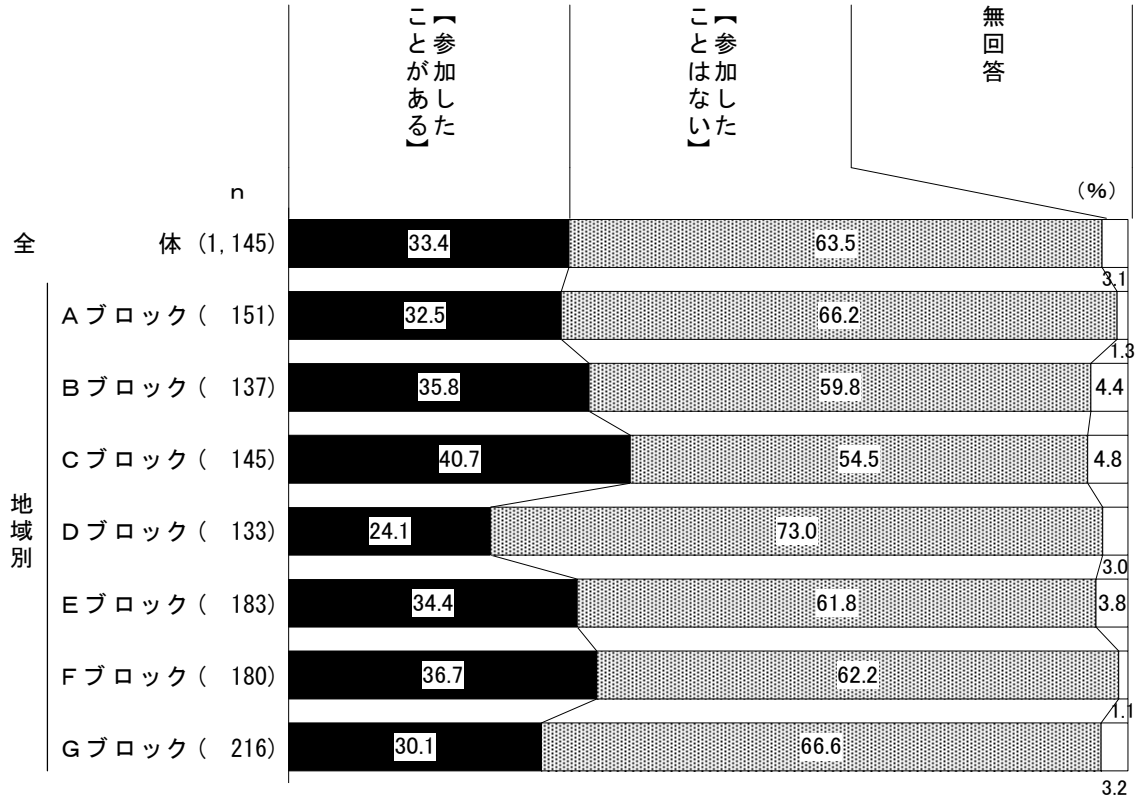
過年度の調査結果の推移をみると、【参加したことがある】は平成24年度と比べて18.6ポイント増加している。（図表５－４）

＜図表５－４＞ボランティア活動の経験／過年度推移



地域別でみると、【参加したことがある】はCブロック（40.7%）で約４割と高くなっている。一方、【参加したことはない】はDブロック（73.0%）で７割強と高くなっている。（図表５－５）

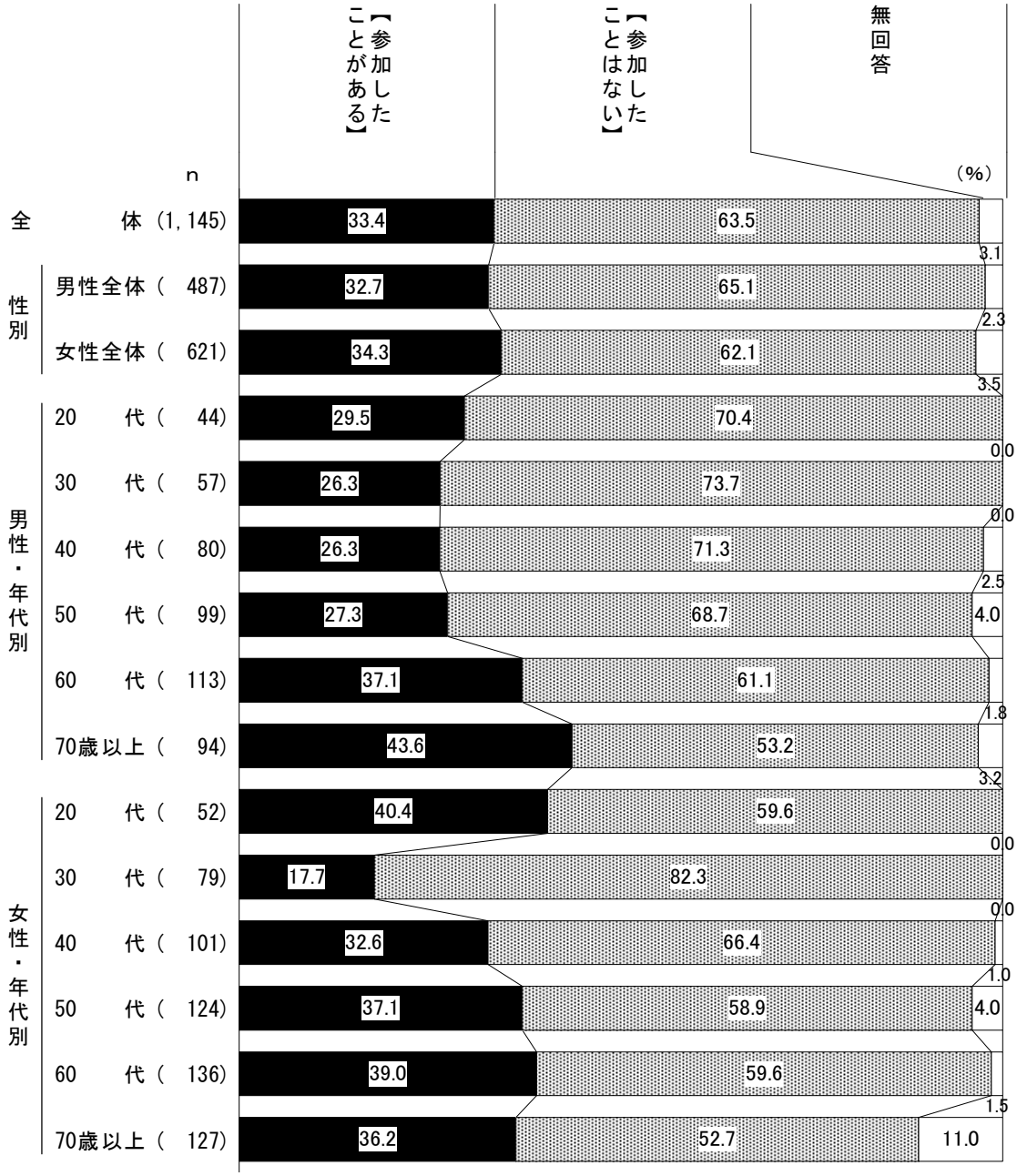
＜図表５－５＞ボランティア活動の経験／地域別



性別でみると、【参加したことはない】は男性（65.1%）が女性（62.1%）より3.0ポイント高くなっている。

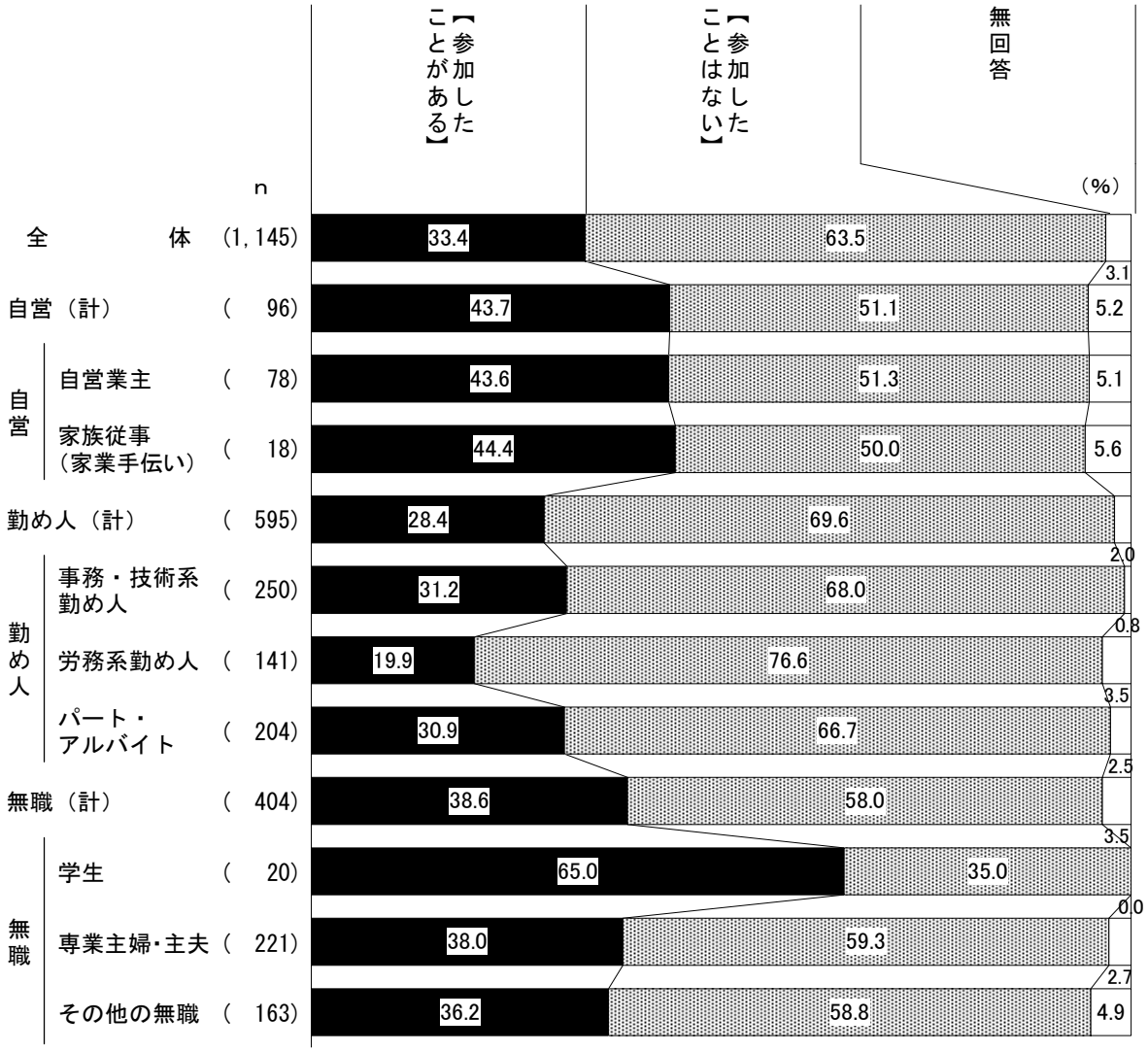
性・年代別でみると、【参加したことがある】は男性70歳以上（43.6%）で４割強、女性20代（40.4%）と女性60代（39.0%）で約４割と高くなっている。一方、【参加したことはない】は女性30代（82.3%）で８割強と高くなっている。（図表５－６）

＜図表５－６＞ボランティア活動の経験／性別、性・年代別



職業別でみると、【参加したことがある】は学生（65.0%）で６割台半ば、自営（計）（43.7%）で４割強と高くなっている。一方、【参加したことはない】は労務系勤め人（76.6%）で８割弱と高くなっている。（図表５－７）

＜図表５－７＞ボランティア活動の経験／職業別

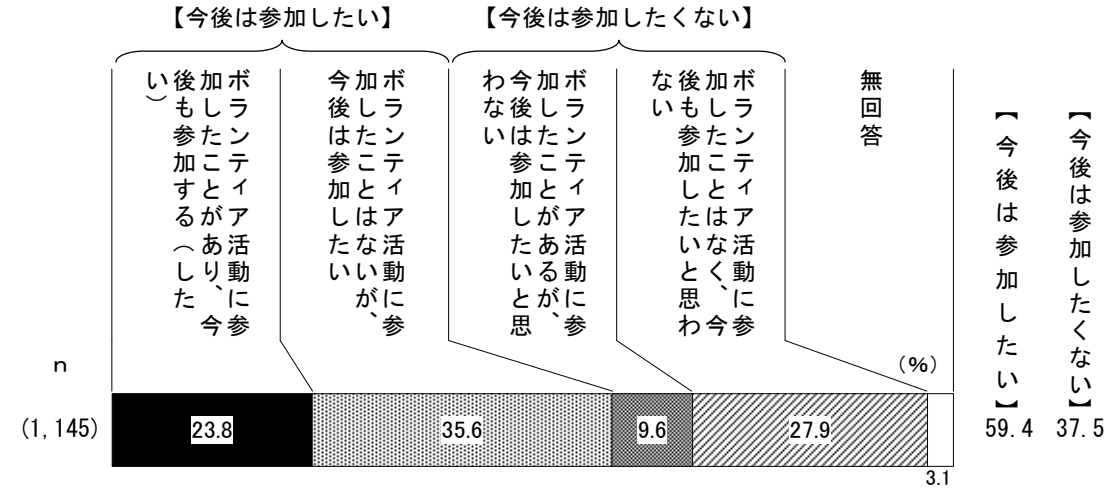


（３）ボランティア活動の参加意向

◇【今後は参加したい】が約６割

問11　地域で様々なボランティア活動が行われていますが、ボランティア活動についてあてはまるものを次の中から１つだけ選んでください。（○は１つ）

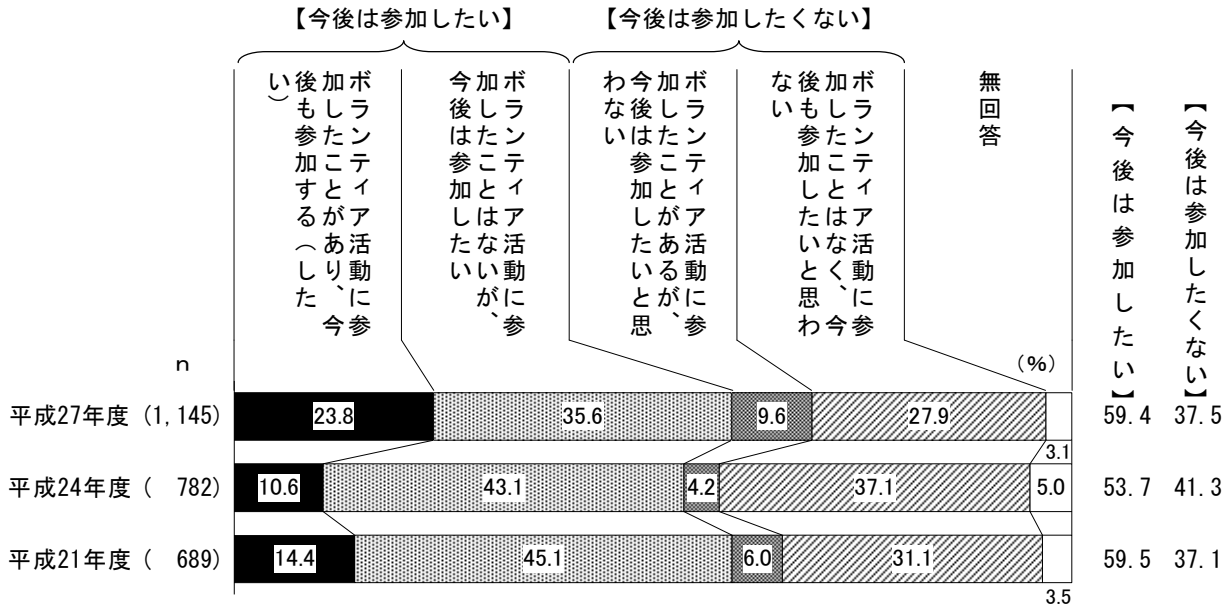
＜図表５－８＞ボランティア活動の参加意向



ボランティア活動の参加意向を聞いたところ、「ボランティア活動に参加したことがあり、今後も参加する（したい）」（23.8%）と「ボランティア活動に参加したことはないが、今後は参加したい」（35.6%）の２つを合わせた【今後は参加したい】（59.4%）が約６割と高くなっている。一方、「ボランティア活動に参加したことがあるが、今後は参加したいと思わない」（9.6%）と「ボランティア活動に参加したことはなく、今後も参加したいと思わない」（27.9%）の２つを合わせた【今後は参加したくない】（37.5%）は４割弱となっている。（図表５－８）

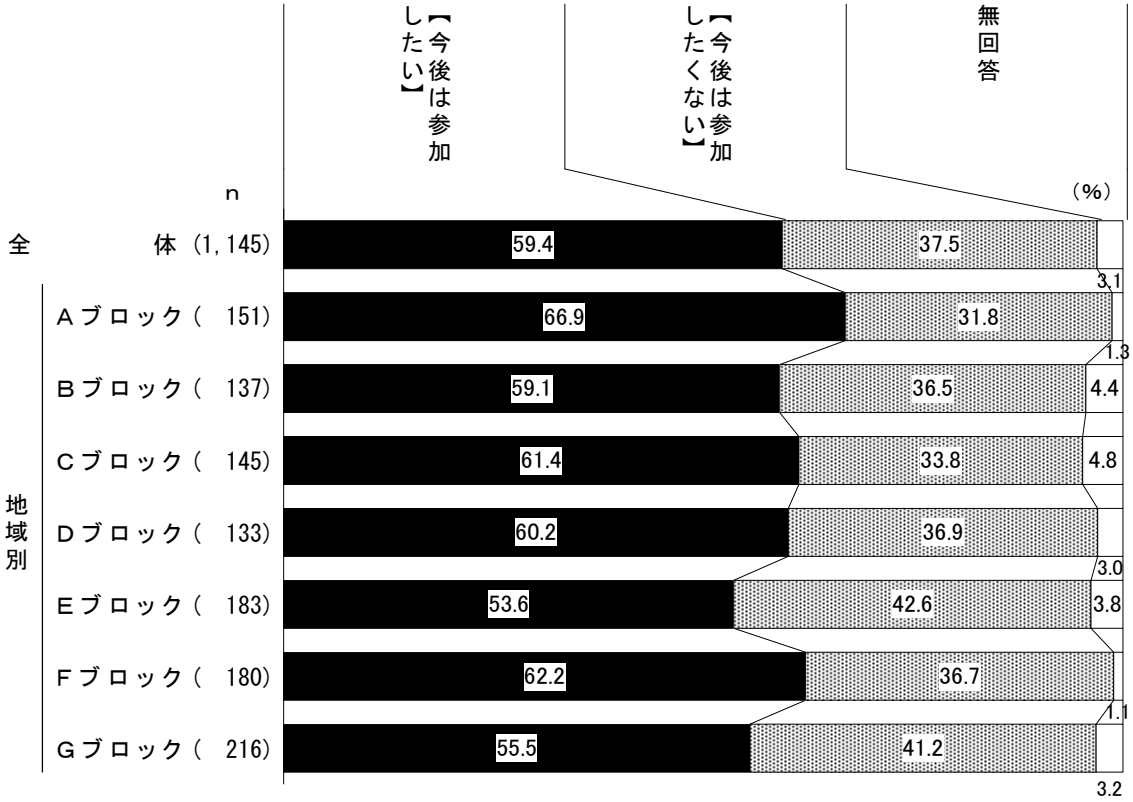
過年度の調査結果の推移をみると、【今後は参加したい】は平成24年度と比べて5.7ポイント増加している。（図表５－９）

＜図表５－９＞ボランティア活動の参加意向／過年度推移



地域別でみると、【今後は参加したい】はＡブロック（66.9％）で７割弱と高くなっている。一方、【今後は参加したくない】はＥブロック（42.6％）とＧブロック（41.2％）で４割強と高くなっている。（図表５－10）

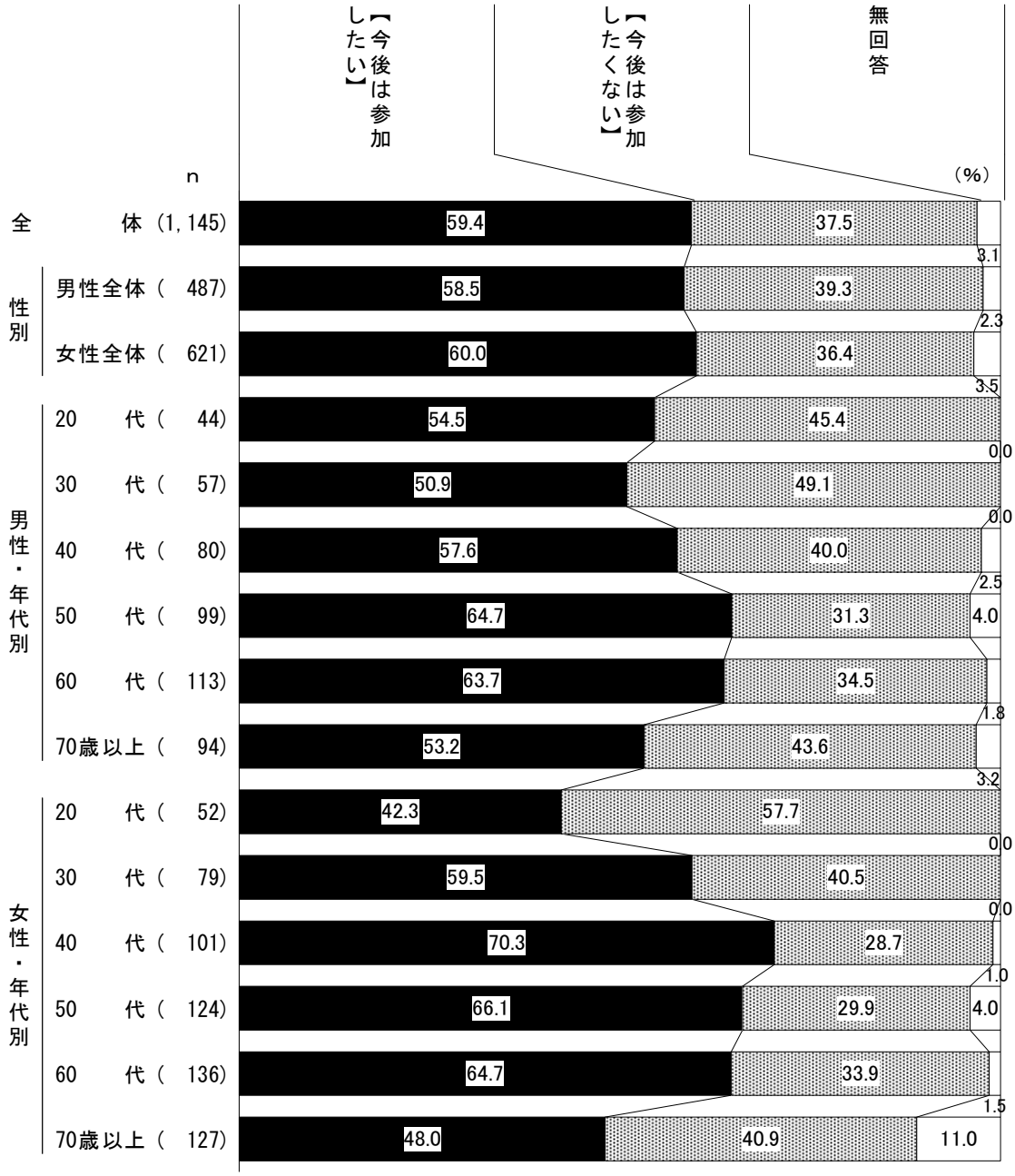
＜図表５－10＞ボランティア活動の参加意向／地域別



性別でみると、【今後は参加したくない】は男性（39.3%）が女性（36.4%）より2.9ポイント高くなっている。

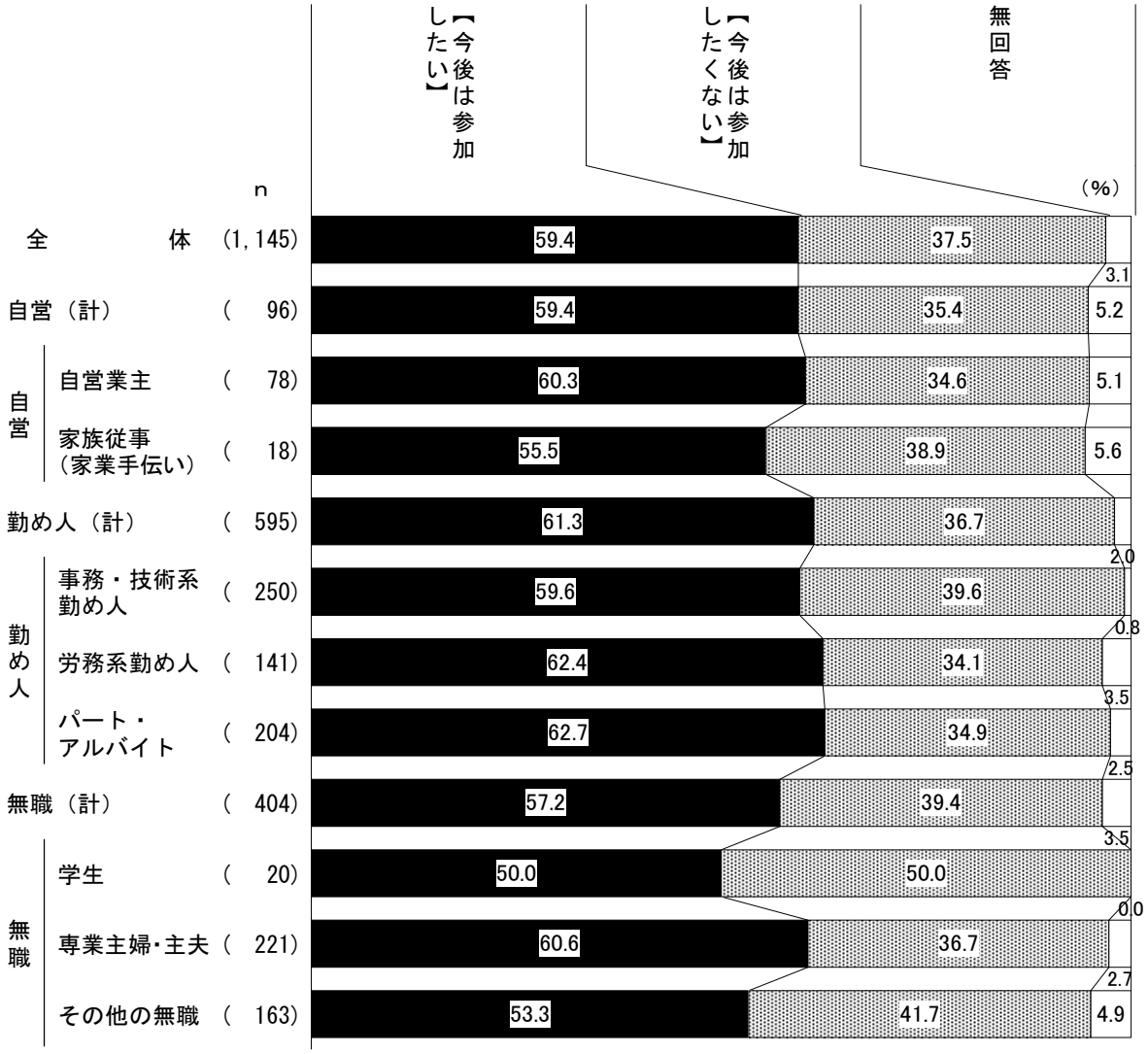
性・年代別でみると、【今後は参加したい】は女性40代（70.3%）で約７割と高くなっている。一方、【今後は参加したくない】は女性20代（57.7%）で６割弱と高くなっている。（図表５－11）

＜図表５－11＞ボランティア活動の参加意向／性別、性・年代別



職業別でみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表５－12)

＜図表５－12＞ボランティア活動の参加意向／職業別

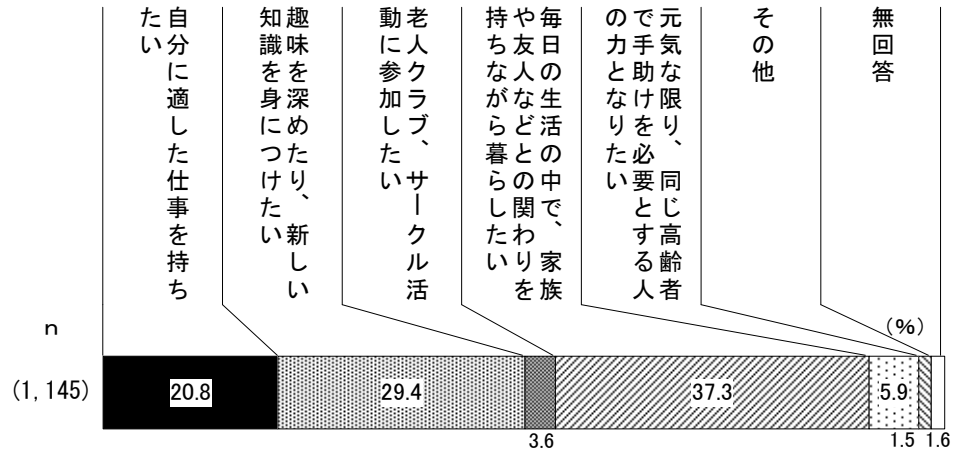


（４）老後の生活

◇「毎日の生活の中で、家族や友人などとの関わりを持ちながら暮らしたい」が４割弱

問12　あなたは、老後をどのように暮らしていきたいと思いますか。次の中からあなたのお考えに最も近いものを１つだけ選んでください。（○は１つ）

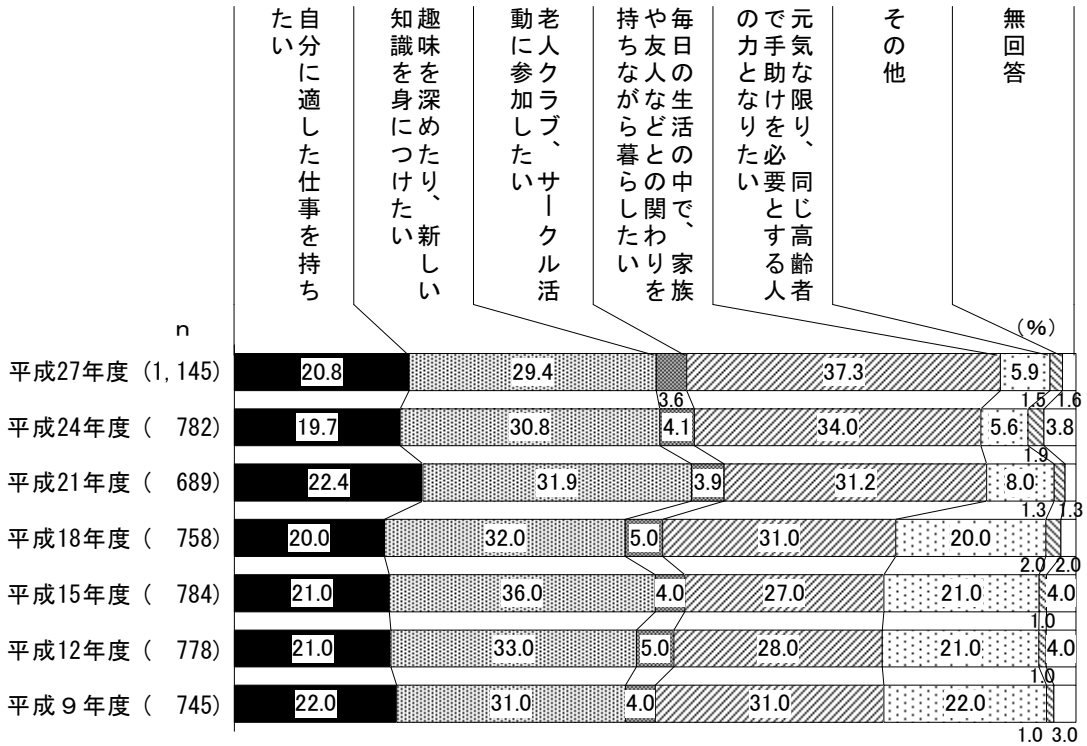
＜図表５－13＞老後の生活



老後をどのように暮らしていきたいか聞いたところ、「毎日の生活の中で、家族や友人などとの関わりを持ちながら暮らしたい」（37.3%）が４割弱で最も高く、次いで「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」（29.4%）、「自分に適した仕事を持ちたい」（20.8%）となっている。（図表５－13）

過年度の調査結果の推移をみると、「毎日の生活の中で、家族や友人などとの関わりを持ちながら暮らしたい」は平成15年度以降増加傾向にある。（図表５－14）

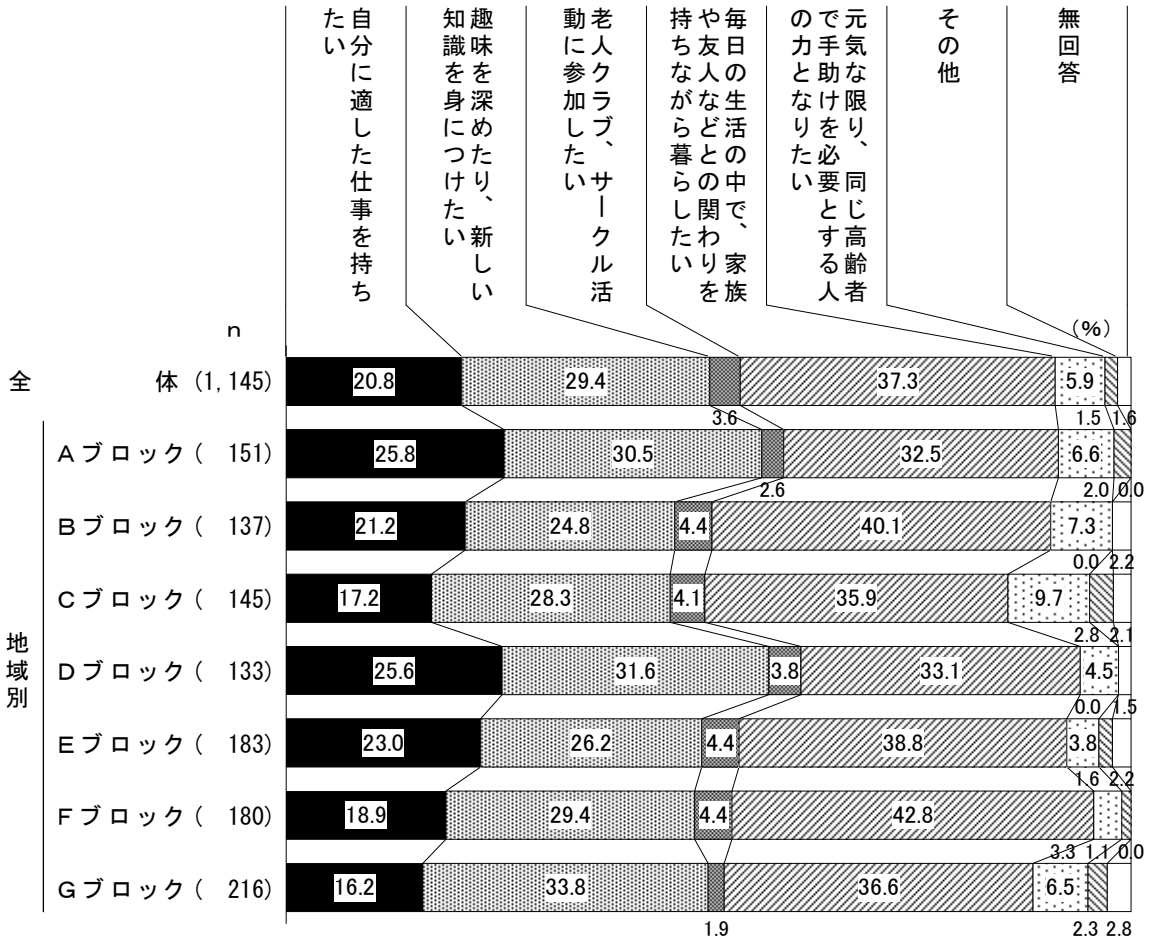
＜図表５－14＞老後の生活／過年度推移



（注）「毎日の生活の中で、家族や友人などとの関わりを持ちながら暮らしたい」は、前回調査以前では「毎日の生活の中で、家族や友人などとの接触を深めながら暮らしたい」としていた。

地域別でみると、「毎日の生活の中で、家族や友人などとの関わりを持ちながら暮らしたい」はＦブロック（42.8%）で４割強と高くなっている。「自分に適した仕事を持ちたい」はＡブロック（25.8%）とＤブロック（25.6%）で２割台半ばと高くなっている。（図表５－15）

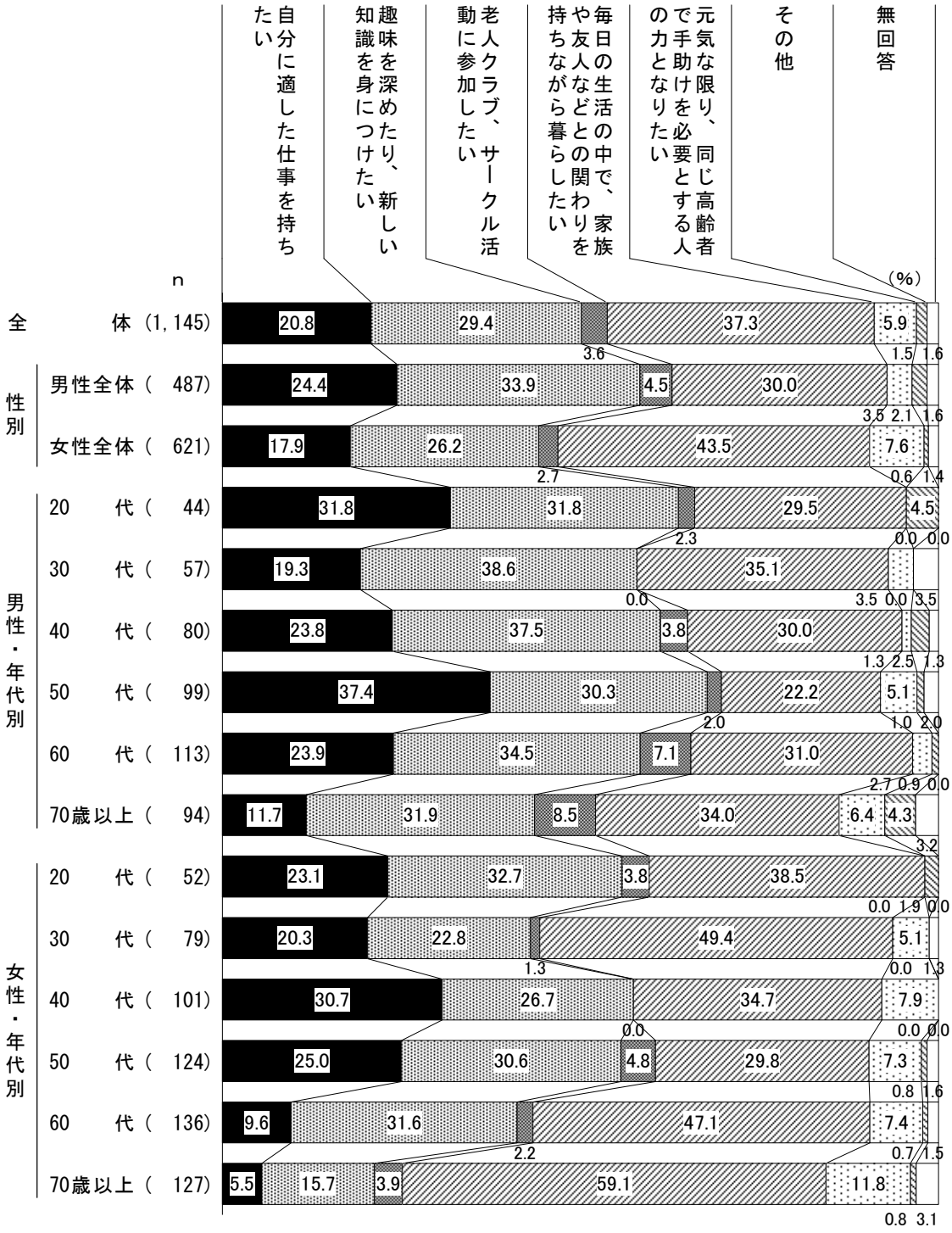
＜図表５－15＞老後の生活／地域別



性別でみると、「毎日の生活の中で、家族や友人などとの関わりを持ちながら暮らしたい」は女（43.5%）が男性（30.0%）より13.5ポイント高くなっている。「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」は男性（33.9%）が女性（26.2%）より7.7ポイント高く、「自分に適した仕事を持ちたい」は男性（24.4%）が女性（17.9%）より6.5ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「毎日の生活の中で、家族や友人などとの関わりを持ちながら暮らしたい」は女性70歳以上（59.1%）で約６割と高くなっている。「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」は男性30代（38.6%）と男性40代（37.5%）で４割弱と高くなっている。「自分に適した仕事を持ちたい」は男性50代（37.4%）で４割弱と高くなっている。（図表５－16）

＜図表５－16＞老後の生活／性別、性・年代別

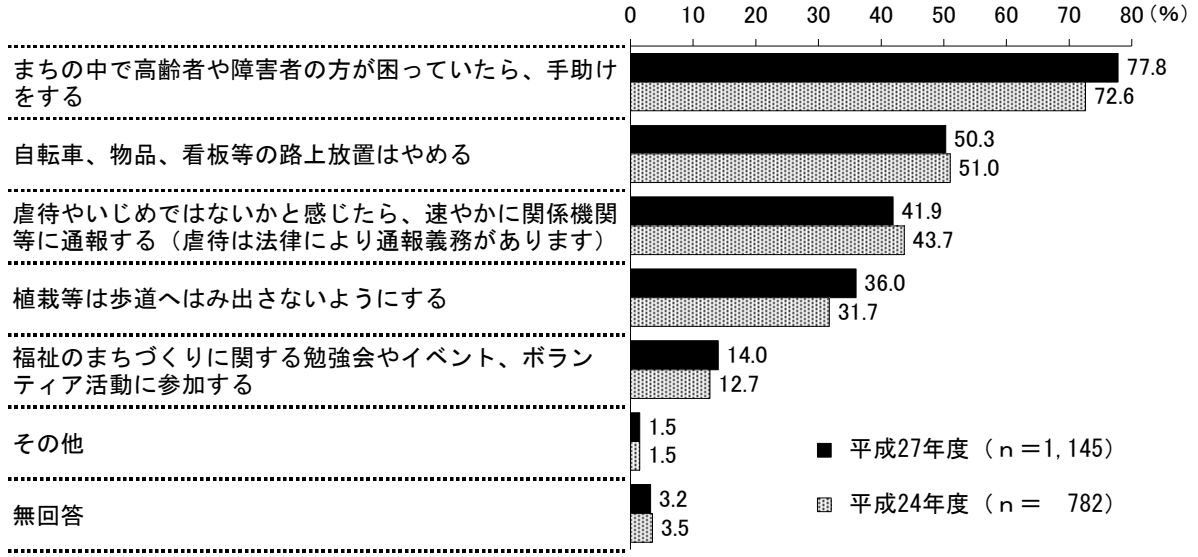


（５）福祉のまちづくり実現のための取組み

◇「まちの中で高齢者や障害者の方が困っていたら、手助けをする」が８割弱

問13　福祉のまちづくりを実現するためには、行政、事業者、市民が協働して取り組む必要がありますが、あなたが実施している取組み、または取り組むことができるものは何ですか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。（○はいくつでも）

＜図表５－17＞福祉のまちづくり実現のための取組み

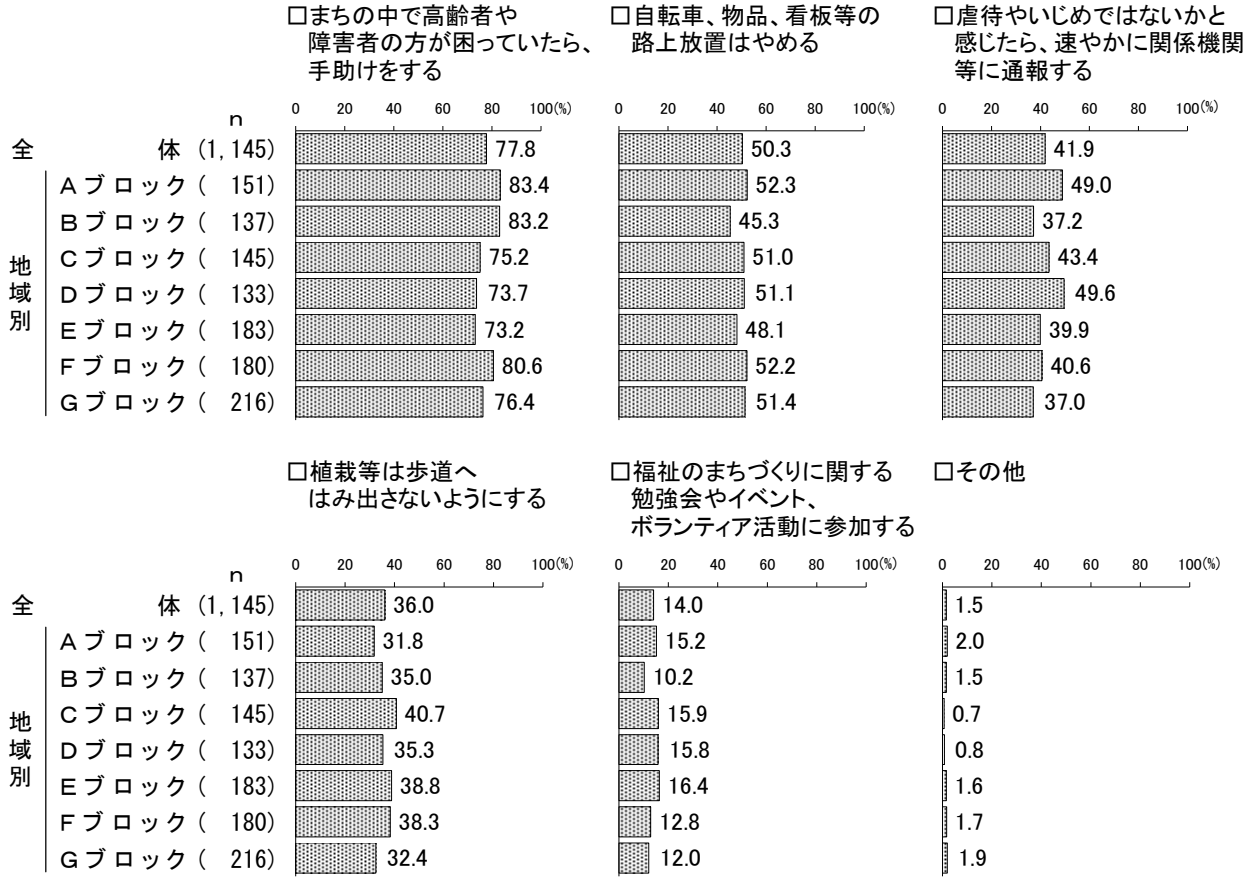


福祉のまちづくりを実現するために実施している取組み、または取り組むことができるものを聞いたところ、「まちの中で高齢者や障害者の方が困っていたら、手助けをする」（77.8%）が８割弱で最も高く、次いで「自転車、物品、看板等の路上放置はやめる」（50.3%）、「虐待やいじめではないかと感じたら、速やかに関係機関等に通報する」（41.9%）、「植栽等は歩道へはみ出さないようにする」（36.0%）となっている。（図表５－17）

前回の調査結果と比較すると、「まちの中で高齢者や障害者の方が困っていたら、手助けをする」は5.2ポイント増加している。（図表５－17）

地域別でみると、「まちの中で高齢者や障害者の方が困っていたら、手助けをする」はＡブロック（83.4％）とＢブロック（83.2％）で８割強と高くなっている。「虐待やいじめではないかと感じたら、速やかに関係機関等に通報する」はＡブロック（49.0％）とＤブロック（49.6％）で約５割と高くなっている。（図表５－18）

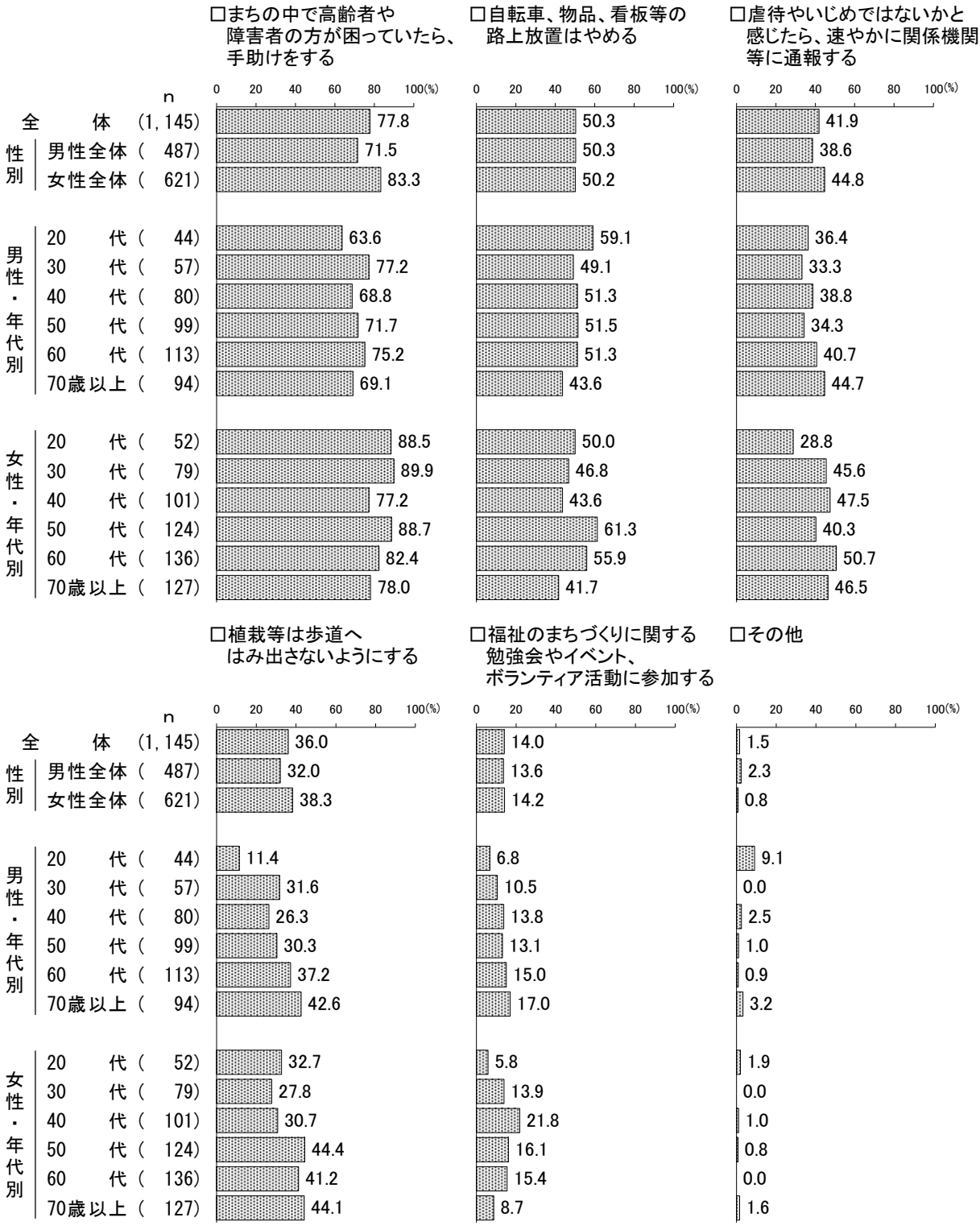
＜図表５－18＞福祉のまちづくり実現のための取組み／地域別



性別でみると、「まちの中で高齢者や障害者の方が困っていたら、手助けをする」は女性（83.3%）が男性（71.5%）より11.8ポイント高く、「植栽等は歩道へはみ出さないようにする」は女性（38.3%）が男性（32.0%）より6.3ポイント高くなっている。「虐待やいじめではないかと感じたら、速やかに関係機関等に通報する」は女性（44.8%）が男性（38.6%）より6.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「まちの中で高齢者や障害者の方が困っていたら、手助けをする」は女性30代（89.9%）で約９割と高くなっている。「自転車、物品、看板等の路上放置はやめる」は女性50代（61.3%）で６割強と高くなっている。（図表５－19）

＜図表５－19＞福祉のまちづくり実現のための取組み／性別、性・年代別

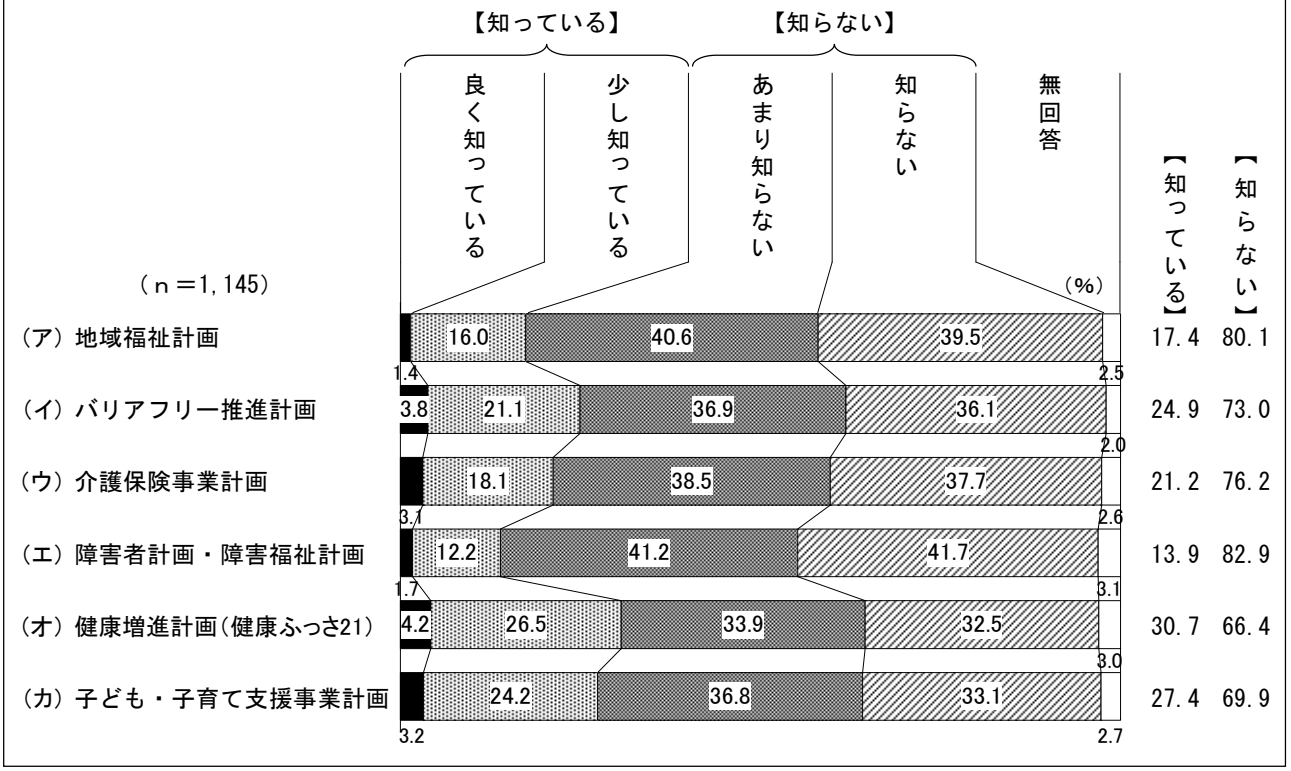


（６）地域福祉の充実のための各種事業計画の認知状況

◇【知っている】は「健康増進計画（健康ふっさ21)」が約３割

問14　地域福祉の充実を図るため、市では各種事業計画を策定し、取り組んでいますが、あなたは、次の各計画についてご存じですか。次の（ア）から（カ）までの項目について、それぞれ１つずつ番号で選んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

＜図表５－20＞地域福祉の充実のための各種事業計画の認知状況

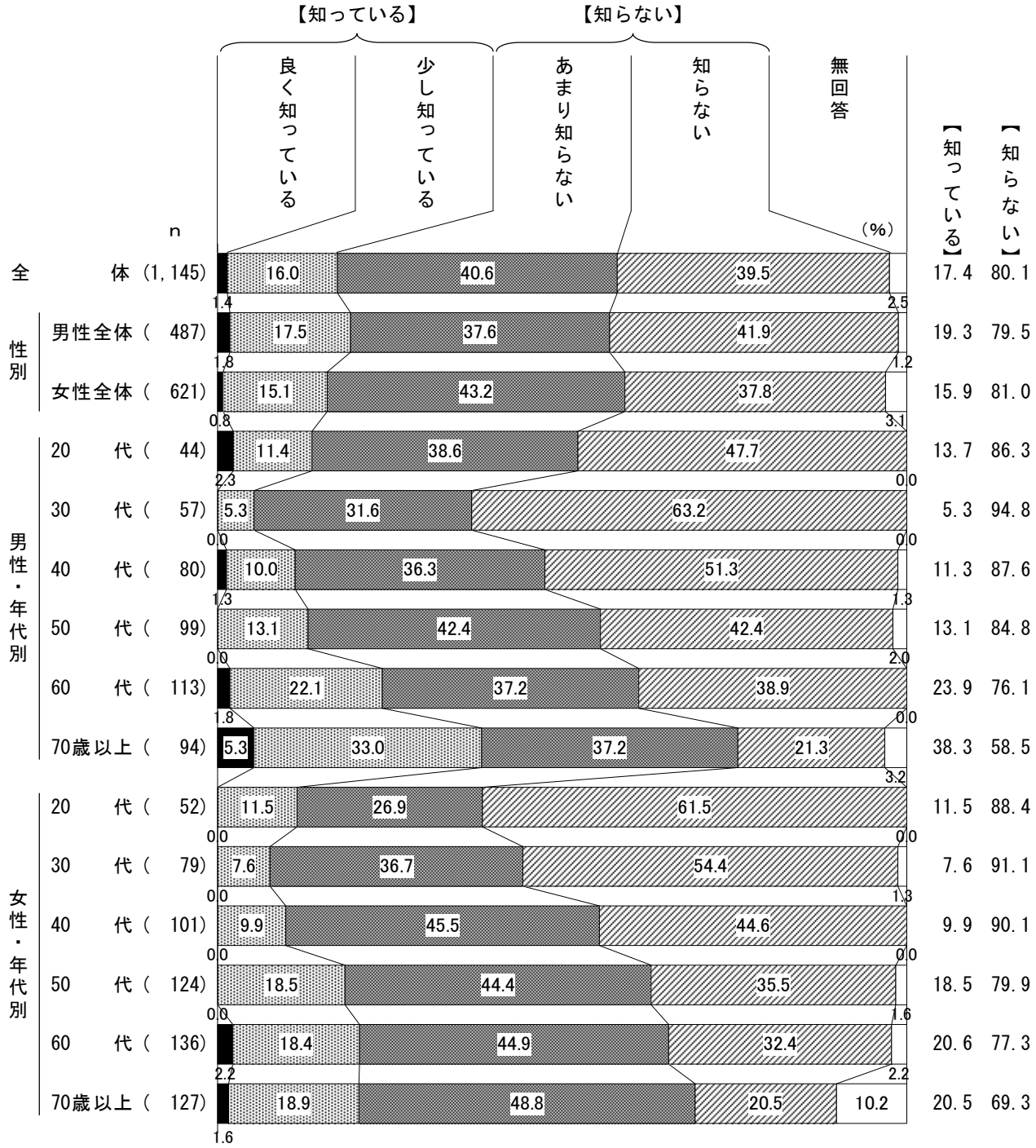


地域福祉の充実のための６項目の各種事業計画の認知状況を聞いたところ、「良く知っている」と「少し知っている」の２つを合わせた【知っている】は、(オ)健康増進計画(健康ふっさ21)(30.7%)が約３割で最も高く、次いで（カ）子ども・子育て支援事業計画（27.4%)、(イ）バリアフリー推進計画（24.9%)、(ウ）介護保険事業計画（21.2%）となっている。(図表５－20)

（ア）地域福祉計画について性別でみると、【知っている】は男性（19.3%）が女性（15.9%）より3.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は男性70歳以上（38.3%）で４割弱、男性60代（23.9%）で２割強と高くなっている。（図表５－21）

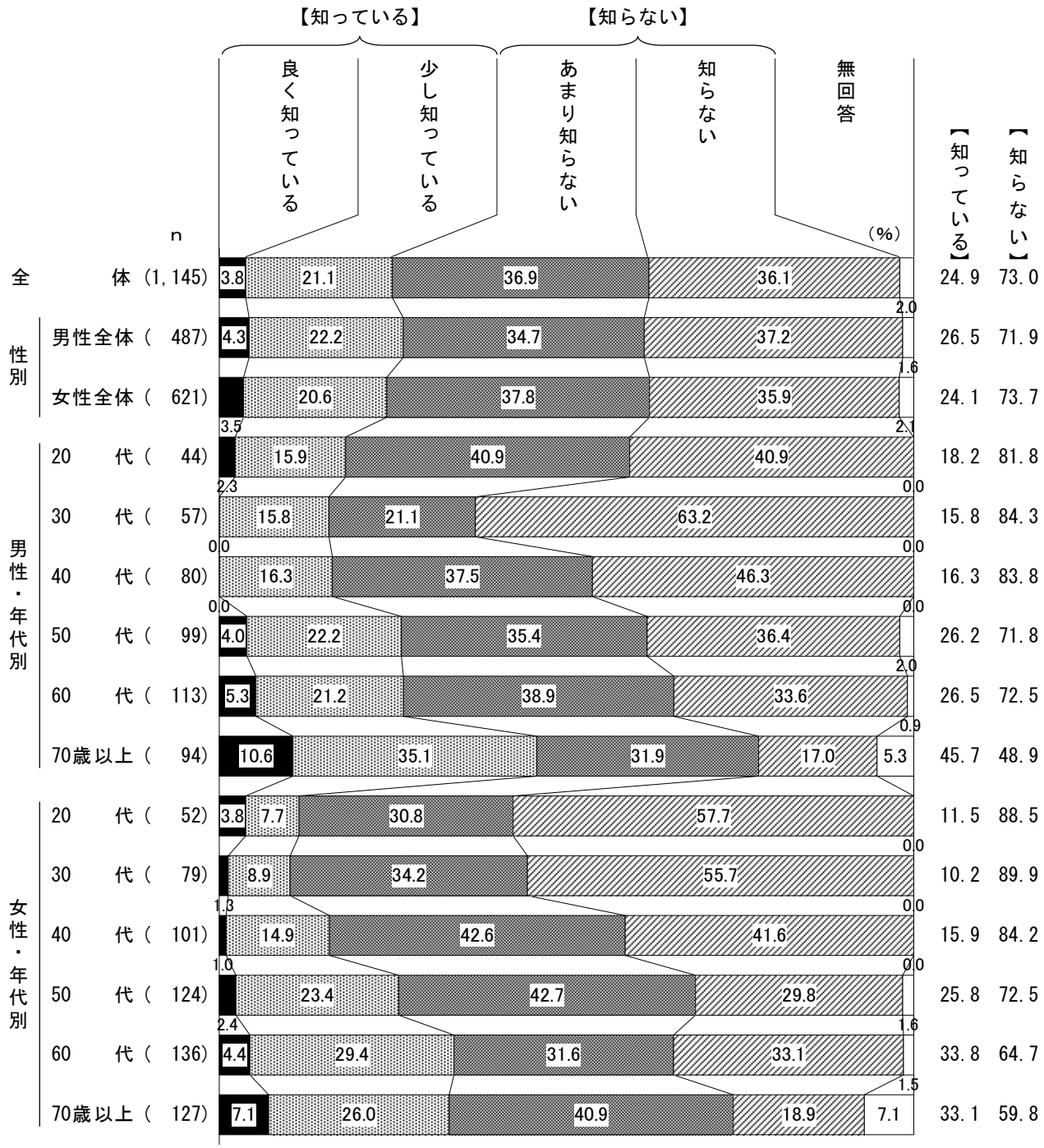
＜図表５－21＞地域福祉の充実のための各種事業計画の認知状況（ア）地域福祉計画／性別、性・年代別



（イ）バリアフリー推進計画について性別でみると、【知っている】は男性（26.5%）が女性（24.1%）より2.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は男性70歳以上（45.7%）で４割台半ば、女性60代（33.8%）と女性70歳以上（33.1%）で３割強と高くなっている。（図表５－22）

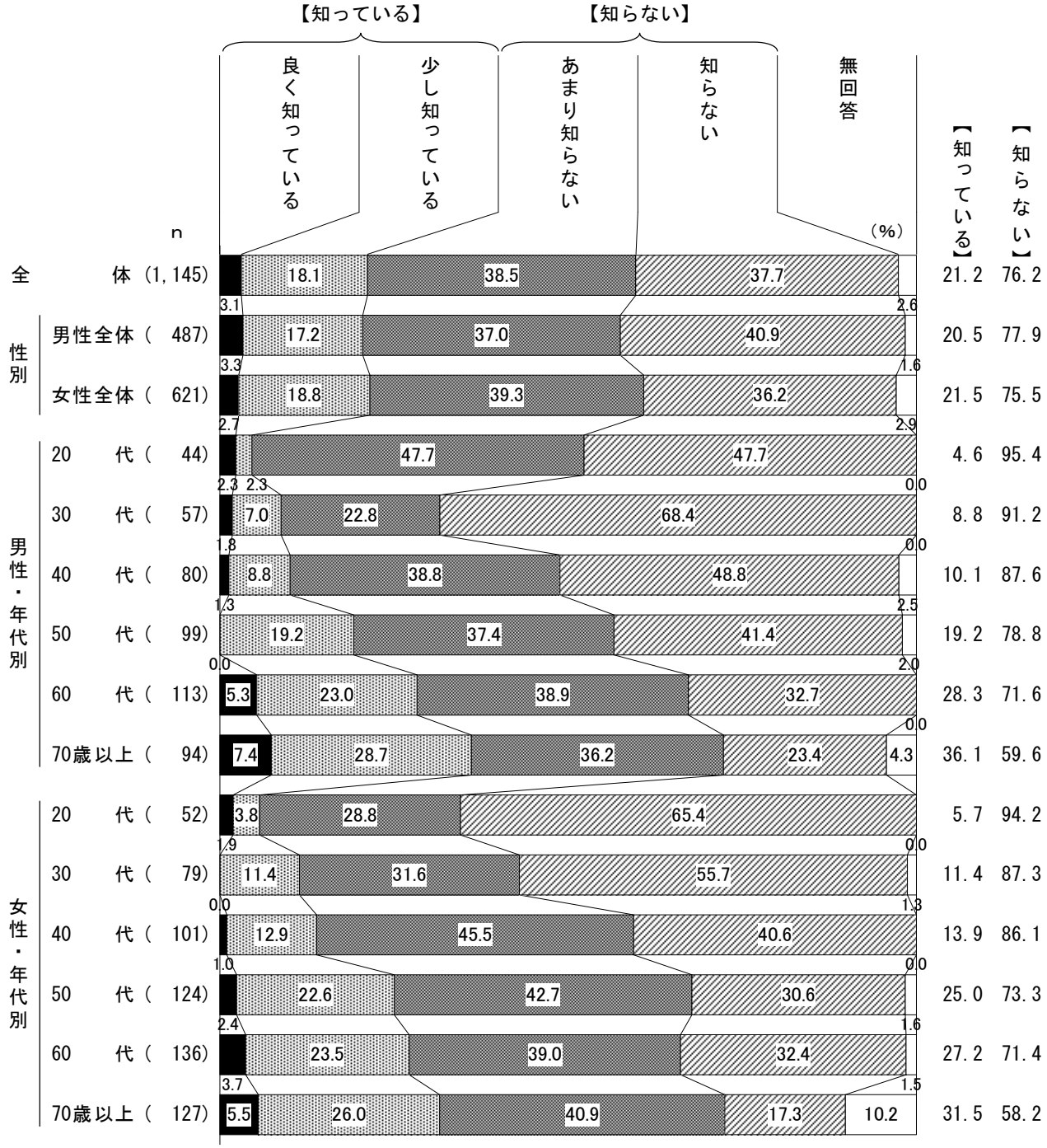
＜図表５－22＞地域福祉の充実のための各種事業計画の認知状況（イ）バリアフリー推進計画／性別、性・年代別



（ウ）介護保険事業計画について性別でみると、【知らない】は男性（77.9%）が女性（75.5%）より2.4ポイント高くなっている。

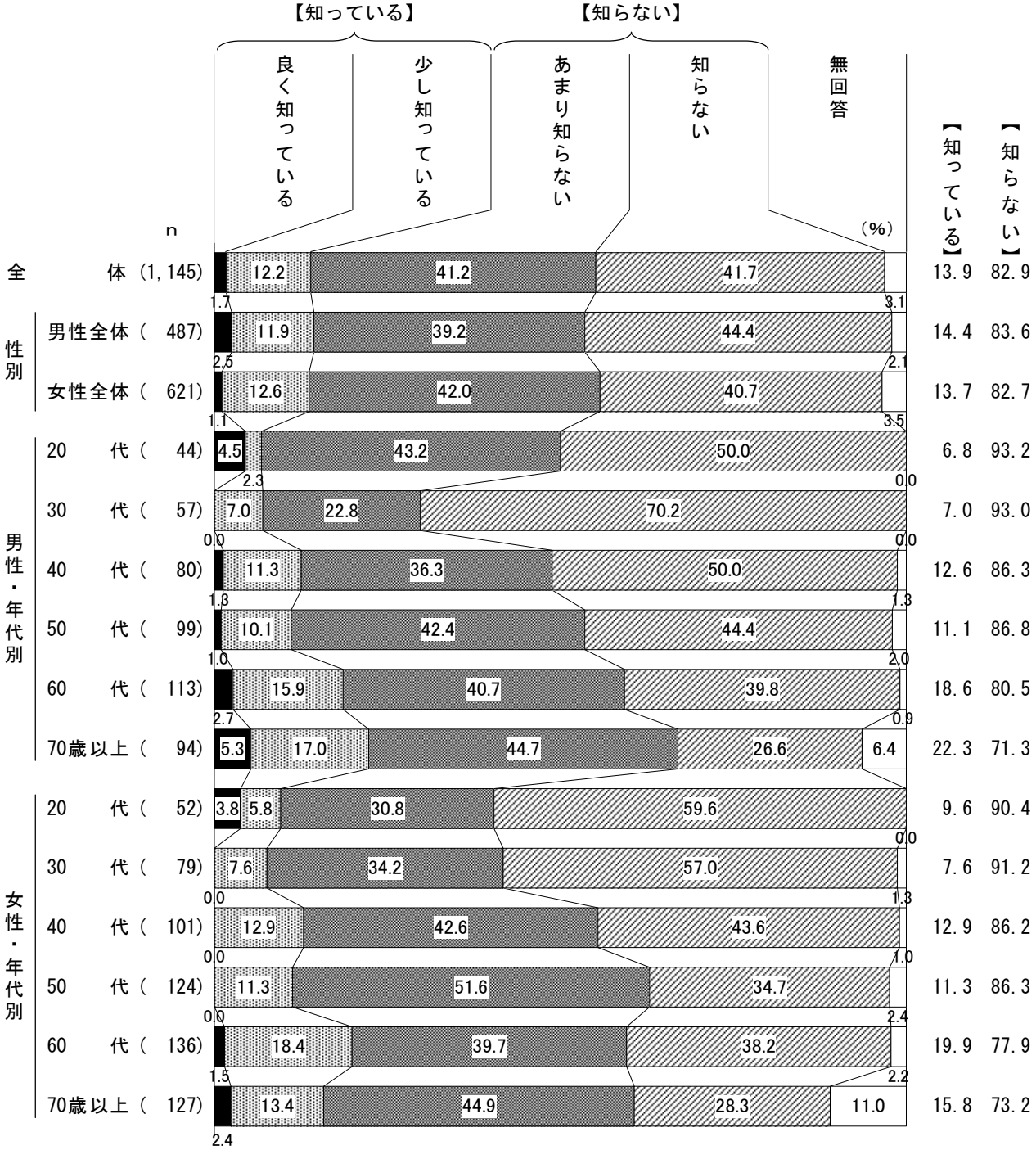
性・年代別でみると、【知っている】は男性70歳以上（36.1%）で４割弱、女性70歳以上（31.5%）で３割強と高くなっている。（図表５－23）

＜図表５－23＞地域福祉の充実のための各種事業計画の認知状況（ウ）介護保険事業計画／性別、性・年代別



（エ）障害者計画・障害福祉計画について性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。
性・年代別でみると、【知っている】は男性70歳以上（22.3%）で２割強と高くなっている。
（図表５－24）

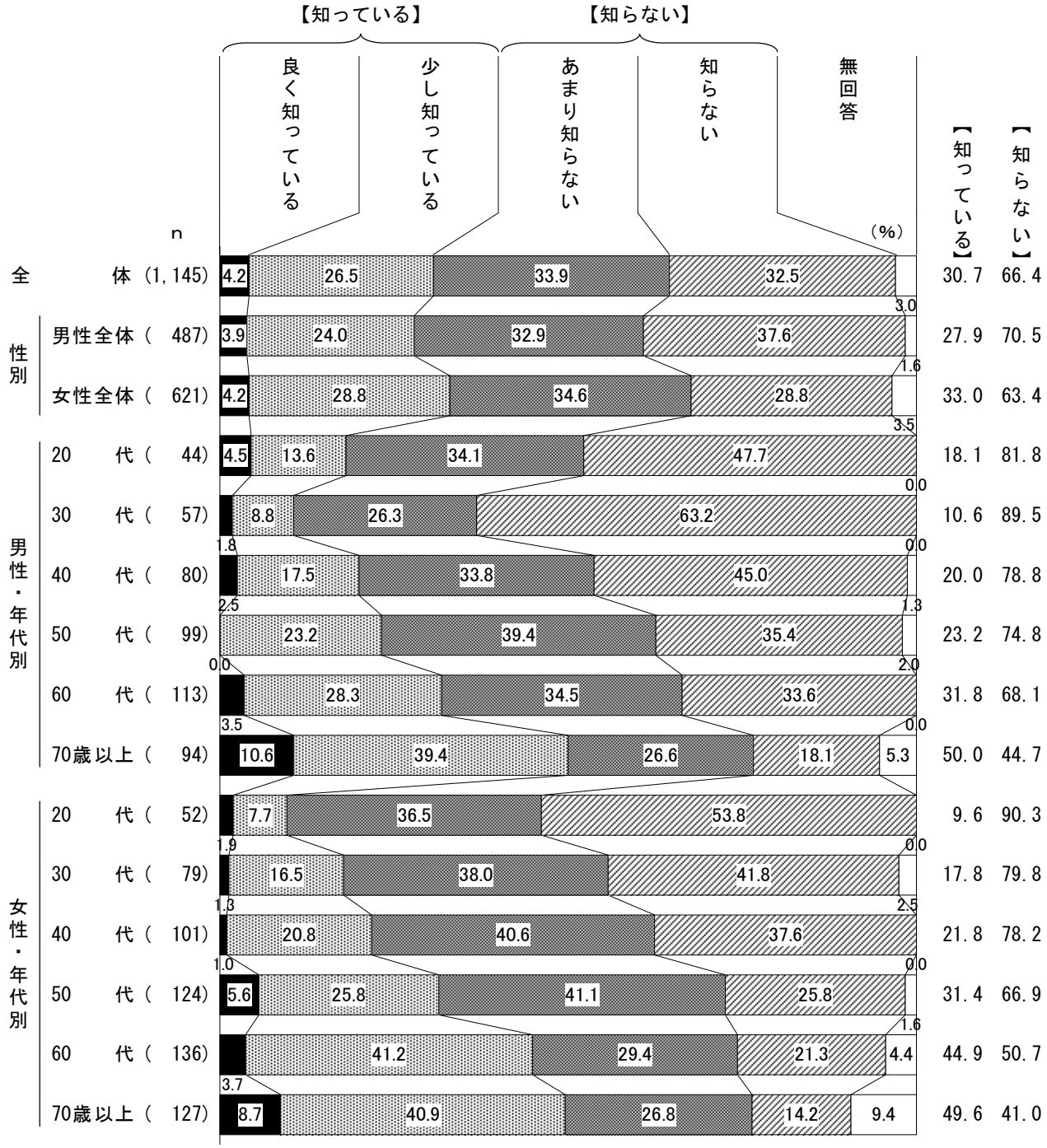
＜図表５－24＞地域福祉の充実のための各種事業計画の認知状況（エ）障害者計画・障害福祉計画
／性別、性・年代別



（オ）健康増進計画（健康ふっさ21）について性別でみると、【知っている】は女性（33.0%）が男性（27.9%）より5.1ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は男性70歳以上（50.0%）で５割、女性70歳以上（49.6%）で約５割と高くなっている。（図表５－25）

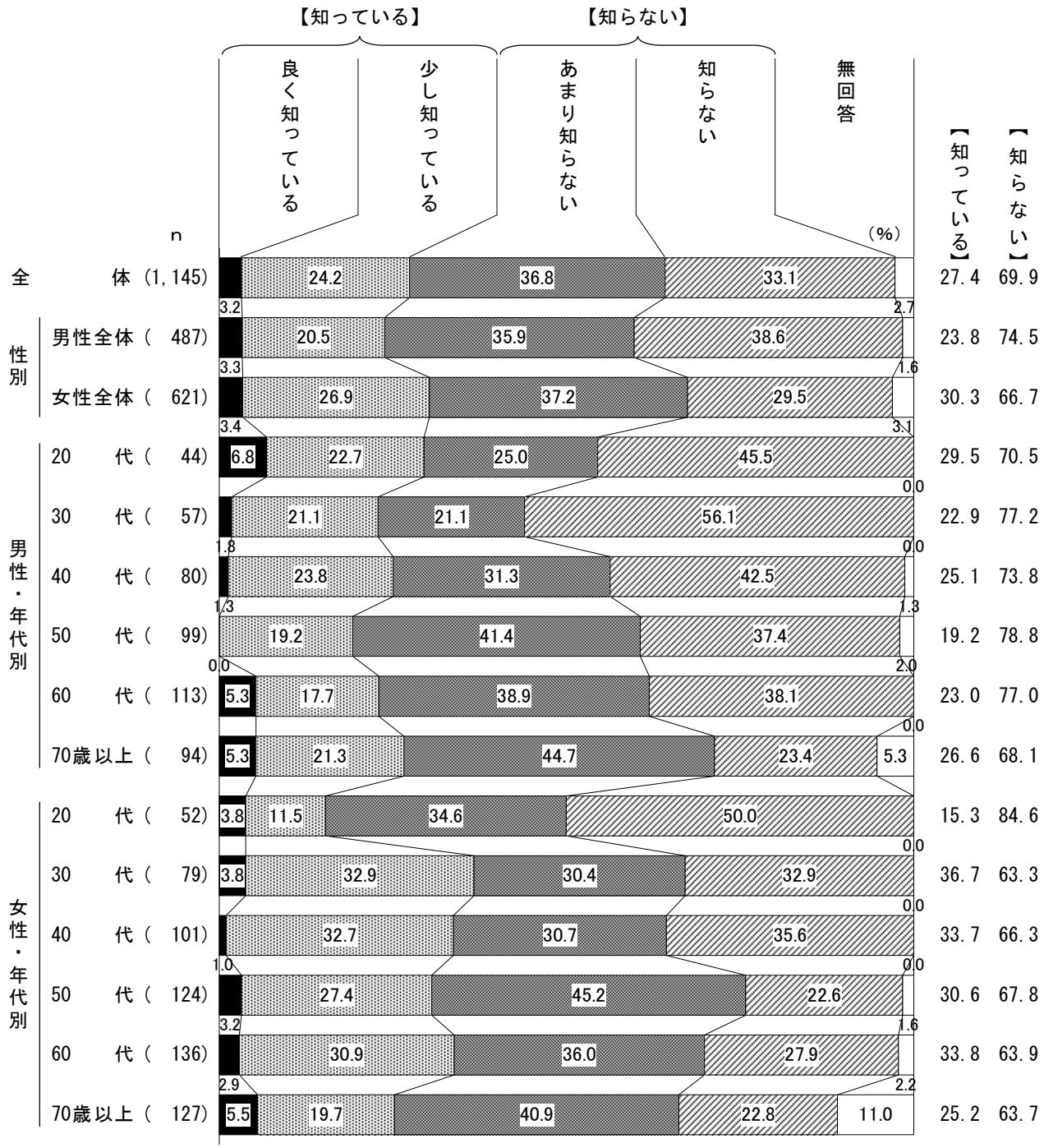
＜図表５－25＞地域福祉の充実のための各種事業計画の認知状況（オ）健康増進計画（健康ふっさ21）／性別、性・年代別



（カ）子ども・子育て支援事業計画について性別でみると、【知っている】は女性（30.3%）が男性（23.8%）より6.5ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は女性30代（36.7%）で４割弱、女性40代（33.7%）と女性60代（33.8%）で３割強と高くなっている。（図表５－26）

＜図表５－26＞地域福祉の充実のための各種事業計画の認知状況（カ）子ども・子育て支援事業計画／性別、性・年代別



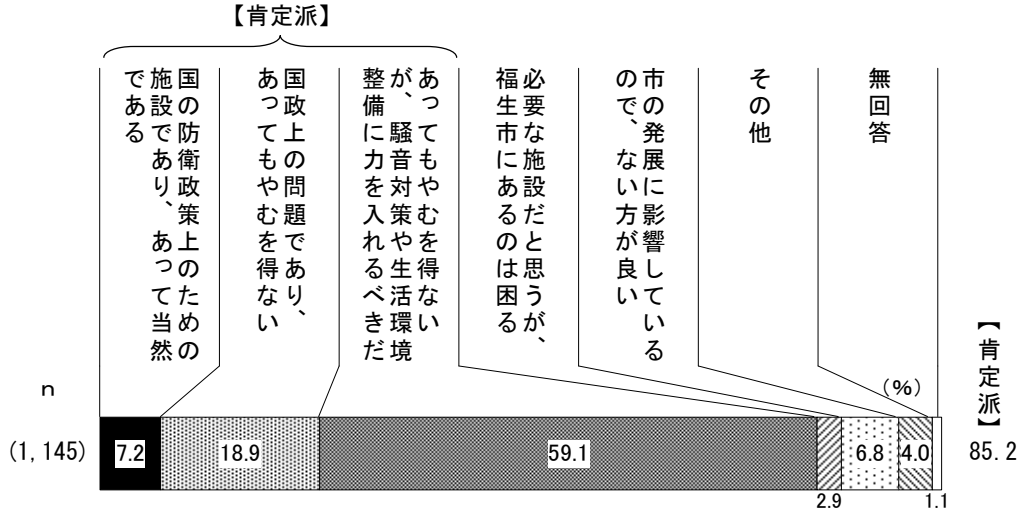
６．横田基地

（１）横田基地の賛否

◇【肯定派】が８割台半ば

問15　横田基地について、日頃あなたが考えていることに最も近いものを、次の中から１つだけ選んでください。（○は１つ）

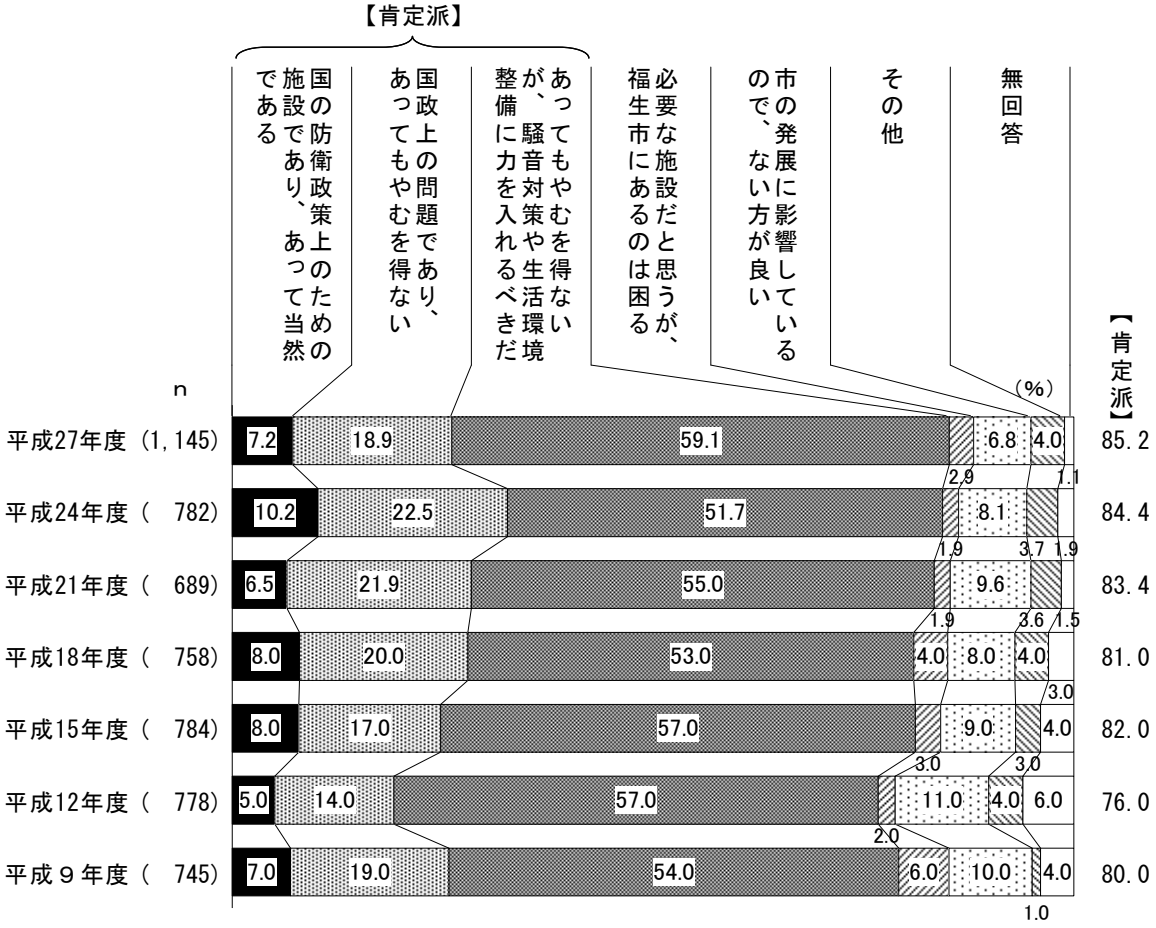
＜図表６－１＞横田基地の賛否



横田基地の賛否を聞いたところ、「あってもやむを得ないが、騒音対策や生活環境整備に力を入れるべきだ」（59.1%）が約６割で最も高く、これと「国政上の問題であり、あってもやむを得ない」（18.9%）、「国の防衛政策上のための施設であり、あって当然である」（7.2%）の３つを合わせた【肯定派】（85.2%）が８割台半ばと高くなっている。（図表６－１）

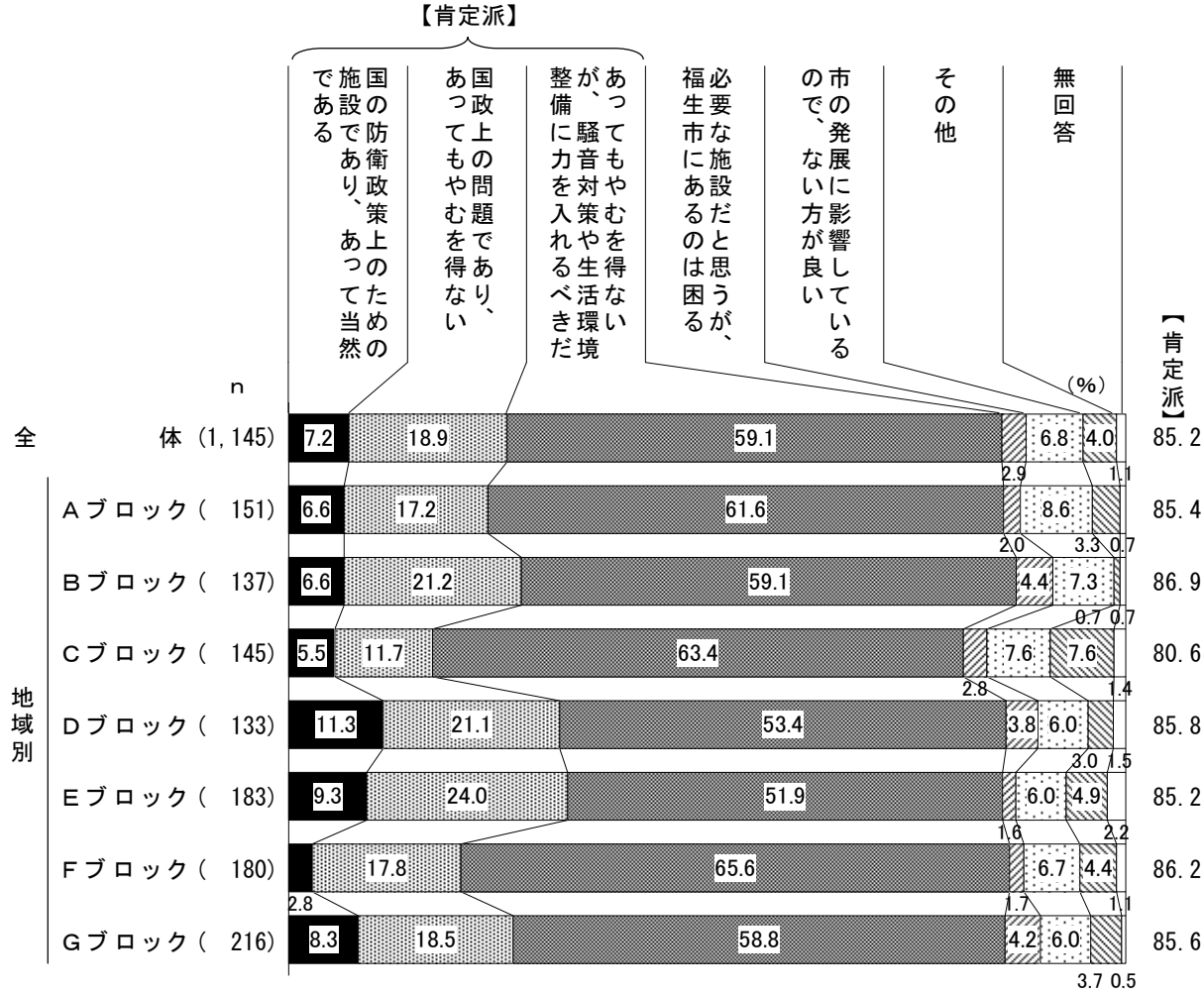
過年度の調査結果の推移をみると、【肯定派】は平成15年度以降８割台で推移している。「あってもやむを得ないが、騒音対策や生活環境整備に力を入れるべきだ」は平成24年度に比べて7.4ポイント増加している。（図表６－２）

＜図表６－２＞横田基地の賛否／過年度推移



地域別でみると、【肯定派】はすべてのブロックで８割台となっている。「あってもやむを得ないが、騒音対策や生活環境整備に力を入れるべきだ」はＦブロック（65.6%）で６割台半ばと高くなっている。（図表６－３）

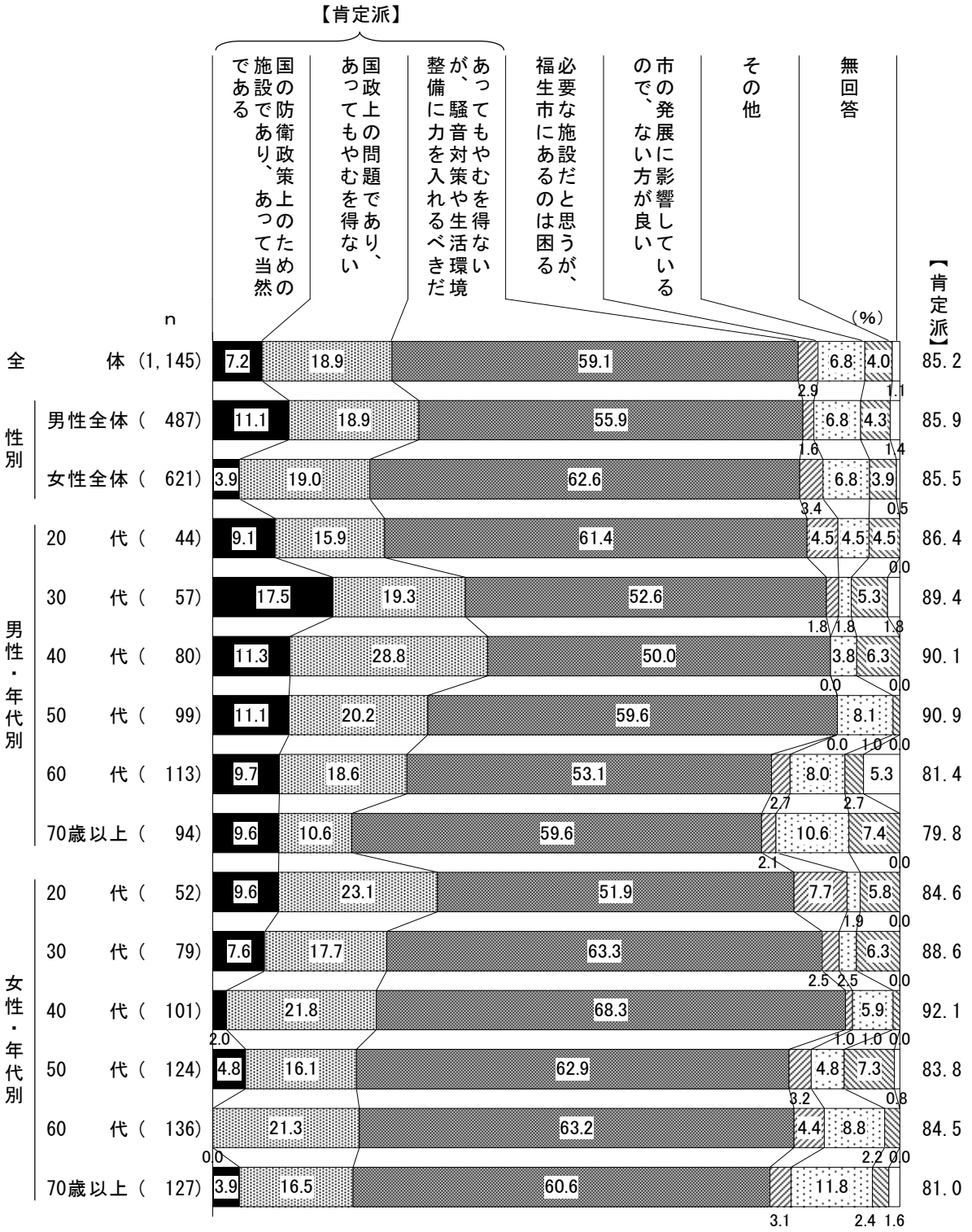
＜図表６－３＞横田基地の賛否／地域別



性別でみると、「あってもやむを得ないが、騒音対策や生活環境整備に力を入れるべきだ」は女性（62.6%）が男性（55.9%）より6.7ポイント高くなっている。「国の防衛政策上のための施設であり、あって当然である」は男性（11.1%）が女性（3.9%）より7.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「あってもやむを得ないが、騒音対策や生活環境整備に力を入れるべきだ」は女性40代（68.3%）で７割弱と高くなっている。「国政上の問題であり、あってもやむを得ない」は男性40代（28.8%）で３割弱と高くなっている。「国の防衛政策上のための施設であり、あって当然である」は男性30代（17.5%）で２割弱となっている。（図表６－４）

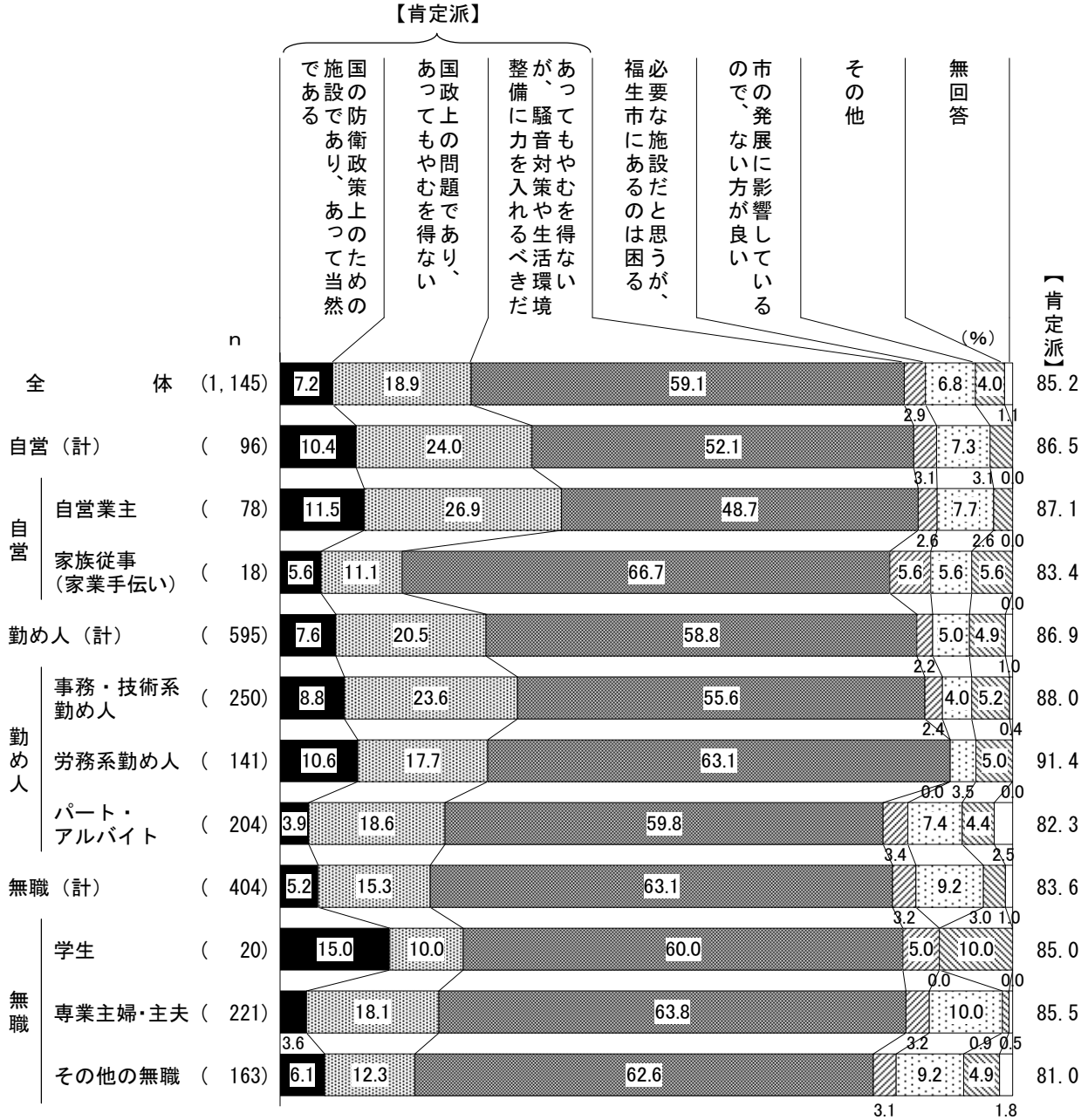
＜図表６－４＞横田基地の賛否／性別、性・年代別



職業別でみると、【肯定派】はパート・アルバイト（91.4%）で９割強と高くなっている。「国政上の問題であり、あってもやむを得ない」は自営業主（26.9%）で３割弱と高くなっている。

（図表６－５）

＜図表６－５＞横田基地の賛否／職業別

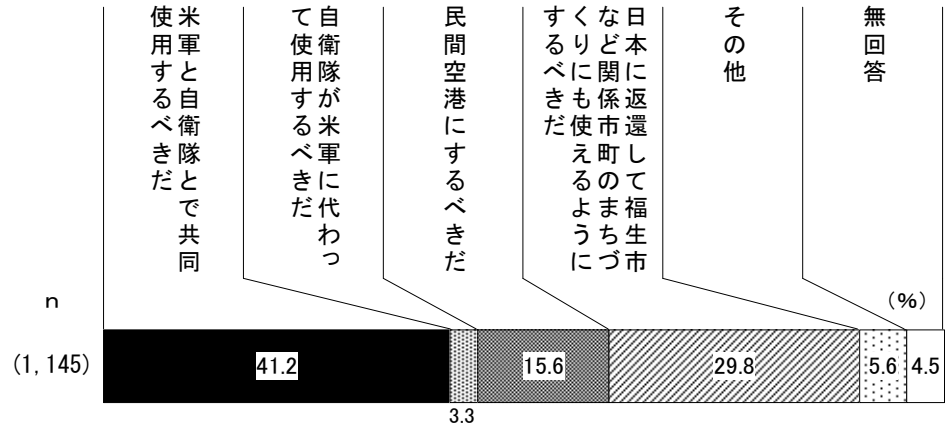


（２）横田基地のあり方

◇「米軍と自衛隊とで共同使用するべきだ」が４割強

問16　平成24年３月に自衛隊との共同使用が開始されましたが、横田基地はどうあるべきだと思いますか。次の中から１つだけ選んでください。（○は１つ）

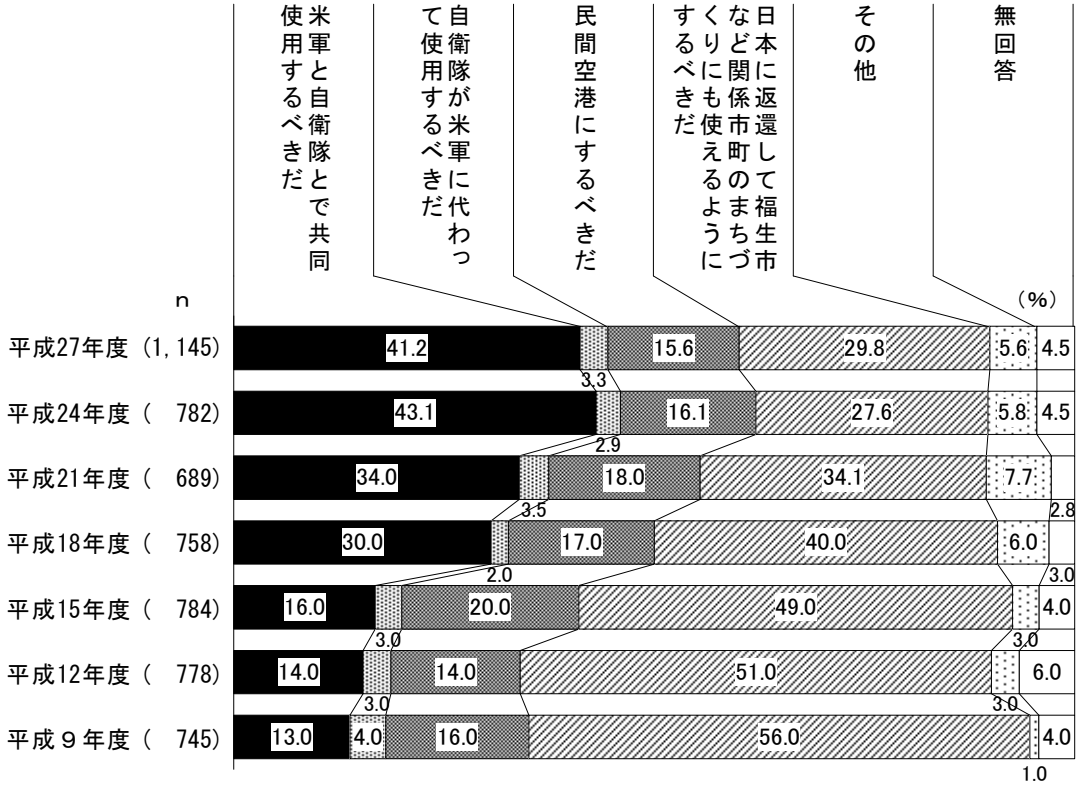
＜図表６－６＞横田基地のあり方



横田基地のあり方を聞いたところ、「米軍と自衛隊とで共同使用するべきだ」（41.2%）が４割強で最も高く、次いで「日本に返還して福生市など関係市町のまちづくりにも使えるようにするべきだ」（29.8%）、「民間空港にするべきだ」（15.6%）となっている。（図表６－６）

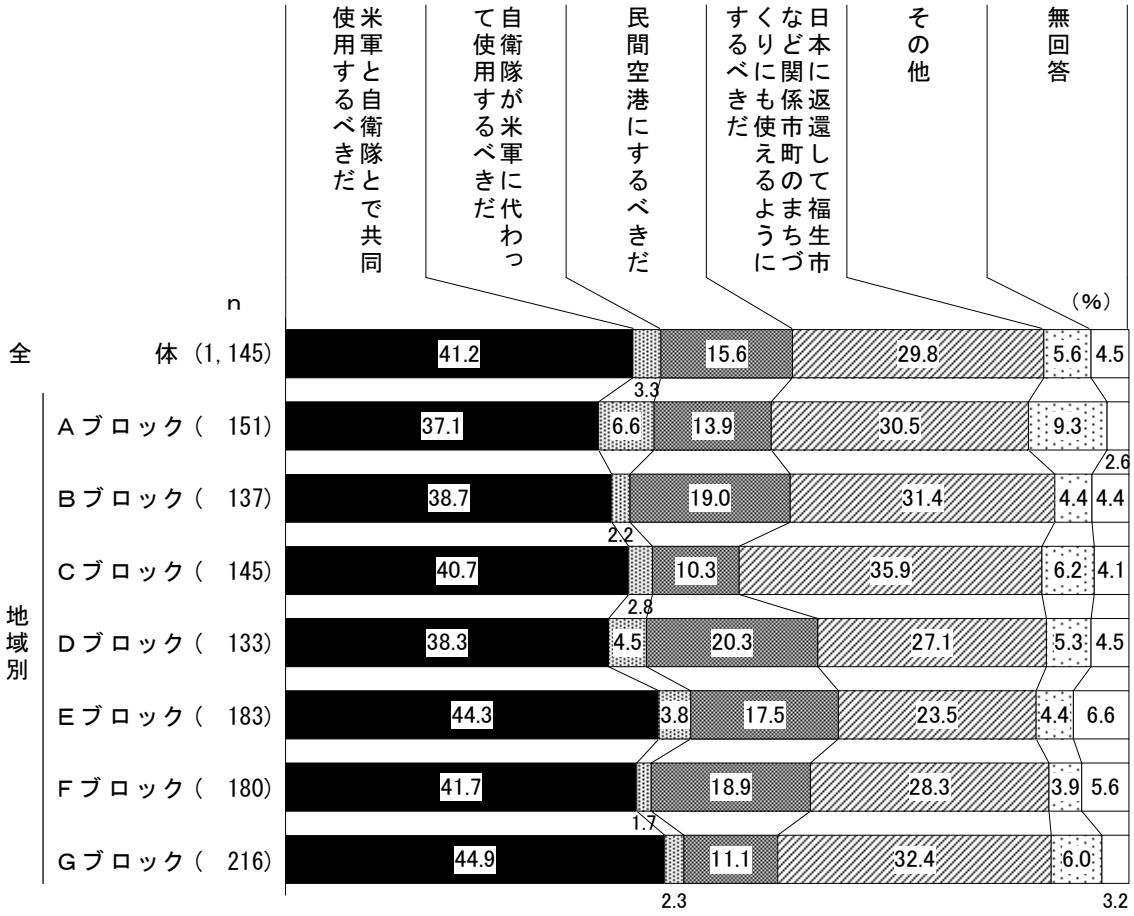
過年度の調査結果の推移をみると、「米軍と自衛隊とで共同使用するべきだ」は平成24年度以降４割台で推移し、「日本に返還して福生市など関係市町のまちづくりにも使えるようにするべきだ」は平成24年度以降２割台後半で推移している。（図表６－７）

＜図表６－７＞横田基地のあり方／過年度推移



地域別でみると、「日本に返還して福生市など関係市町のまちづくりにも使えるようにするべきだ」はＣブロック（35.9%）で３割台半ばと高くなっている。「民間空港にするべきだ」はＢブロック（19.0%）とＤブロック（20.3%）で約２割となっている。（図表６－８）

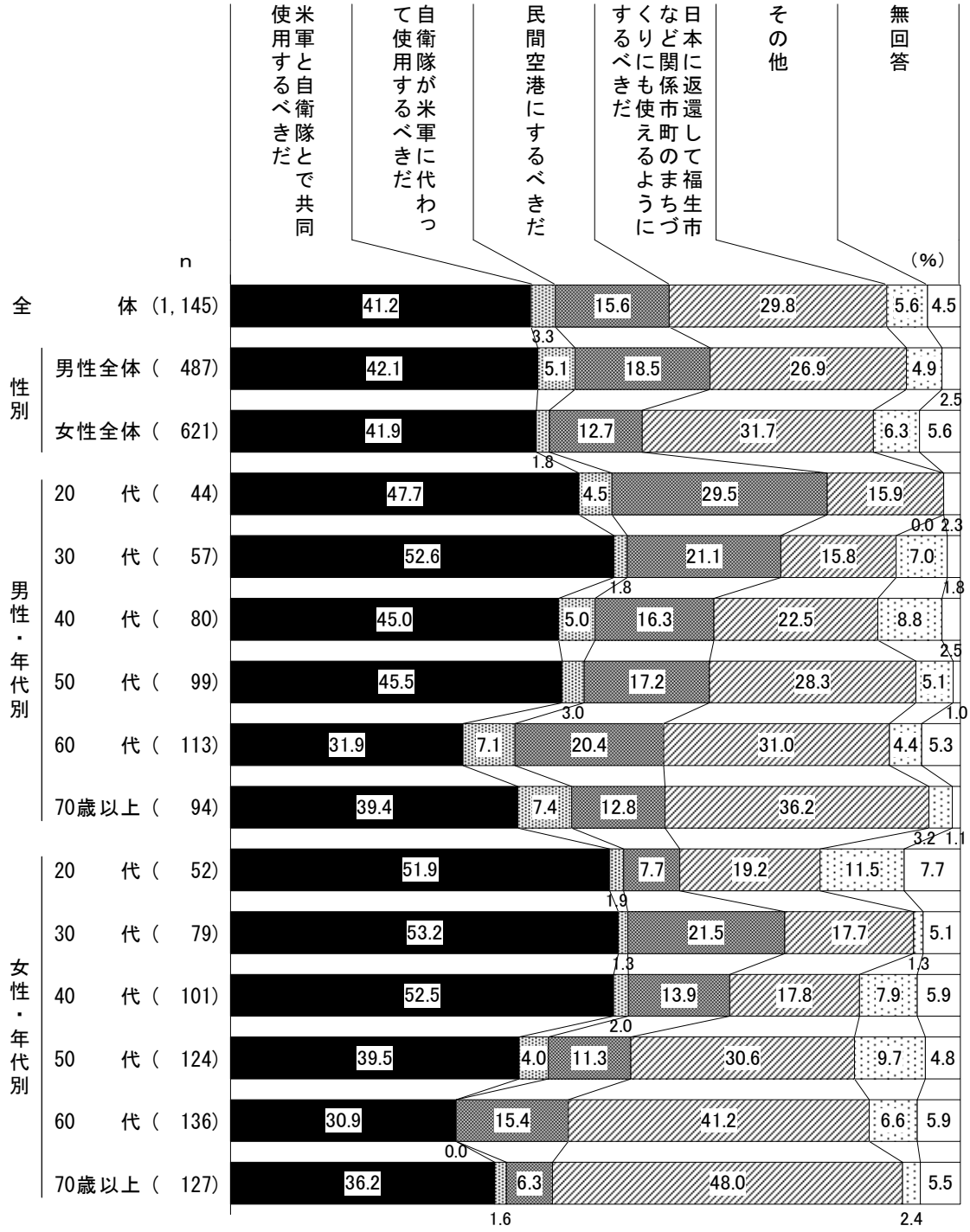
＜図表６－８＞横田基地のあり方／地域別



性別でみると、「日本に返還して福生市など関係市町のまちづくりにも使えるようにするべきだ」は女性（31.7%）が男性（26.9%）より4.8ポイント高くなっている。「民間空港にするべきだ」は男性（18.5%）が女性（12.7%）より5.8ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「米軍と自衛隊とで共同使用するべきだ」は男性30代（52.6%）と女性の40代以下の年代でいずれも５割強と高くなっている。「日本に返還して福生市など関係市町のまちづくりにも使えるようにするべきだ」は女性70歳以上（48.0%）で５割弱と高くなっている。「民間空港にするべきだ」は男性20代（29.5%）で約３割と高くなっている。（図表６－９）

＜図表６－９＞横田基地のあり方／性別、性・年代別



７．防災・防犯対策

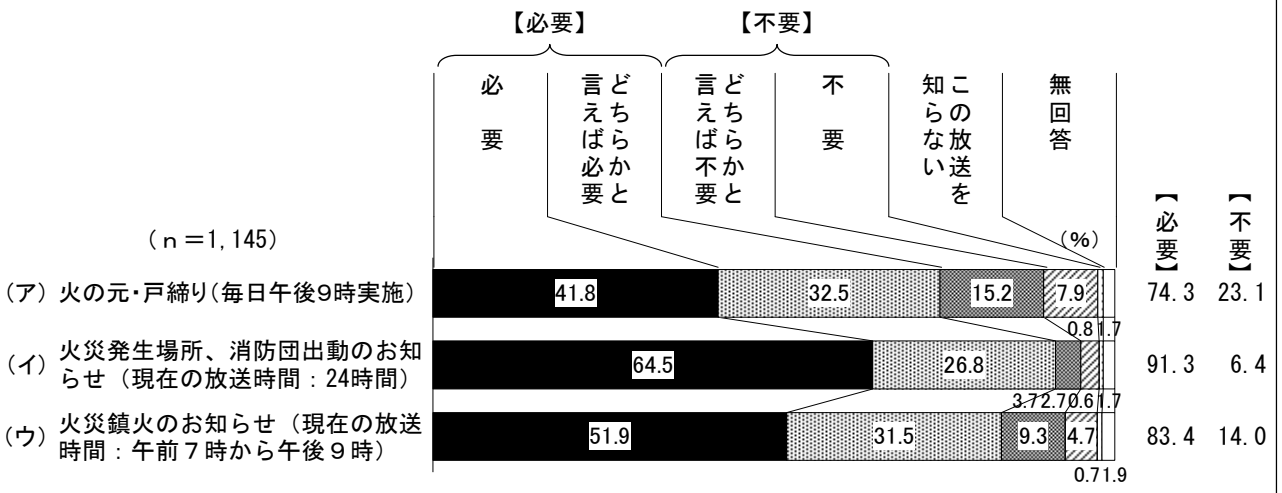
（１）防災行政無線による放送

◇【必要】は「気象警報のお知らせ(大雨･土砂災害･光化学スモッグ警報など)」が９割台半ば

問17　防災行政無線による放送について、次の設問にお答え下さい。

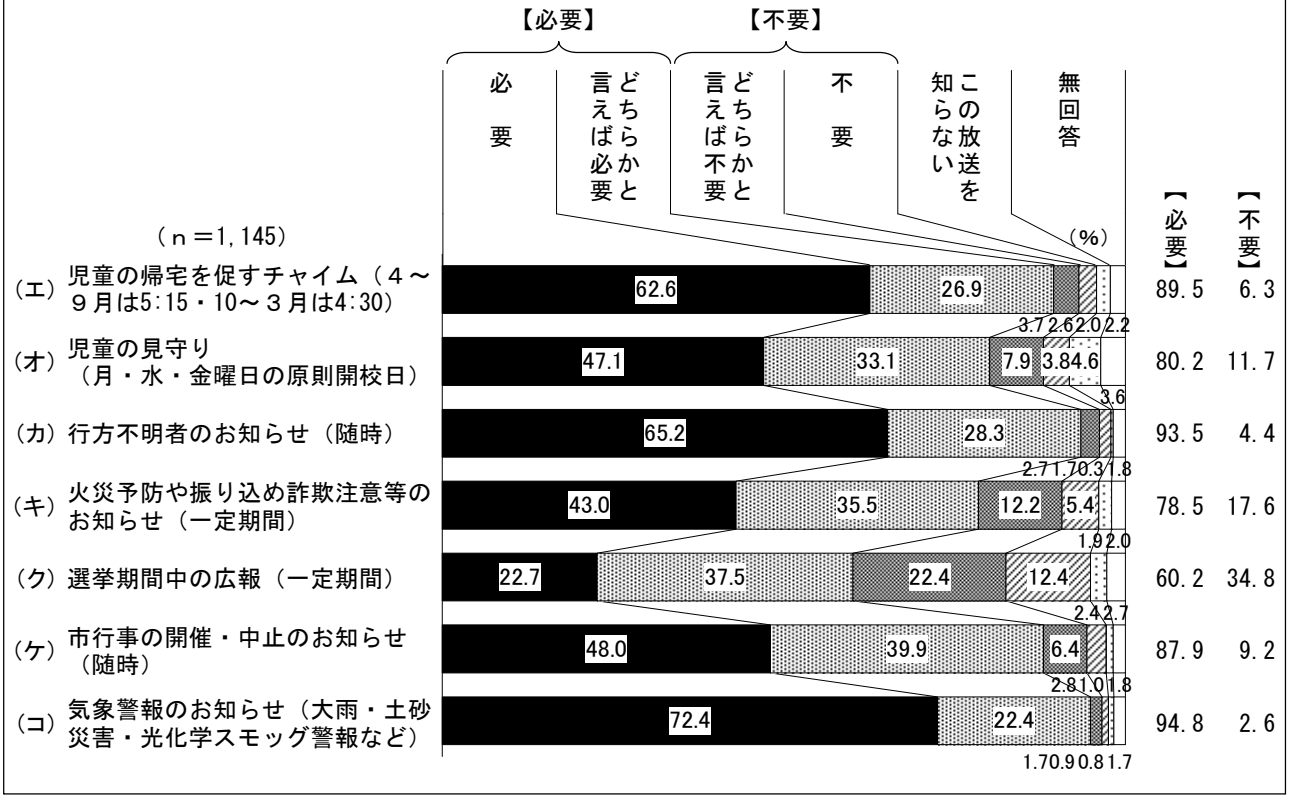
次の防災行政無線による放送について、どのように思いますか。次の（ア）から（ウ）までの項目について、それぞれ１つずつ番号で選んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

＜図表７－１＞防災行政無線による放送



問18　次の防災行政無線による放送について、次の（エ）から（コ）の項目にあてはまるものを、それぞれ１つずつ選んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

＜図表７－２＞防災行政無線による放送



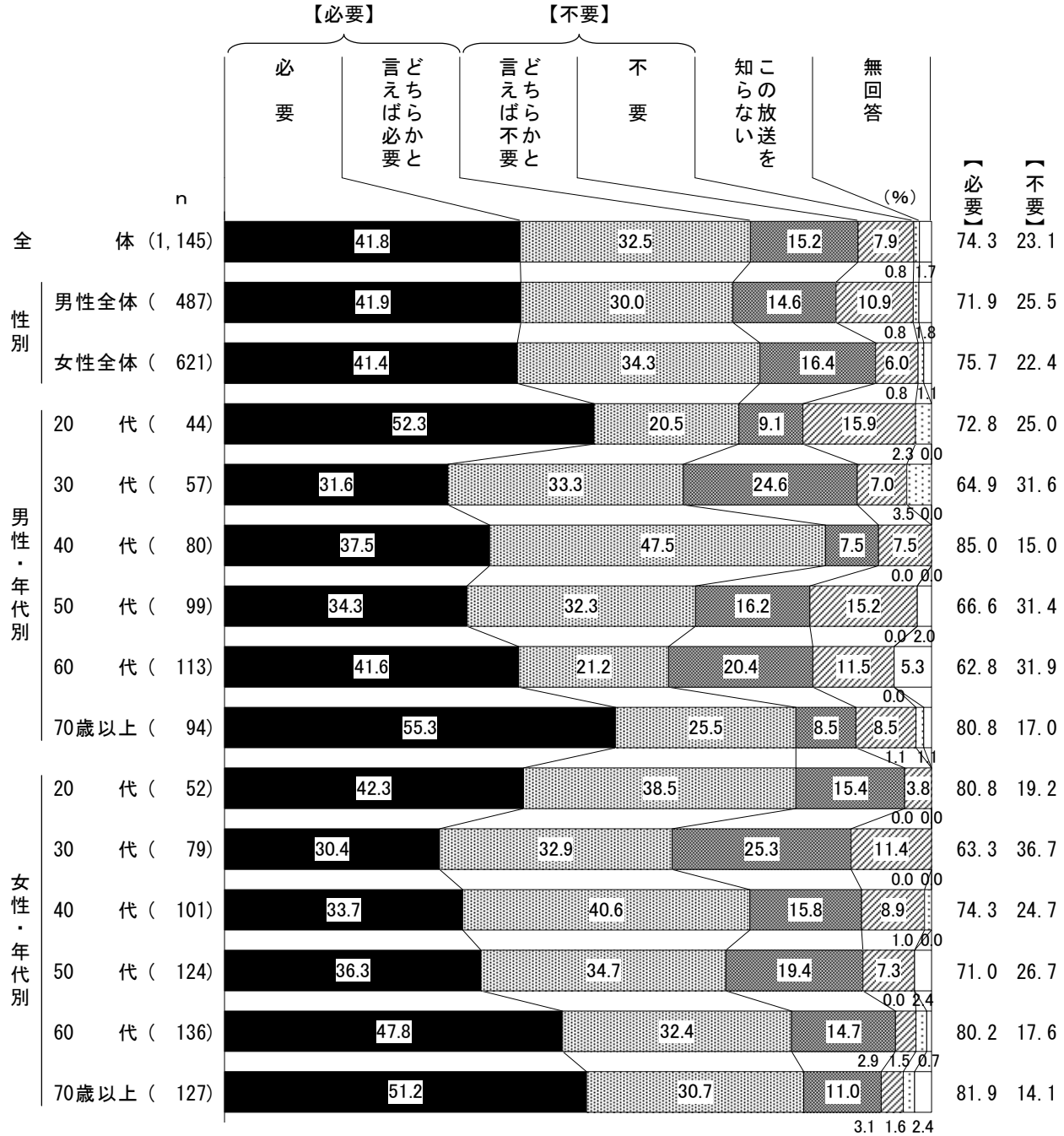
防災行政無線による放送について、10項目に分けてどのように思うか聞いたところ、「必要」と「どちらかと言えば必要」の２つを合わせた【必要】は、（コ）気象警報のお知らせ（大雨・土砂災害・光化学スモッグ警報など）（94.8%）が９割台半ばで最も高く、次いで（カ）行方不明者のお知らせ（93.5%）、（イ）火災発生場所、消防団出動のお知らせ（91.3%）となっている。

一方、「どちらかと言えば不要」と「不要」の２つを合わせた【不要】は、（ク）選挙期間中の広報（34.8%）が３割台半ばで最も高く、次いで（ア）火の元・戸締り（23.1%）が２割強となっている。（図表７－１・７－２）

（ア）火の元・戸締りについて性別でみると、【必要】は女性（75.7%）が男性（71.9%）より3.8ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【必要】は男性40代（85.0%）で８割台半ばと高くなっている。一方、【不要】は女性30代（36.7%）で４割弱と高くなっている。（図表７－３）

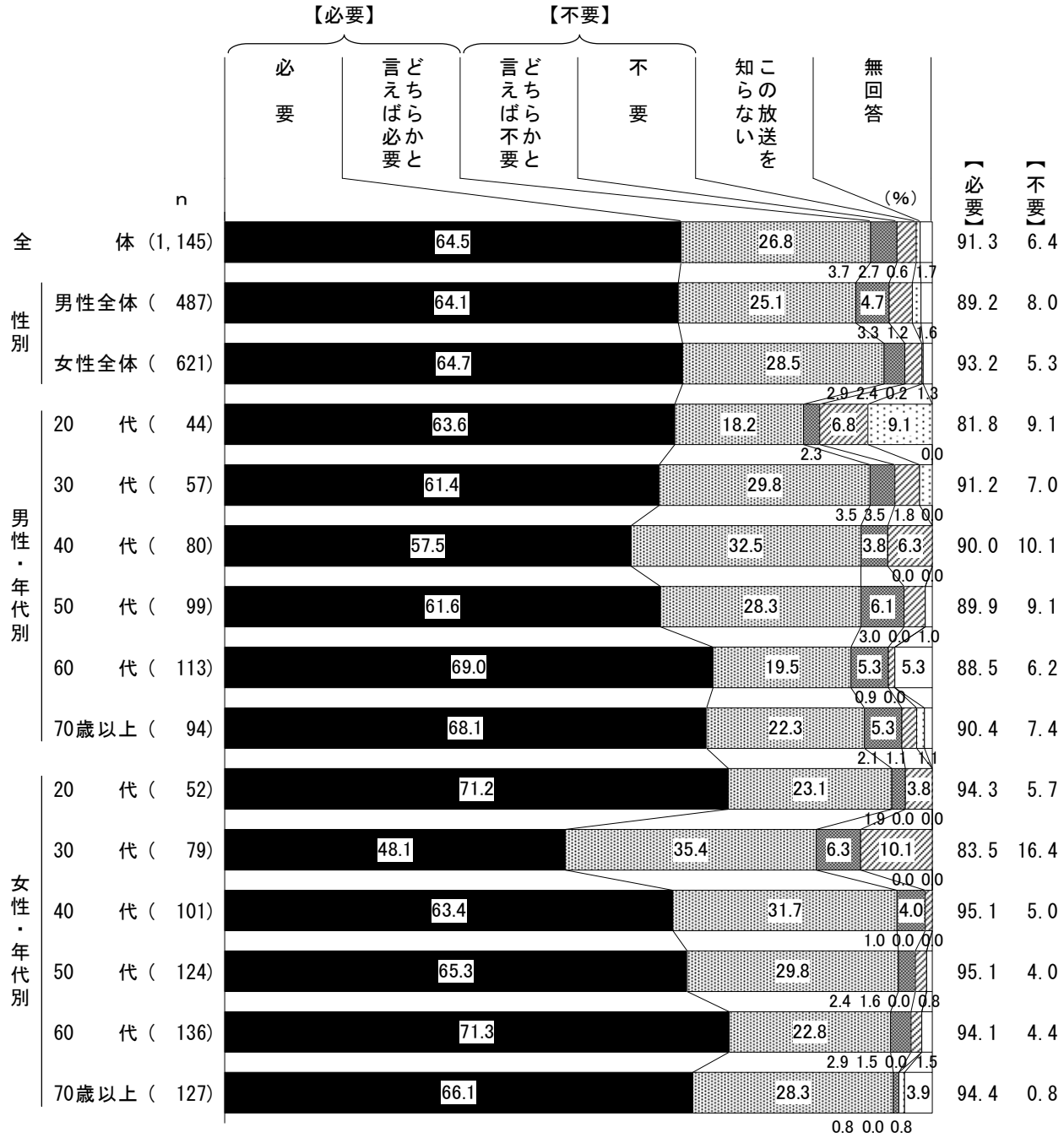
＜図表７－３＞防災行政無線による放送（ア）火の元・戸締り／性別、性・年代別



（イ）火災発生場所、消防団出動のお知らせについて性別でみると、【必要】は女性（93.2%）が男性（89.2%）より4.0ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【必要】はすべての性・年代で８割以上となっている。一方、【不要】は女性30代（16.4%）で２割弱となっている。（図表７－４）

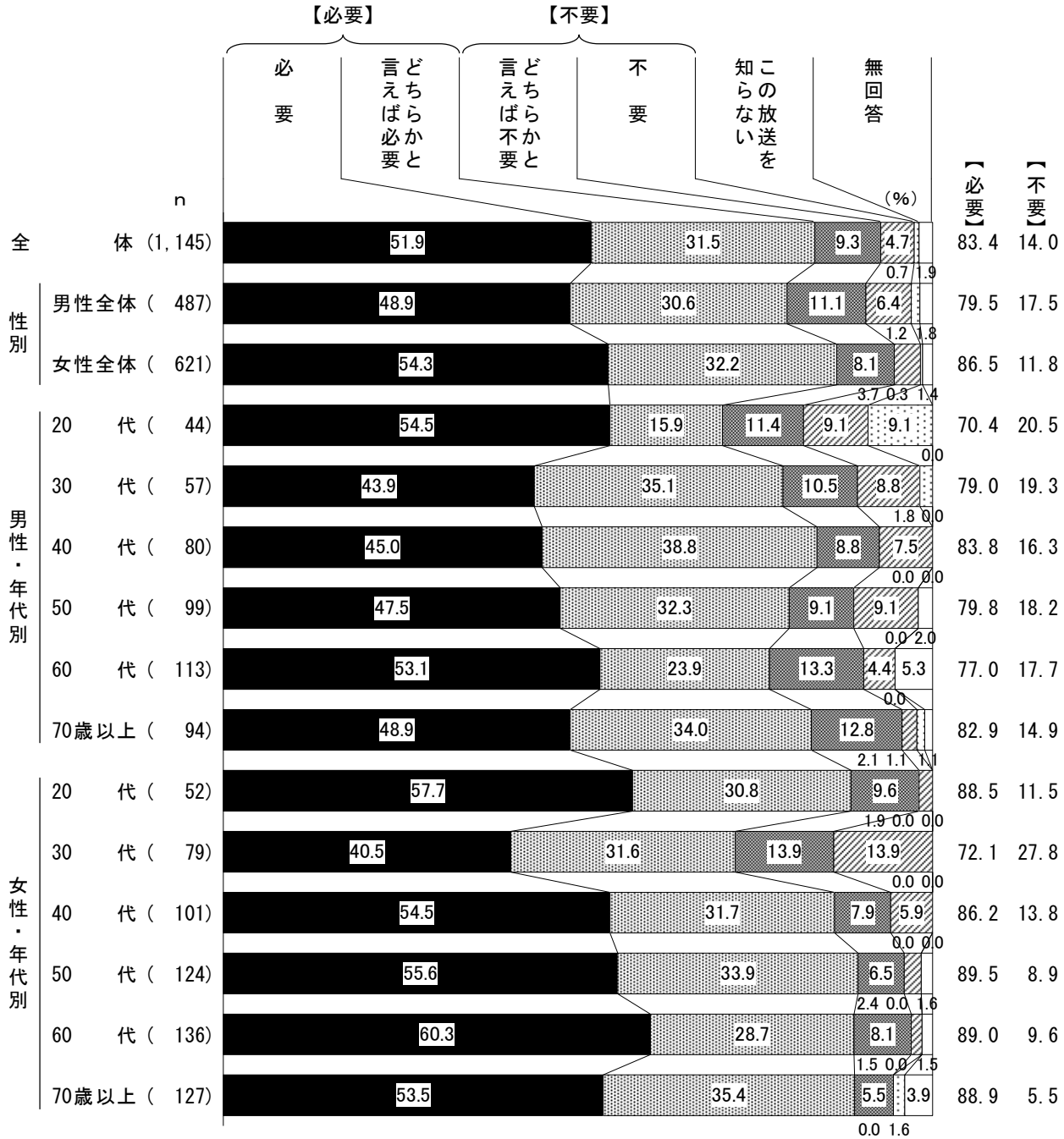
＜図表７－４＞防災行政無線による放送（イ）火災発生場所、消防団出動のお知らせ
／性別、性・年代別



（ウ）火災鎮火のお知らせについて性別でみると、【必要】は女性（86.5%）が男性（79.5%）より7.0ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【必要】は女性50代（89.5%）と女性60代（89.0%）で約９割と高くなっている。一方、【不要】は女性30代（27.8%）で３割弱と高くなっている。（図表７－５）

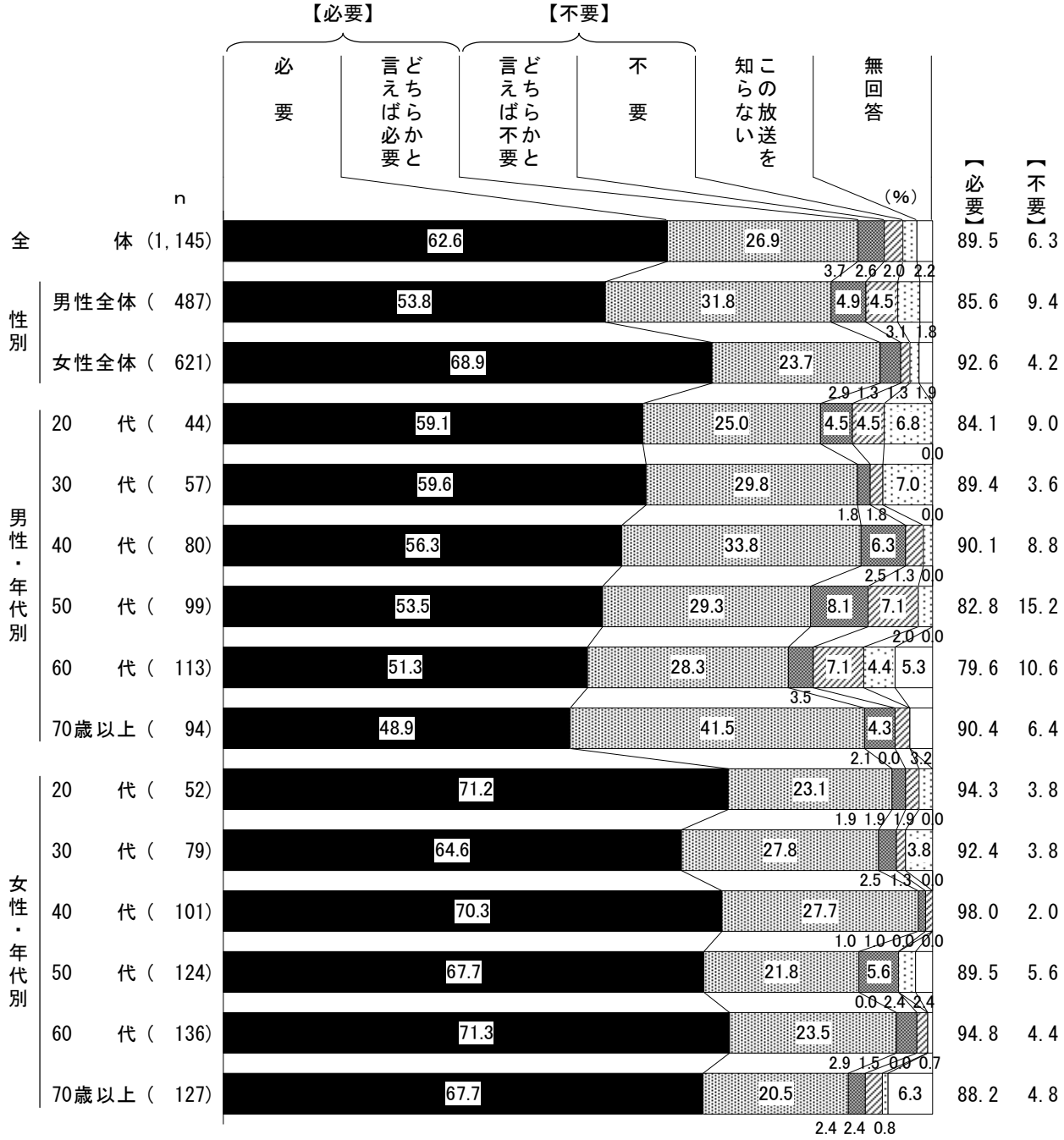
＜図表７－５＞防災行政無線による放送（ウ）火災鎮火のお知らせ／性別、性・年代別



（エ）児童の帰宅を促すチャイムについて性別でみると、【必要】は女性（92.6%）が男性（85.6%）より7.0ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【必要】は男性60代（79.6%）を除くすべての性・年代で８割以上となっている。一方、【不要】は男性50代（15.2%）で１割台半ばとなっている。（図表７－６）

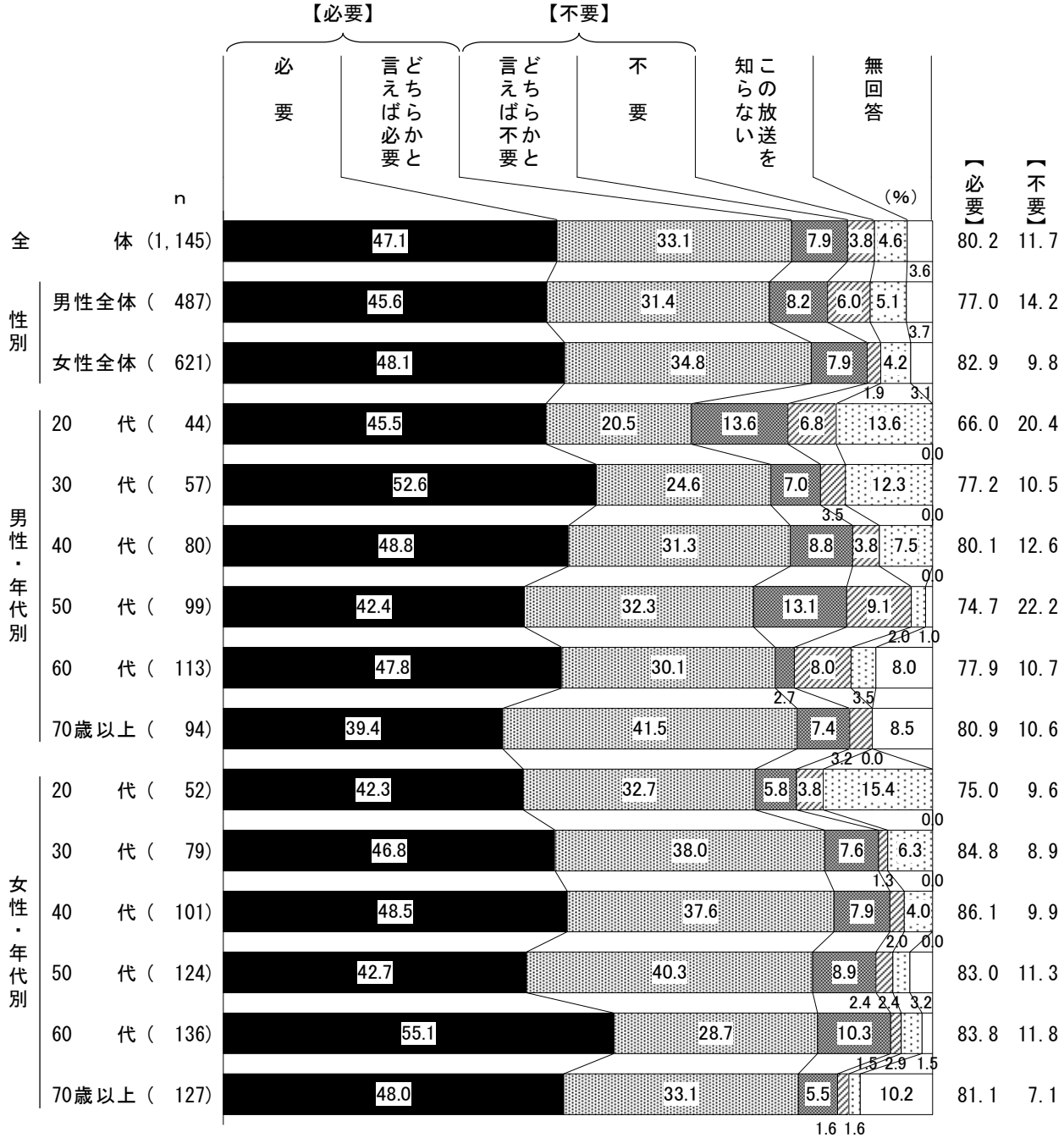
＜図表７－６＞防災行政無線による放送（エ）児童の帰宅を促すチャイム／性別、性・年代別



（オ）児童の見守りについて性別でみると、【必要】は女性（82.9%）が男性（77.0%）より5.9ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【必要】は女性40代（86.1%）で９割弱と高くなっている。一方、【不要】は男性50代（22.2%）で２割強と高くなっている。（図表７－７）

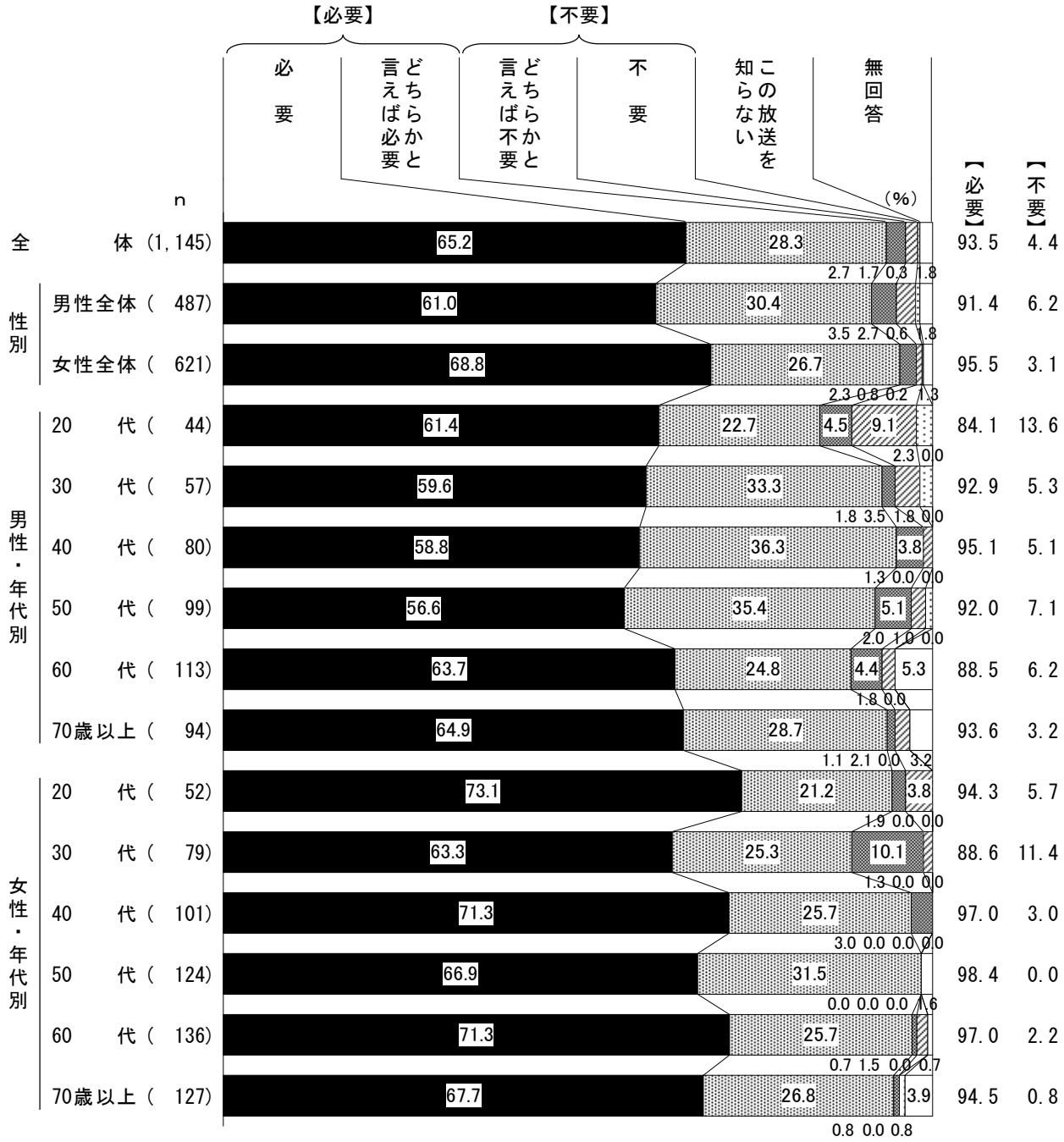
＜図表７－７＞防災行政無線による放送（オ）児童の見守り／性別、性・年代別



（カ）行方不明者のお知らせについて性別でみると、【必要】は女性（95.5%）が男性（91.4%）より4.1ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【必要】はすべての性・年代で８割以上となっている。一方、【不要】は男性20代（13.6%）と女性30代（11.4%）で１割強となっている。（図表７－８）

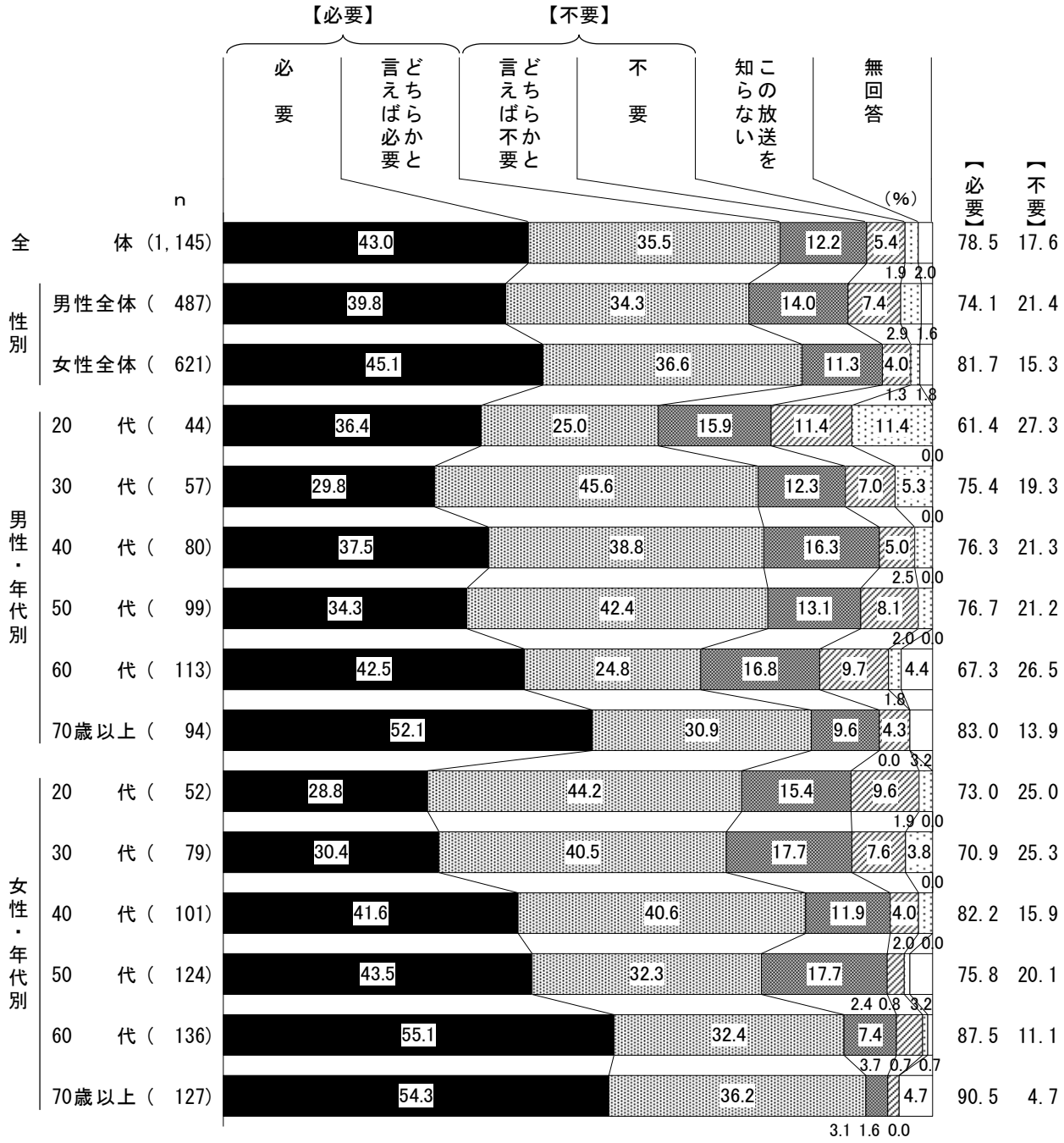
＜図表７－８＞防災行政無線による放送（カ）行方不明者のお知らせ／性別、性・年代別



（キ）火災予防や振り込め詐欺注意等のお知らせについて性別でみると、【必要】は女性（81.7%）が男性（74.1%）より7.6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【必要】は女性70歳以上（90.5%）で約９割と高くなっている。一方、【不要】は男性20代（27.3%）と男性60代（26.5%）で３割弱と高くなっている。（図表７－９）

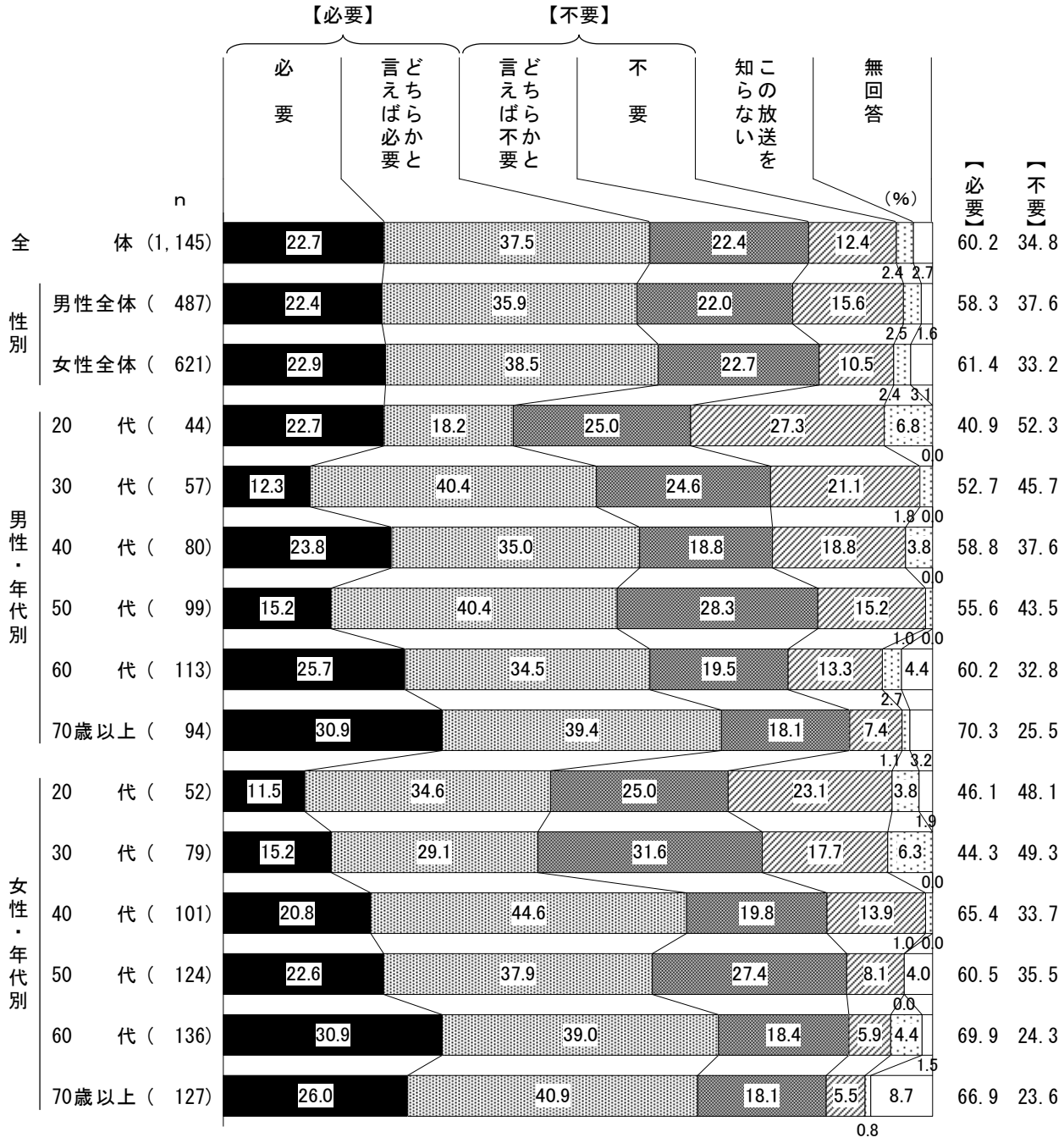
＜図表７－９＞防災行政無線による放送（キ）火災予防や振り込め詐欺注意等のお知らせ
／性別、性・年代別



（ク）選挙期間中の広報について性別でみると、【必要】は女性（61.4%）が男性（58.3%）より3.1ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【必要】は男性70歳以上（70.3%）と女性60代（69.9%）で約７割と高くなっている。一方、【不要】は男性20代（52.3%）で５割強、女性30代（49.3%）で約５割と高くなっている。（図表７－10）

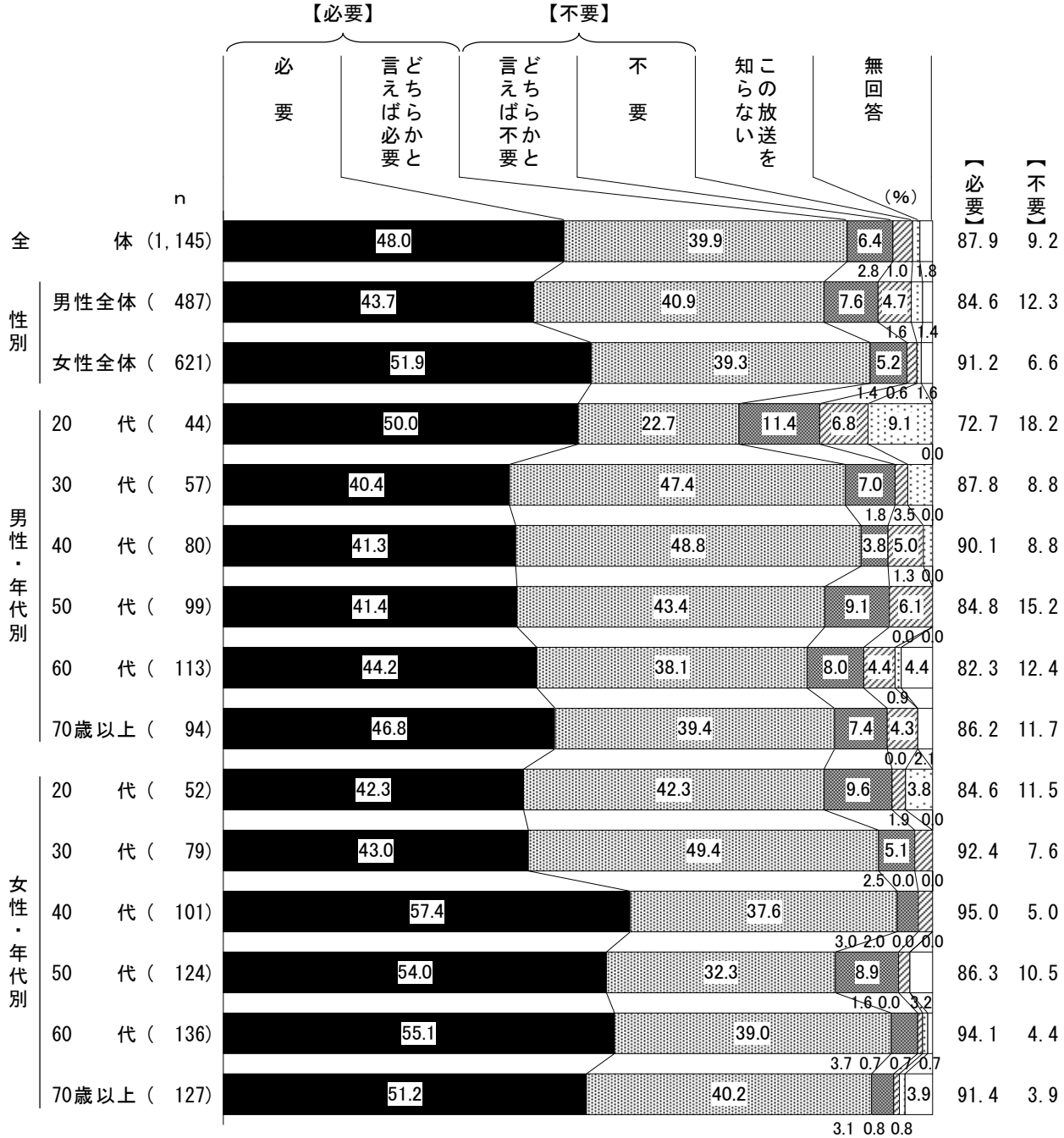
＜図表７－10＞防災行政無線による放送（ク）選挙期間中の広報／性別、性・年代別



（ケ）市行事の開催・中止のお知らせについて性別でみると、【必要】は女性（91.2%）が女性（84.6%）より6.6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【必要】は男性20代（72.7%）を除くすべての性・年代で８割以上となっている。一方、【不要】は男性20代（18.2%）で２割弱となっている。（図表７－11）

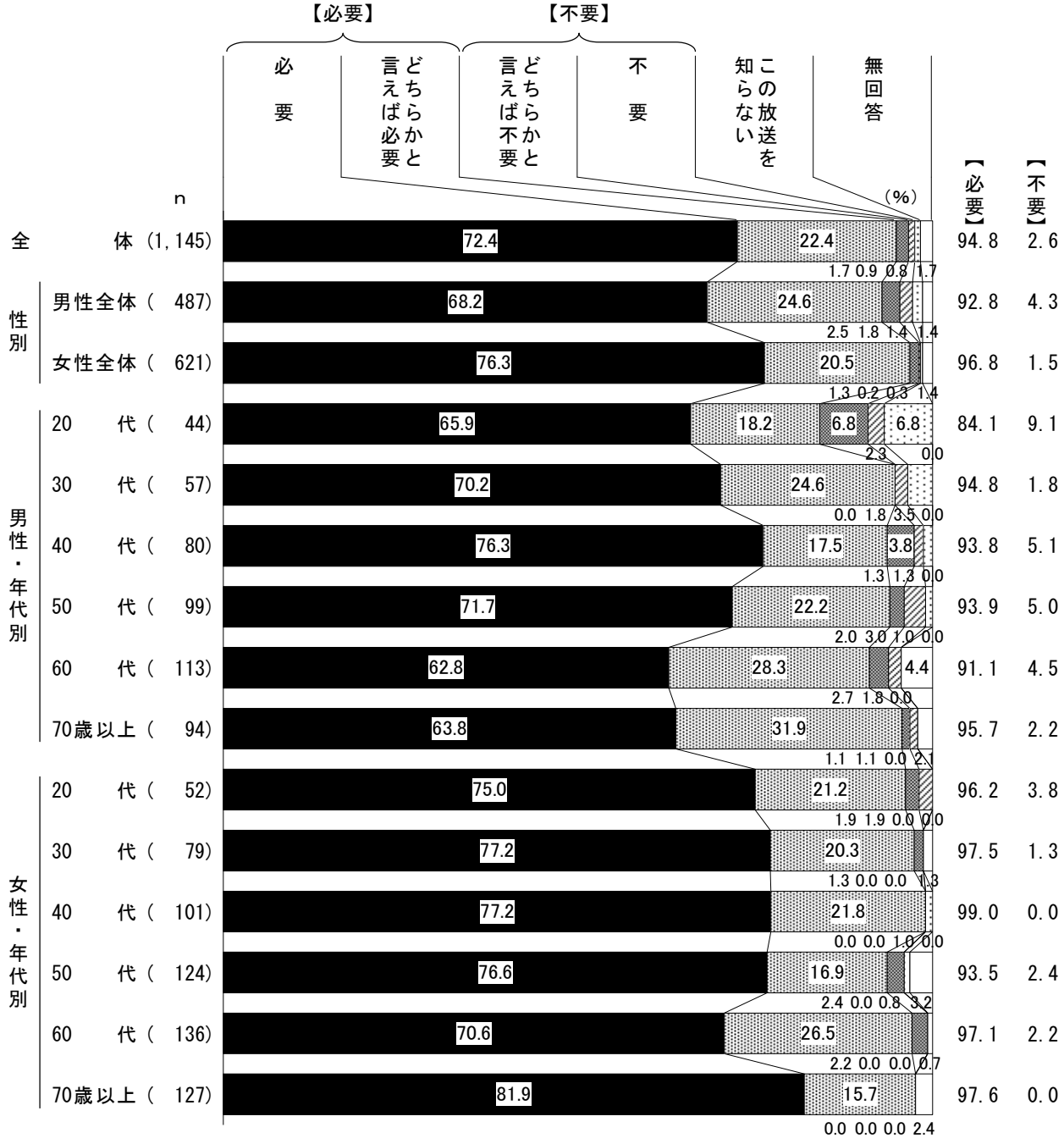
＜図表７－11＞防災行政無線による放送（ケ）市行事の開催・中止のお知らせ／性別、性・年代別



（コ）気象警報のお知らせについて性別でみると、【必要】は女性（96.8%）が男性（92.8%）より4.0ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【必要】は男性20代（84.1%）を除くすべての性・年代で９割台となっている。（図表７－12）

＜図表７－12＞防災行政無線による放送（コ）気象警報のお知らせ／性別、性・年代別

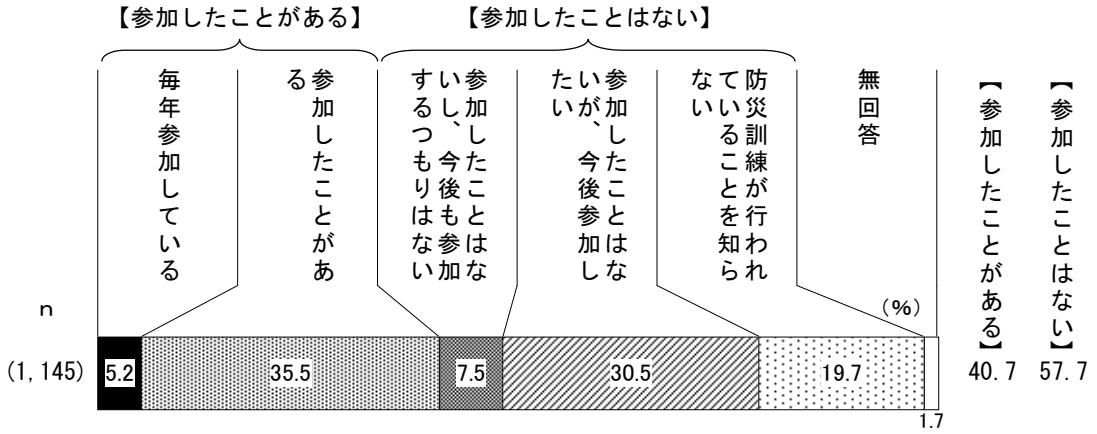


（２）防災訓練の参加状況

◇【参加したことがある】が約４割

問19　防災訓練についてお聞きします。市または地域の防災訓練に参加したことがありますか。次の中から１つだけ選んでください。（○は１つ）

＜図表７－13＞防災訓練の参加状況

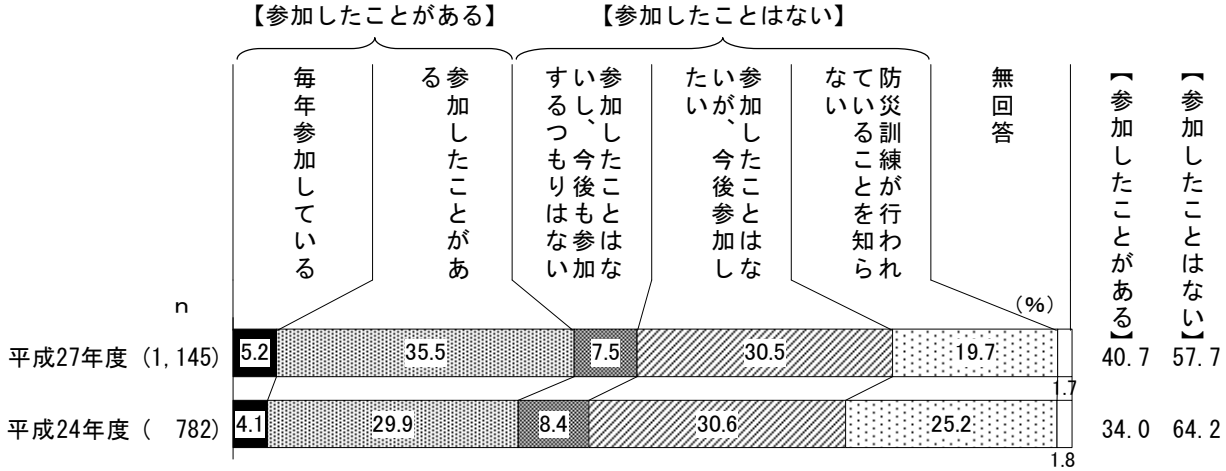


防災訓練の参加状況を聞いたところ、「毎年参加している」（5.2%）と「参加したことがある」（35.5%）の２つを合わせた【参加したことがある】（40.7%）が約４割となっている。一方、「参加したことはないし、今後も参加するつもりはない」（7.5%）と「参加したことはないが、今後参加したい」（30.5%）、「防災訓練が行われていることを知らない」（19.7%）の３つを合わせた【参加したことはない】（57.7%）は６割弱となっている。（図表７－13）

前回の調査結果と比較すると、【参加したことがある】は6.7ポイント増加している。

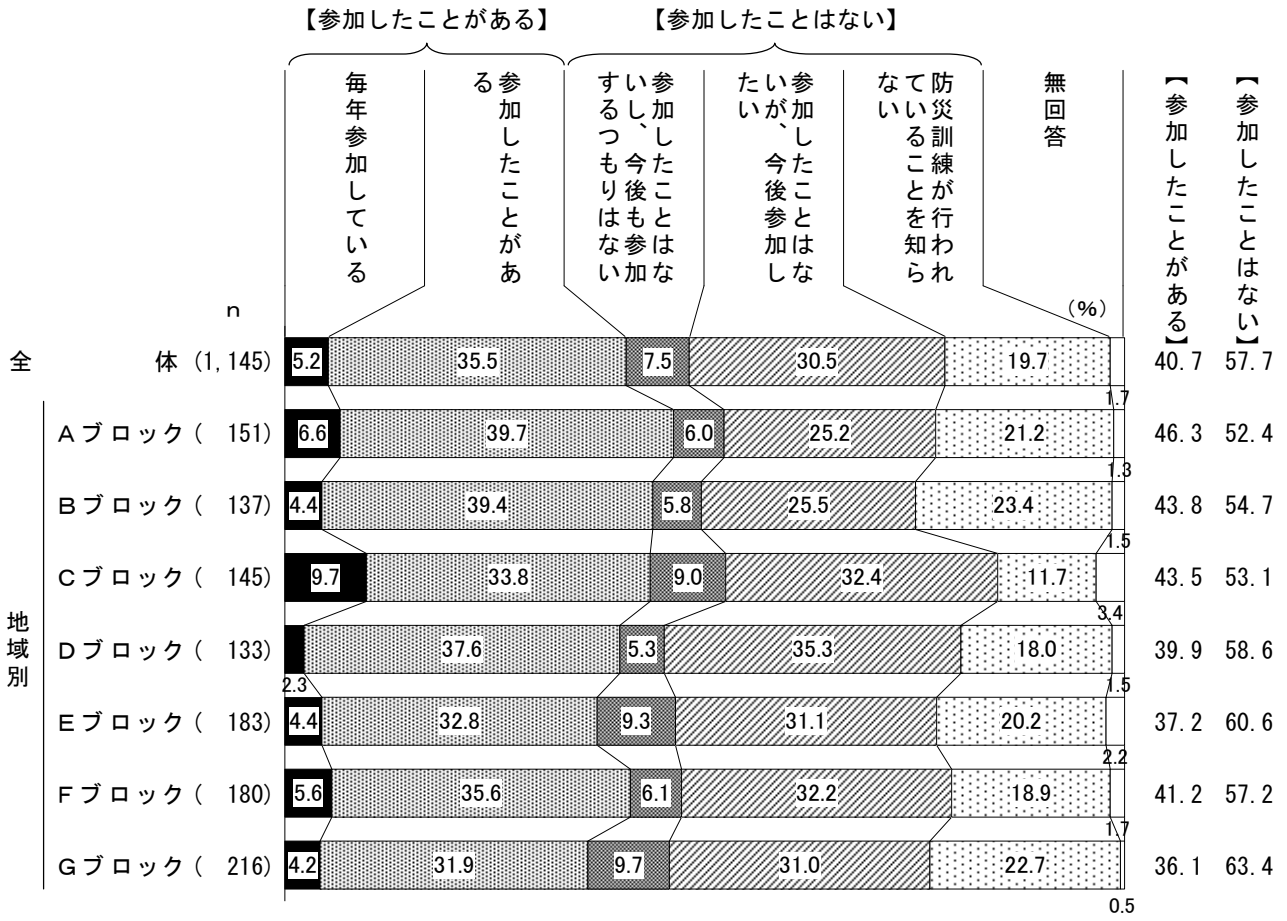
（図表７－14）

＜図表７－14＞防災訓練の参加状況／過年度推移



地域別でみると、【参加したことがある】はＡブロック（46.3%）で５割弱と高くなっている。一方、【参加したことはない】はＧブロック（63.4%）で６割強と高くなっている。（図表７－15）

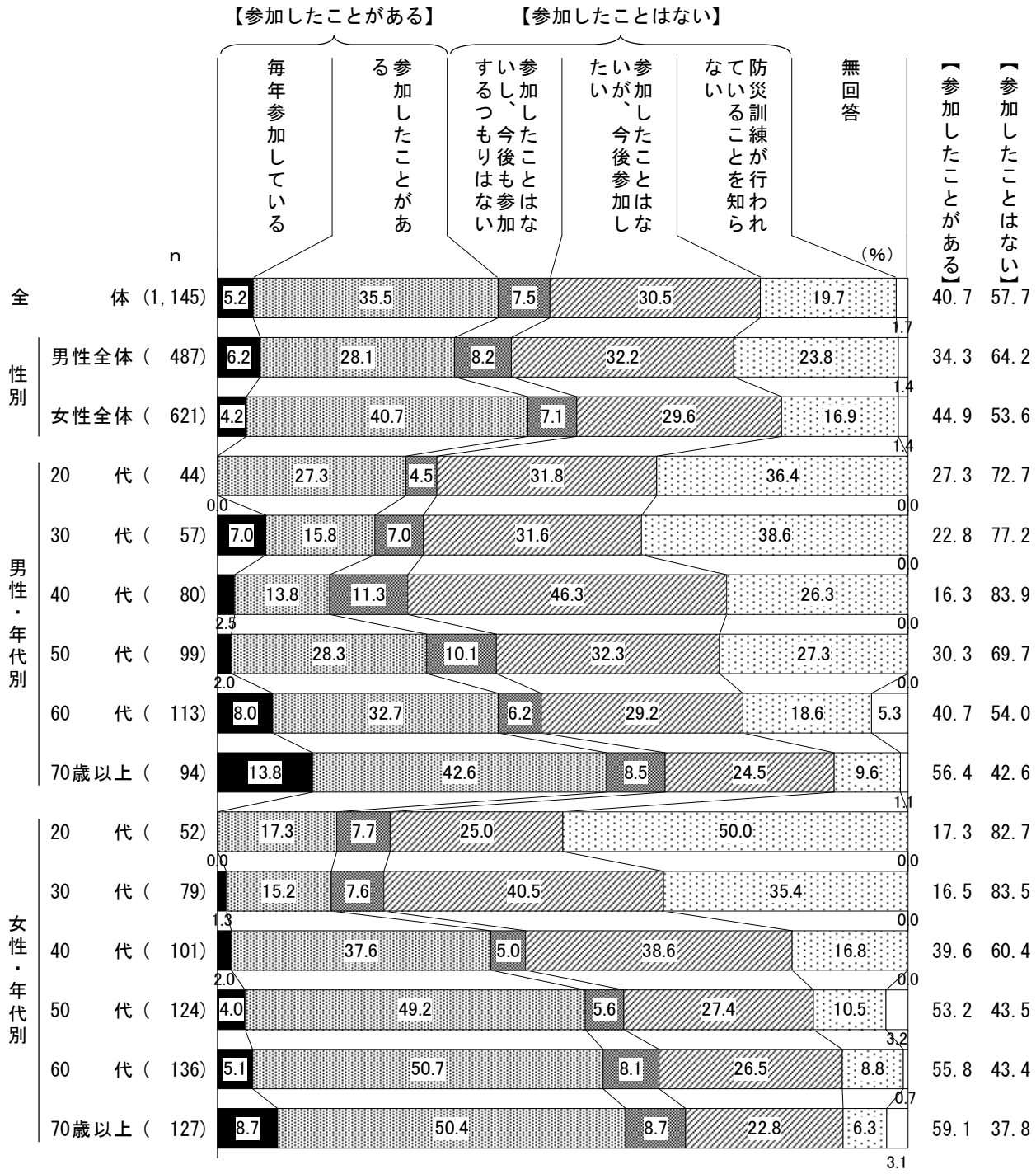
＜図表７－15＞防災訓練の参加状況／地域別



性別でみると、【参加したことがある】は女性（44.9%）が男性（34.3%）より10.6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【参加したことがある】は女性70歳以上（59.1%）で約６割、男性70歳以上（56.4%）で６割弱と高くなっている。一方、【参加したことはない】は男性40代（83.9%）と女性20代（82.7%）・女性30代（83.5%）で８割強と高くなっている。（図表７－16）

＜図表７－16＞防災訓練の参加状況／性別、性・年代別

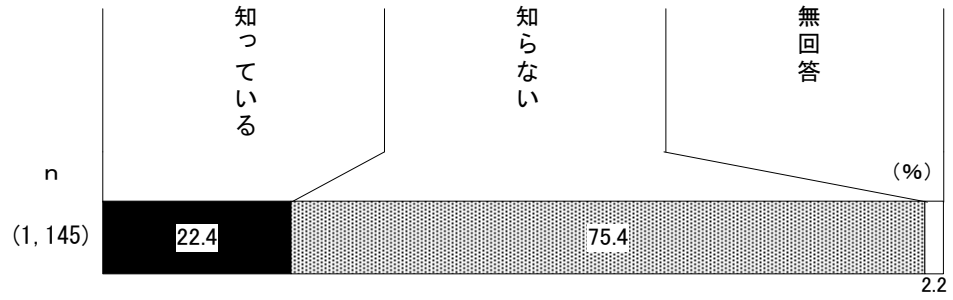


（３）自主防災組織の認知状況

◇「知っている」が２割強

問20　自主防災組織についてお聞きします。福生市では、全市民を自主防災組織の一員としていますが、自主防災組織を知っていますか。（○は１つ）

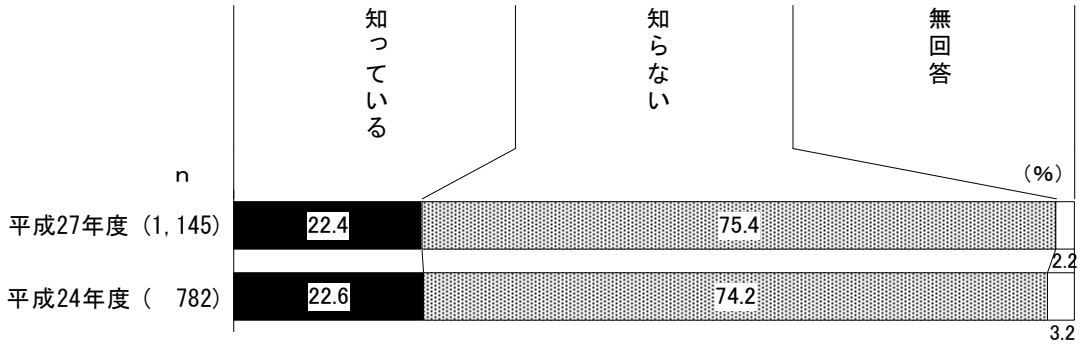
＜図表７－17＞自主防災組織の認知状況



自主防災組織を知っているか聞いたところ、「知っている」（22.4%）が２割強となっている。「知らない」（75.4%）は７割台半ばとなっている。（図表７－17）

前回の調査結果と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。（図表７－18）

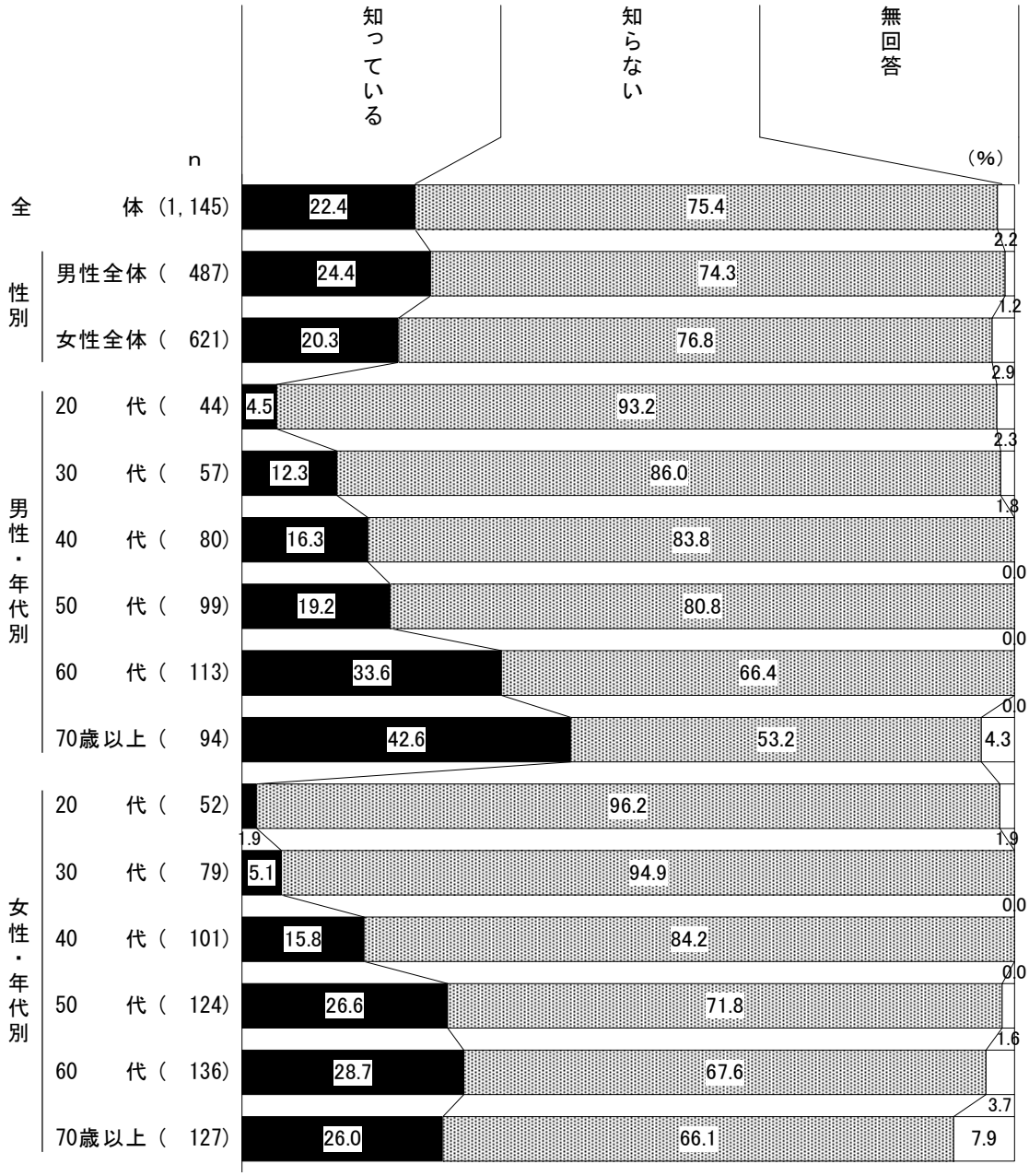
＜図表７－18＞自主防災組織の認知状況／過年度推移



性別でみると、「知っている」は男性（24.4%）が女性（20.3%）より4.1ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「知っている」は男性70歳以上（42.6%）で４割強、男性60代（33.6%）で３割強と高くなっている。一方、「知らない」は男性20代（93.2%）と女性20代（96.2%）・女性30代（94.9%）で９割台と高くなっている。（図表７－19）

＜図表７－19＞自主防災組織の認知状況／性別、性・年代別

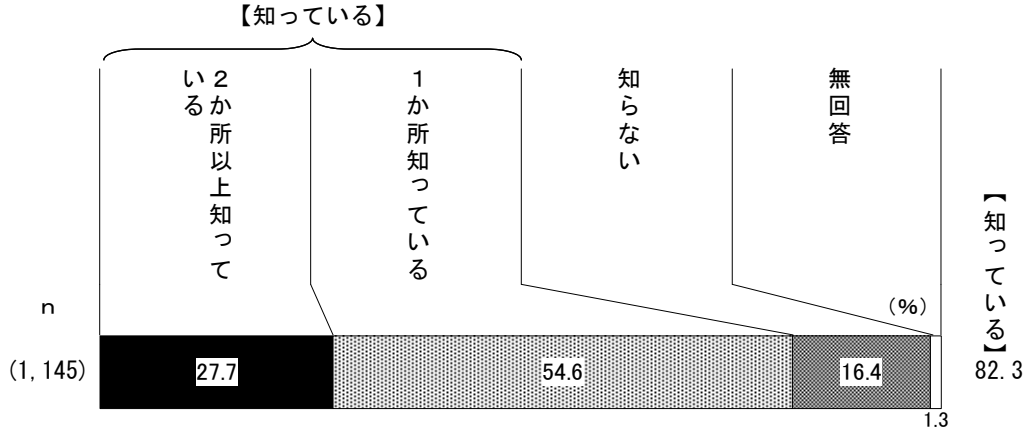


（４）避難場所の認知状況

◇【知っている】が８割強

問21　避難場所、備蓄品についてお聞きします。自宅付近の避難場所を知っていますか。
次の中から１つだけ選んでください。（○は１つ）

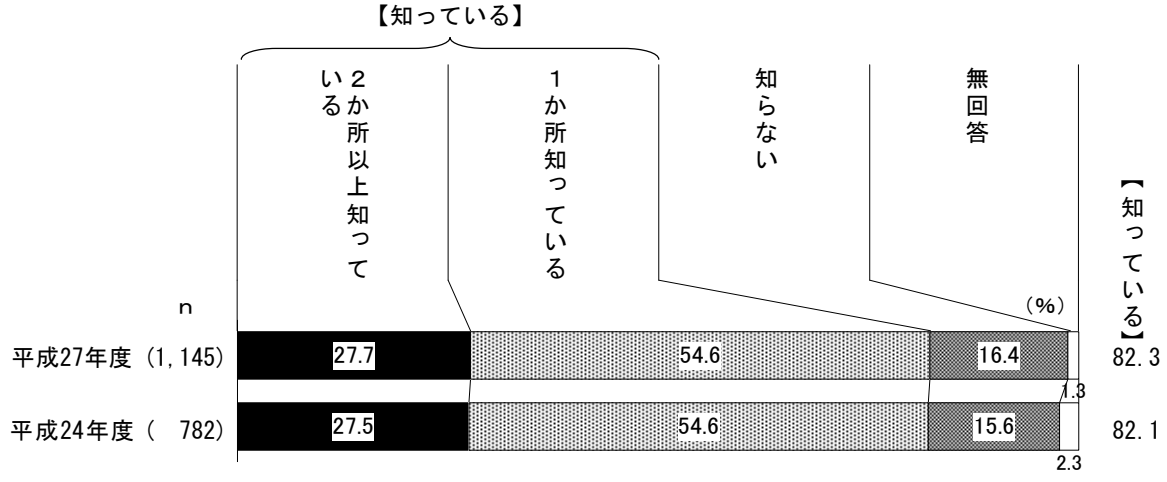
＜図表７－20＞避難場所の認知状況



自宅付近の避難場所を知っているか聞いたところ、「２か所以上知っている」（27.7％）と「１か所知っている」（54.6％）の２つを合わせた【知っている】（82.3％）が８割強と高くなっている。一方、「知らない」（16.4％）は２割弱となっている。（図表７－20）

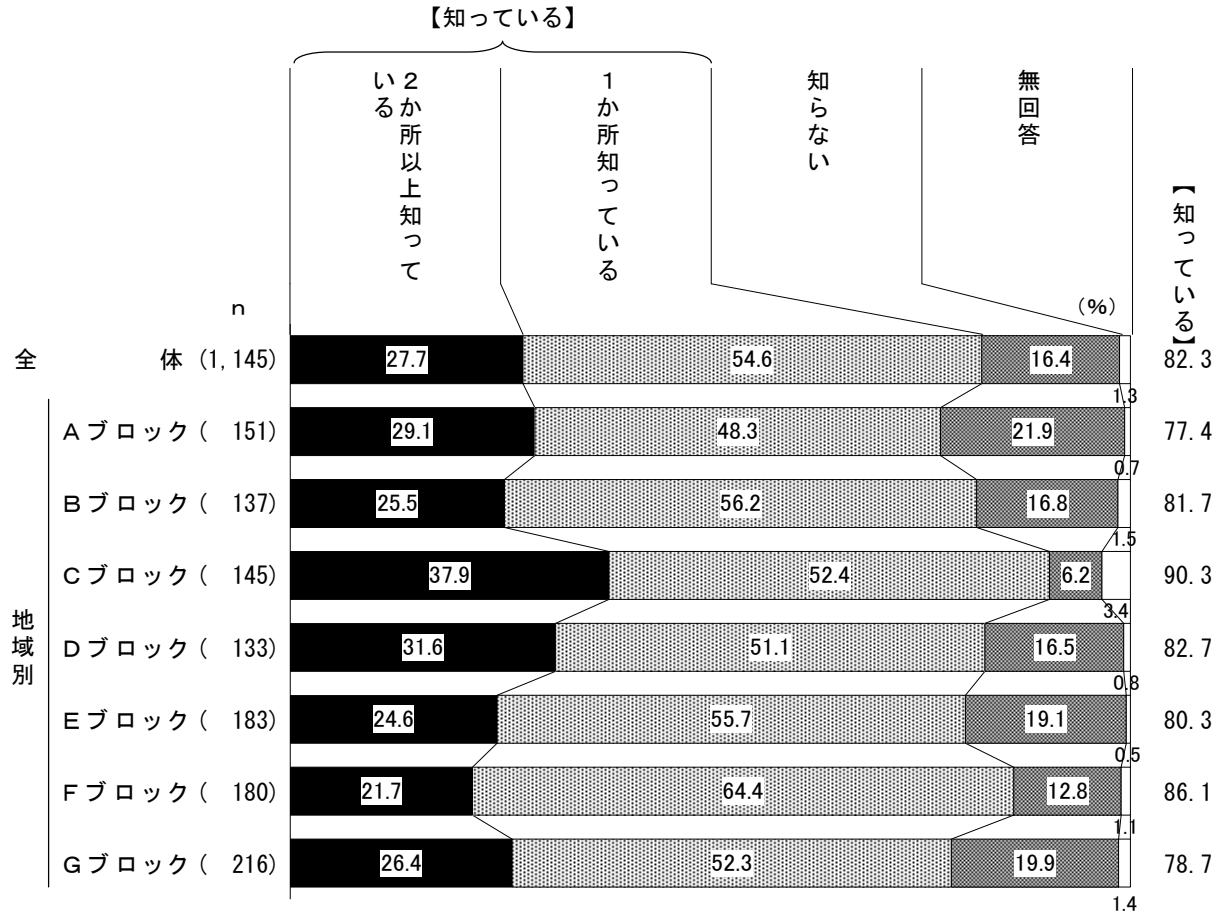
前回の調査結果と比較すると、大きな傾向の変化はみられない。（図表７－21）

＜図表７－21＞避難場所の認知状況／過年度推移



地域別でみると、「２か所以上知っている」はＣブロック（37.9％）で４割弱と高くなっている。「知らない」はＡブロック（21.9％）で２割強と高くなっている。（図表７－22）

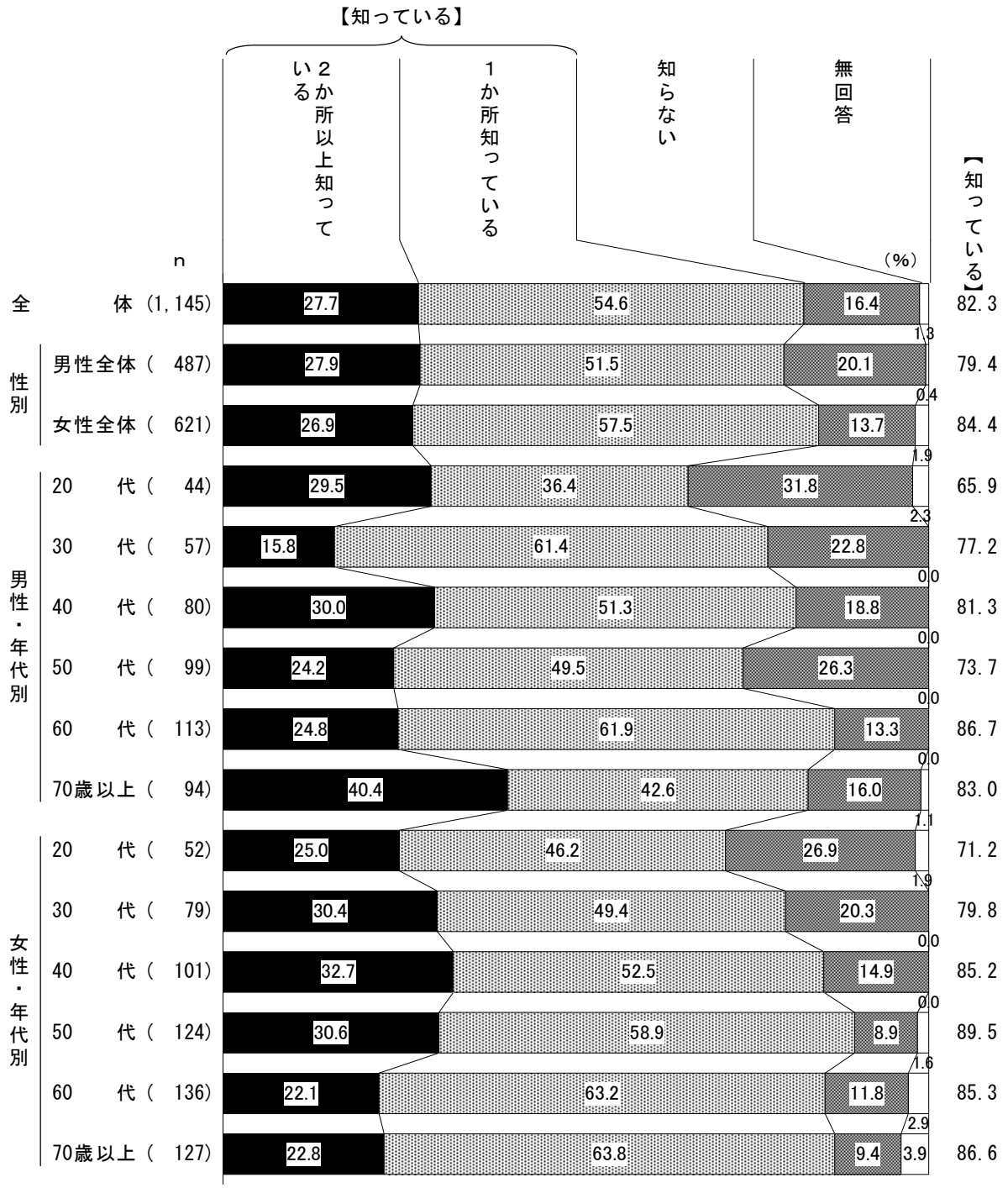
＜図表７－22＞避難場所の認知状況／地域別



性別でみると、【知っている】は女性（84.4%）が男性（79.4%）より5.0ポイント高くなっている。一方、「知らない」は男性（20.1%）が女性（13.7%）より6.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「２か所以上知っている」は男性70歳以上（40.4%）で約４割と高くなっている。「知らない」は男性20代（31.8%）で３割強、男性50代（26.3%）と女性20代（26.9%）で３割弱と高くなっている。（図表７－23）

＜図表７－23＞避難場所の認知状況／性別、性・年代別

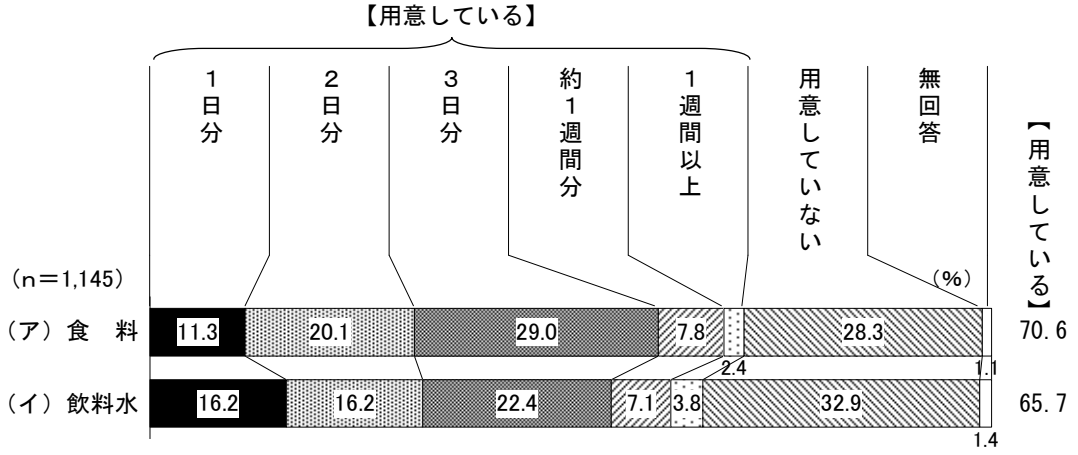


（５）備蓄品の状況（食料・飲料水）

◇【用意している】は食料が約７割、飲料水が６割台半ば

問22　あなたのお宅では、非常持ち出し用を含めて家族の何日分の食料がありますか。また、家族の何日分の飲料水を備蓄していますか。次の項目について、それぞれ１つずつ選んで番号に○をつけてください。（○はそれぞれ１つずつ）

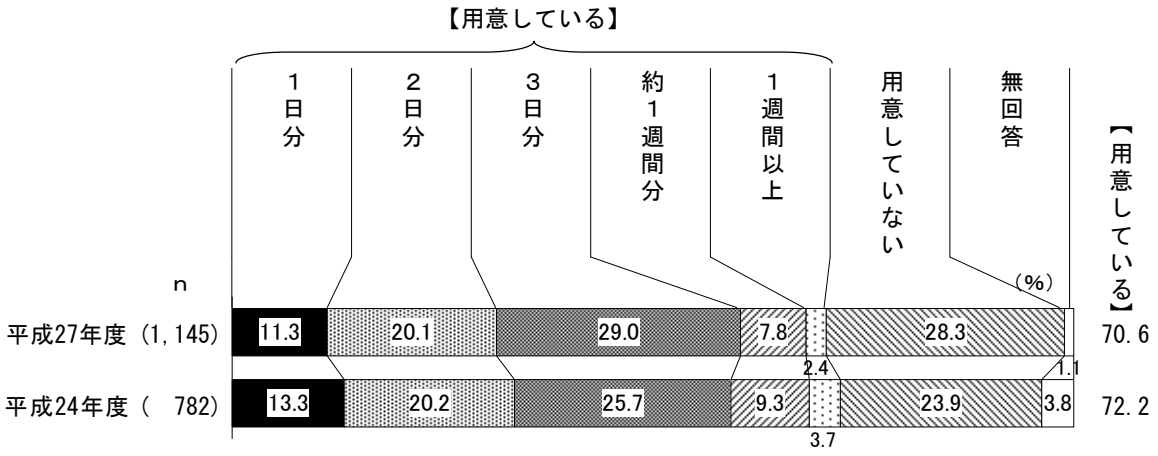
＜図表７－24＞備蓄品の状況（食料・飲料水）



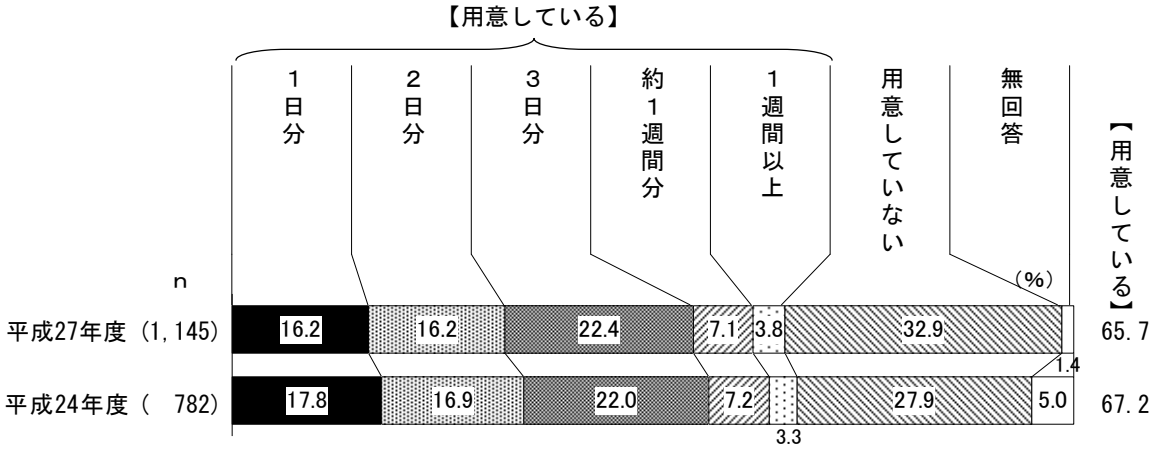
食料・飲料水の備蓄品の状況を聞いたところ、「１日分」、「２日分」、「３日分」、「約１週間分」、「１週間以上」の５つを合わせた【用意している】は、（ア）食料（70.6%）が約７割、（イ）飲料水（65.7%）が６割台半ばとなっている。一方、「用意していない」は、（ア）食料（28.3%）が３割弱、（イ）飲料水（32.9%）が３割強となっている。（図表７－24）

前回の調査結果と比較すると、「用意していない」は（ア）食料で4.4ポイント増加し、（イ）飲料水で5.0ポイント増加している。（図表７－25・７－26）

＜図表７－25＞備蓄品の状況（ア）食料／過年度推移

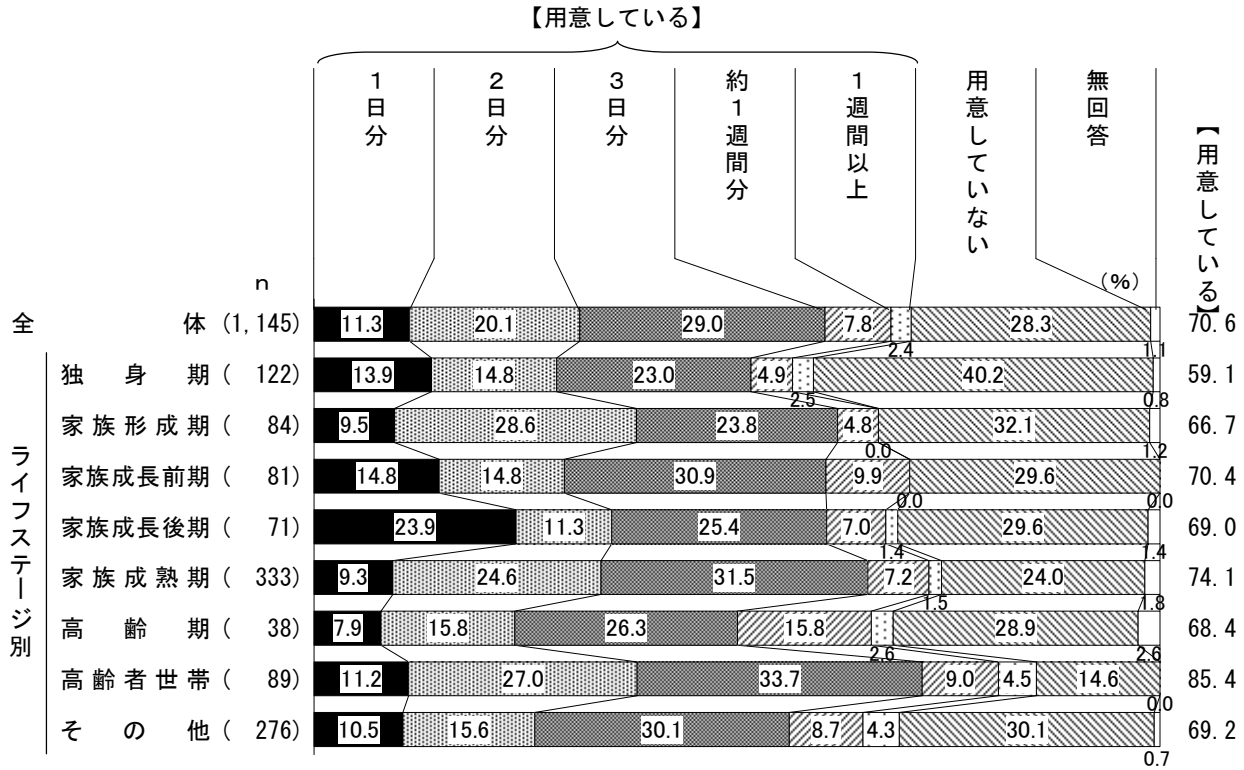


＜図表７－26＞備蓄品の状況（イ）飲料水／過年度推移



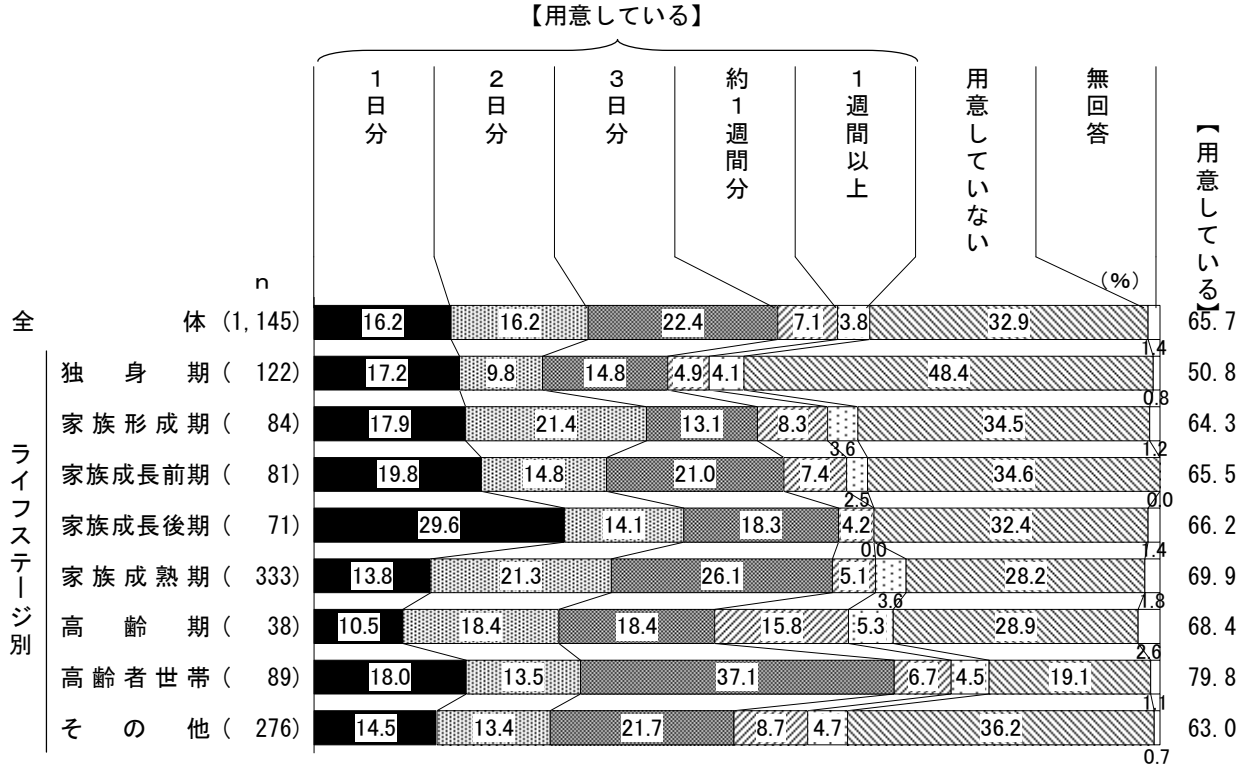
（ア）食料についてライフステージ別でみると、【用意している】は高齢者世帯（85.4%）で８割台半ばと高くなっている。一方、「用意していない」は独身期（40.2%）で約４割と高くなっている。（図表７－27）

＜図表７－27＞備蓄品の状況（ア）食料／ライフステージ別



（イ）飲料水についてライフステージ別でみると、【用意している】は高齢者世帯（79.8%）で約８割と高くなっている。一方、「用意していない」は独身期（48.4%）で５割弱と高くなっている。（図表７－28）

＜図表７－28＞備蓄品の状況（イ）飲料水／ライフステージ別

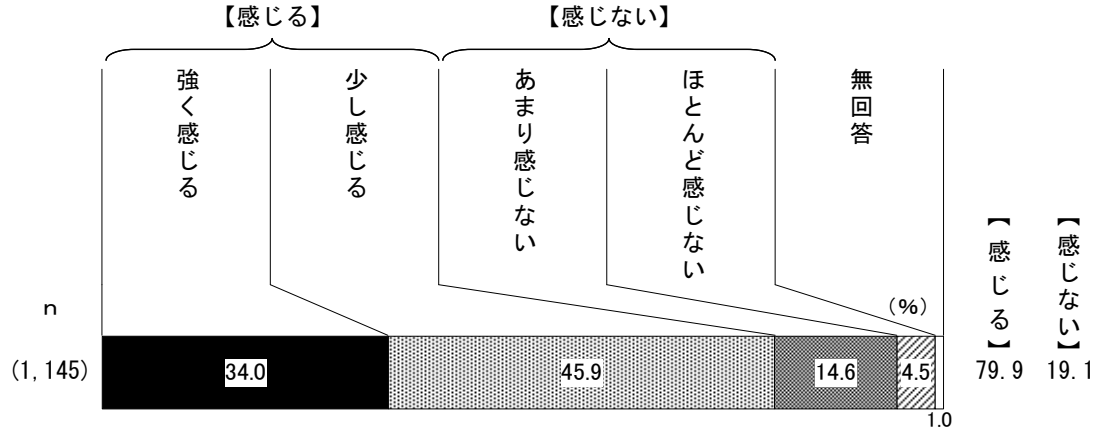


（６）身近な犯罪への不安

◇【感じる】が約８割

問23　身近な犯罪についてお伺いします。「空き巣」、「ひったくり」、「不審者の出没」、「振り込め詐欺」、「悪徳商法」などの身近な犯罪への不安を感じますか。次の中から１つ選んでください。（○は１つ）

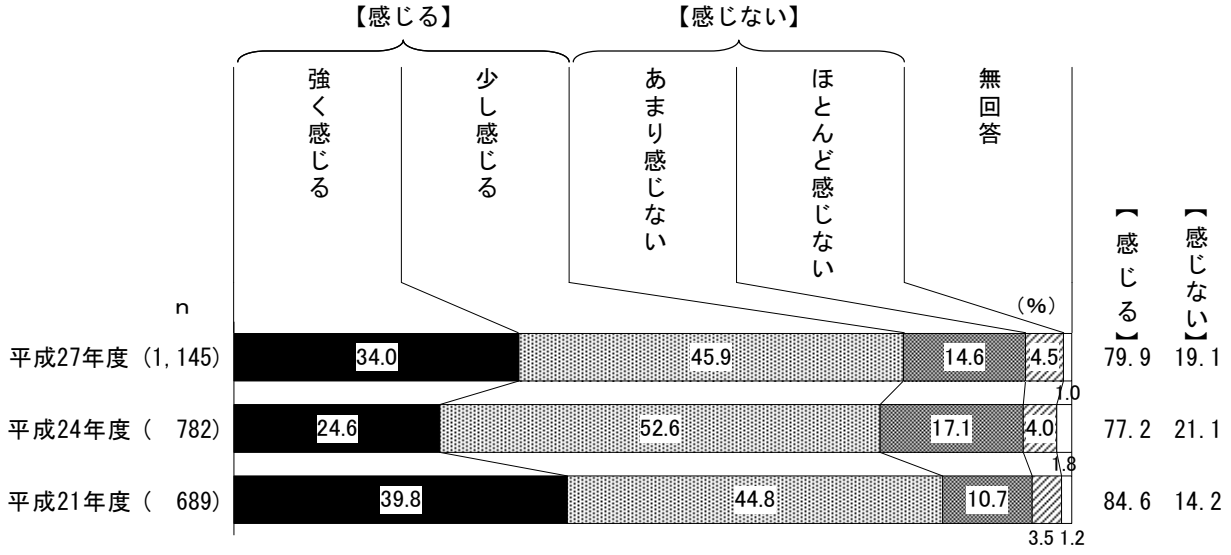
＜図表７－29＞身近な犯罪への不安



身近な犯罪への不安を感じるか聞いたところ、「強く感じる」（34.0%）と「少し感じる」（45.9%）の２つを合わせた【感じる】（79.9%）が約８割と高くなっている。一方、「あまり感じない」（14.6%）と「ほとんど感じない」（4.5%）の２つを合わせた【感じない】（19.1%）は約２割となっている。（図表７－29）

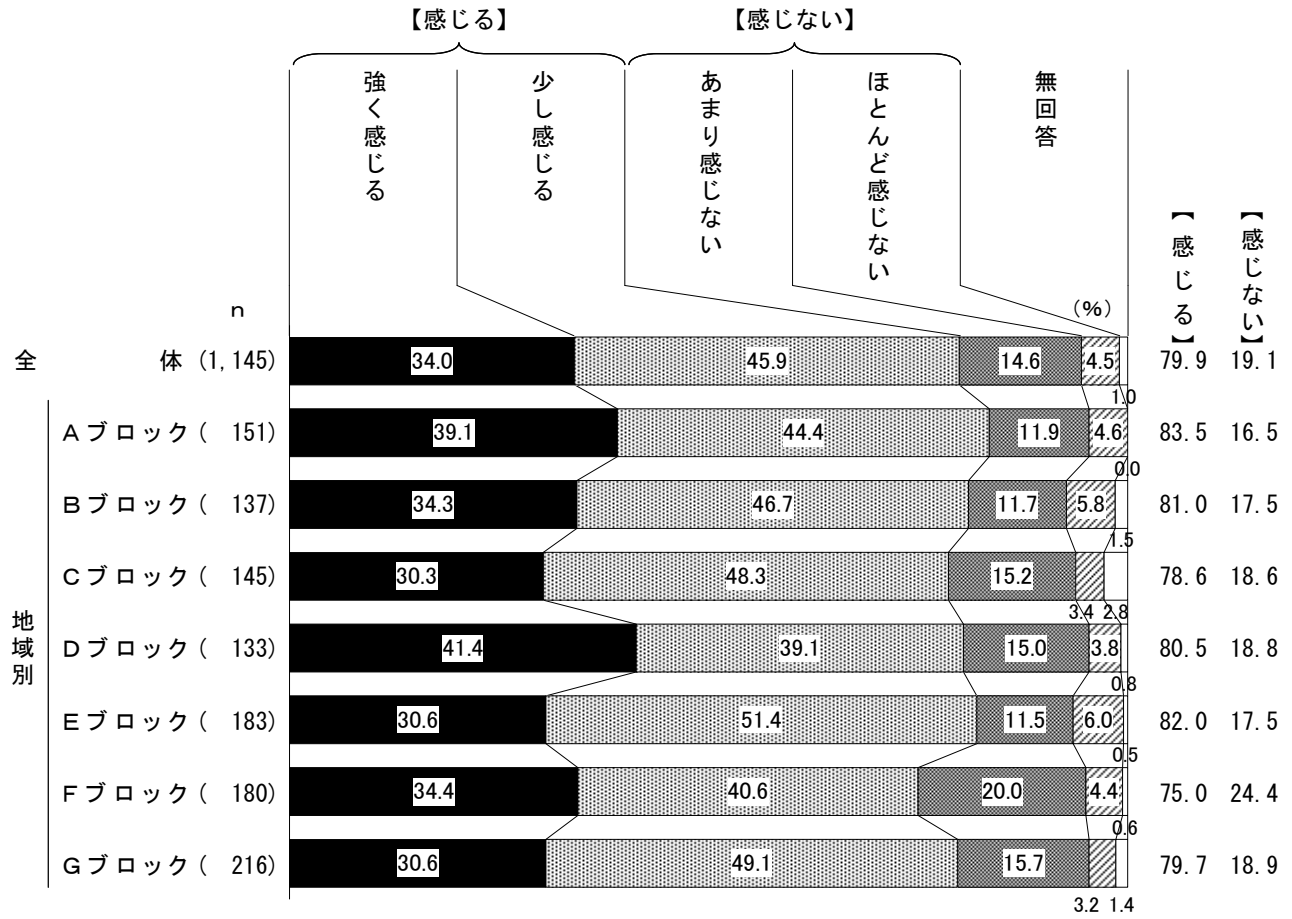
過年度の調査結果の推移をみると、「強く感じる」は平成24年度と比べて9.4ポイント増加している。（図表７－30）

＜図表７－30＞身近な犯罪への不安／過年度推移



地域別でみると、「強く感じる」はDブロック（41.4%）で４割強と高くなっている。【感じない】はFブロック（24.4%）で２割台半ばと高くなっている。（図表７－31）

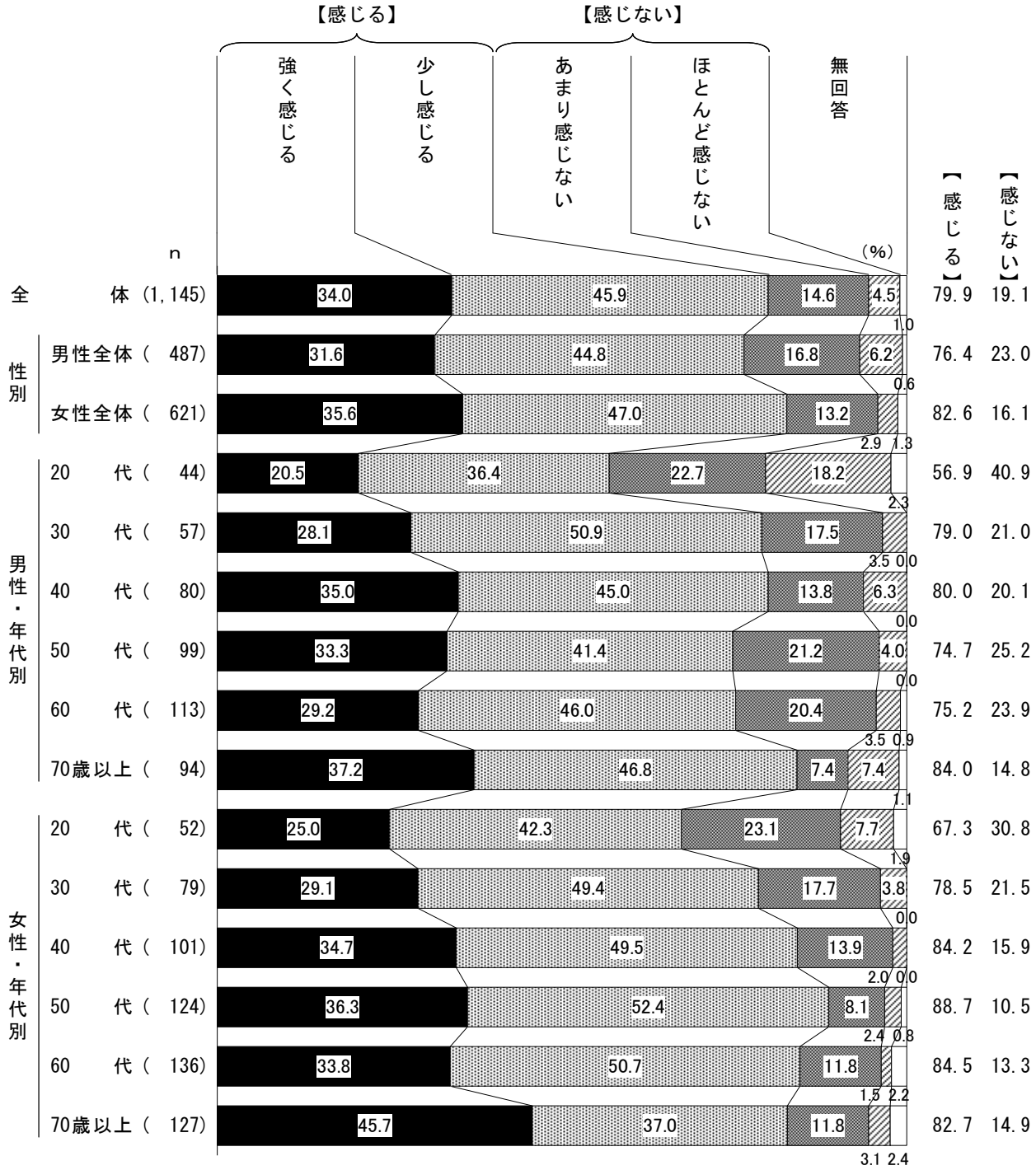
＜図表７－31＞身近な犯罪への不安／地域別



性別でみると、【感じる】は女性（82.6%）が男性（76.4%）より6.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【感じる】は女性50代（88.7%）で９割弱と高くなっている。「強く感じる」は女性70歳以上（45.7%）で４割台半ばと高くなっている。【感じない】は男性20代（40.9%）で約４割、女性20代（30.8%）で約３割と高くなっている。（図表７－32）

＜図表７－32＞身近な犯罪への不安／性別、性・年代別

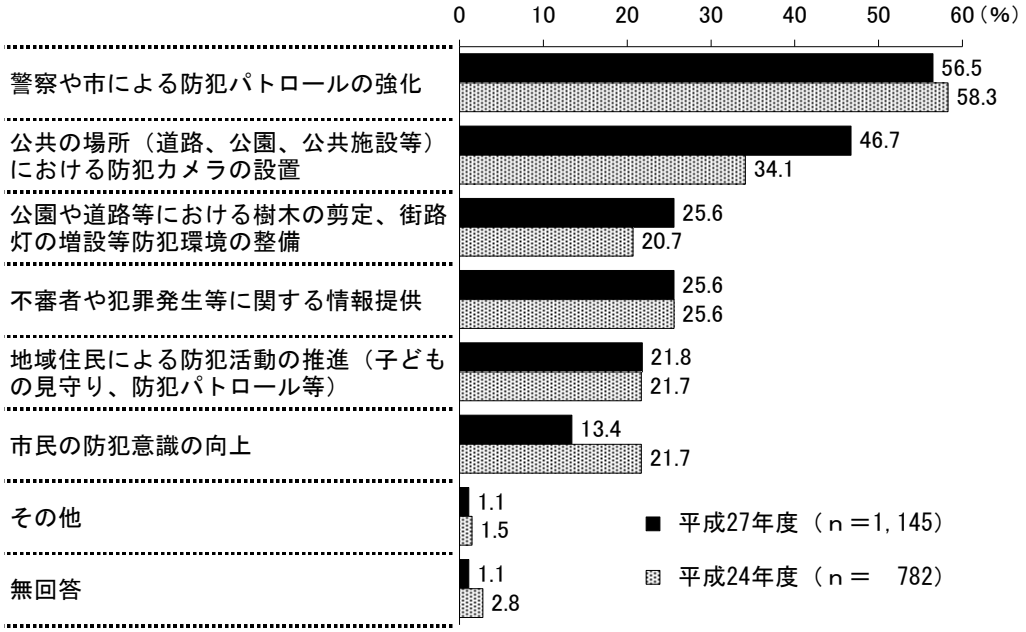


（７）安全で安心して暮らすことができるまちづくりのために必要なこと

◇「警察や市による防犯パトロールの強化」が６割弱

問24　安全で安心して暮らすことができるまちづくりのために、あなたが特に必要だと思う防犯対策は何ですか。次の中から２つまで選んでください。（○は２つまで）

＜図表７－33＞安全で安心して暮らすことができるまちづくりのために必要なこと



安全で安心して暮らすことができるまちづくりのために必要なことを聞いたところ、「警察や市による防犯パトロールの強化」（56.5%）が６割弱で最も高く、次いで「公共の場所（道路、公園、公共施設等）における防犯カメラの設置」（46.7%）、「公園や道路等における樹木の剪定、街路灯の増設等防犯環境の整備」（25.6%）、「不審者や犯罪発生等に関する情報提供」（25.6%）、「地域住民による防犯活動の推進（子どもの見守り、防犯パトロール等）」（21.8%）となっている。

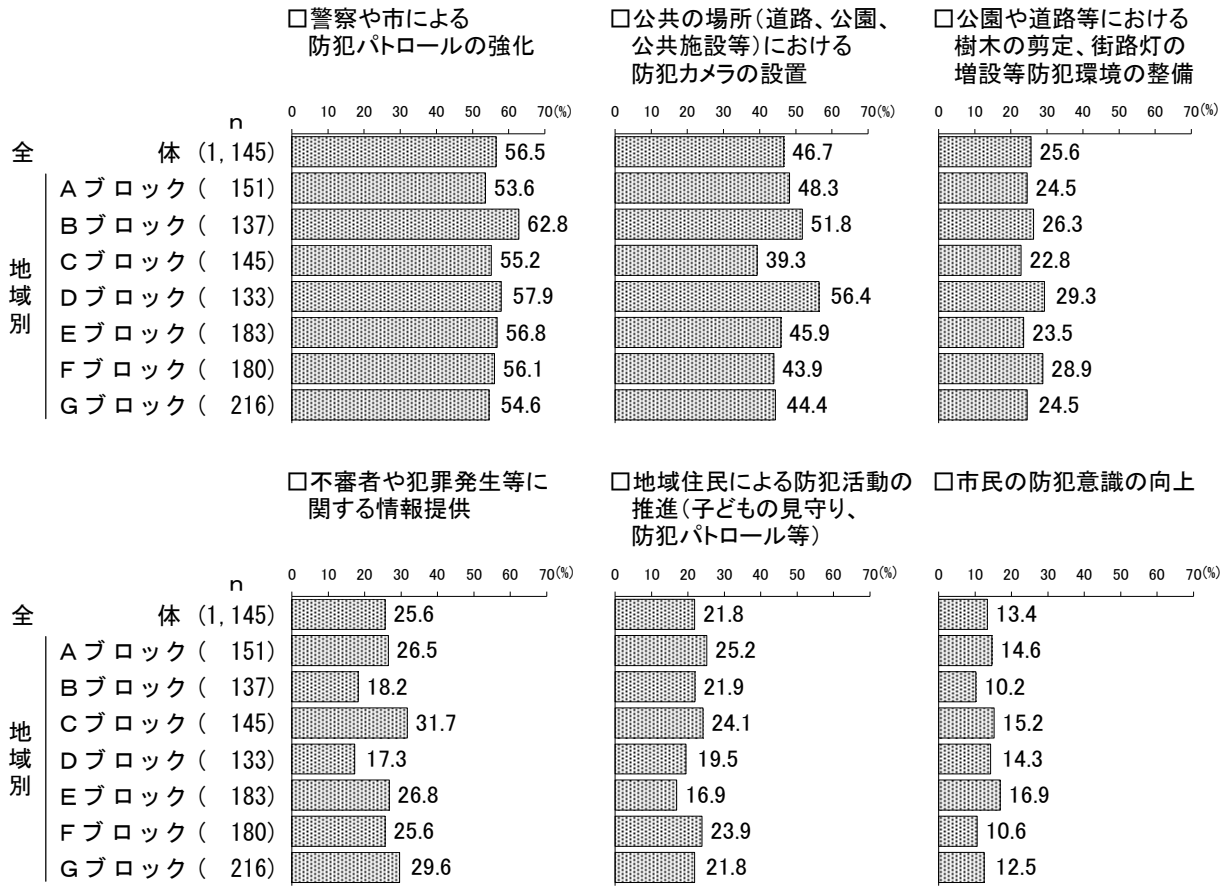
（図表７－33）

前回の調査結果と比較すると、「公共の場所（道路、公園、公共施設等）における防犯カメラの設置」は12.6ポイント増加し、「公園や道路等における樹木の剪定、街路灯の増設等防犯環境の整備」は4.9ポイント増加している。一方、「市民の防犯意識の向上」は8.3ポイント減少している。

（図表７－33）

上位６項目について地域別でみると、「警察や市による防犯パトロールの強化」はＢブロック（62.8％）で６割強と高くなっている。「公共の場所（道路、公園、公共施設等）における防犯カメラの設置」はＤブロック（56.4％）で６割弱と高くなっている。（図表７－34）

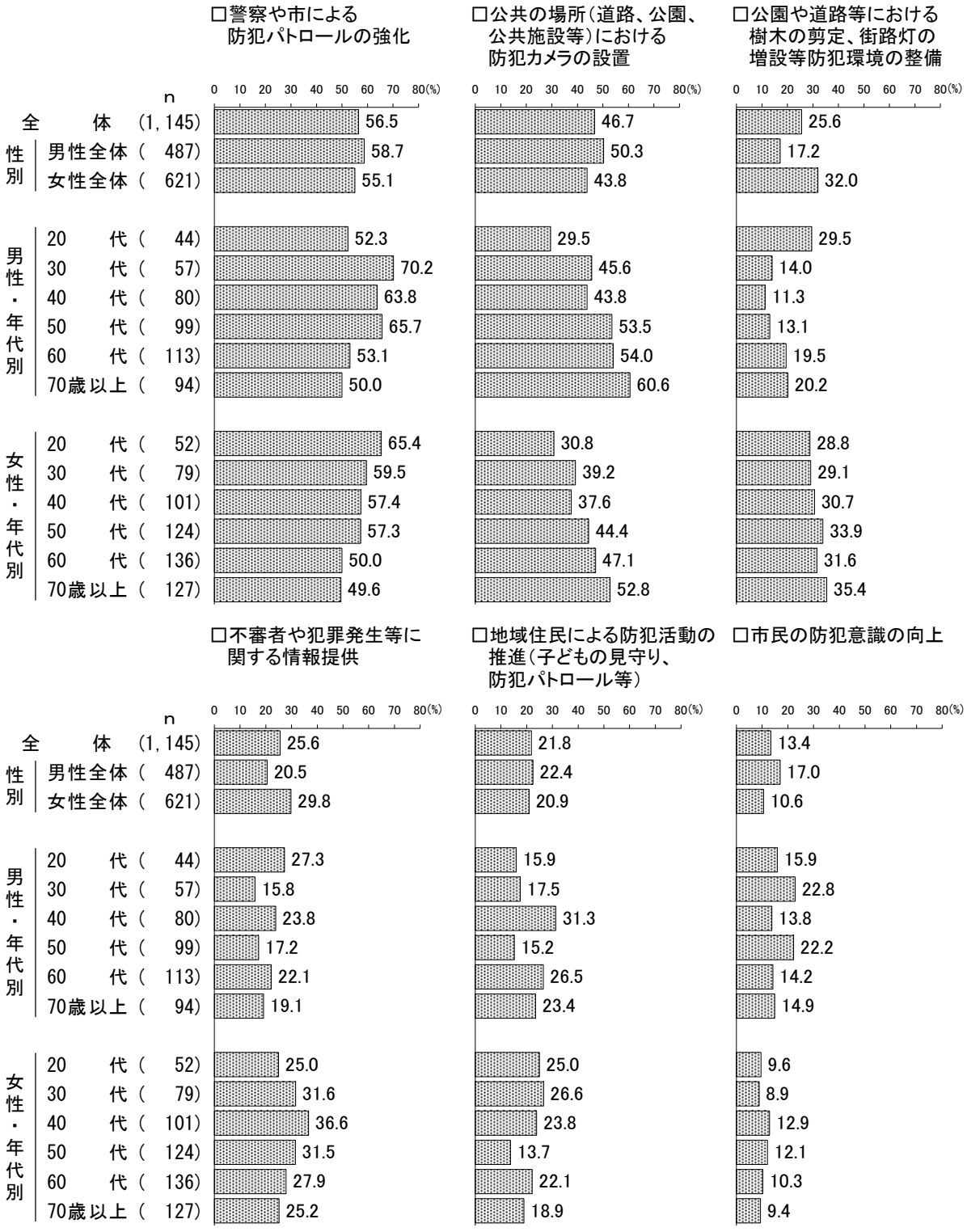
＜図表７－34＞安全で安心して暮らすことができるまちづくりのために必要なこと
／地域別（上位６項目）



上位６項目について性別でみると、「公園や道路等における樹木の剪定、街路灯の増設等防犯環境の整備」は女性（32.0%）が男性（17.2%）より14.8ポイント高く、「不審者や犯罪発生等に関する情報提供」は女性（29.8%）が男性（20.5%）より9.3ポイント高くなっている。「公共の場所（道路、公園、公共施設等）における防犯カメラの設置」は男性（50.3%）が女性（43.8%）より6.5ポイント高く、「市民の防犯意識の向上」は男性（17.0%）が女性（10.6%）より6.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「警察や市による防犯パトロールの強化」は男性30代（70.2%）で約７割と高くなっている。「公共の場所（道路、公園、公共施設等）における防犯カメラの設置」は男性70歳以上（60.6%）で約６割と高くなっている。（図表７－35）

＜図表７－35＞安全で安心して暮らすことができるまちづくりのために必要なこと
／性別、性・年代別（上位６項目）

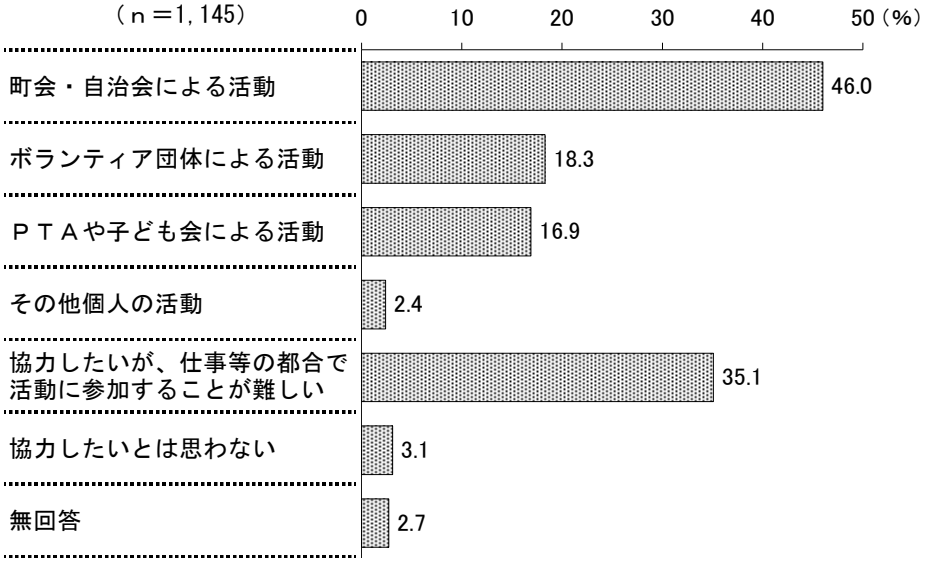


（８）協力したいと思う防犯活動

◇「町会・自治会による活動」が４割台半ば

問25　安全で安心して暮らせるまちにするためには、市民の皆さんの協力が必要です。あなたが協力している、または協力したいと思う防犯活動は何ですか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。（○はいくつでも）

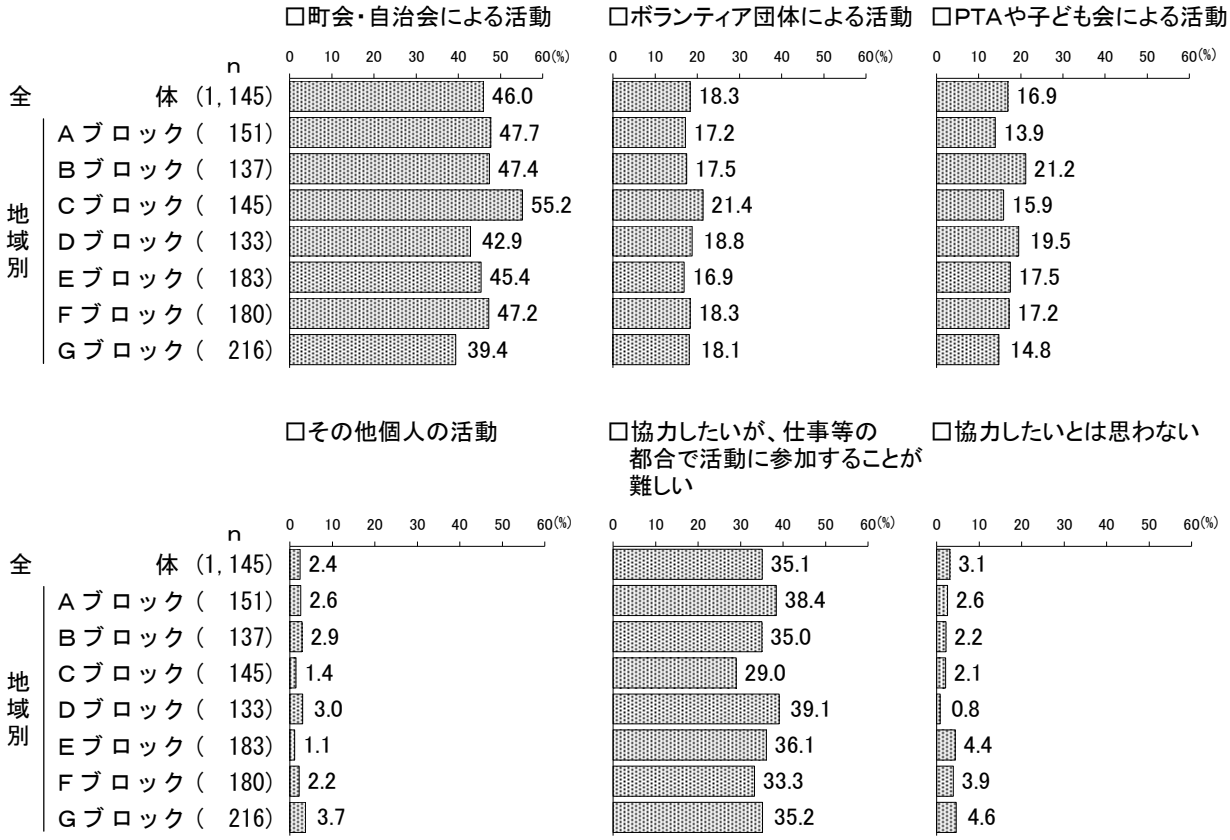
＜図表７－36＞協力したいと思う防犯活動



協力している、または協力したいと思う防犯活動を聞いたところ、「町会・自治会による活動」（46.0%）が４割台半ばで最も高く、次いで「ボランティア団体による活動」（18.3%）、「ＰＴＡや子ども会による活動」（16.9%）となっている。「協力したいが、仕事等の都合で活動に参加することが難しい」（35.1%）は３割台半ばとなっている。（図表７－36）

地域別でみると、「町会・自治会による活動」はＣブロック（55.2%）で５割台半ばと高くなっている。（図表７－37）

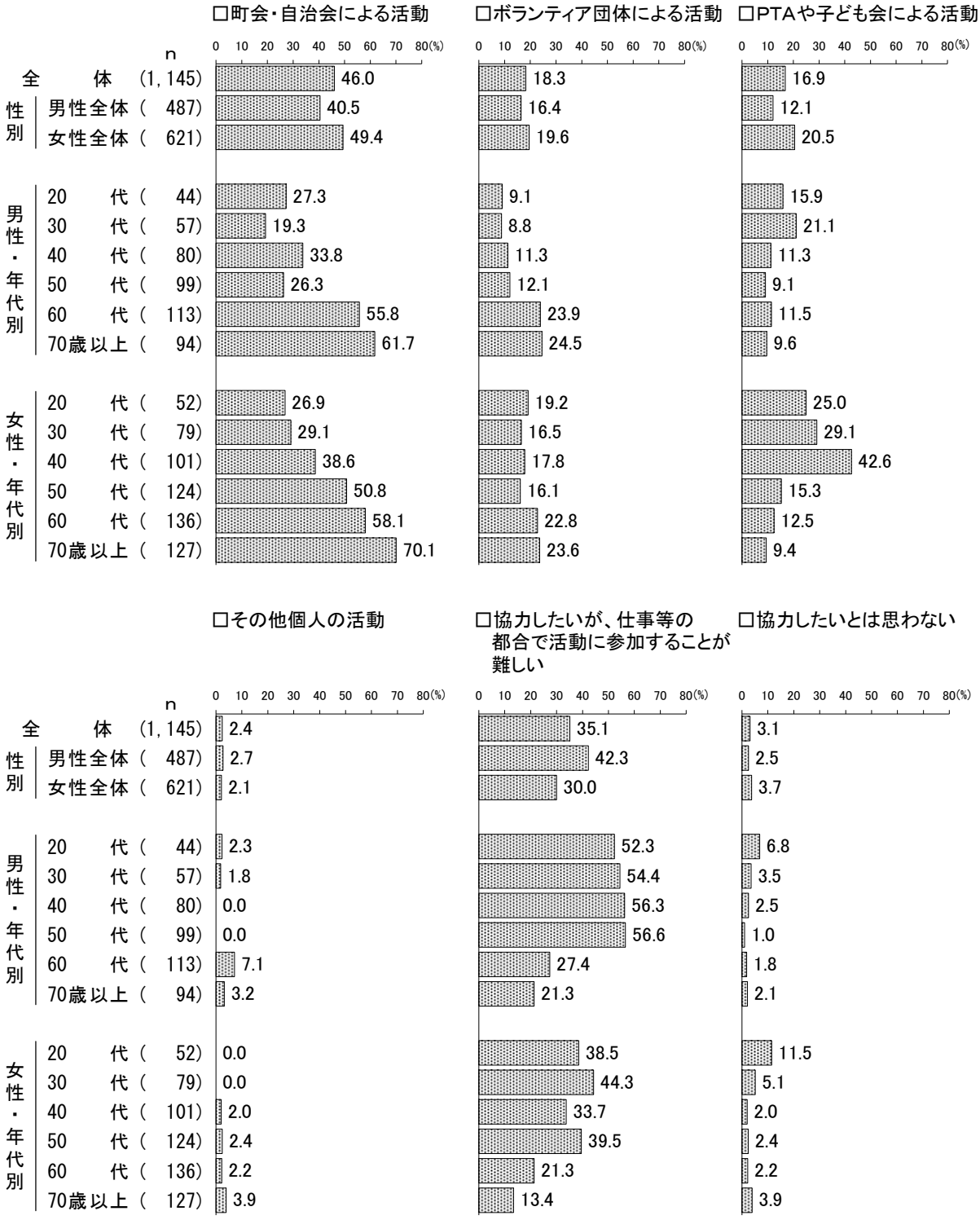
＜図表７－37＞協力したいと思う防犯活動／地域別



性別でみると、「町会・自治会による活動」は女性（49.4%）が男性（40.5%）より8.9ポイント高く、「ＰＴＡや子ども会による活動」は女性（20.5%）が男性（12.1%）より8.4ポイント高くなっている。「協力したいが、仕事等の都合で活動に参加することが難しい」は男性（42.3%）が女性（30.0%）より12.3ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「町会・自治会による活動」は女性70歳以上（70.1%）で約７割、男性70歳以上（61.7%）で６割強と高くなっている。「ＰＴＡや子ども会による活動」は女性40代（42.6%）で４割強と高くなっている。「協力したいが、仕事等の都合で活動に参加することが難しい」は男性の50代以下の年代でいずれも５割台と高くなっている。（図表７－38）

＜図表７－38＞協力したいと思う防犯活動／性別、性・年代別



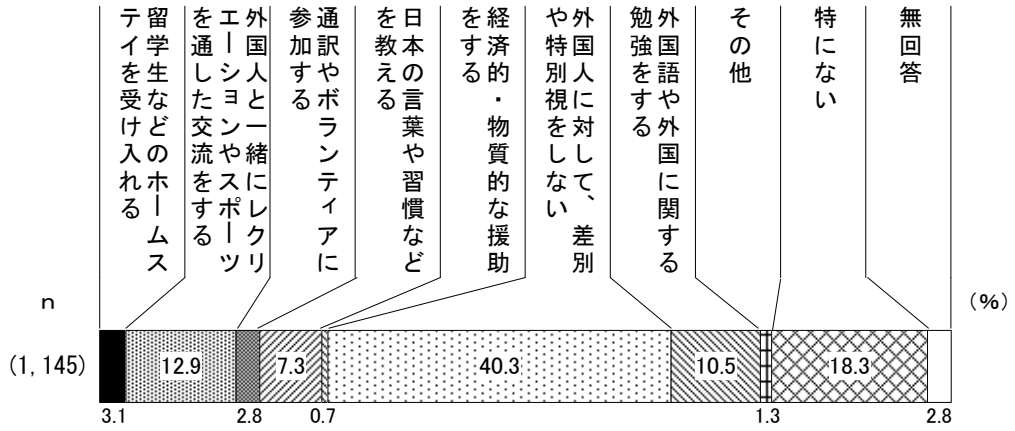
８．多文化共生

（１）多文化共生のための活動の参加意向

◇「外国人に対して、差別や特別視をしない」が約４割

問26　今後、外国との交流が進む中で、あなたが参加できることや、自分でしたいと思うのは
どのようなことですか。次の中から１つだけ選んでください。（○は１つ）

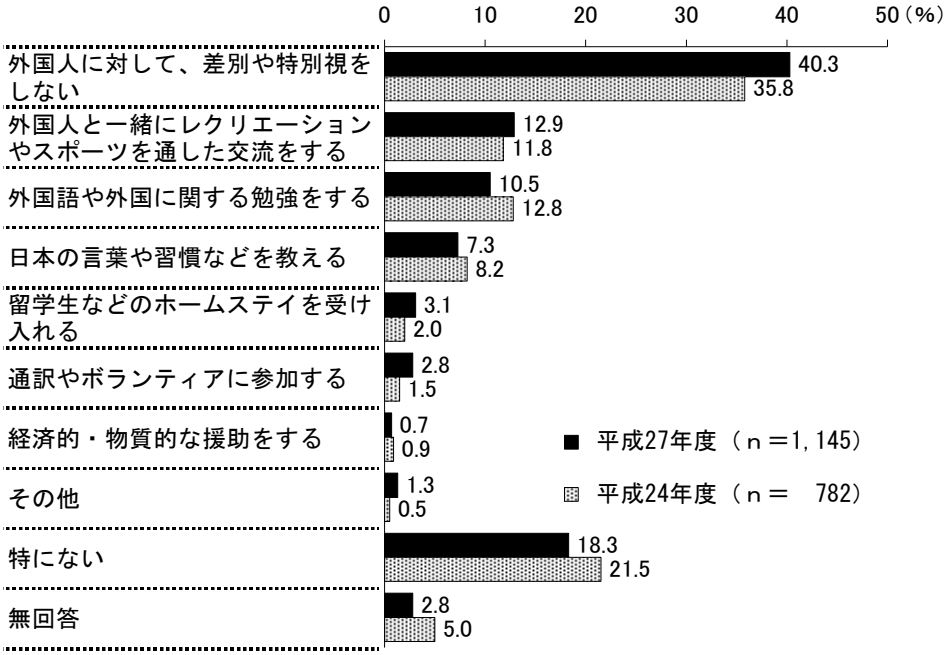
＜図表８－１＞多文化共生のための活動の参加意向



多文化共生のための活動の参加意向を聞いたところ、「外国人に対して、差別や特別視をしない」（40.3%）が約４割で最も高く、次いで「外国人と一緒にレクリエーションやスポーツを通した交流をする」（12.9%）、「外国語や外国に関する勉強をする」（10.5%）、「日本の言葉や習慣などを教える」（7.3%）となっている。（図表８－１）

前回の調査結果と比較すると、「外国人に対して、差別や特別視をしない」は4.5ポイント増加している。（図表８－２）

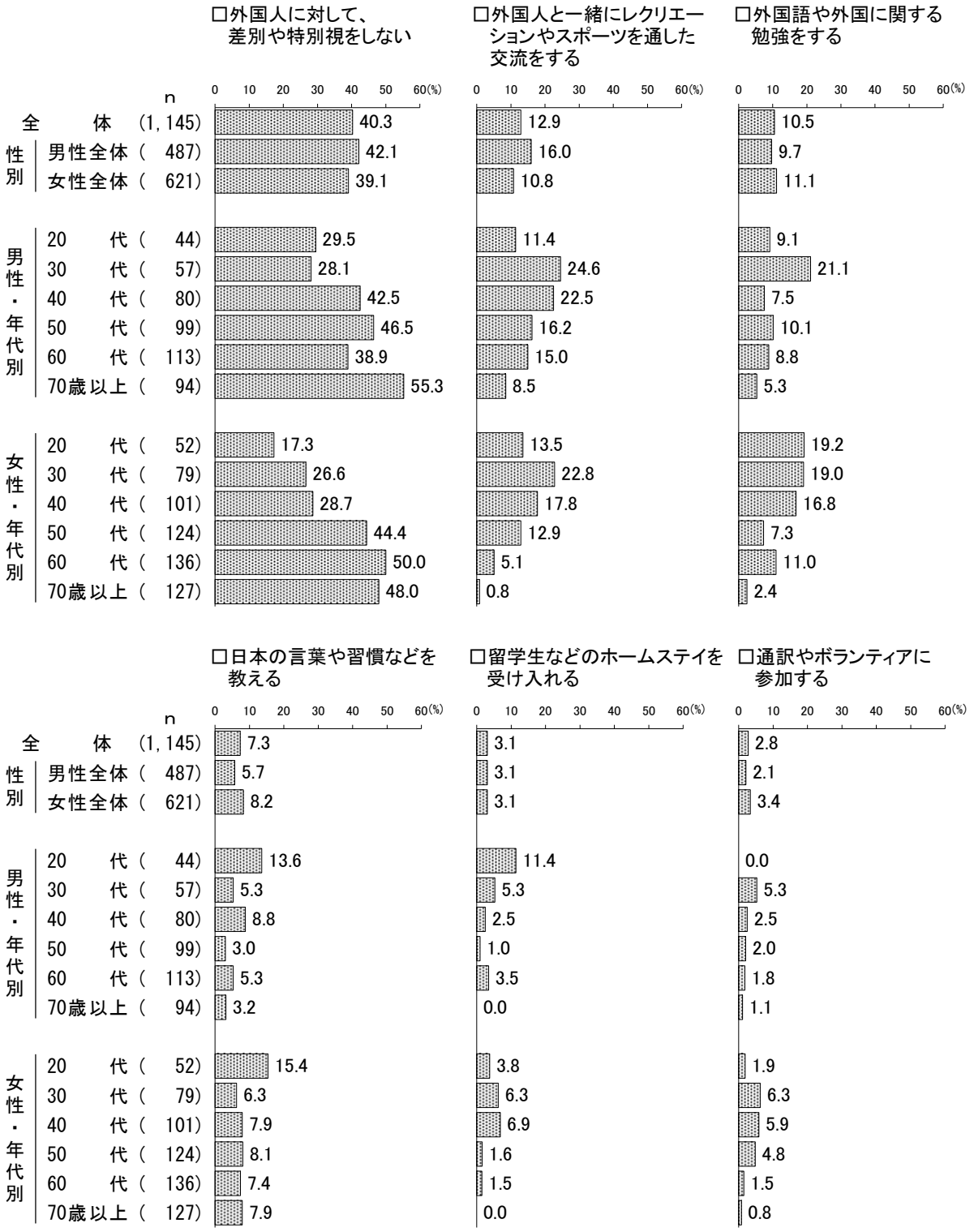
＜図表８－２＞多文化共生のための活動の参加意向／過年度推移



上位６項目について性別でみると、「外国人と一緒にレクリエーションやスポーツを通した交流をする」は男性（16.0%）が女性（10.8%）より5.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「外国人に対して、差別や特別視をしない」は男性70歳以上（55.3%）で５割台半ばと高くなっている。「外国人と一緒にレクリエーションやスポーツを通した交流をする」は男性30代（24.6%）で２割台半ばと高くなっている。「外国語や外国に関する勉強をする」は男性30代（21.1%）で２割強と高くなっている。（図表８－３）

＜図表８－３＞多文化共生のための活動の参加意向／性別、性・年代別（上位６項目）

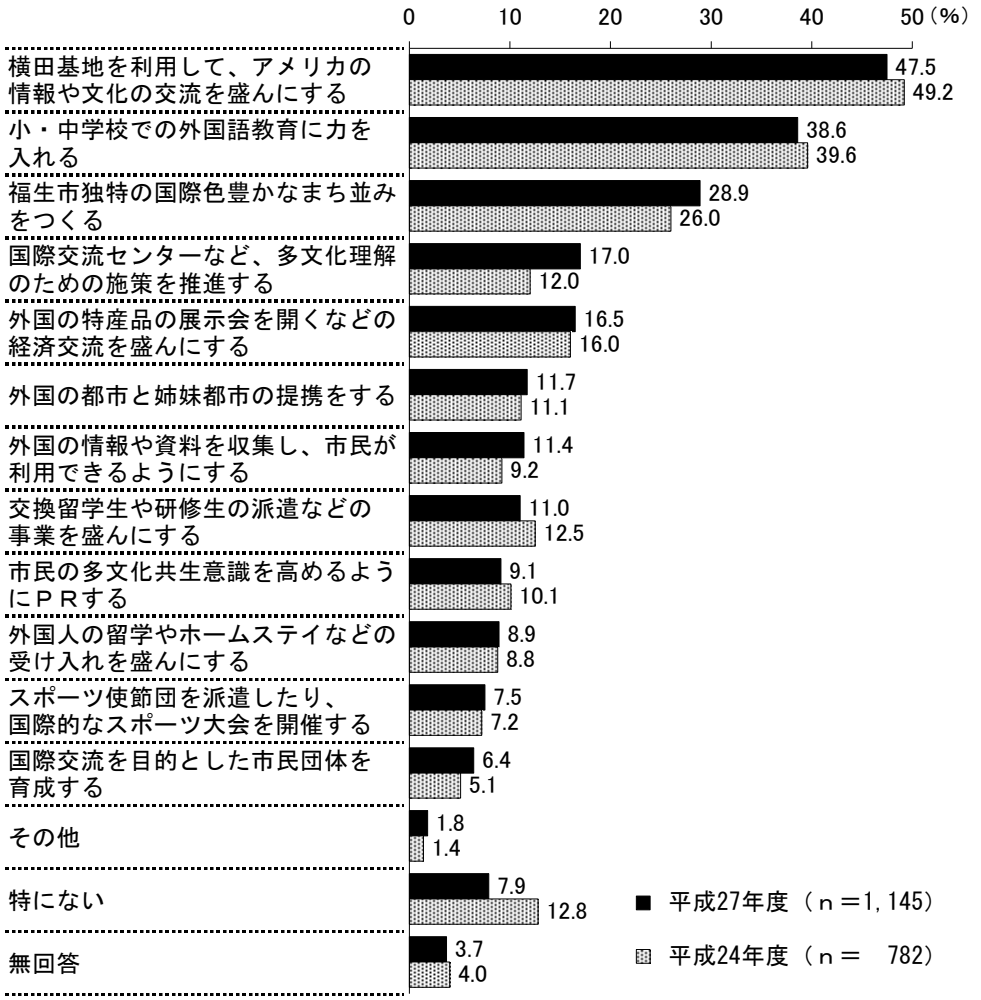


（２）多文化共生を進めていく上での重点項目

◇「横田基地を利用して、アメリカの情報や文化の交流を盛んにする」が５割弱

問27　多文化共生を進めていく上で、特に力を入れるべきだと思うことを、次の中から３つまで選んでください。（○は３つまで）

＜図表８－４＞多文化共生を進めていく上での重点項目



（注）前回調査の質問は、「市が国際化を進めていく上で、特に力を入れるべきだと思うことを、次の中から３つまで選んでください」としていた。
「小・中学校での外国語教育に力を入れる」は、前回調査では「小・中学校に外国人教師を招き、外国語教育に力を入れる」としていた。
「国際交流センターなど、多文化理解のための施策を推進する」は、前回調査では「国際交流センターなどの国際化を進める施策を推進する」としていた。
「市民の多文化共生意識を高めるようにＰＲする」は、前回調査では「市民の国際感覚を高めるようにＰＲする」としていた。

多文化共生を進めていく上で、特に力を入れるべきことを聞いたところ、「横田基地を利用して、アメリカの情報や文化の交流を盛んにする」（47.5%）が５割弱で最も高く、次いで「小・中学校での外国語教育に力を入れる」(38.6%)、「福生市独特の国際色豊かなまち並みをつくる」(28.9%)、「国際交流センターなど、多文化理解のための施策を推進する」（17.0%)、「外国の特産品の展示会を開くなどの経済交流を盛んにする」（16.5%）となっている。（図表８－４）

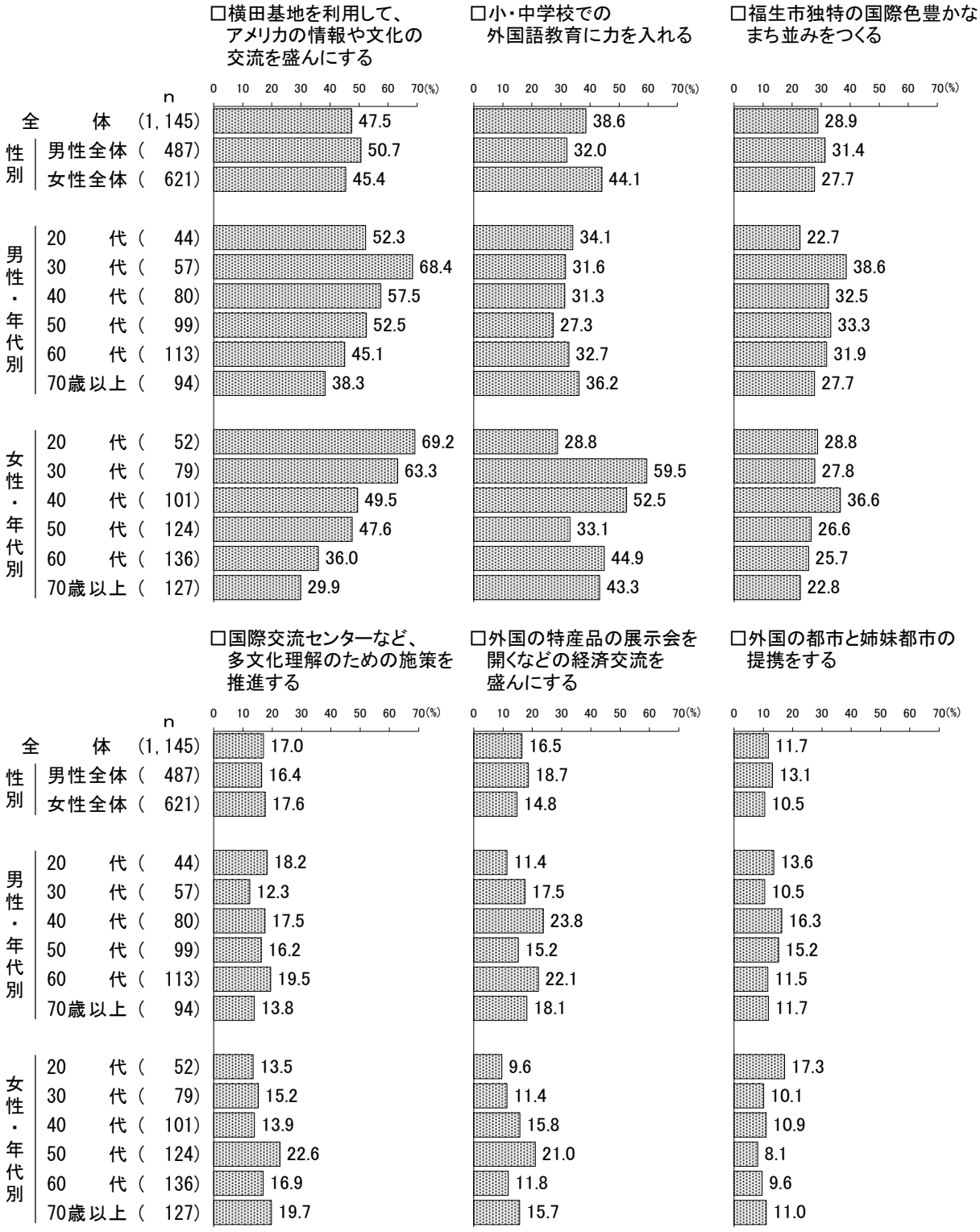
前回の調査結果と比較すると、「国際交流センターなど、多文化理解のための施策を推進する」は5.0ポイント増加している。（図表８－４）

上位６項目について性別でみると、「小・中学校での外国語教育に力を入れる」は女性（44.1%）が男性（32.0%）より12.1ポイント高くなっている。「横田基地を利用して、アメリカの情報や文化の交流を盛んにする」は男性（50.7%）が女性（45.4%）より5.3ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「横田基地を利用して、アメリカの情報や文化の交流を盛んにする」は女性20代（69.2%）で約７割、男性30代（68.4%）で７割弱と高くなっている。「小・中学校での外国語教育に力を入れる」は女性30代（59.5%）で約６割と高くなっている。「福生市独特の国際色豊かなまち並みをつくる」は男性30代（38.6%）と女性40代（36.6%）で４割弱と高くなっている。

（図表８－５）

＜図表８－５＞多文化共生を進めていく上での重点項目／性別、性・年代別（上位６項目）



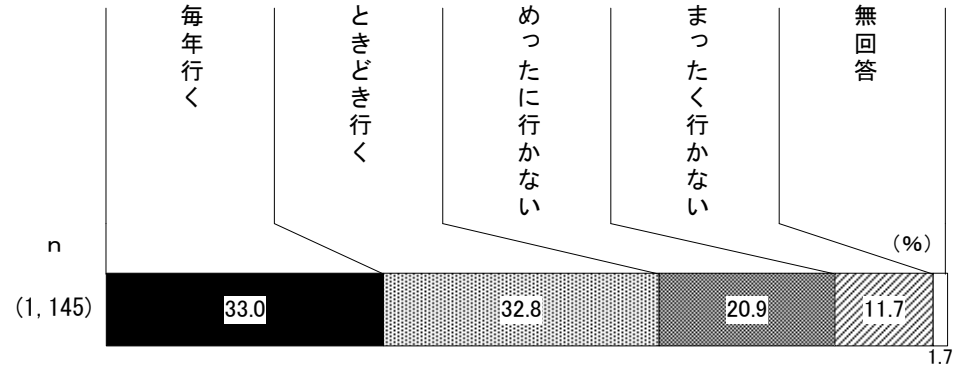
９．イベント・観光

（１）福生七夕まつりへの参加状況

◇「毎年行く」と「ときどき行く」がともに３割強

問28　福生七夕まつりについてお伺いします。福生七夕まつりには行きますか。次の中から１つだけ選んでください。（○は１つ）

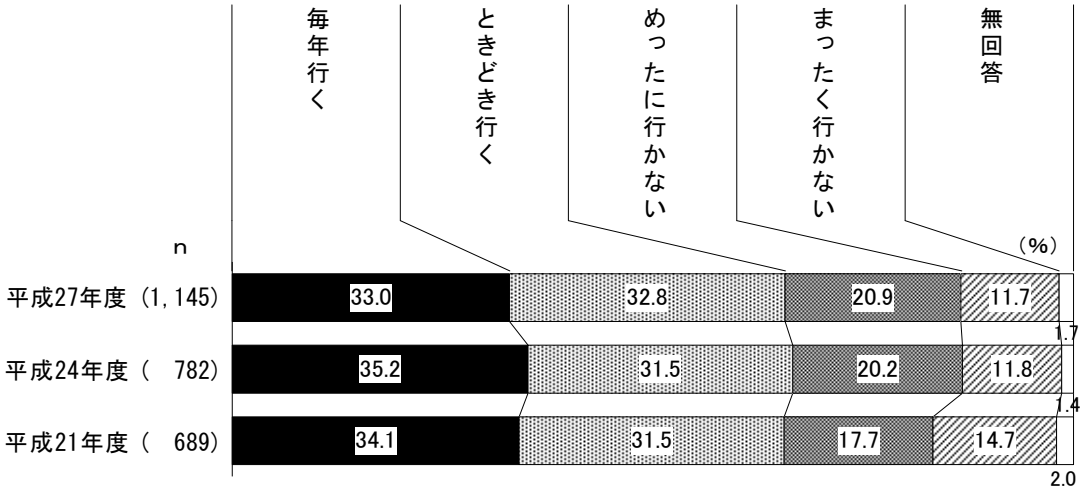
＜図表９－１＞福生七夕まつりへの参加状況



福生七夕まつりへの参加状況を聞いたところ、「毎年行く」(33.0%) と「ときどき行く」(32.8%) がともに３割強となっている。「めったに行かない」(20.9%) は約２割で、「まったく行かない」(11.7%) は１割強となっている。(図表９－１)

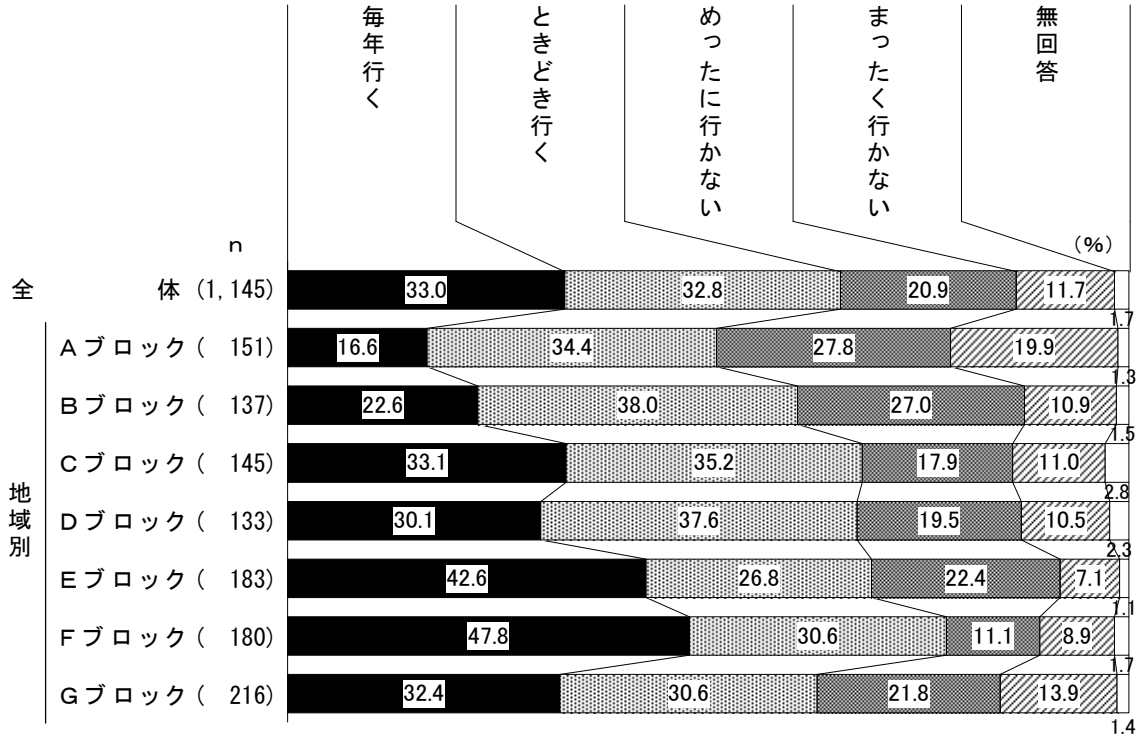
過年度の調査結果の推移をみると、「毎年行く」と「ときどき行く」の割合に大きな傾向の変化は見られない。(図表９－２)

＜図表９－２＞福生七夕まつりへの参加状況／過年度推移



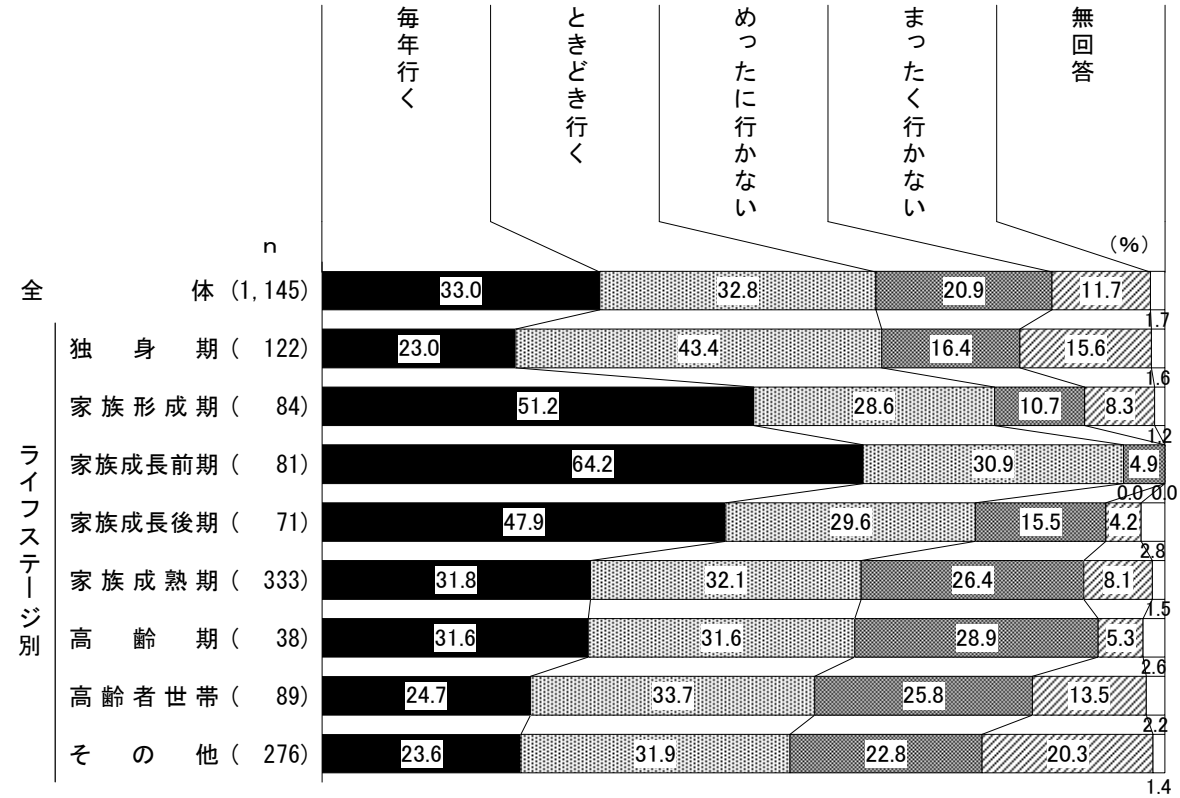
地域別でみると、「毎年行く」はＦブロック（47.8%）で５割弱、Ｅブロック（42.6%）で４割強と高くなっている。「めったに行かない」はＡブロック（27.8%）とＢブロック（27.0%）で３割弱と高く、「まったく行かない」はＡブロック（19.9%）で約２割となっている。（図表９－３）

＜図表９－３＞福生七夕まつりへの参加状況／地域別



ライフステージ別でみると、「毎年行く」は家族成長前期（64.2%）で６割台半ば、家族形成期（51.2%）で５割強と高くなっている。（図表９－４）

＜図表９－４＞福生七夕まつりへの参加状況／ライフステージ別



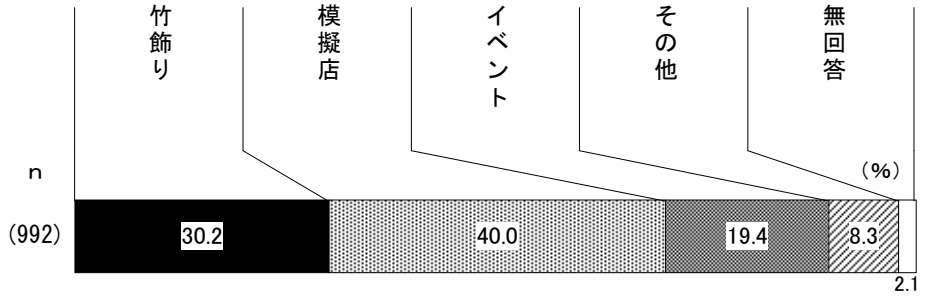
（２）福生七夕まつりに行く理由

◇「模擬店」が４割

（問28で、「毎年行く」「ときどき行く」「めったに行かない」を選んだ方に）

問28－１　七夕まつりに行く目的は何ですか。次の中から１つだけ選んでください。（○は１つ）

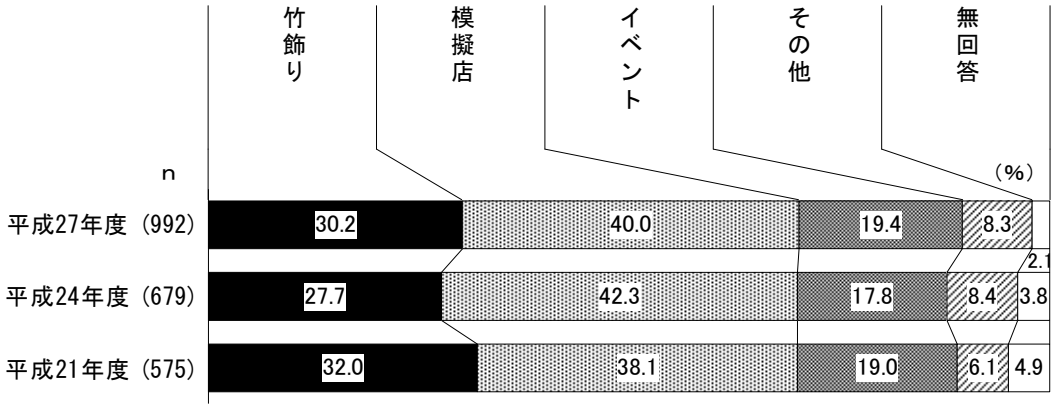
＜図表９－５＞福生七夕まつりに行く理由



福生七夕まつりに「毎年行く」、「ときどき行く」、「めったに行かない」と答えた方に、福生七夕まつりに行く理由を聞いたところ、「模擬店」(40.0%)が４割で最も高く、次いで「竹飾り」(30.2%)、「イベント」(19.4%) となっている。(図表９－５)

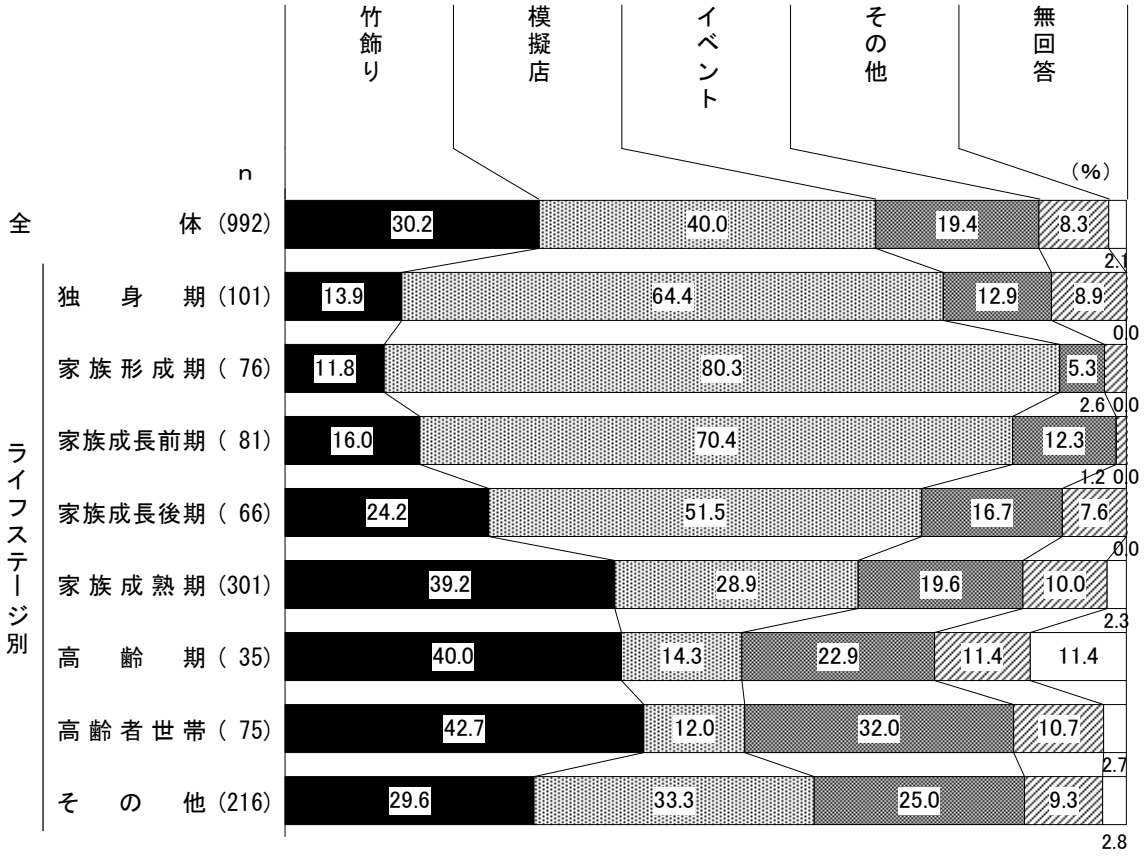
過年度の調査結果の推移をみると、「模擬店」が第１位、「竹飾り」が第２位、「イベント」が第３位となっている傾向に変化はみられない。(図表９－６)

＜図表９－６＞福生七夕まつりに行く理由／過年度推移



ライフステージ別でみると、「模擬店」は家族形成期（80.3%）で約８割、家族成長前期（70.4%）で約７割、独身期（64.4%）で６割台半ばと高くなっている。「竹飾り」は高齢者世帯（42.7%）で４割強、高齢期（40.0%）で４割と高くなっている。「イベント」は高齢者世帯（32.0%）で３割強と高くなっている。（図表９－７）

＜図表９－７＞福生七夕まつりに行く理由／ライフステージ別

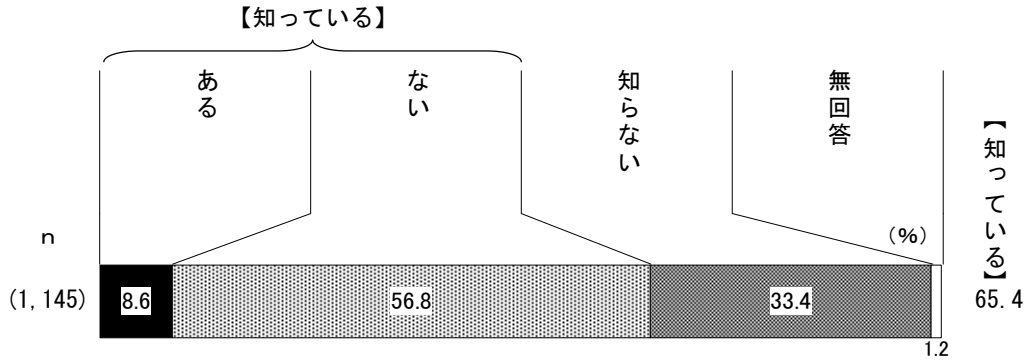


（３）まちなかおもてなしステーション「くるみる ふっさ」の認知状況

◇【知っている】が６割台半ば

問29　まちなかおもてなしステーション「くるみる ふっさ」を利用したことがありますか。
（○は１つ）

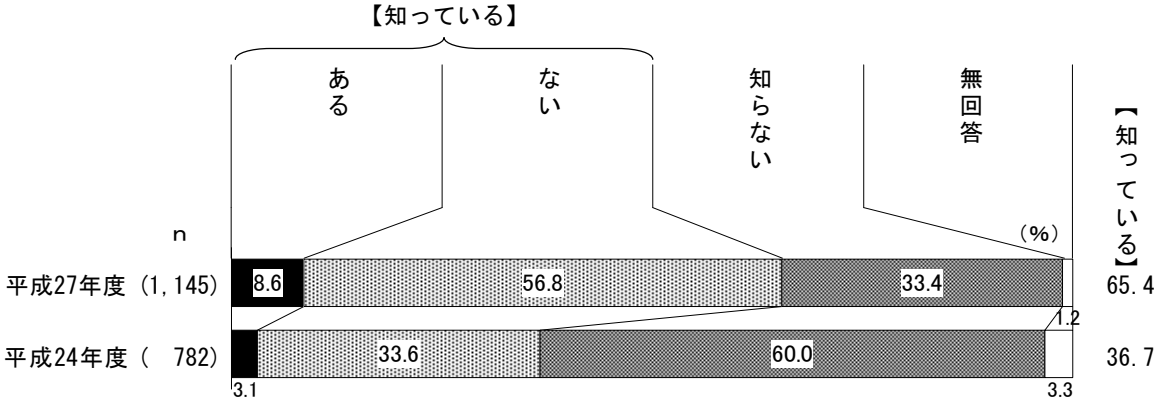
＜図表９－８＞まちなかおもてなしステーション「くるみる ふっさ」の認知状況



まちなかおもてなしステーション「くるみる ふっさ」を利用したことがあるか聞いたところ、「ある」(8.6%)が１割弱となっており、これと「ない」(56.8%)の２つを合わせた【知っている】(65.4%)が６割台半ばとなっている。一方、「知らない」（33.4%）は３割強となっている。（図表９－８）

前回の調査結果と比較すると、「ある」は5.5ポイント増加し、【知っている】は28.7ポイント増加している。（図表９－９）

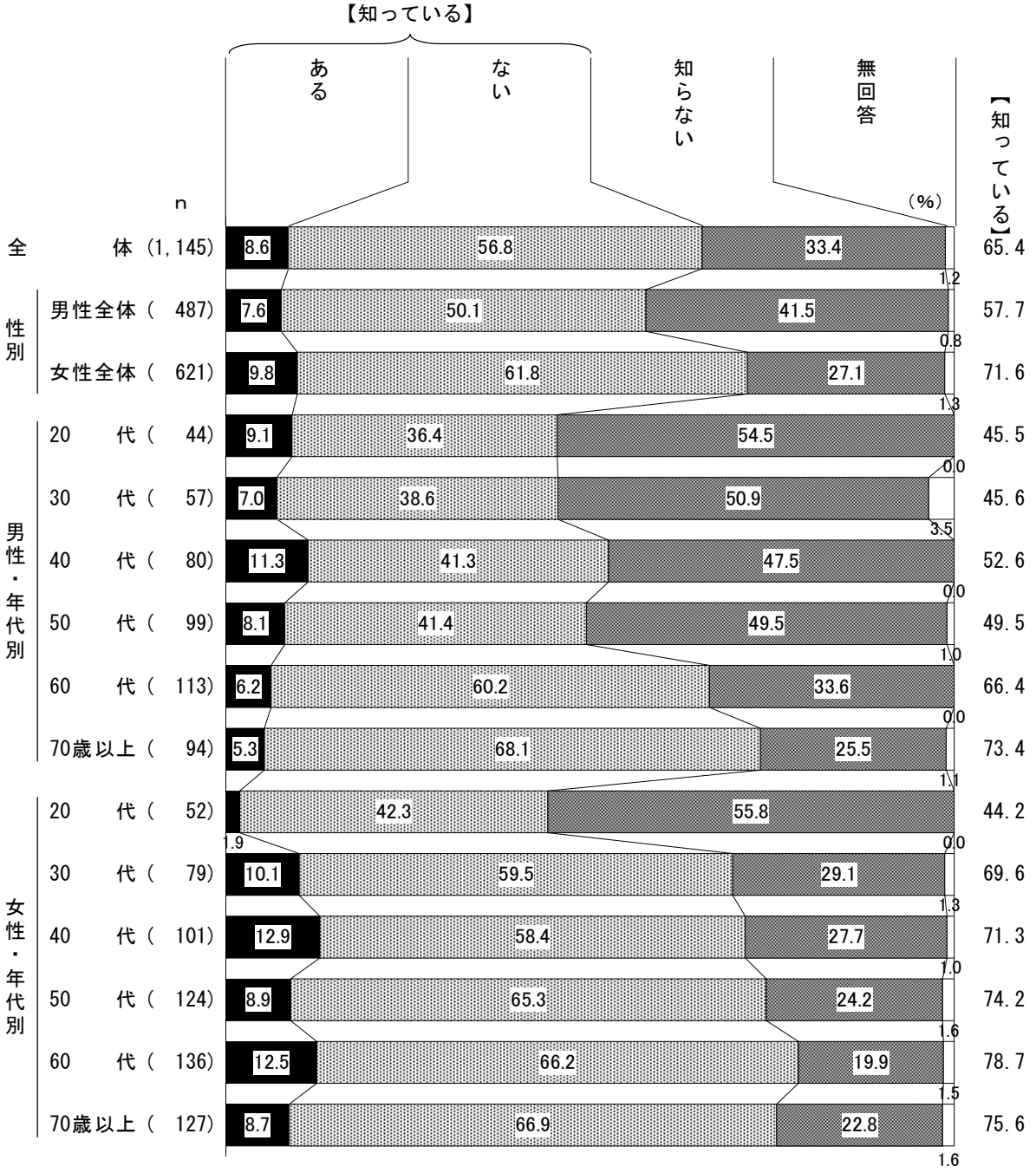
＜図表９－９＞まちなかおもてなしステーション「くるみる ふっさ」の認知状況／過年度推移



性別でみると、【知っている】は女性（71.6%）が男性（57.7%）より13.9ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は女性60代（78.7%）で８割弱、女性50代（74.2%）と女性70歳以上（75.6%）で７割台半ばと高くなっている。一方、「知らない」は男性20代（54.5%）と女性20代（55.8%）で５割台半ばと高くなっている。（図表９－10）

＜図表９－10＞まちなかおもてなしステーション「くるみる ふっさ」の認知状況
／性別、性・年代別



（４）まちなかおもてなしステーション「くるみる ふっさ」の利用目的

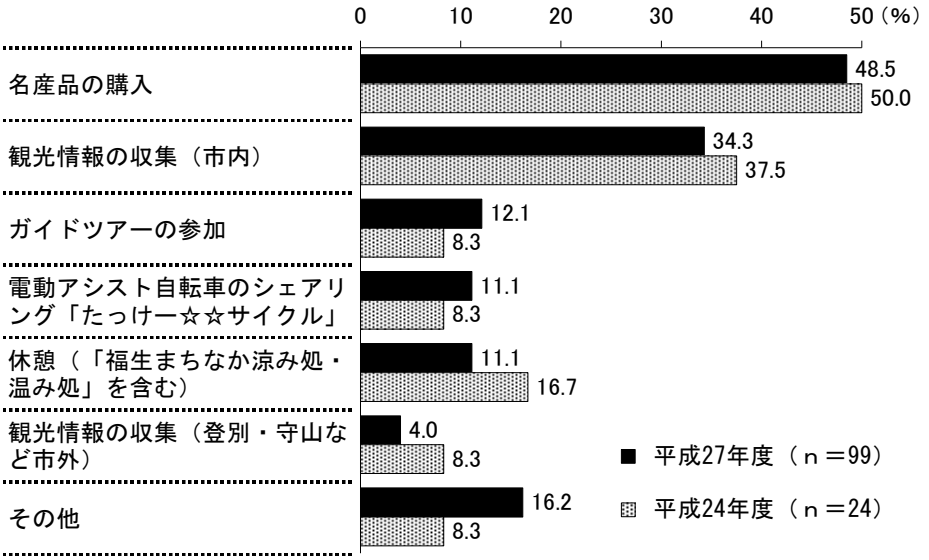
◇「名産品の購入」が５割弱

（問29で、「ある」を選んだ方に）

問29－１　利用した目的は何ですか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。

（〇はいくつでも）

＜図表９－11＞まちなかおもてなしステーション「くるみる ふっさ」の利用目的



（注）前回調査で選択肢に加えていた「電気自動車のシェアリング」（4.2%）と「らくらくお買い物代行サービス」（4.2%）は、今回調査では選択肢に加えていない。

まちなかおもてなしステーション「くるみる ふっさ」を利用したことが「ある」と答えた方に、利用した目的を聞いたところ、「名産品の購入」（48.5%）が５割弱で最も高く、次いで「観光情報の収集（市内）」（34.3%）、「ガイドツアーの参加」（12.1%）、「電動アシスト自転車のシェアリング『たっけー☆☆サイクル』」（11.1%）、「休憩（『福生まちなか涼み処・温み処』を含む）」（11.1%）となっている。（図表９－11）

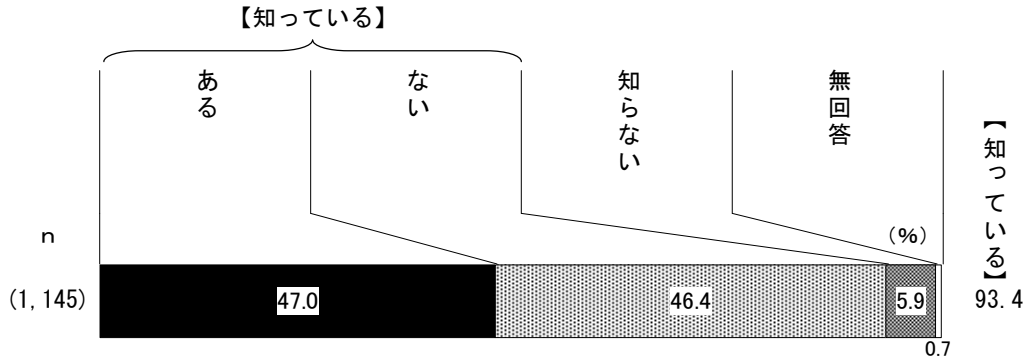
前回の調査結果との比較は、前回調査で利用したことが「ある」と答えた人が24人と少ないため参考にとどまるが、「名産品の購入」が第１位、「観光情報の収集（市内）」が第２位となっている傾向に変化はみられない。（図表９－11）

（５）福生ドッグの購買状況

◇食べたことが「ある」が５割弱

問30　福生ドッグを食べたことがありますか。（○は１つ）

＜図表９－12＞福生ドッグの購買状況

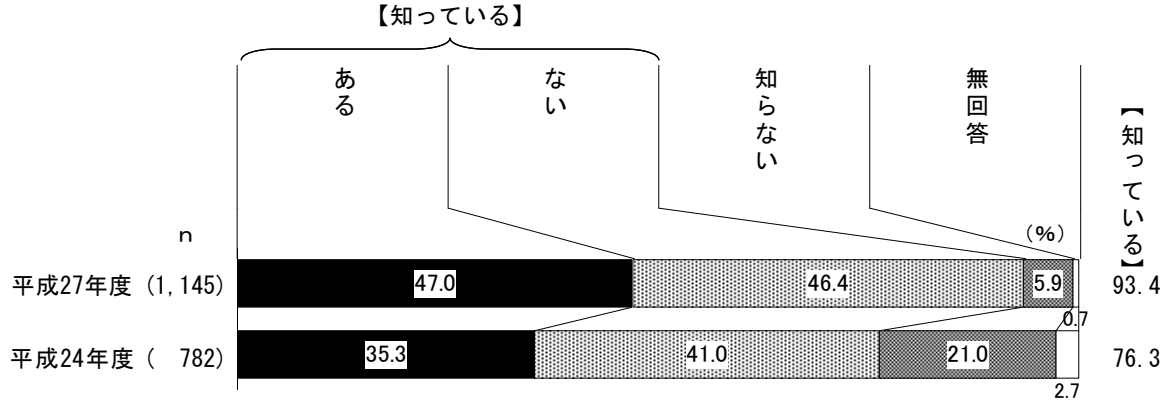


福生ドッグを食べたことがあるか聞いたところ、「ある」（47.0%）が５割弱となっており、これと「ない」（46.4%）の２つを合わせた【知っている】（93.4%）は９割強と高くなっている。

（図表９－12）

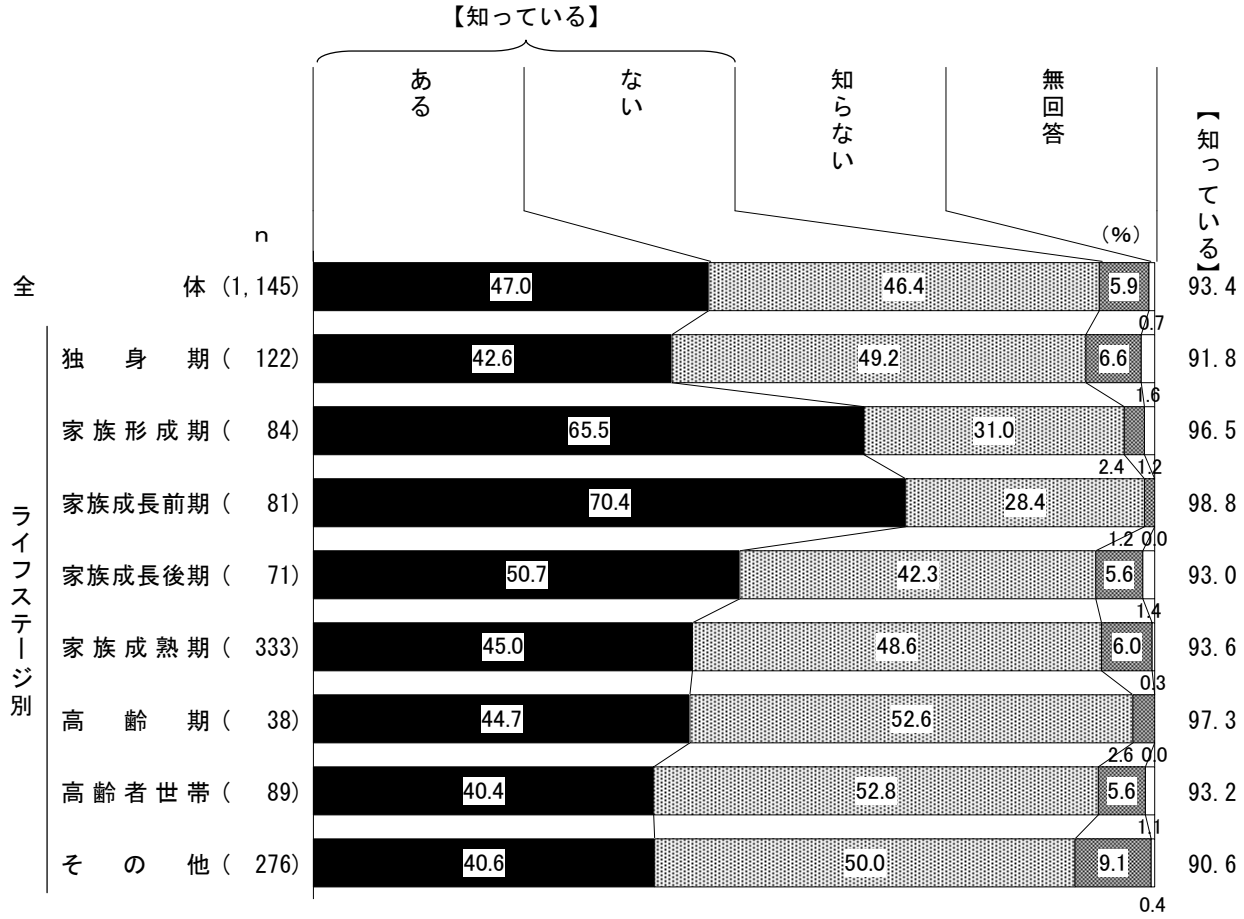
前回の調査結果と比較すると、「ある」は11.7ポイント増加し、【知っている】は17.1ポイント増加している。（図表９－13）

＜図表９－13＞福生ドッグの購買状況／過年度推移



ライフステージ別でみると、【知っている】はすべてのライフステージで９割台と高くなっている。食べたことが「ある」は家族成長前期（70.4%）で約７割、家族形成期（65.5%）で６割台半ばと高くなっている。(図表９－14)

＜図表９－14＞福生ドッグの購買状況／ライフステージ別

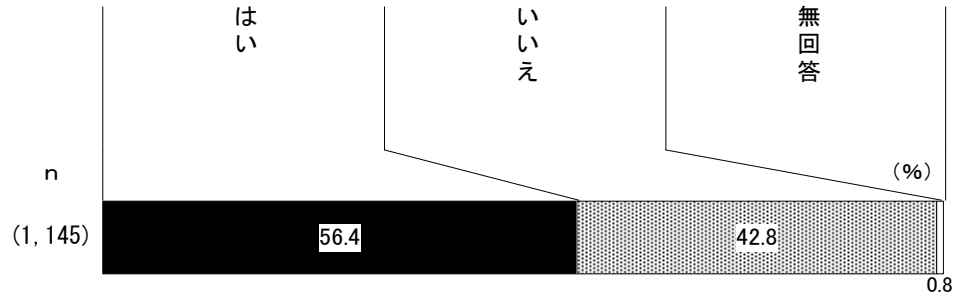


（６）福生ロケーションサービスの認知状況

◇「知っている」が６割弱

問31　ロケ支援について、福生市では福生ロケーションサービスを設置し、映画やＴＶドラマのロケ撮影の誘致に取り組んでいますがご存知ですか。（○は１つ）

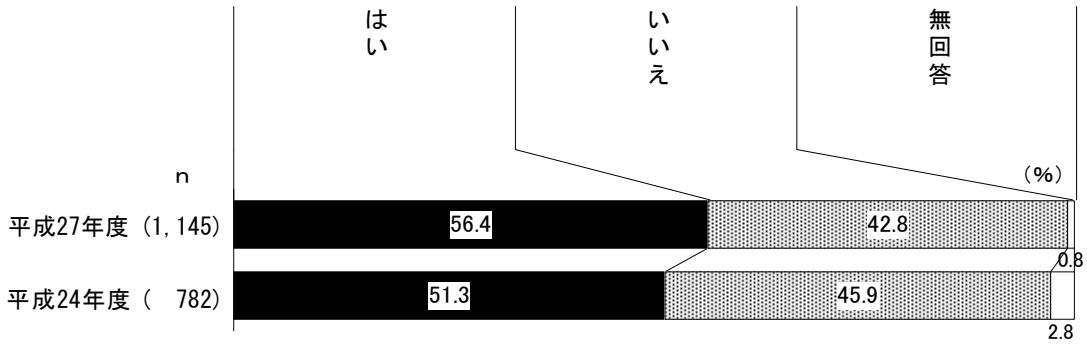
＜図表９－15＞福生ロケーションサービスの認知状況



福生市では福生ロケーションサービスを設置し、映画やＴＶドラマのロケ撮影の誘致に取り組んでいることを知っているか聞いたところ、「はい」（56.4%）が６割弱となっている。一方、「いいえ」（42.8%）は４割強となっている。（図表９－15）

前回の調査結果と比較すると、「はい」は5.1ポイント増加している。（図表９－16）

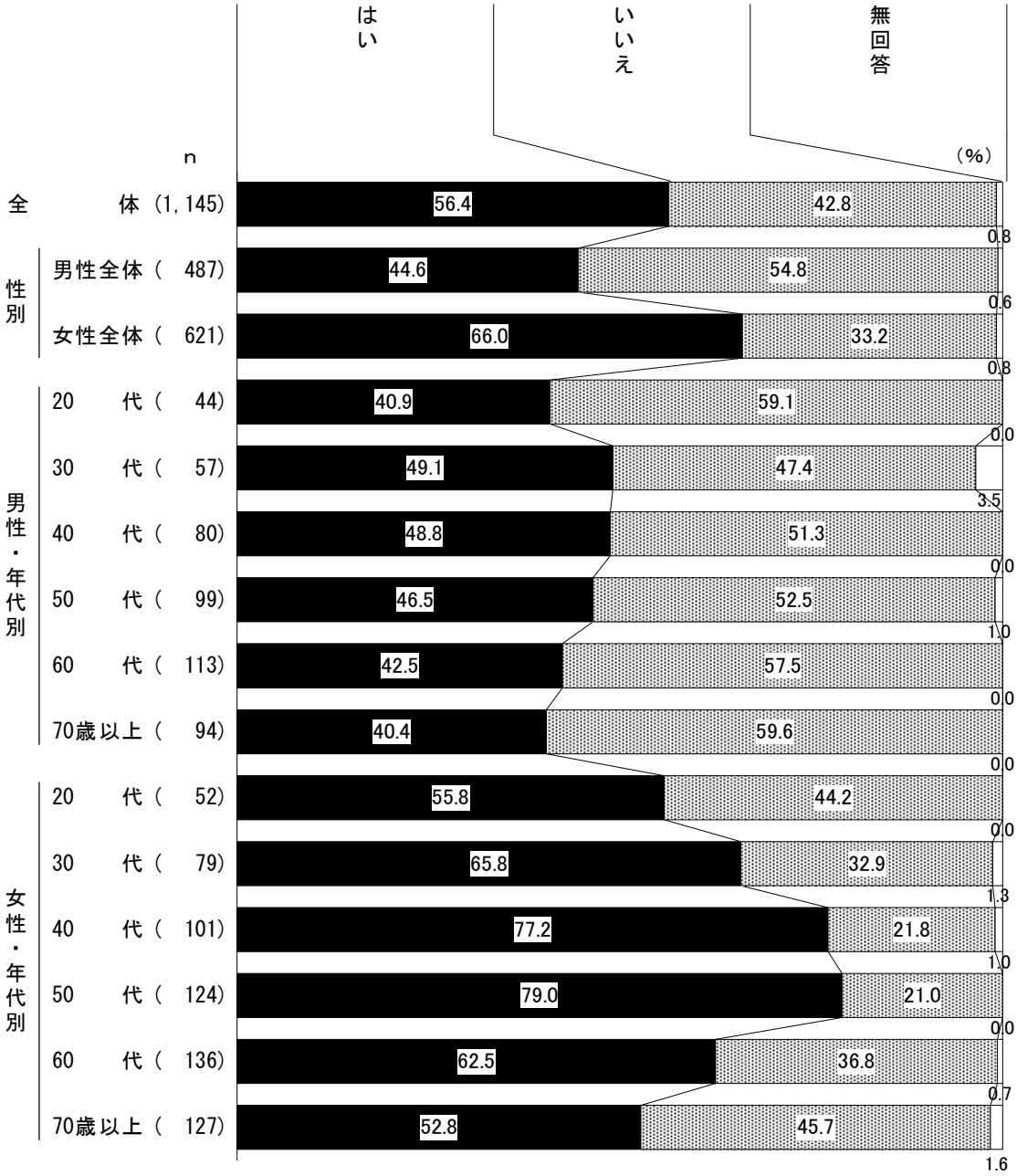
＜図表９－16＞福生ロケーションサービスの認知状況／過年度推移



性別でみると、「はい」は女性（66.0％）が男性（44.6％）より21.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「はい」は女性50代（79.0％）で約８割、女性40代（77.2％）で８割弱と高くなっている。一方、「いいえ」は男性20代（59.1％）と男性70歳以上（59.6％）で約６割と高くなっている。（図表９－17）

＜図表９－17＞福生ロケーションサービスの認知状況／性別、性・年代別



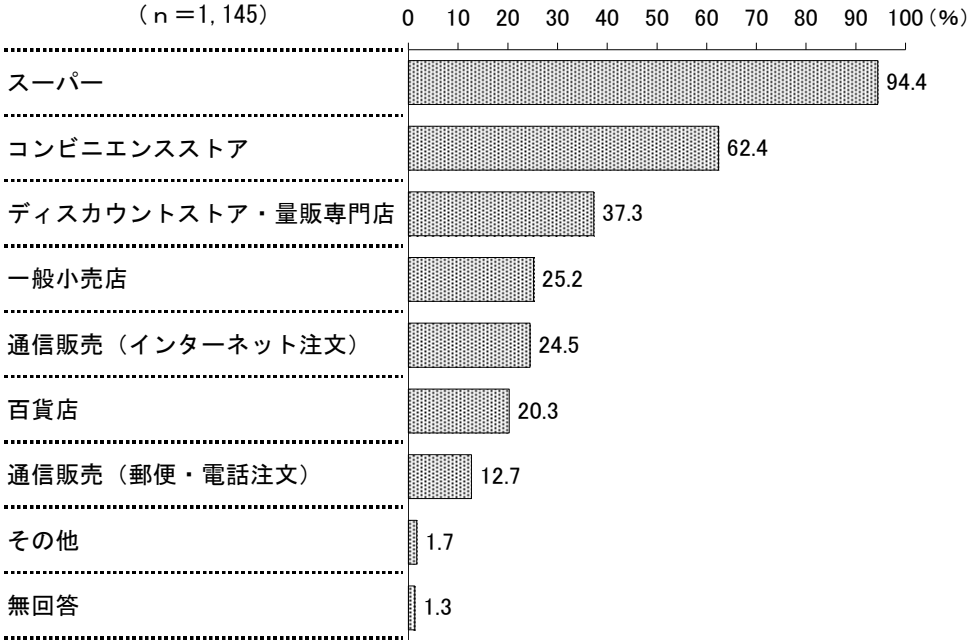
10. 消費生活

（１）日用品・食料品の購入店舗

◇「スーパー」が９割台半ば

問32　日用品・食料品のお買い物についてお伺いします。どのような店舗で買い物をしますか。
次の中からあてはまるもの全て選んでください。（○はいくつでも）

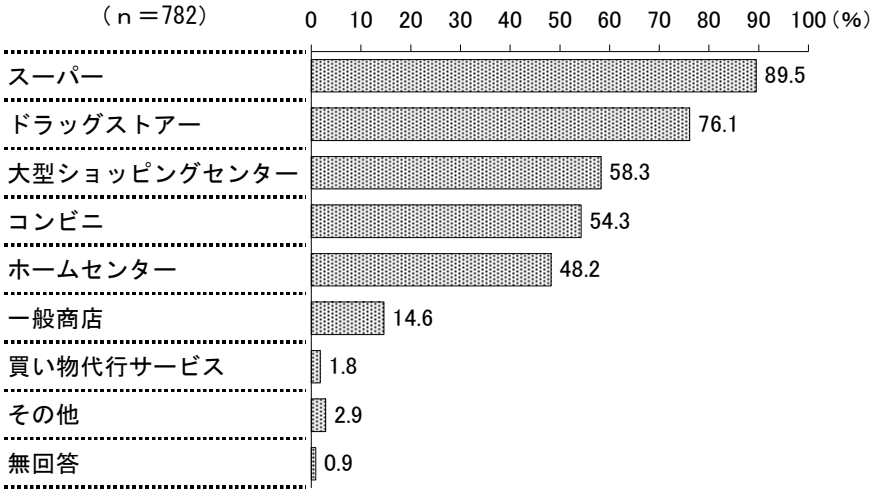
＜図表10－１＞日用品・食料品の購入店舗



日用品・食料品の購入店舗を聞いたところ、「スーパー」（94.4%）が９割台半ばで最も高く、次いで「コンビニエンスストア」（62.4%）、「ディスカウントストア・量販専門店」（37.3%）、「一般小売店」（25.2%）、「通信販売（インターネット注文）」（24.5%）となっている。（図表10－１）

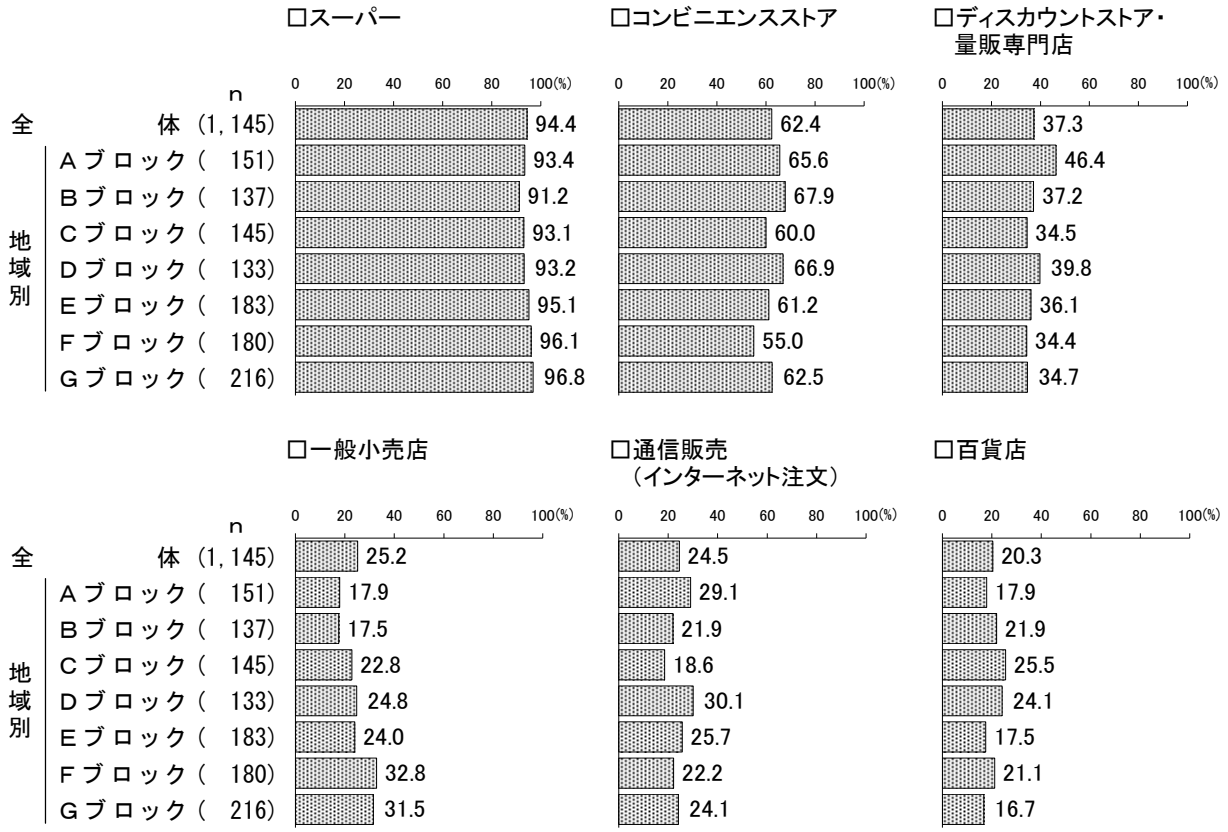
前回の調査は、選択肢が大きく異なるため、結果を参考に掲載する。（図表10－２）

＜図表10－２＞日用品・食料品の購入店舗／前回の調査結果



上位６項目について地域別でみると、「ディスカウントストア・量販専門店」はＡブロック（46.4%）で５割弱と高くなっている。「一般小売店」はＦブロック（32.8%）とＧブロック（31.5%）で３割強と高くなっている。（図表10－３）

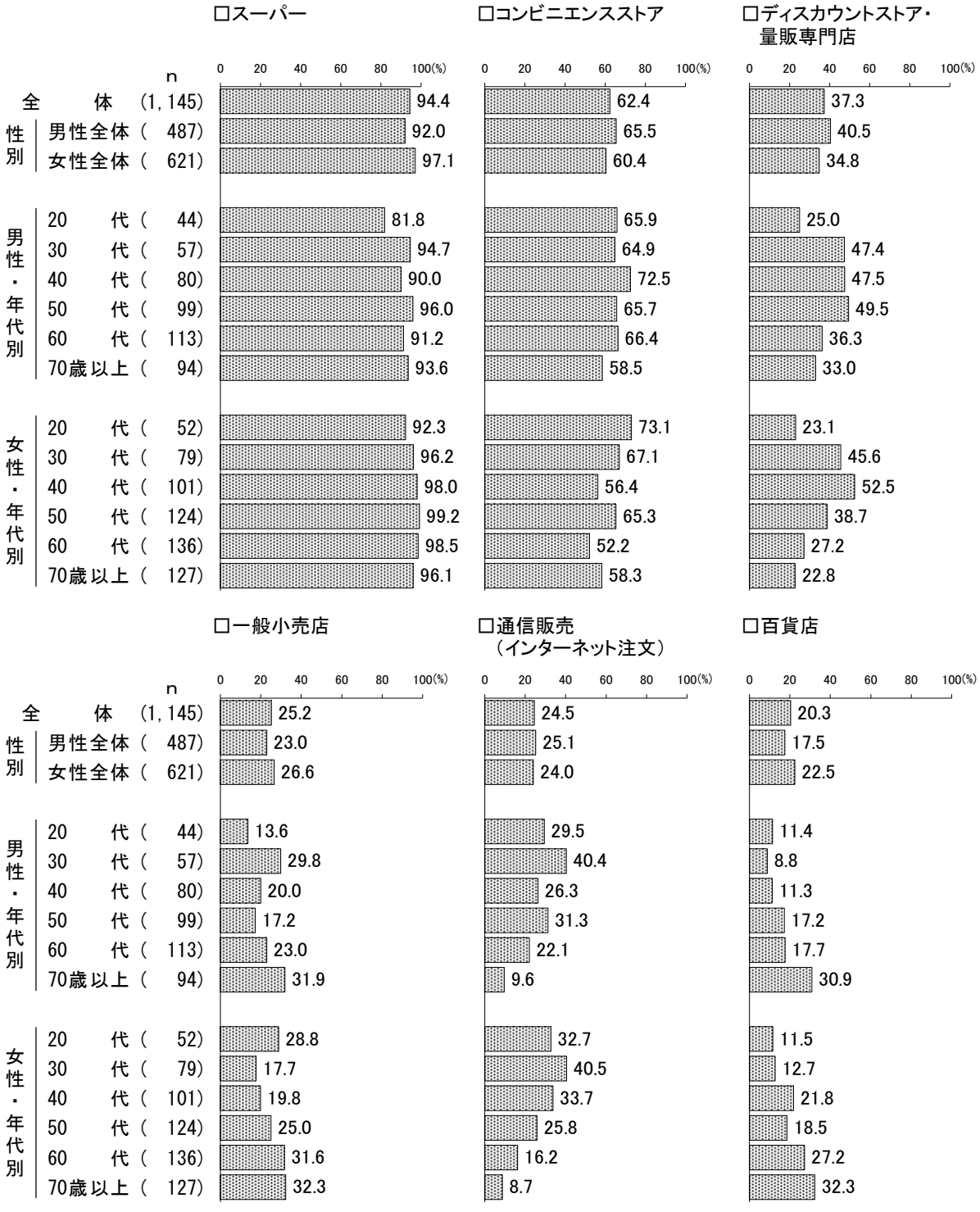
＜図表10－３＞日用品・食料品の購入店舗／地域別（上位６項目）



上位６項目について性別でみると、「ディスカウントストア・量販専門店」は男性（40.5%）が女性（34.8%）より5.7ポイント高く、「コンビニエンスストア」は男性（65.5%）が女性（60.4%）より5.1ポイント高くなっている。「スーパー」は女性（97.1%）が男性（92.0%）より5.1ポイント高く、「百貨店」は女性（22.5%）が男性（17.5%）より5.0ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「コンビニエンスストア」は男性40代（72.5%）と女性20代（73.1%）で７割強と高くなっている。「ディスカウントストア・量販専門店」は女性40代（52.5%）で５割強と高くなっている。「通信販売（インターネット注文）」は男性30代（40.4%）と女性30代（40.5%）で約４割と高くなっている。（図表10－４）

＜図表10－４＞日用品・食料品の購入店舗／性別、性・年代別（上位６項目）

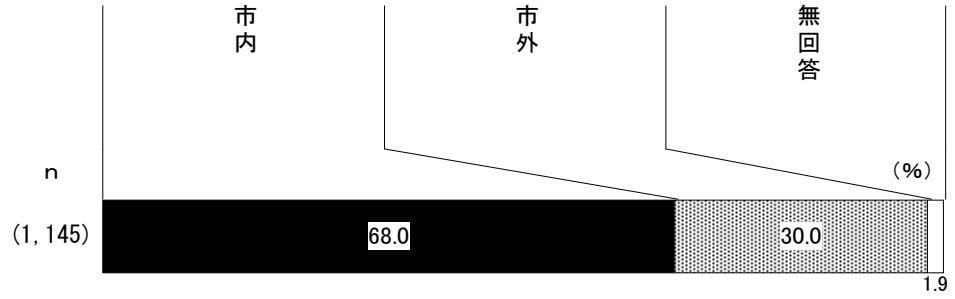


（２）日用品・食料品の購入店舗所在地

◇「市内」が７割弱

問33　一番良く行くお店は市内・市外どちらにありますか。（○は１つ）

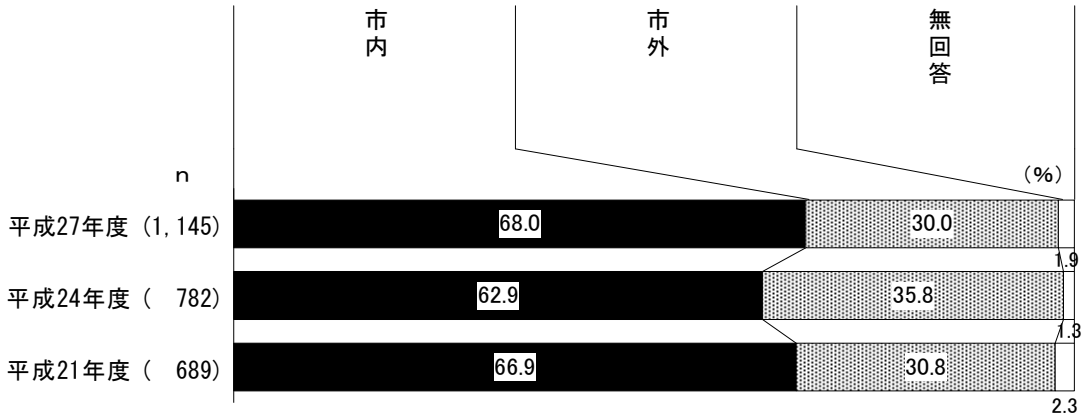
＜図表10－５＞日用品・食料品の購入店舗所在地



一番良く行くお店は市内・市外どちらにあるか聞いたところ、「市内」（68.0%）が７割弱と高くなっている。一方、「市外」（30.0%）は３割となっている。（図表10－５）

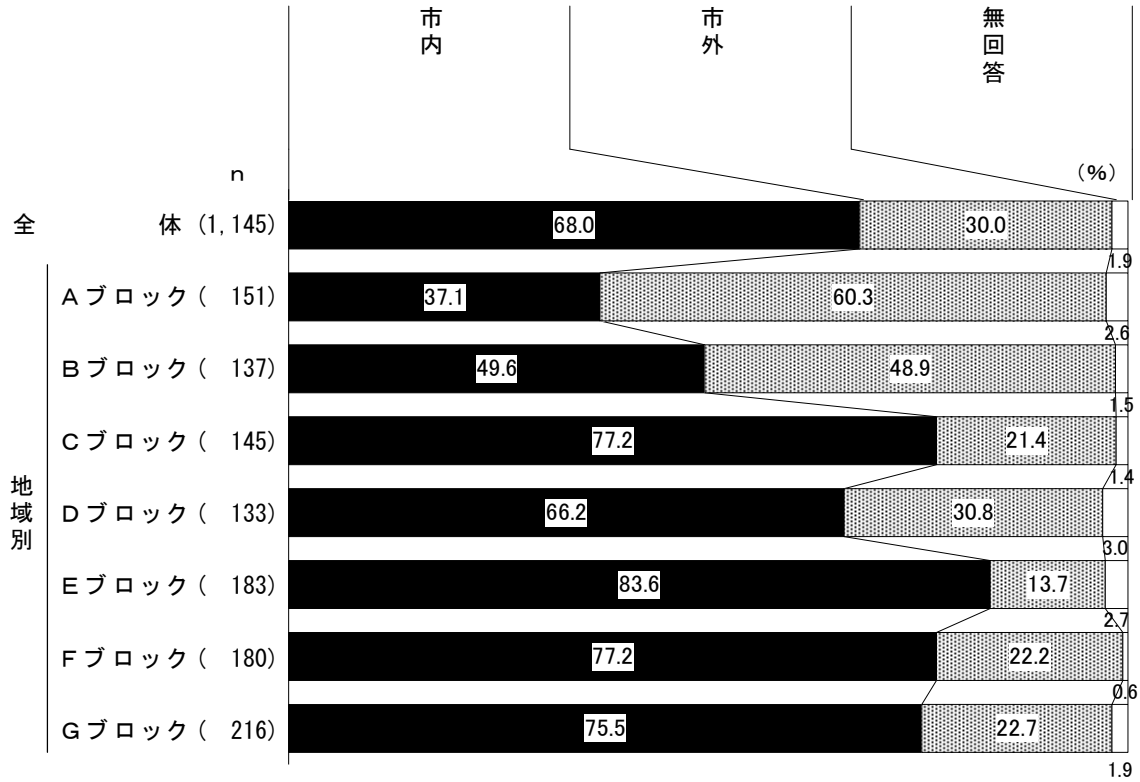
過年度の調査結果の推移をみると、「市内」は平成24年度に比べて5.1ポイント増加している。（図表10－６）

＜図表10－６＞日用品・食料品の購入店舗所在地／過年度推移



地域別でみると、「市内」はＥブロック（83.6%）で８割強、Ｃブロック（77.2%）とＦブロック（77.2%）で８割弱と高くなっている。一方、「市外」はＡブロック（60.3%）で約６割、Ｂブロック（48.9%）で５割弱と高くなっている。（図表10－７）

＜図表10－７＞日用品・食料品の購入店舗所在地／地域別

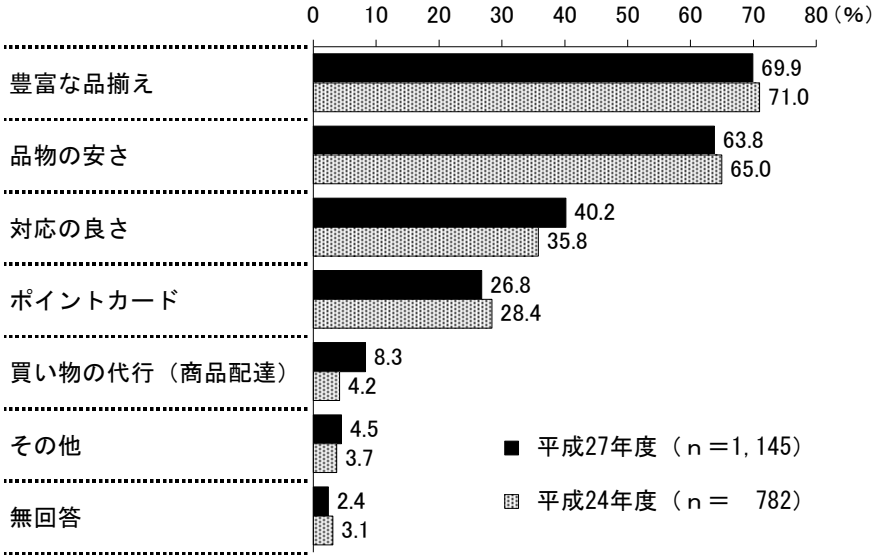


（３）市内の商店に希望するサービス

◇「豊富な品揃え」が約７割

問34　市内の商店にどのようなサービスを望みますか。次の中からあてはまるものを全て選んでください。（〇はいくつでも）

＜図表10－８＞市内の商店に希望するサービス



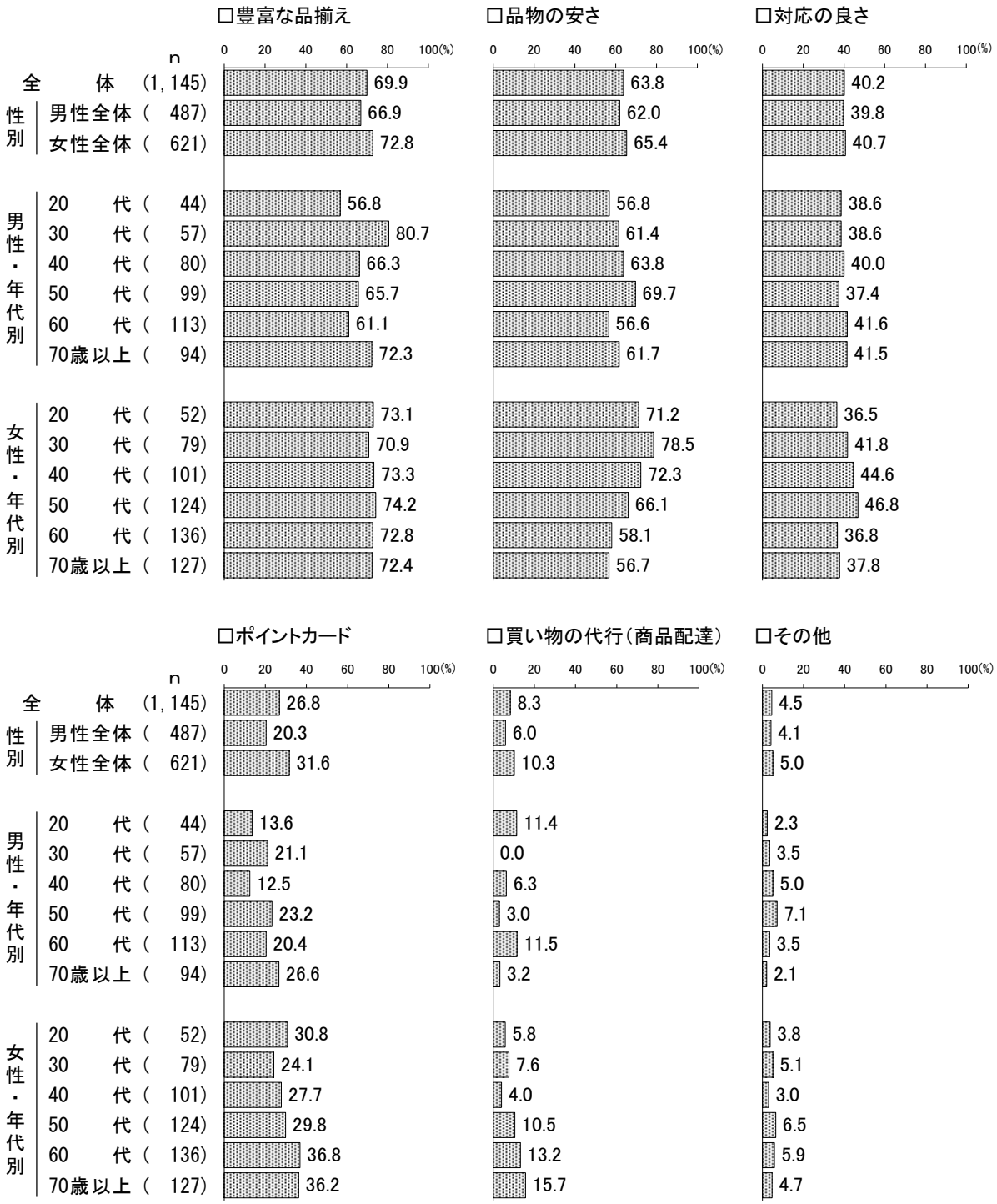
市内の商店に希望するサービスを聞いたところ、「豊富な品揃え」(69.9%)が約７割で最も高く、次いで「品物の安さ」(63.8%)、「対応の良さ」(40.2%)、「ポイントカード」(26.8%)となっている。(図表10－８)

前回の調査結果と比較すると、「対応の良さ」は4.4ポイント増加し、「買い物の代行（商品配達)」は4.1ポイント増加している。(図表10－８)

性別でみると、「ポイントカード」は女性（31.6%）が男性（20.3%）より11.3ポイント高く、「豊富な品揃え」は女性（72.8%）が男性（66.9%）より5.9ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「豊富な品揃え」は男性30代（80.7%）で約８割と高くなっている。「品物の安さ」は女性30代（78.5%）で８割弱と高くなっている。「対応の良さ」は女性50代（46.8%）で５割弱と高くなっている。「ポイントカード」は女性60代（36.8%）と女性70歳以上（36.2%）で４割弱と高くなっている。（図表10－９）

＜図表10－９＞市内の商店に希望するサービス／性別、性・年代別

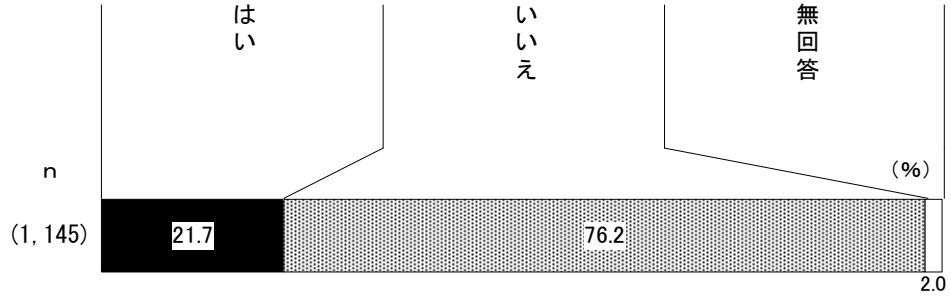


（４）福生市の消費者相談室の認知状況

◇「知っている」が２割強

問35　福生市の消費者相談室を知っていますか。（○は１つ）

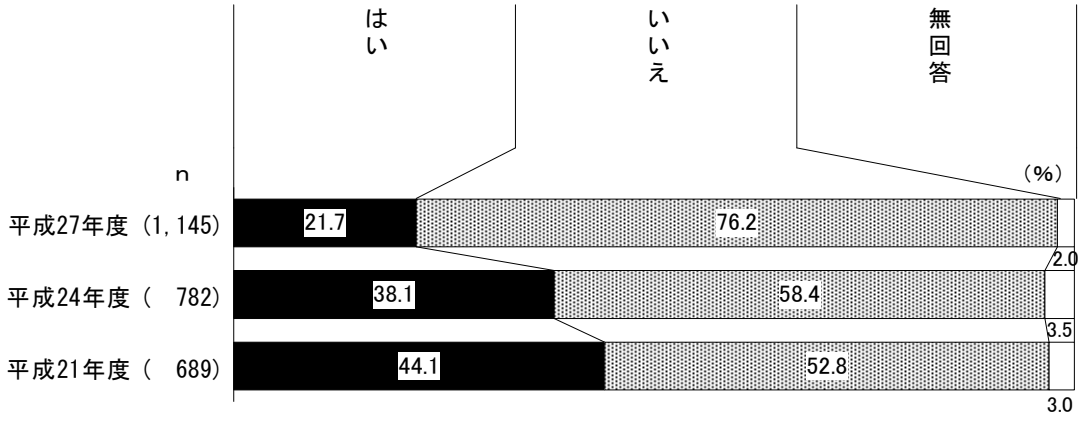
＜図表10－10＞福生市の消費者相談室の認知状況



福生市の消費者相談室を知っているか聞いたところ、「はい」（21.7％）が２割強となっている。一方、「いいえ」（76.2％）は８割弱となっている。（図表10－10）

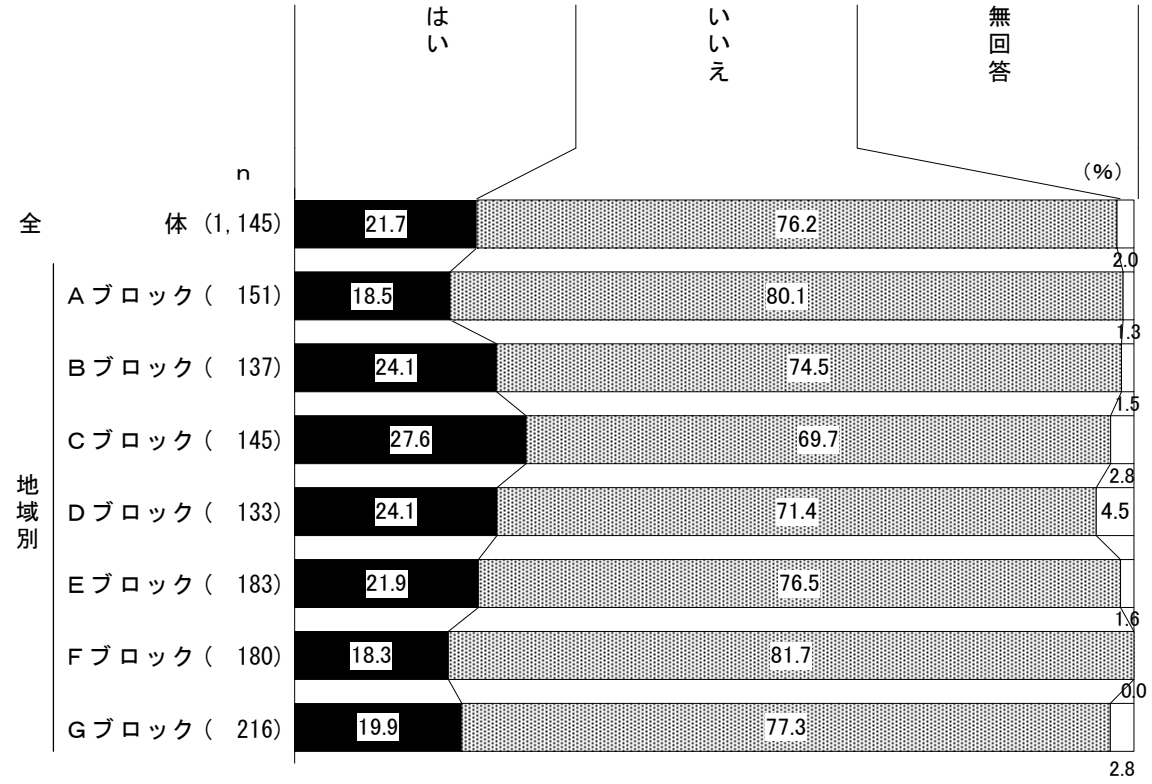
過年度の調査結果との比較については、平成24年度以前の調査では「消費者相談室を知っていますか。」の文言で質問しており、今回の調査のように「福生市の消費者相談室を知っていますか。」という文言で質問していないため、参考に掲載する。（図表10－11）

＜図表10－11＞福生市の消費者相談室の認知状況／過年度推移



地域別でみると、「はい」はＣブロック（27.6％）で３割弱と高くなっている。一方、「いいえ」はＦブロック（81.7％）で８割強と高くなっている。（図表10－12）

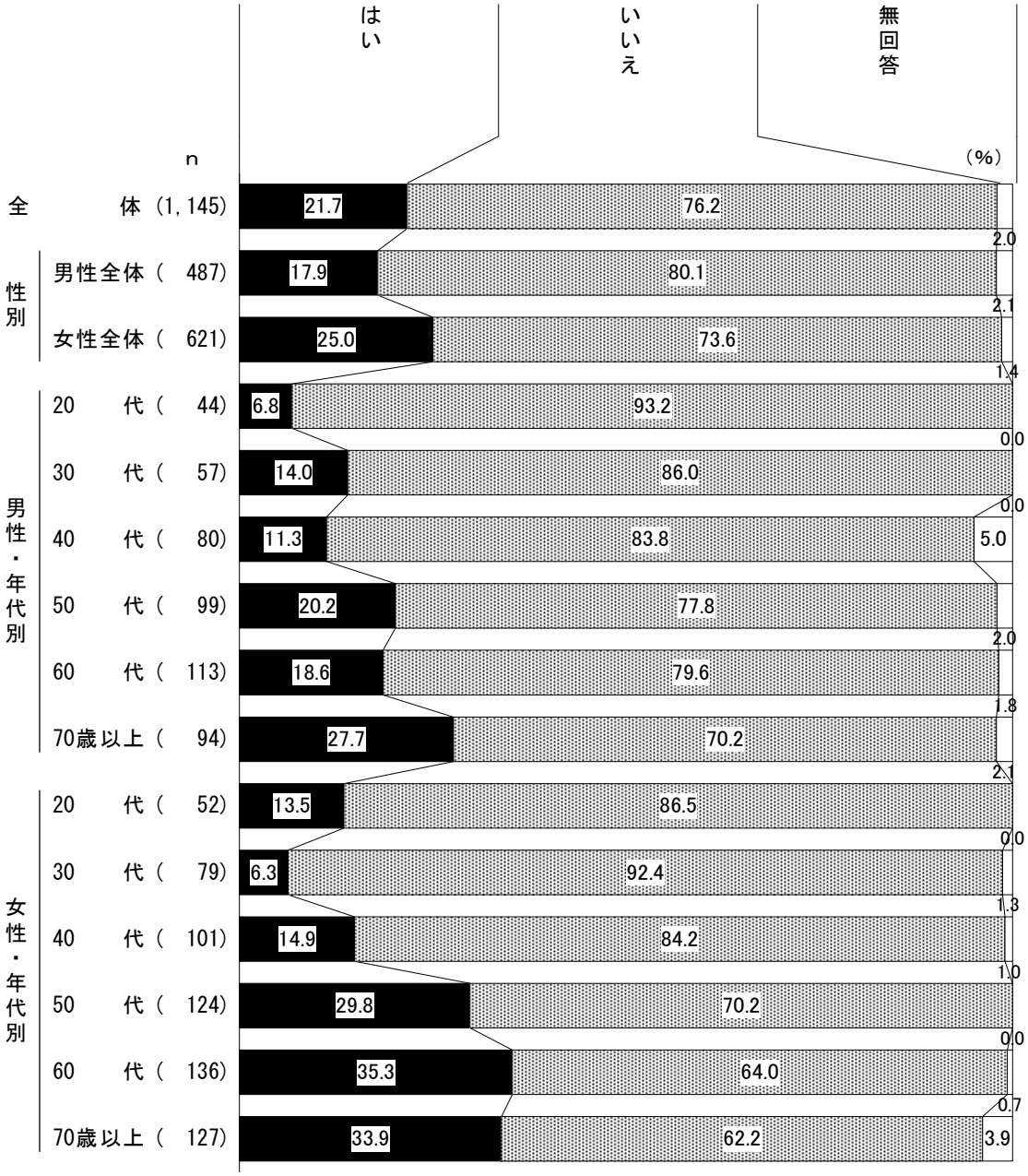
＜図表10－12＞福生市の消費者相談室の認知状況／地域別



性別でみると、「はい」は女性（25.0%）が男性（17.9%）より7.1ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「はい」は女性60代（35.3%）で３割台半ば、女性70歳以上（33.9%）で３割強と高くなっている。一方、「いいえ」は男性20代（93.2%）と女性30代（92.4%）で９割強と高くなっている。(図表10－13)

＜図表10－13＞福生市の消費者相談室の認知状況／性別、性・年代別

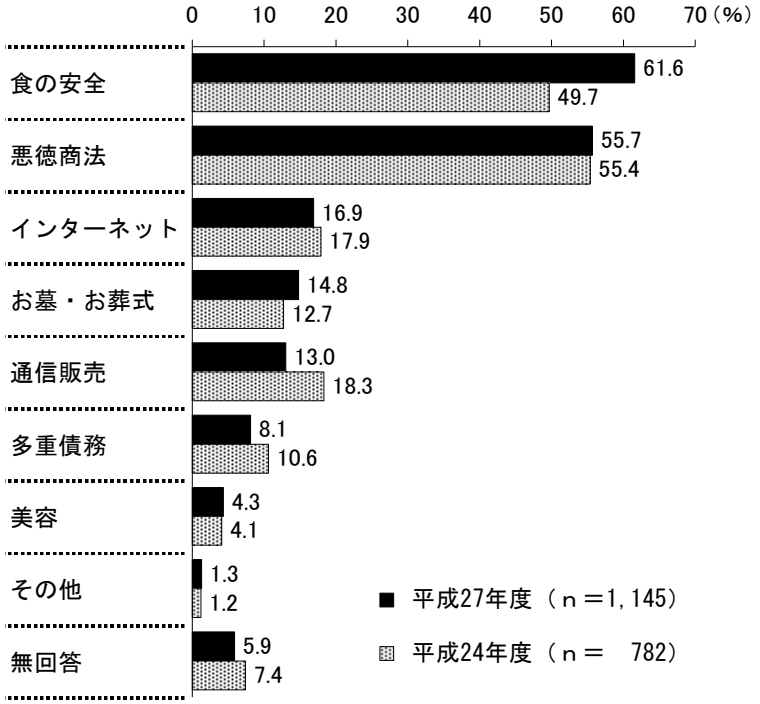


（５）消費者問題についての関心事

◇「食の安全」が６割強

問36　消費者問題でどのようなテーマに関心がありますか。次の中からあてはまるもの全て選んでください。（○はいくつでも）

＜図表10－14＞消費者問題についての関心事



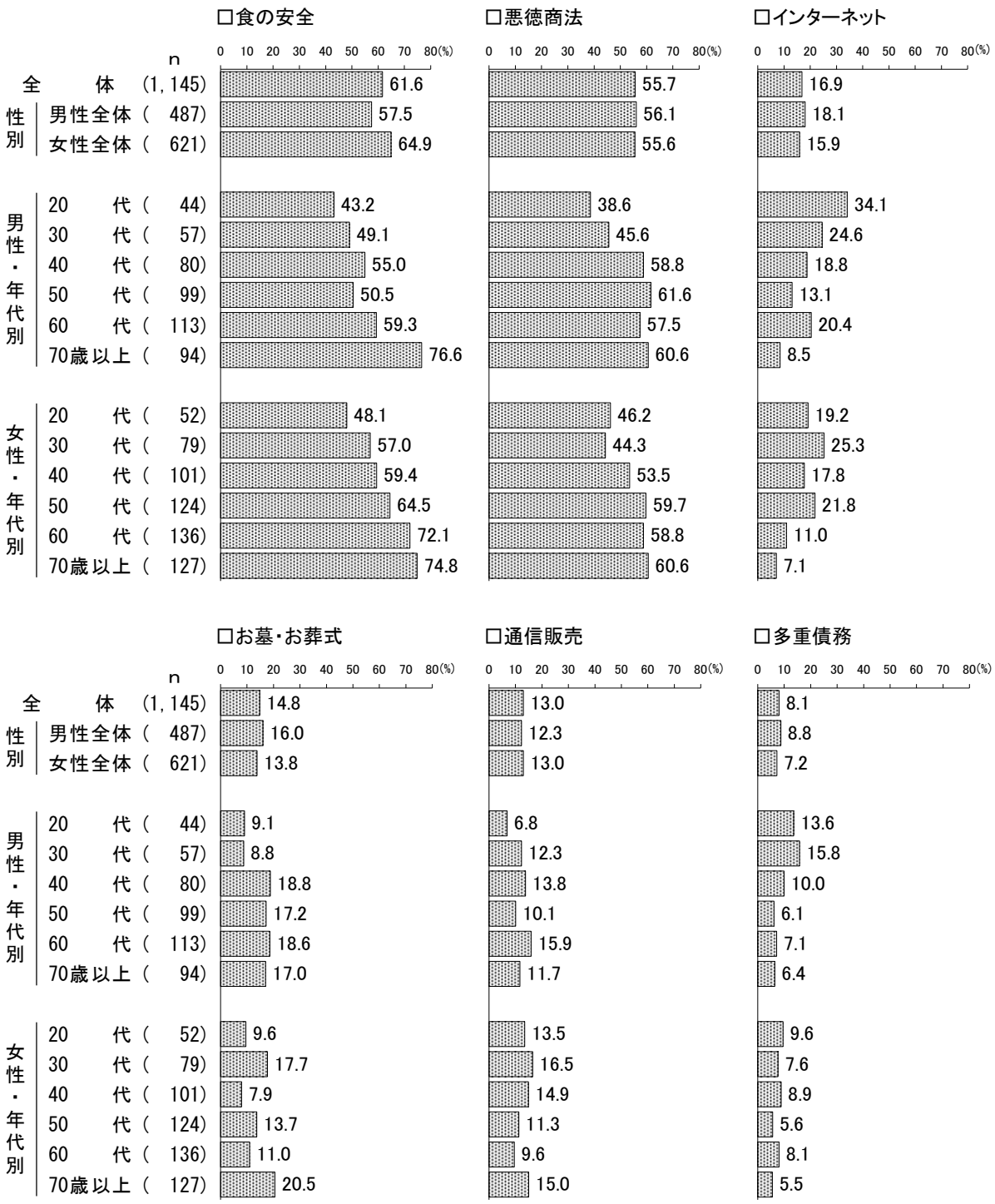
消費者問題についての関心事を聞いたところ、「食の安全」（61.6%）が６割強で最も高く、次いで「悪徳商法」（55.7%）、「インターネット」（16.9%）、「お墓・お葬式」（14.8%）、「通信販売」（13.0%）となっている。（図表10－14）

前回の調査結果と比較すると、「食の安全」は11.9ポイント増加している。一方、「通信販売」は5.3ポイント減少している。（図表10－14）

上位６項目について性別でみると、「食の安全」は女性（64.9%）が男性（57.5%）より7.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「食の安全」は男性70歳以上（76.6%）で８割弱、女性70歳以上（74.8%）で７割台半ばと高くなっている。「インターネット」は男性20代（34.1%）で３割台半ばと高くなっている。（図表10－15）

＜図表10－15＞消費者問題についての関心事／性別、性・年代別（上位６項目）



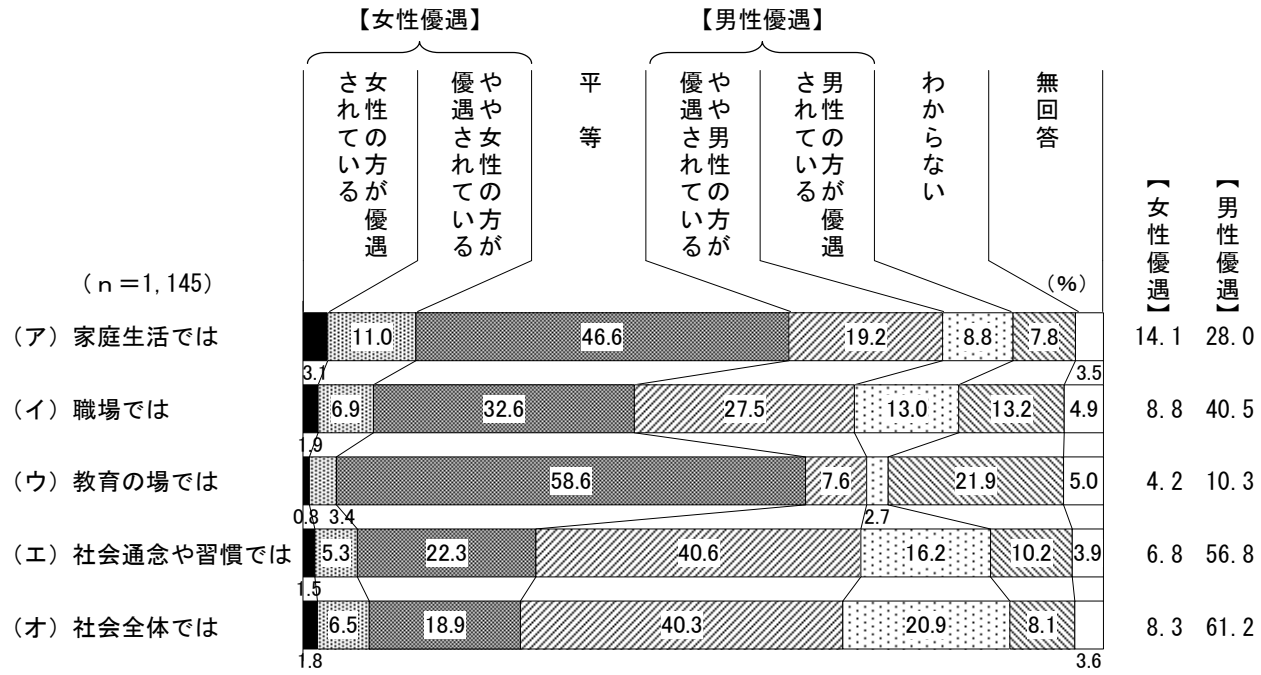
11. 男女共同参画

（１）男女の地位

◇「平等」は「教育の場では」が６割弱

問37　あなたの身近なそれぞれの場において、男女の地位は平等になっていると思いますか。
その場にいない場合でも、周りを見て最も近いと感じるものをお選びください。
（ア）から（オ）までの各項目について、それぞれ１つずつ選んで下の表の番号に○をつけてください。（○はそれぞれ１つずつ）

＜図表11－１＞男女の地位



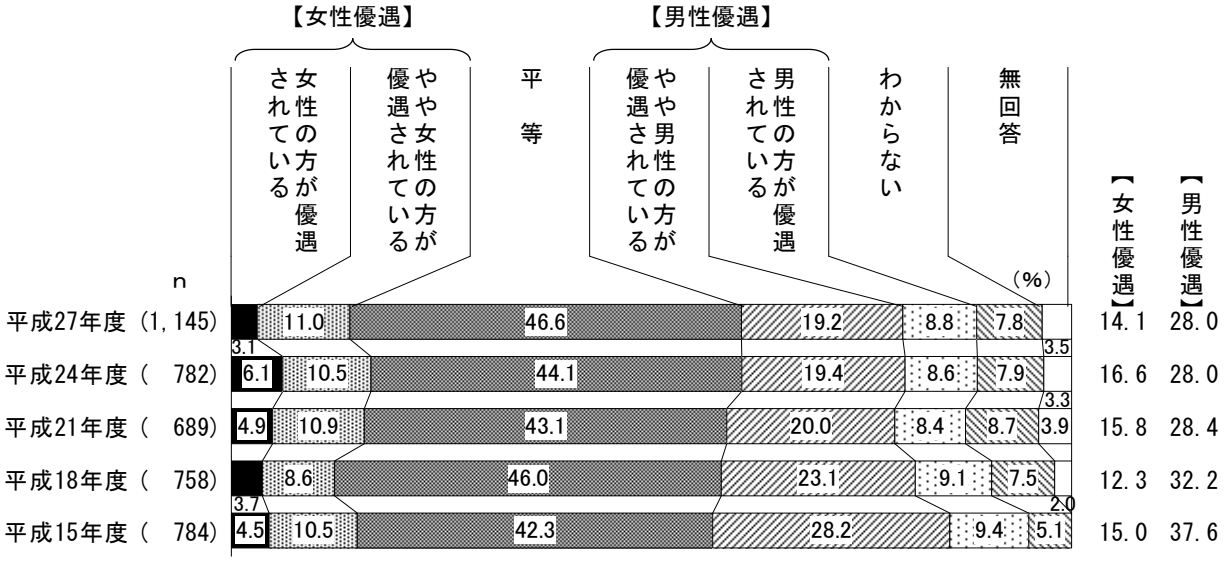
男女の地位は平等になっていると思うか、５項目に分けて聞いたところ、「平等」は、（ウ）教育の場では（58.6％）が６割弱で最も高く、次いで（ア）家庭生活では（46.6％）、（イ）職場では（32.6％）となっている。

「女性の方が優遇されている」と「やや女性の方が優遇されている」の２つを合わせた【女性優遇】は、（ア）家庭生活では（14.1％）が１割台半ばとなっている。

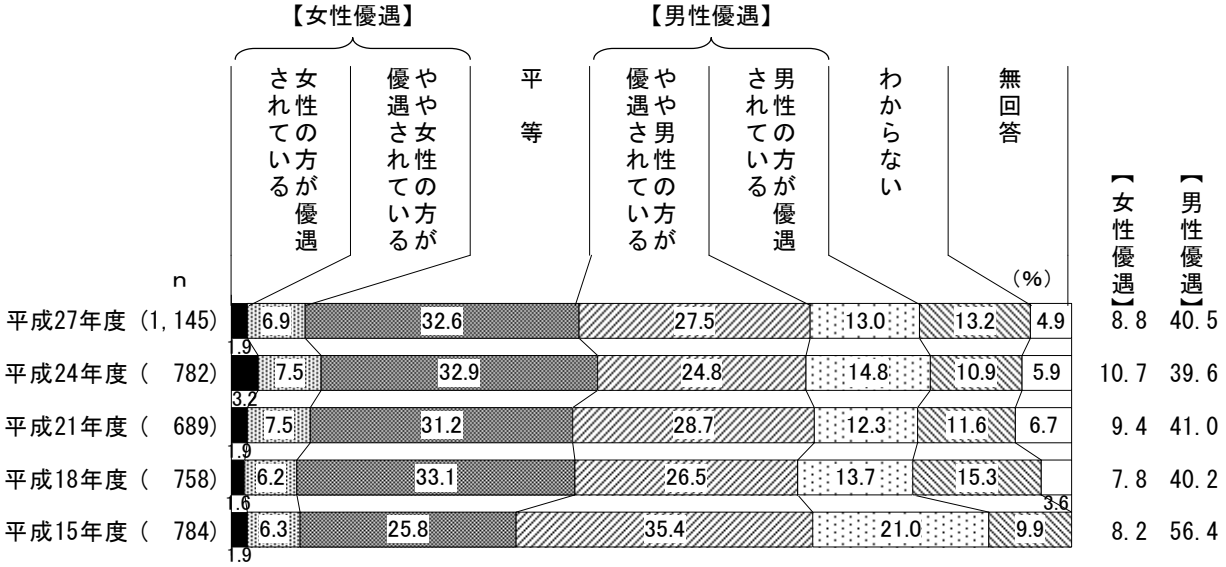
「やや男性の方が優遇されている」と「男性の方が優遇されている」の２つを合わせた【男性優遇】は、（オ）社会全体では（61.2％）が６割強で最も高く、次いで（エ）社会通念や習慣では（56.8％）、（イ）職場では（40.5％）となっている。（図表11－１）

過年度の調査結果の推移をみると、（ア）家庭生活では、（イ）職場では、（ウ）教育の場ではの３項目は平成21年度以降大きな傾向の変化はみられない。（エ）社会通念や習慣ではについては「平等」が平成24年度に比べて4.2ポイント減少し、【男性優遇】が平成24年度に比べて6.0ポイント増加している。（オ）社会全体ではについては「平等」が平成24年度に比べて3.0ポイント減少し、【男性優遇】が平成24年度に比べて6.0ポイント増加している。（図表11－２～11－６）

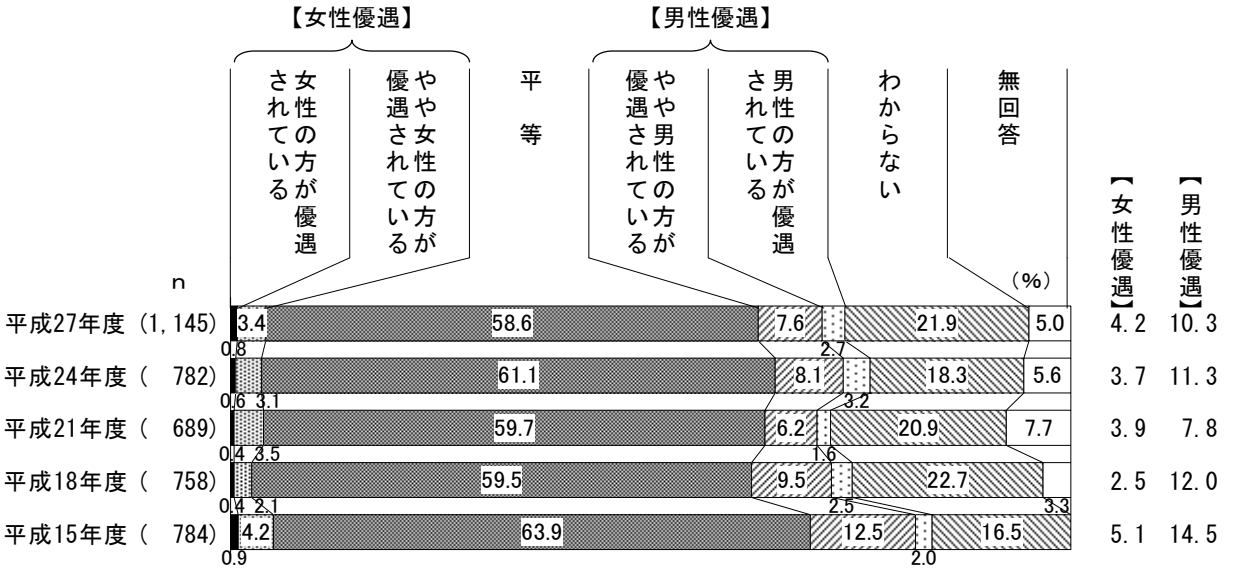
＜図表11－２＞男女の地位（ア）家庭生活では／過年度推移



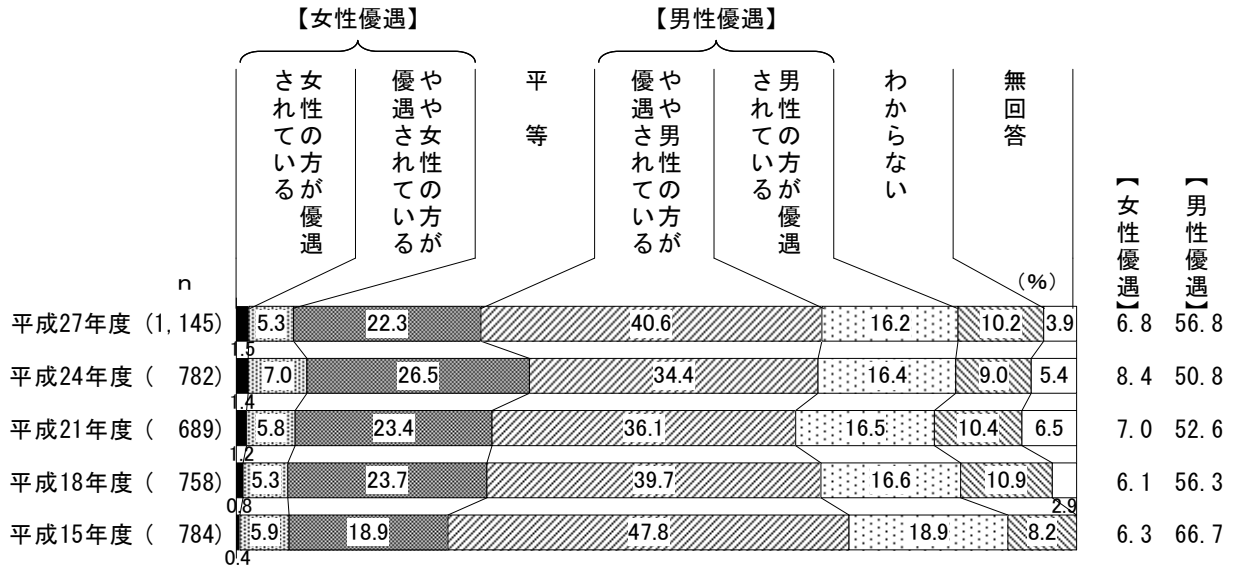
＜図表11－３＞男女の地位（イ）職場では／過年度推移



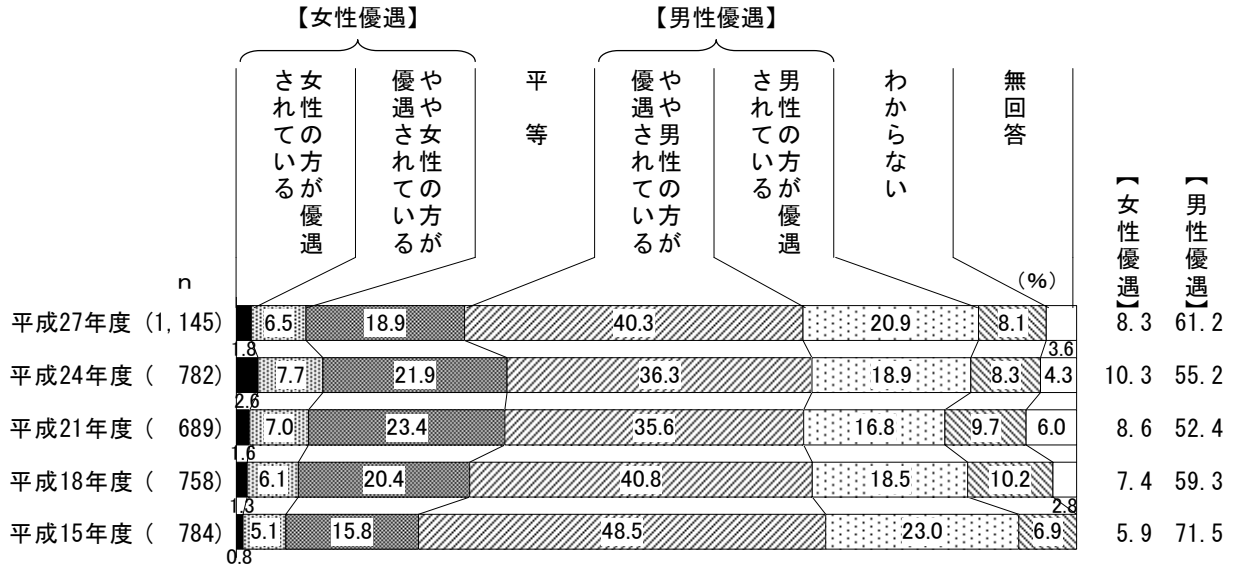
＜図表11－４＞男女の地位（ウ）教育の場では／過年度推移



＜図表11－５＞男女の地位（エ）社会通念や習慣では／過年度推移



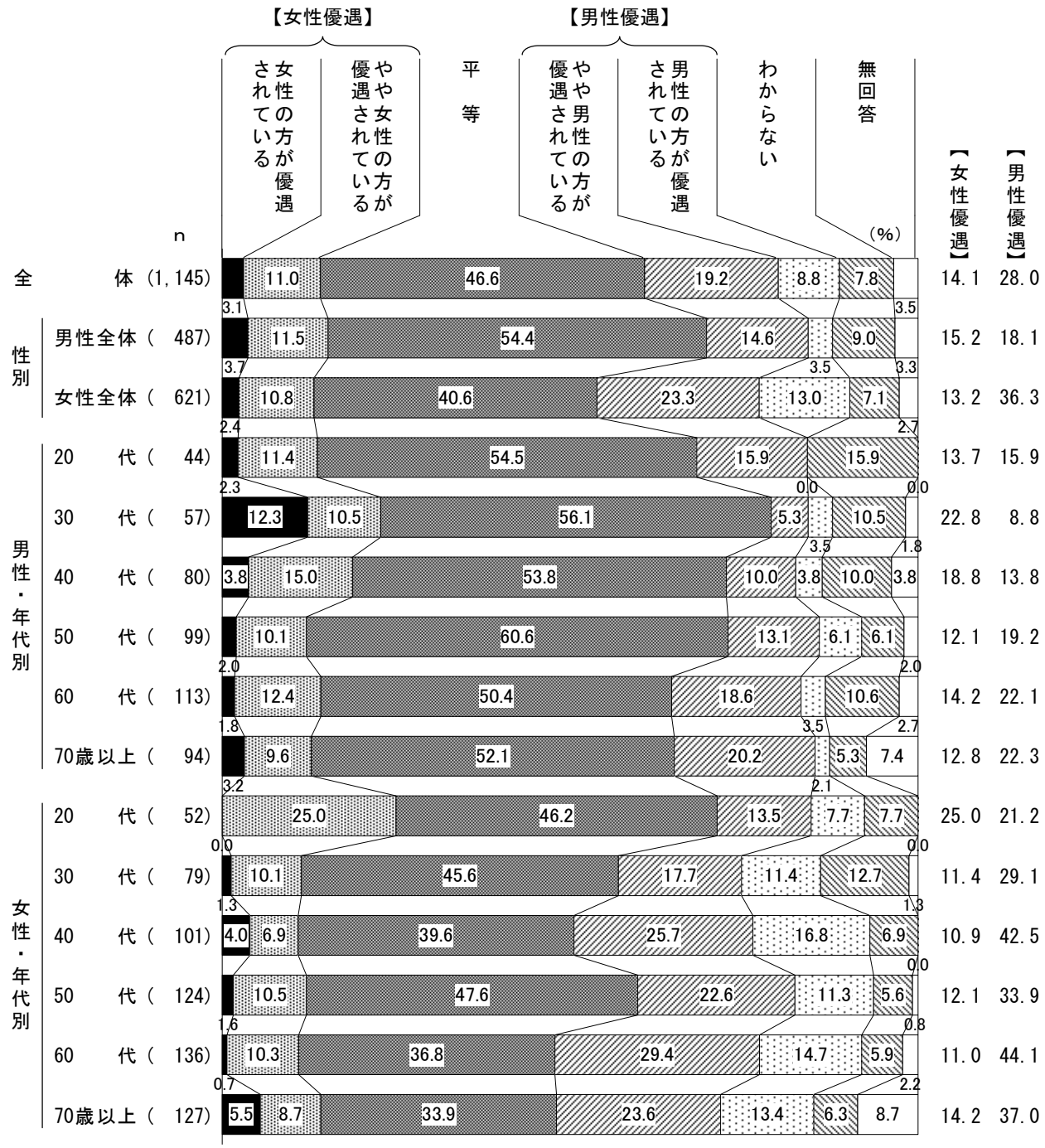
＜図表11－６＞男女の地位（オ）社会全体では／過年度推移



（ア）家庭生活ではについて性別でみると、「平等」は男性（54.4%）が女性（40.6%）より13.8ポイント高くなっている。【男性優遇】は女性（36.3%）が男性（18.1%）より18.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「平等」は男性50代（60.6%）で約６割と高くなっている。【男性優遇】は女性60代（44.1%）で４割台半ば、女性40代（42.5%）で４割強と高くなっている。（図表11－７）

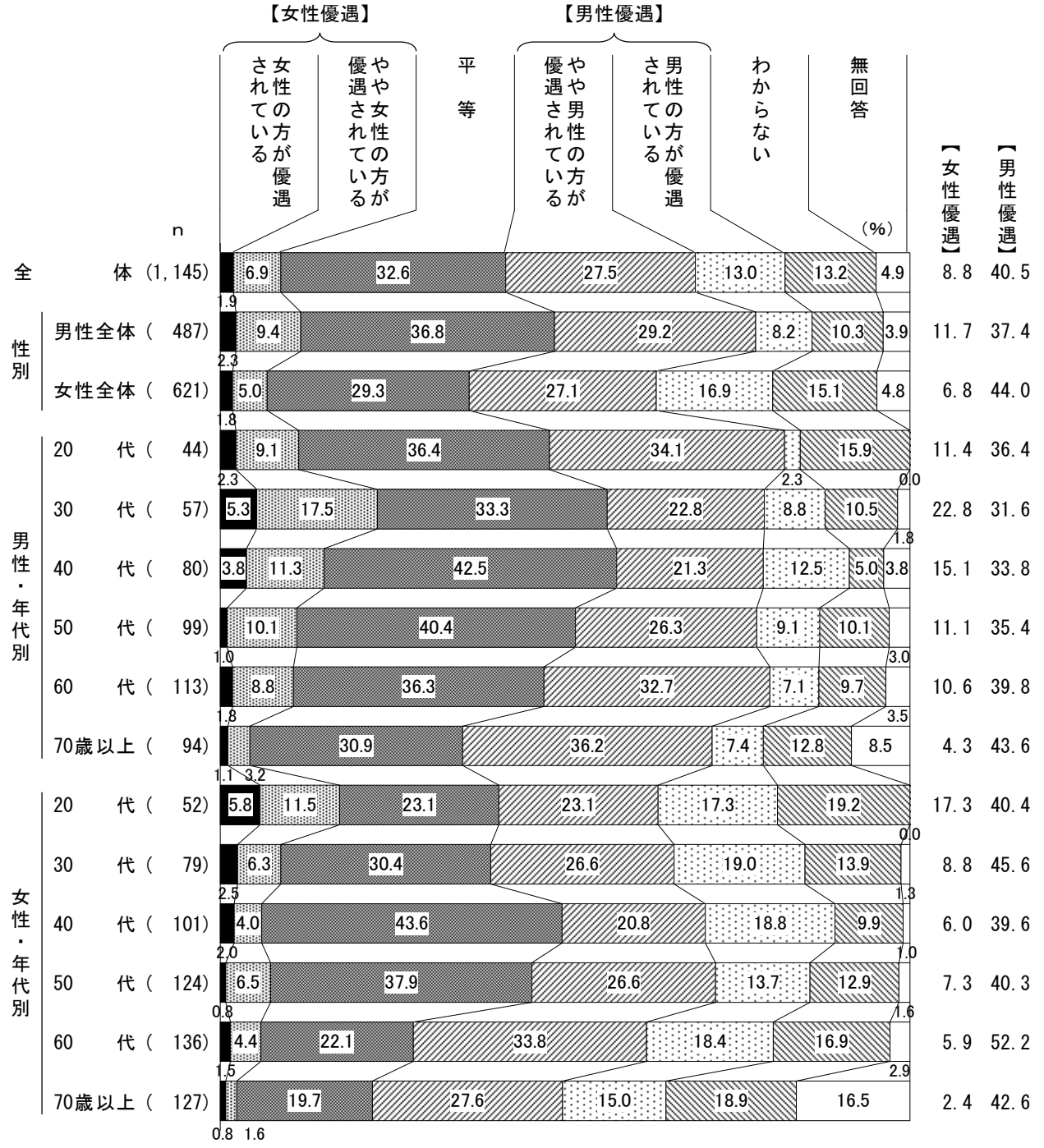
＜図表11－７＞男女の地位（ア）家庭生活では／性別、性・年代別



（イ）職場ではについて性別でみると、「平等」は男性（36.8%）が女性（29.3%）より7.5ポイント高くなっている。【男性優遇】は女性（44.0%）が男性（37.4%）より6.6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「平等」は男性40代（42.5%）と女性40代（43.6%）で４割強と高くなっている。【男性優遇】は女性60代（52.2%）で５割強、女性30代（45.6%）で４割台半ばと高くなっている。（図表11－８）

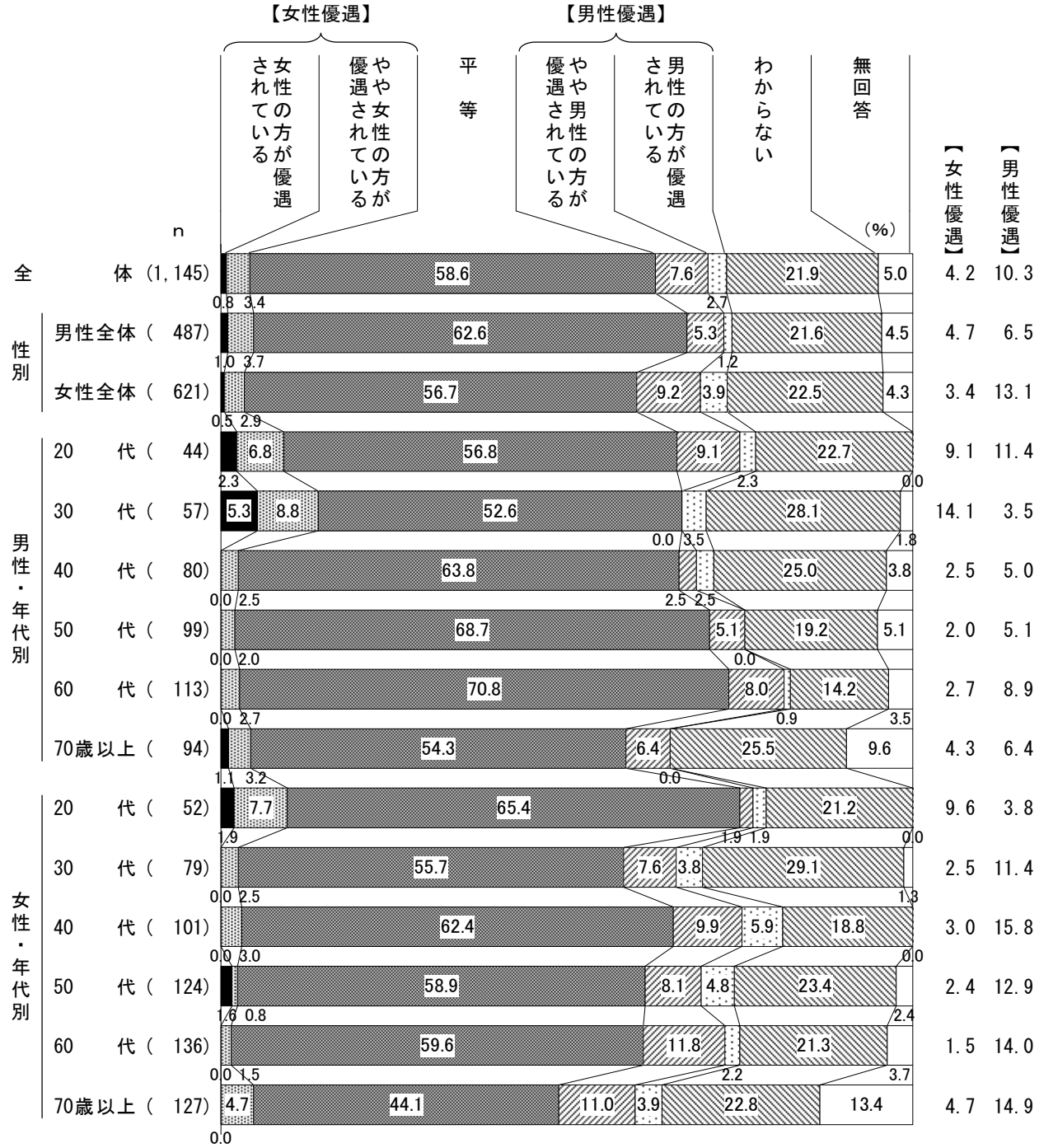
＜図表11－８＞男女の地位（イ）職場では／性別、性・年代別



（ウ）教育の場ではについて性別でみると、「平等」は男性（62.6%）が女性（56.7%）より5.9ポイント高くなっている。【男性優遇】は女性（13.1%）が男性（6.5%）より6.6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「平等」は男性60代（70.8%）で約７割、男性50代（68.7%）で７割弱と高くなっている。【男性優遇】は女性40代（15.8%）と女性60代（14.0%）・女性70歳以上（14.9%）で１割台半ばとなっている。（図表11－９）

＜図表11－９＞男女の地位（ウ）教育の場では／性別、性・年代別

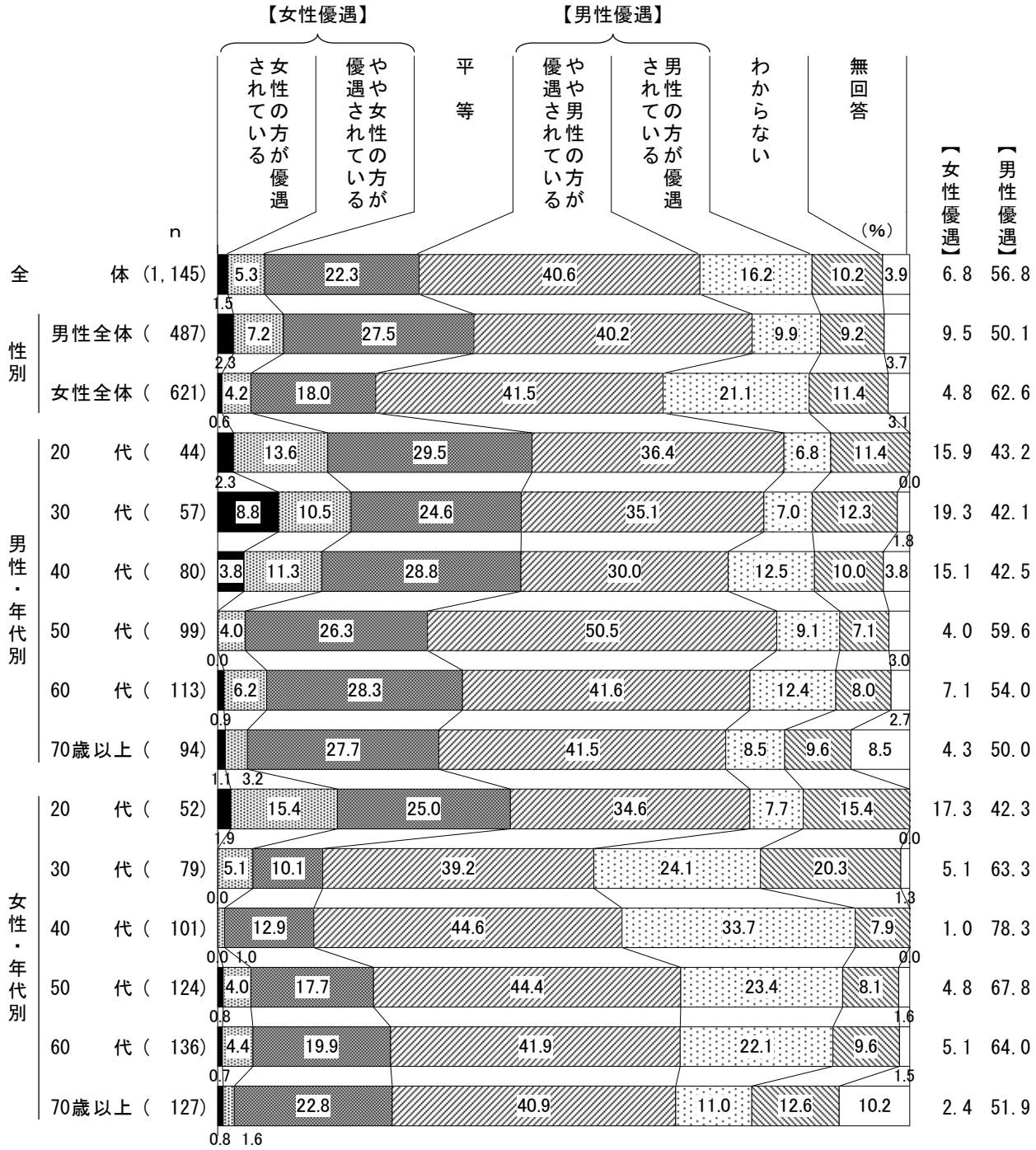


（エ）社会通念や習慣ではについて性別でみると、「平等」は男性（27.5%）が女性（18.0%）より9.5ポイント高くなっている。【男性優遇】は女性（62.6%）が男性（50.1%）より12.5ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「平等」は男性のすべての年代と女性20代（25.0%）・女性70歳以上（22.8%）で２割台となっている。【男性優遇】は女性40代（78.3%）で８割弱、女性50代（67.8%）で７割弱と高くなっている。

（図表11－10）

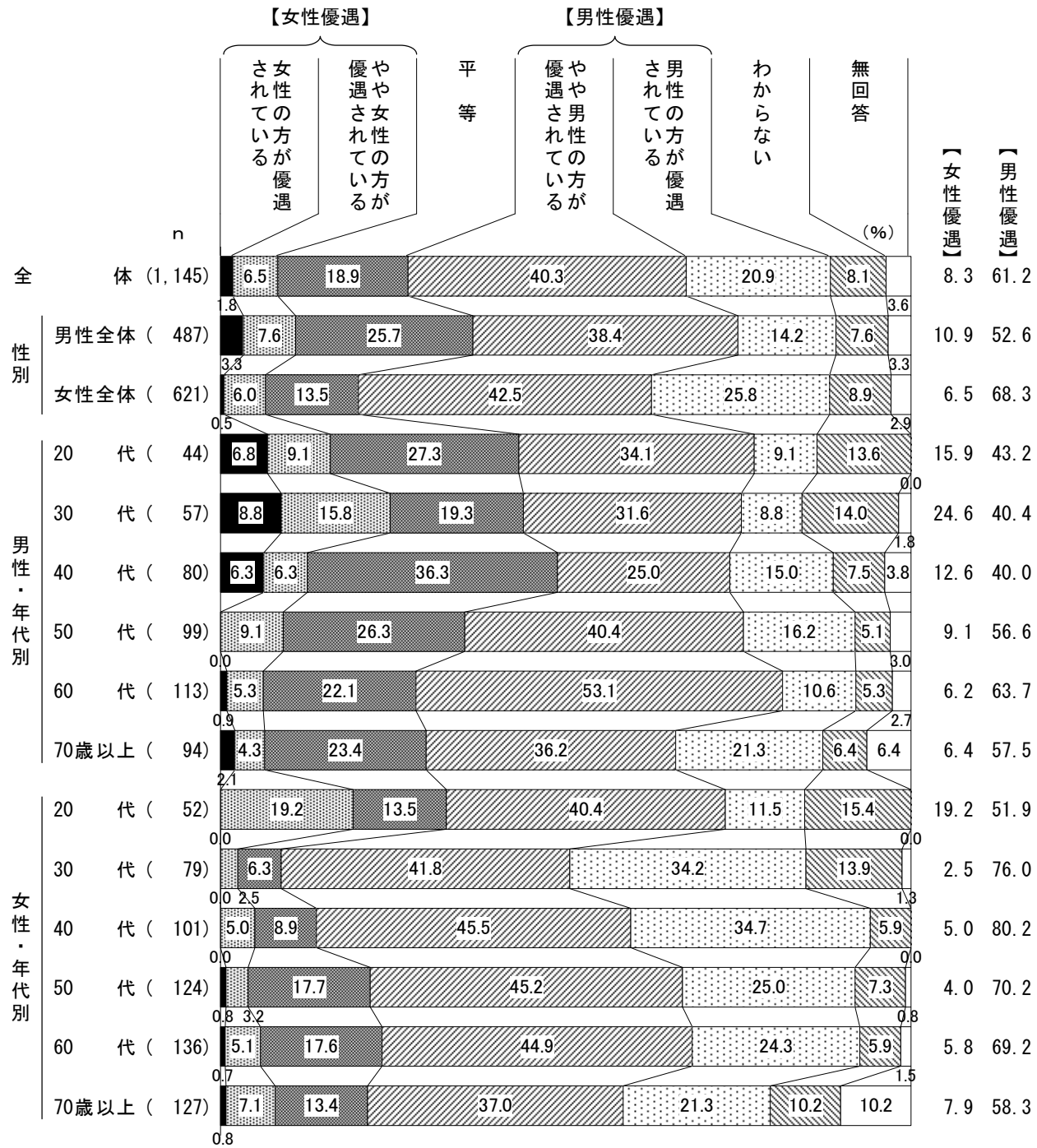
＜図表11－10＞男女の地位（エ）社会通念や習慣では／性別、性・年代別



（オ）社会全体ではについて性別でみると、「平等」は男性（25.7%）が女性（13.5%）より12.2ポイント高くなっている。【男性優遇】は女性（68.3%）が男性（52.6%）より15.7ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「平等」は男性40代（36.3%）で４割弱と高くなっている。【男性優遇】は女性40代（80.2%）で約８割、女性30代（76.0%）で７割台半ばと高くなっている。（図表11－11）

＜図表11－11＞男女の地位（オ）社会全体では／性別、性・年代別

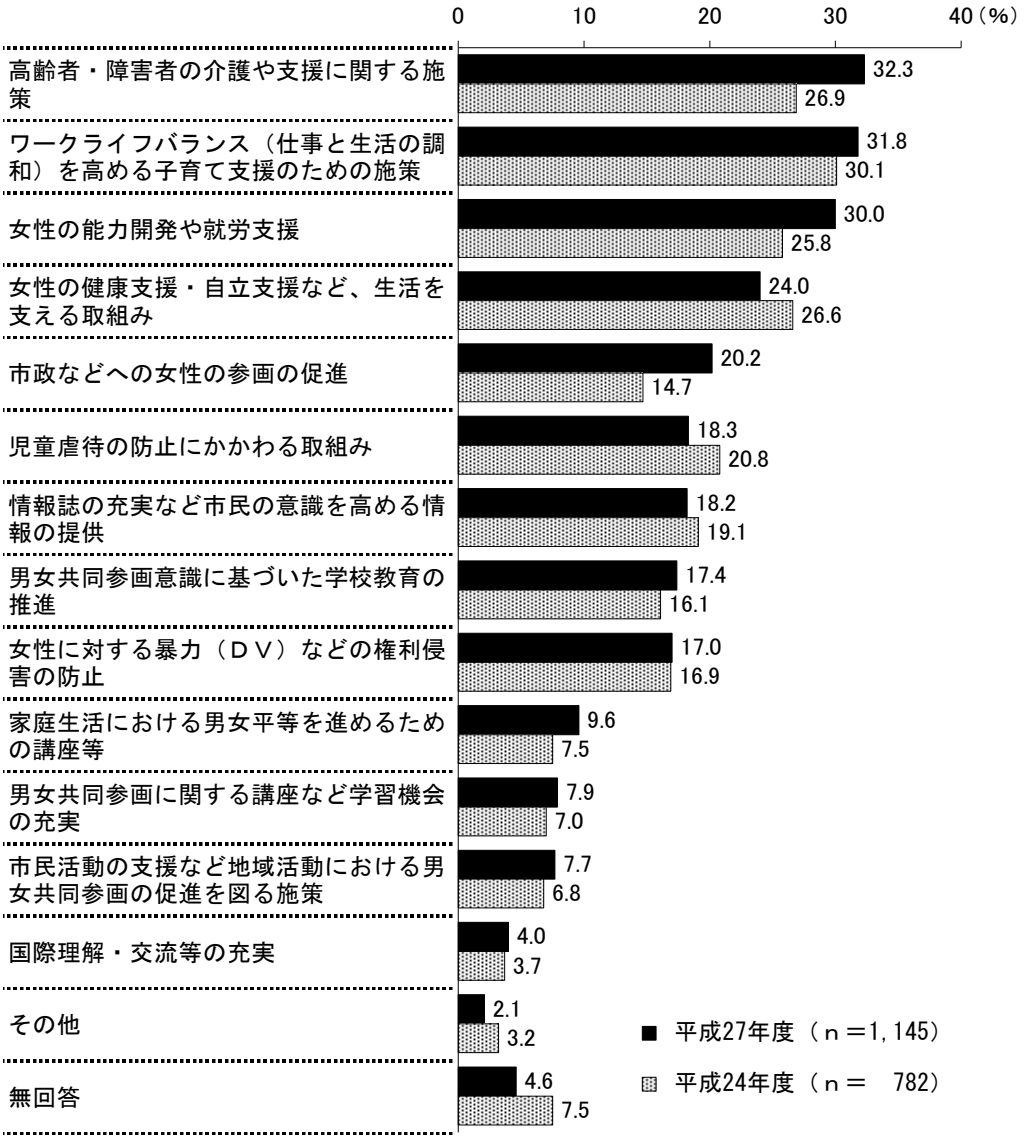


（２）男女共同参画社会の実現に向けた重点的取組み

◇「高齢者・障害者の介護や支援に関する施策」と「ワークライフバランス(仕事と生活の調和)を高める子育て支援のための施策」がともに３割強

問38　男女共同参画の実現に向けて市が特に力を入れるべきと思う取組みはどのようなことですか。次の中から３つまで選んでください。（○は３つまで）

＜図表11－12＞男女共同参画社会の実現に向けた重点的取組み



男女共同参画の実現に向けて市が特に力を入れるべきと思う取組みを聞いたところ、「高齢者・障害者の介護や支援に関する施策」（32.3%）と「ワークライフバランス（仕事と生活の調和）を高める子育て支援のための施策」（31.8%）がともに３割強で高く、次いで「女性の能力開発や就労支援」（30.0%）、「女性の健康支援・自立支援など、生活を支える取組み」（24.0%）、「市政などへの女性の参画の促進」（20.2%）となっている。（図表11－12）

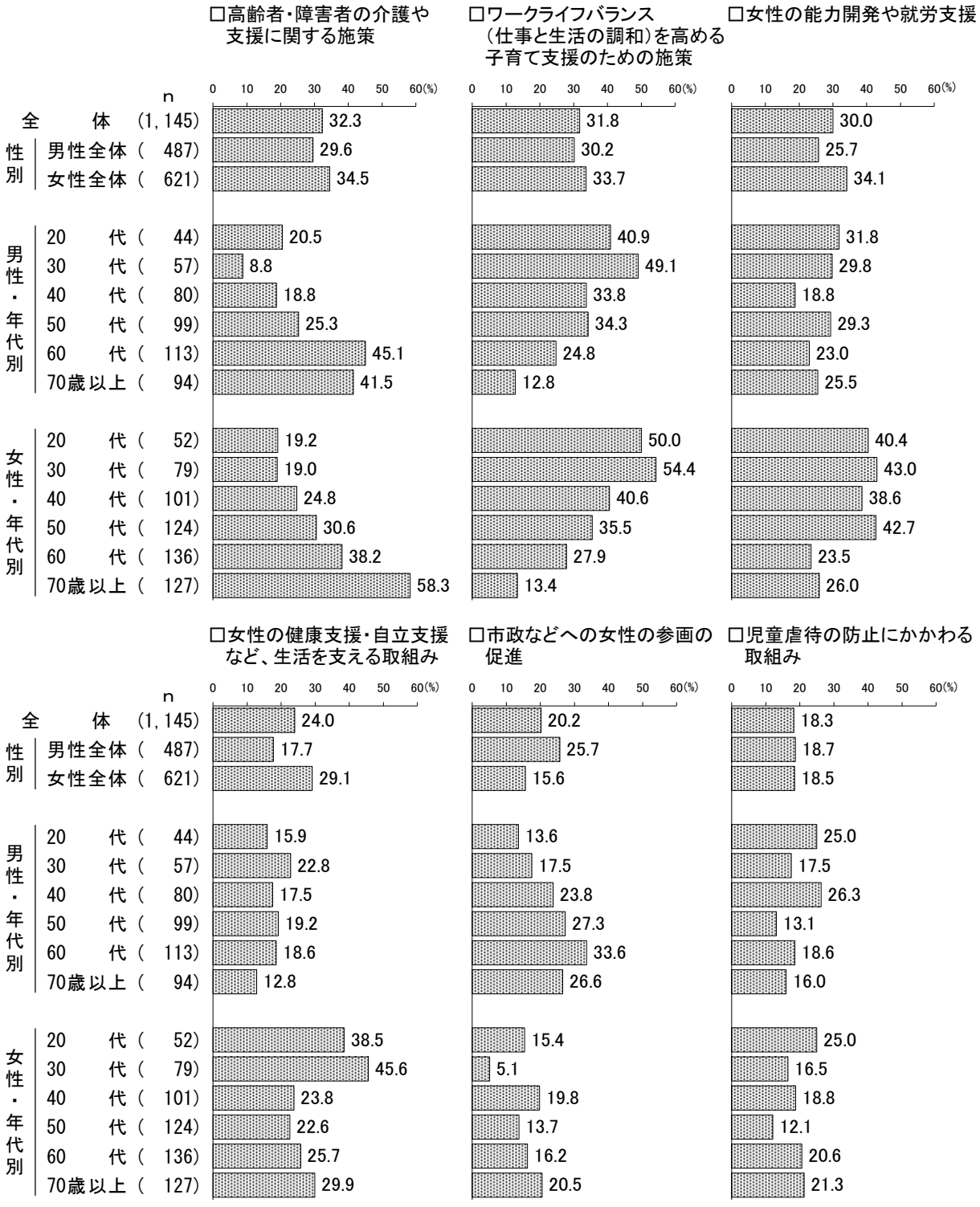
前回の調査結果と比較すると、「市政などへの女性の参画の促進」は5.5ポイント増加し、「高齢者・障害者の介護や支援に関する施策」は5.4ポイント増加している。（図表11－12）

上位６項目について性別でみると、「女性の健康支援・自立支援など、生活を支える取組み」は女性(29.1%)が男性(17.7%)より11.4ポイント高く、「女性の能力開発や就労支援」は女性(34.1%)が男性（25.7%）より8.4ポイント高くなっている。「市政などへの女性の参画の促進」は男性（25.7%）が女性（15.6%）より10.1ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「高齢者・障害者の介護や支援に関する施策」は女性70歳以上（58.3%）で６割弱と高くなっている。「ワークライフバランス（仕事と生活の調和）を高める子育て支援のための施策」は女性30代（54.4%）で５割台半ばと高くなっている。「女性の能力開発や就労支援」は女性30代（43.0%）と女性50代（42.7%）で４割強と高くなっている。「女性の健康支援・自立支援など、生活を支える取組み」は女性30代（45.6%）で４割台半ばと高くなっている。

（図表11－13）

＜図表11－13＞男女共同参画社会の実現に向けた重点的取組み／性別、性・年代別（上位６項目）



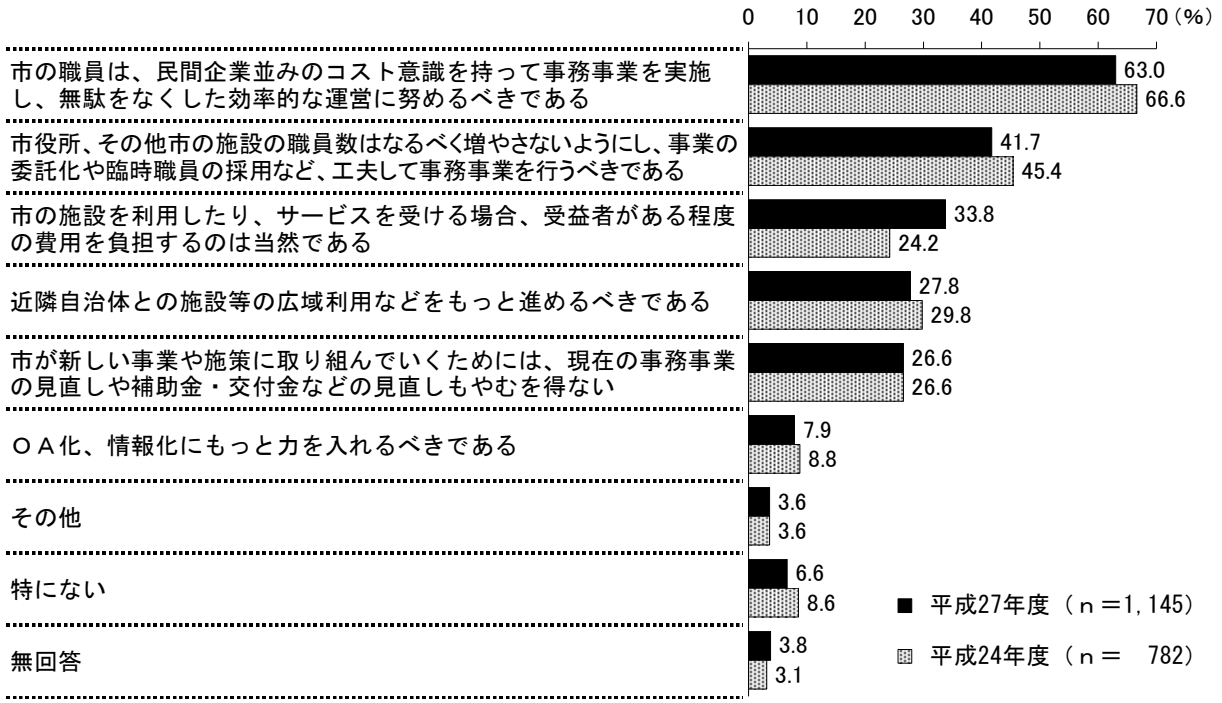
12. 行政改革

（１）市の行政改革

◇「市の職員は、民間企業並みのコスト意識を持って事務事業を実施し、無駄をなくした効率的な運営に努めるべきである」が６割強

問39　あなたは、市にどのような行政改革を求めますか。あなたの考えに近いものを次の中から３つまで選んでください。（○は３つまで）

＜図表12－１＞市の行政改革



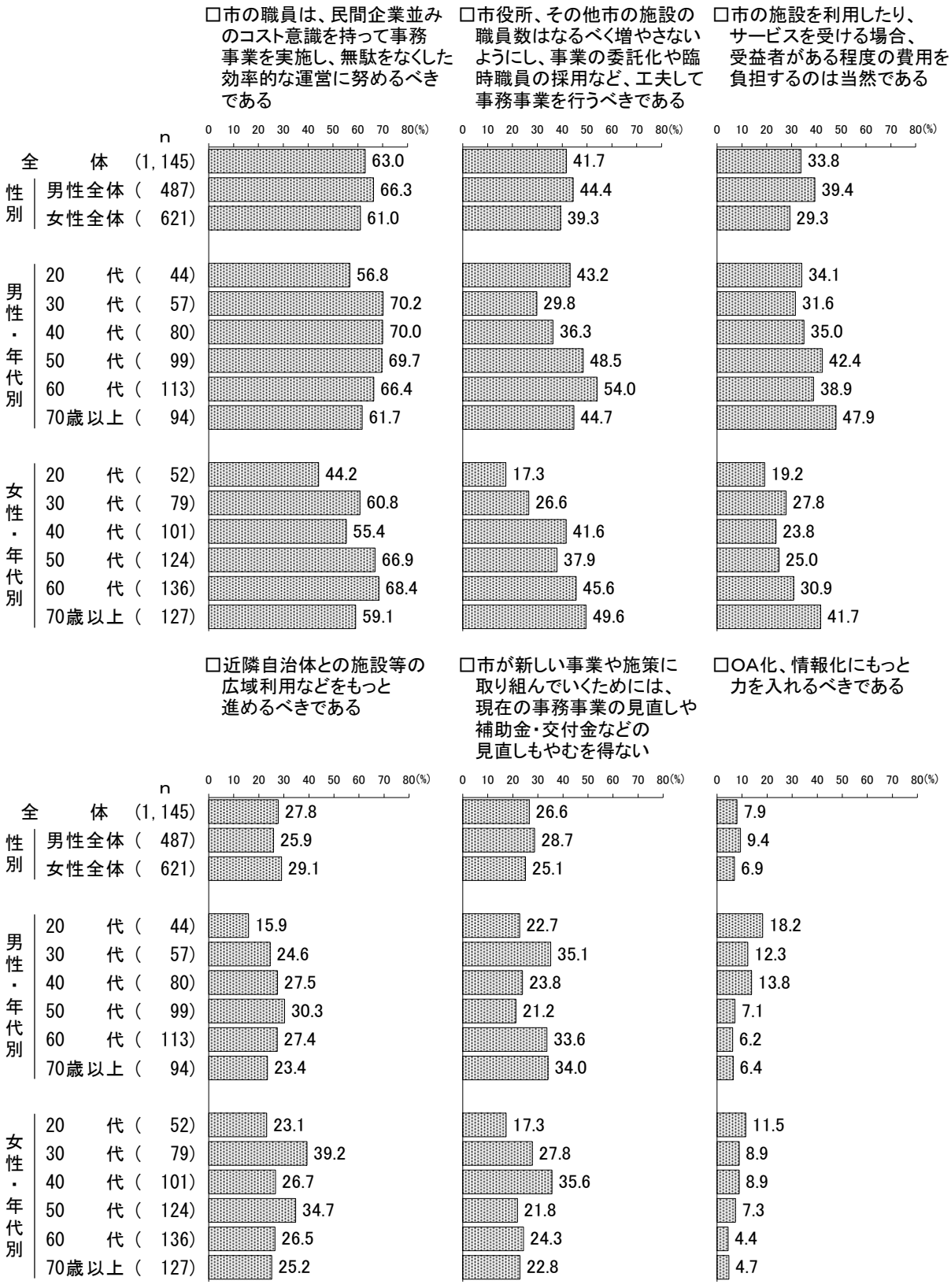
市にどのような行政改革を求めるか聞いたところ、「市の職員は、民間企業並みのコスト意識を持って事務事業を実施し、無駄をなくした効率的な運営に努めるべきである」（63.0%）が６割強で最も高く、次いで「市役所、その他市の施設の職員数はなるべく増やさないようにし、事業の委託化や臨時職員の採用など、工夫して事務事業を行うべきである」（41.7%）、「市の施設を利用したり、サービスを受ける場合、受益者がある程度の費用を負担するのは当然である」（33.8%）となっている。（図表12－１）

前回の調査結果と比較すると、「市の施設を利用したり、サービスを受ける場合、受益者がある程度の費用を負担するのは当然である」は9.6ポイント増加している。一方、「市役所、その他市の施設の職員数はなるべく増やさないようにし、事業の委託化や臨時職員の採用など、工夫して事務事業を行うべきである」は3.7ポイント減少し、「市の職員は、民間企業並みのコスト意識を持って事務事業を実施し、無駄をなくした効率的な運営に努めるべきである」は3.6ポイント減少している。（図表12－１）

上位６項目について性別でみると、「市の施設を利用したり、サービスを受ける場合、受益者がある程度の費用を負担するのは当然である」は男性（39.4%）が女性（29.3%）より10.1ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「市役所、その他市の施設の職員数はなるべく増やさないようにし、事業の委託化や臨時職員の採用など、工夫して事務事業を行うべきである」は男性60代（54.0%）で５割台半ばと高くなっている。（図表12－２）

＜図表12－２＞市の行政改革／性別、性・年代別（上位６項目）



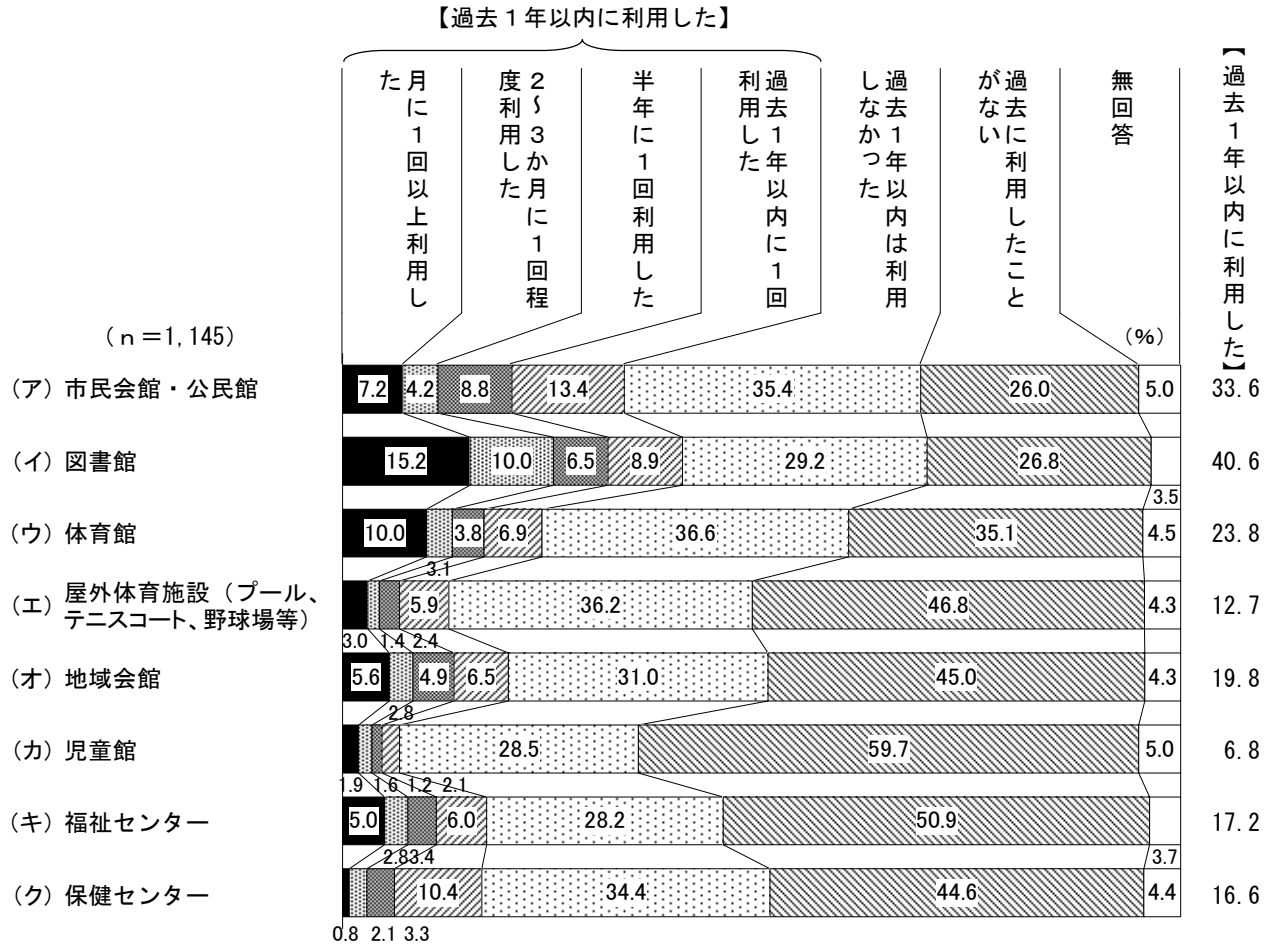
（２）市の公共施設の利用状況

◇【過去１年以内に利用した】は「図書館」が約４割

問40　過去１年間に福生市の公共施設を利用しましたか。（ア）から（ク）までの各施設について、それぞれ１つずつ選んで下の表の番号に○をつけてください。

（○はそれぞれ１つずつ）

＜図表12－３＞市の公共施設の利用状況



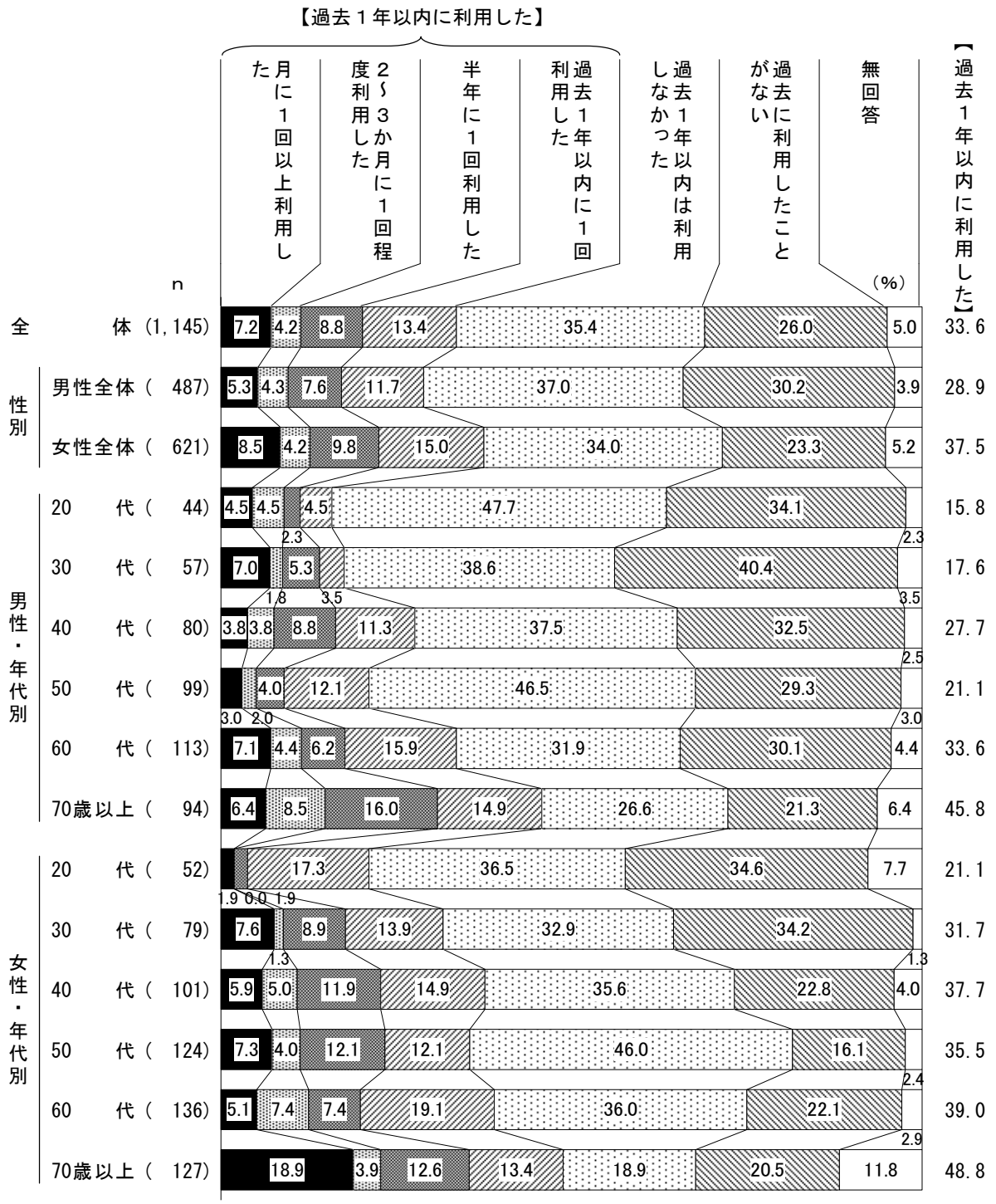
過去１年間に福生市の８つの公共施設を利用したか聞いたところ、「月に１回以上利用した」、「２～３か月に１回程度利用した」、「半年に１回利用した」、「過去１年以内に１回利用した」の４つを合わせた【過去１年以内に利用した】は、（イ）図書館（40.6%）が約４割で最も高く、次いで（ア）市民会館・公民館（33.6%）、（ウ）体育館（23.8%）、（オ）地域会館（19.8%）となっている。

（図表12－３）

（ア）市民会館・公民館について性別でみると、【過去１年以内に利用した】は女性（37.5%）が男性（28.9%）より8.6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【過去１年以内に利用した】は女性70歳以上（48.8%）で５割弱、男性70歳以上(45.8%)で４割台半ばと高くなっている。「月に１回以上利用した」は女性70歳以上(18.9%)で２割弱となっている。(図表12－４)

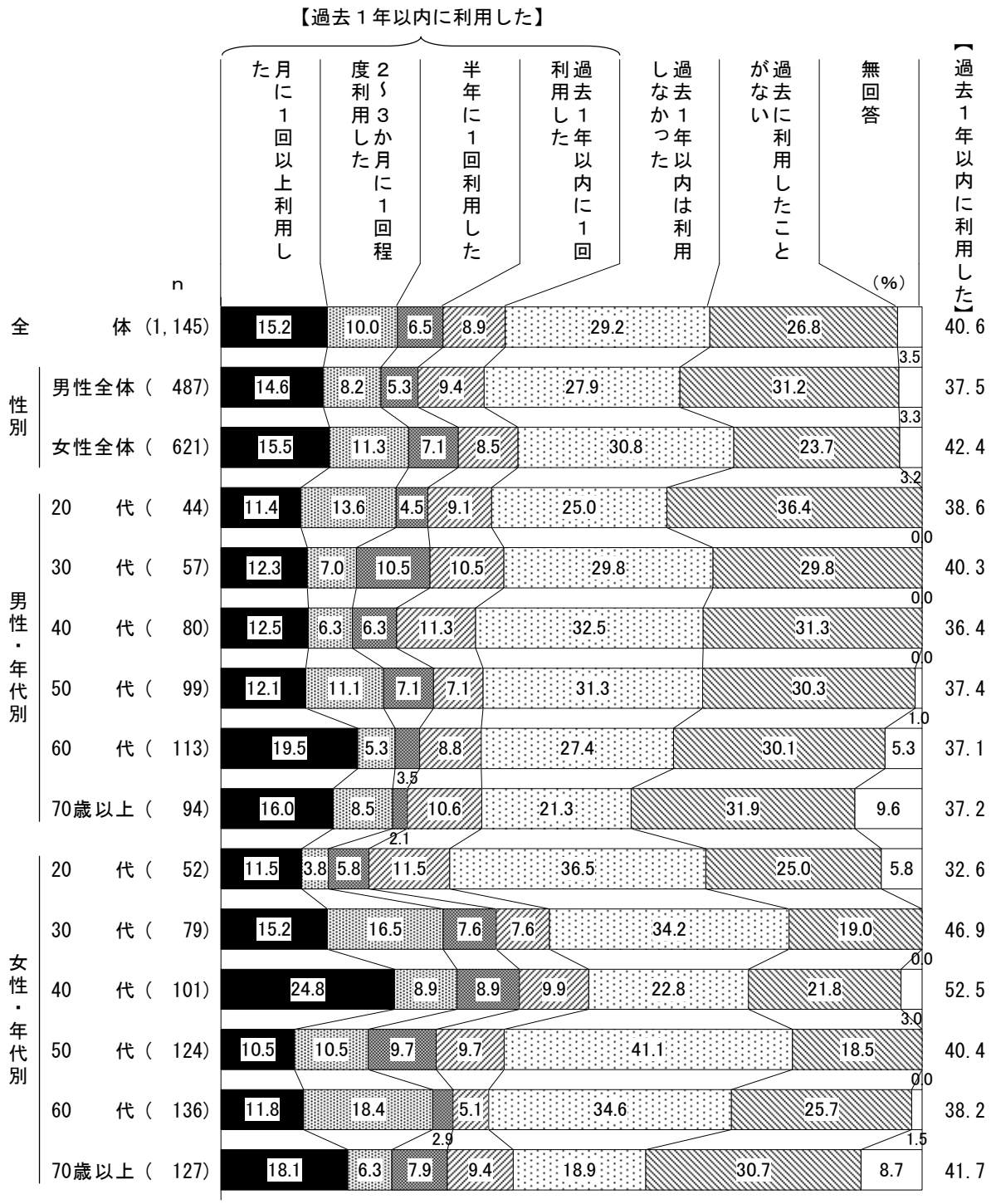
＜図表12－４＞市の公共施設の利用状況（ア）市民会館・公民館／性別、性・年代別



（イ）図書館について性別でみると、【過去１年以内に利用した】は女性（42.4%）が男性（37.5%）より4.9ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【過去１年以内に利用した】は女性40代（52.5%）で５割強、女性30代（46.9%）で５割弱と高くなっている。「月に１回以上利用した」は女性40代（24.8%）で２割台半ばと高くなっている。（図表12－５）

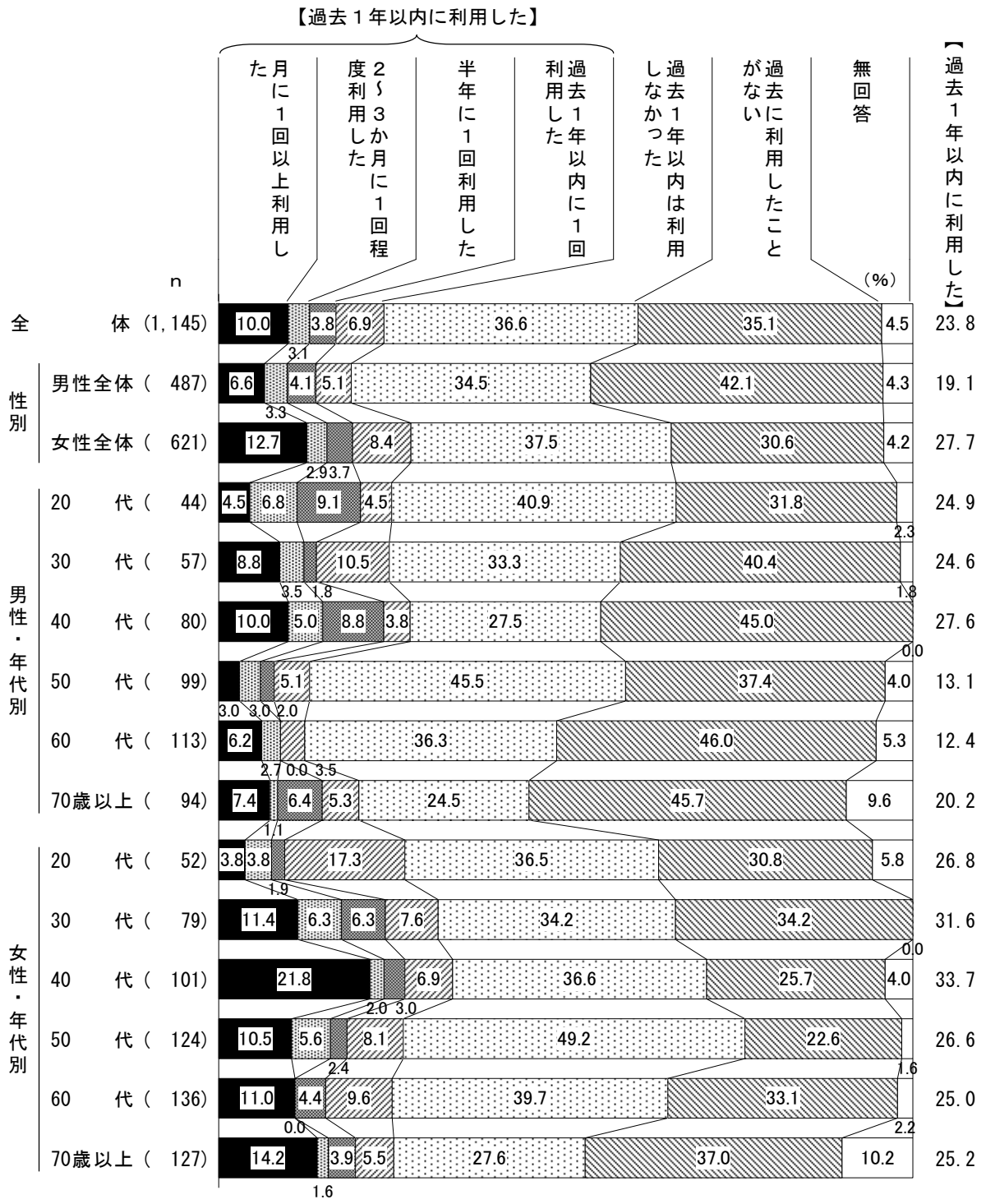
＜図表12－５＞市の公共施設の利用状況（イ）図書館／性別、性・年代別



（ウ）体育館について性別でみると、【過去１年以内に利用した】は女性（27.7%）が男性（19.1%）より8.6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【過去１年以内に利用した】は女性30代（31.6%）と女性40代（33.7%）で３割強と高くなっている。「月に１回以上利用した」は女性40代（21.8%）で２割強と高くなっている。（図表12－６）

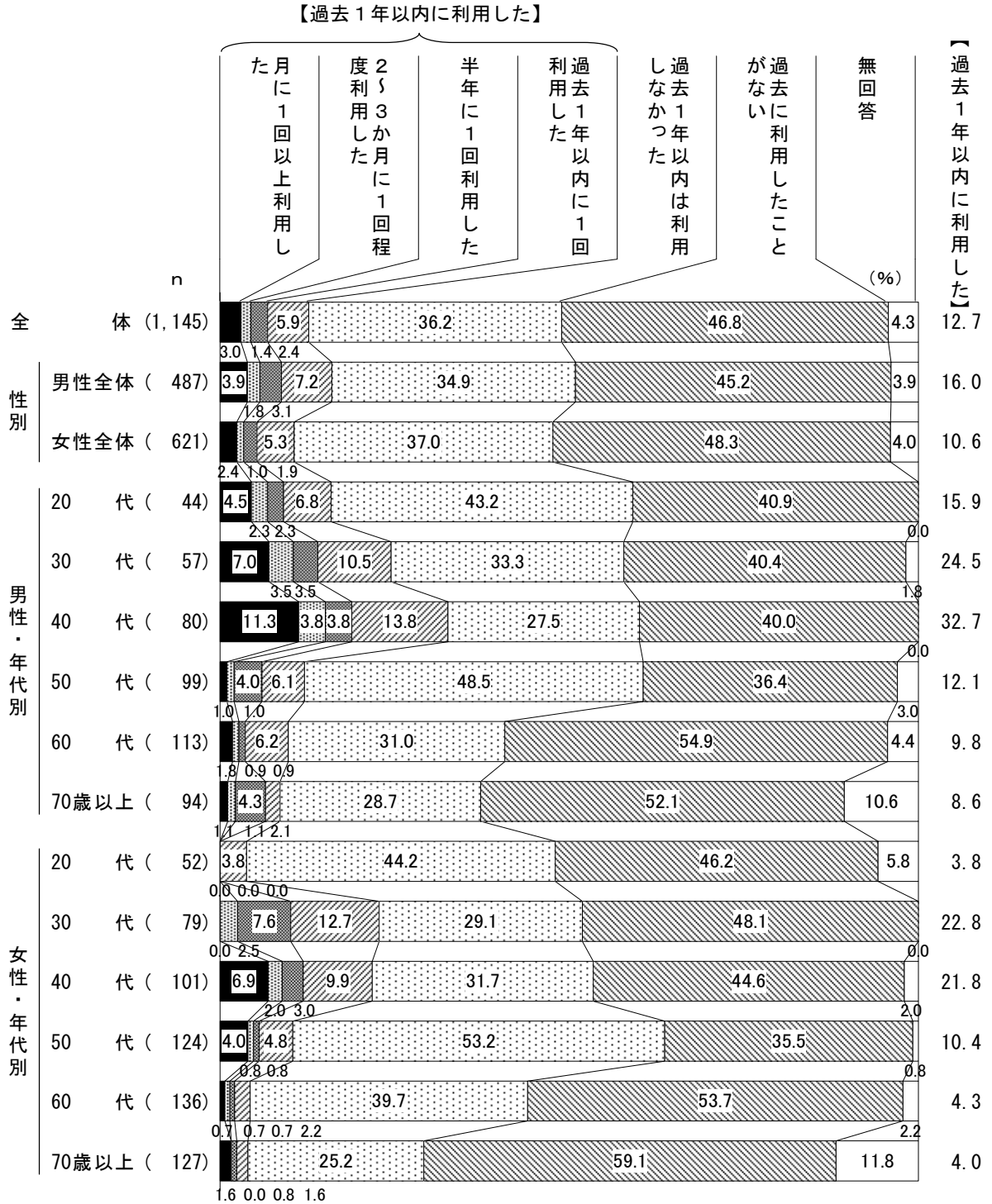
＜図表12－６＞市の公共施設の利用状況（ウ）体育館／性別、性・年代別



（エ）屋外体育施設（プール、テニスコート、野球場等）について性別でみると、【過去１年以内に利用した】は男性（16.0%）が女性（10.6%）より5.4ポイント高くなっている。

性･年代別でみると、【過去１年以内に利用した】は男性40代(32.7%)で３割強、男性30代(24.5%)で２割台半ばと高くなっている。「月に１回以上利用した」は男性40代（11.3%）で１割強となっている。(図表12－７)

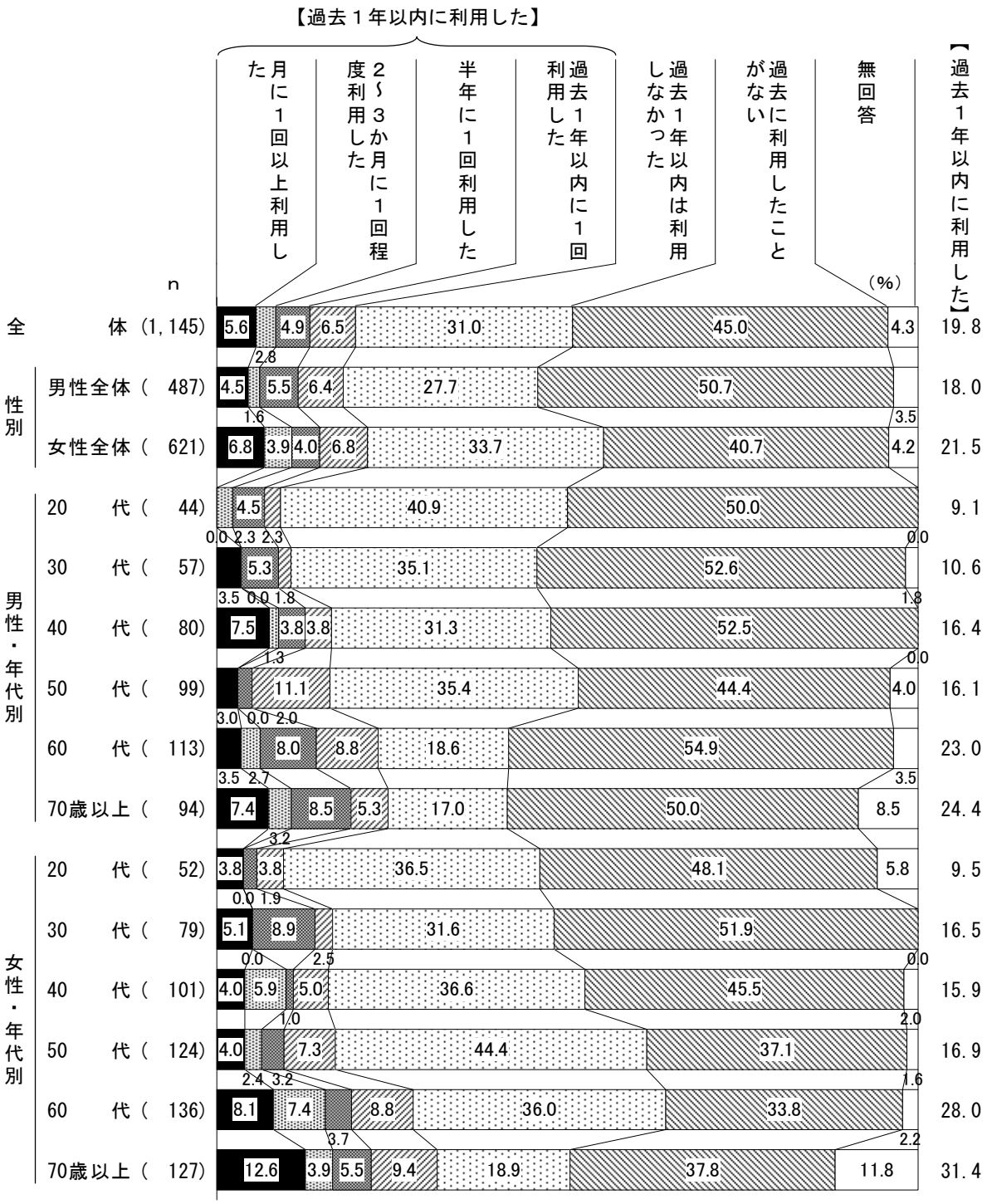
＜図表12－７＞市の公共施設の利用状況（エ）屋外体育施設（プール、テニスコート、野球場等）／性別、性・年代別



（オ）地域会館について性別でみると、「過去に利用したことがない」は男性（50.7％）が女性（40.7％）より10.0ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【過去１年以内に利用した】は女性70歳以上（31.4％）で３割強、女性60代（28.0％）で３割弱と高くなっている。「月に１回以上利用した」は女性70歳以上（12.6％）で１割強となっている。（図表12－８）

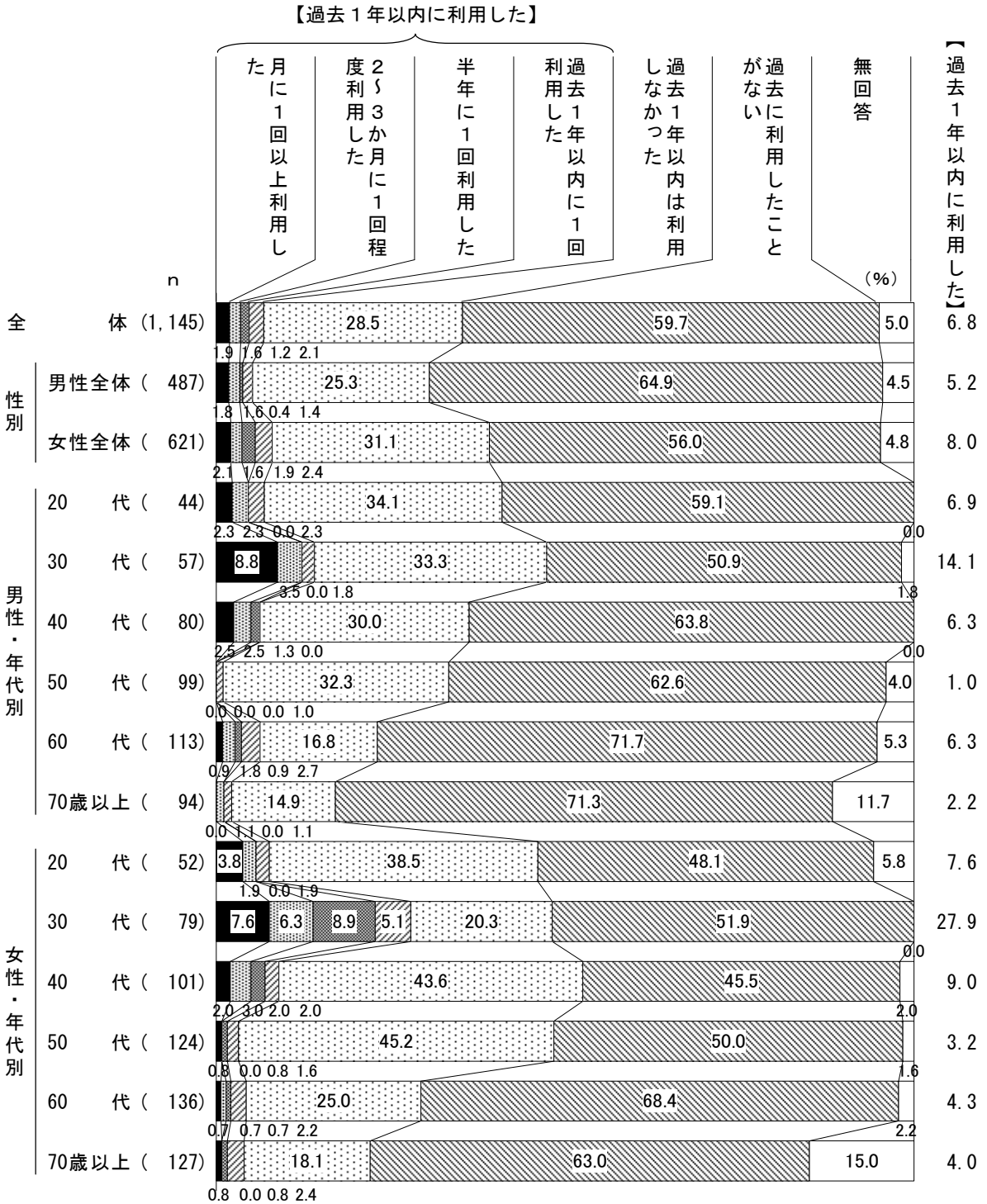
＜図表12－８＞市の公共施設の利用状況（オ）地域会館／性別、性・年代別



（カ）児童館について性別でみると、「過去に利用したことがない」は男性（64.9％）が女性（56.0％）より8.9ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【過去１年以内に利用した】は女性30代（27.9％）で３割弱と高くなっている。（図表12－９）

＜図表12－９＞市の公共施設の利用状況（カ）児童館／性別、性・年代別

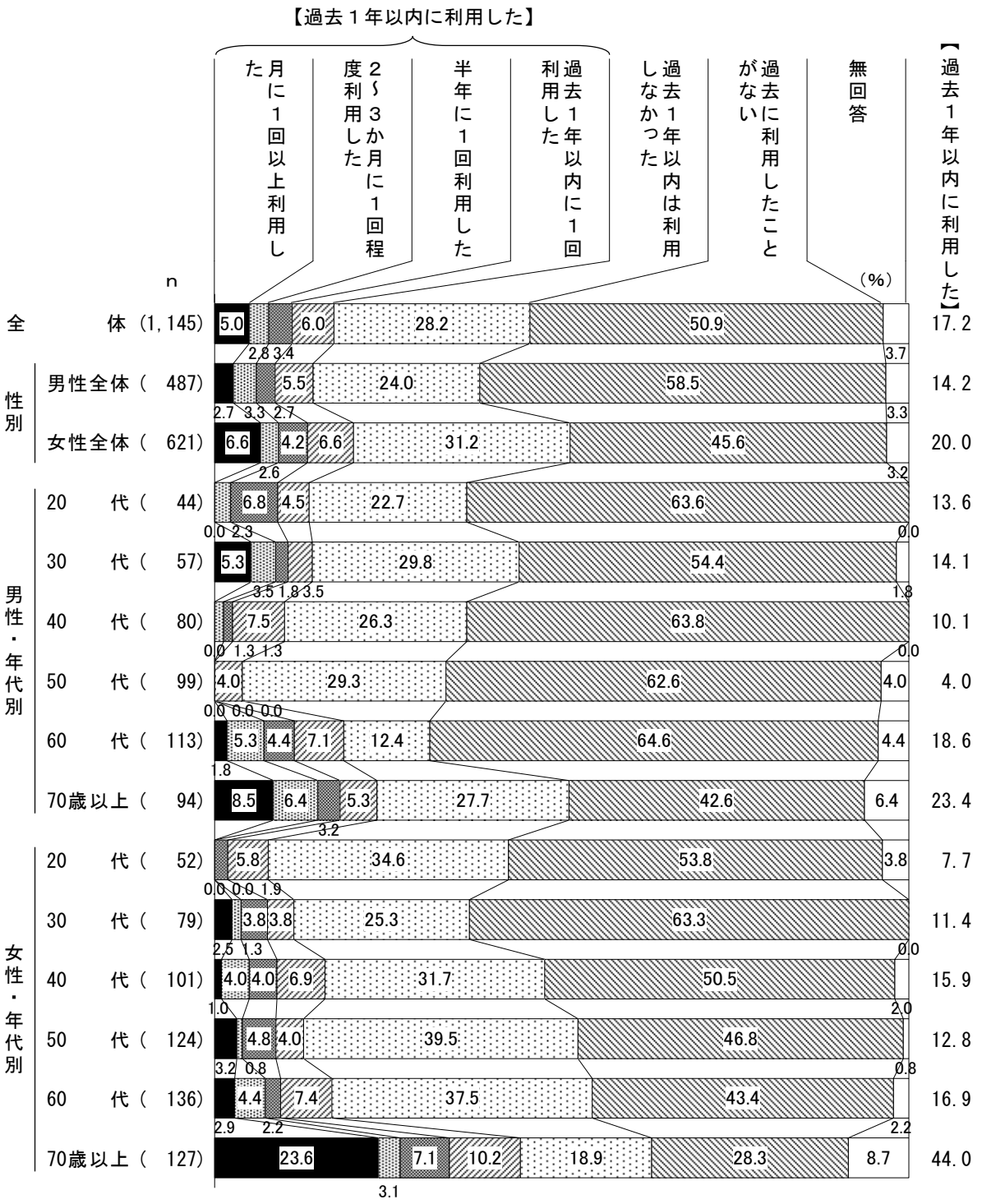


（キ）福祉センターについて性別でみると、【過去１年以内に利用した】は女性（20.0%）が男性（14.2%）より5.8ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【過去１年以内に利用した】は女性70歳以上（44.0%）で４割台半ばと高くなっている。「月に１回以上利用した」は女性70歳以上（23.6%）で２割強と高くなっている。

（図表12－10）

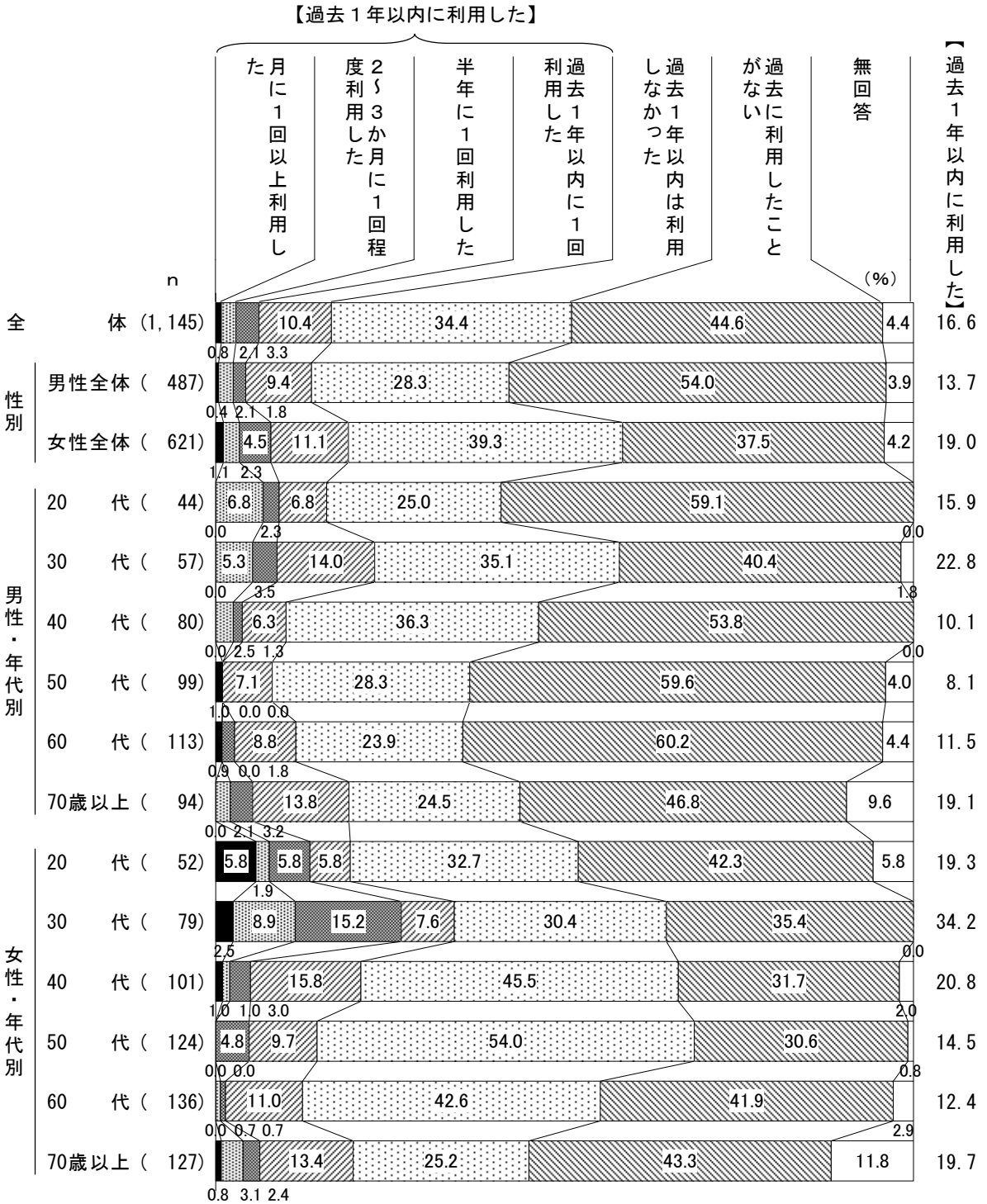
＜図表12－10＞市の公共施設の利用状況（キ）福祉センター／性別、性・年代別



（ク）保健センターについて性別でみると、【過去１年以内に利用した】は女性（19.0%）が男性（13.7%）より5.3ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【過去１年以内に利用した】は女性30代（34.2%）で３割台半ばと高くなっている。（図表12－11）

＜図表12－11＞市の公共施設の利用状況（ク）保健センター／性別、性・年代別



13. 広報・ホームページ

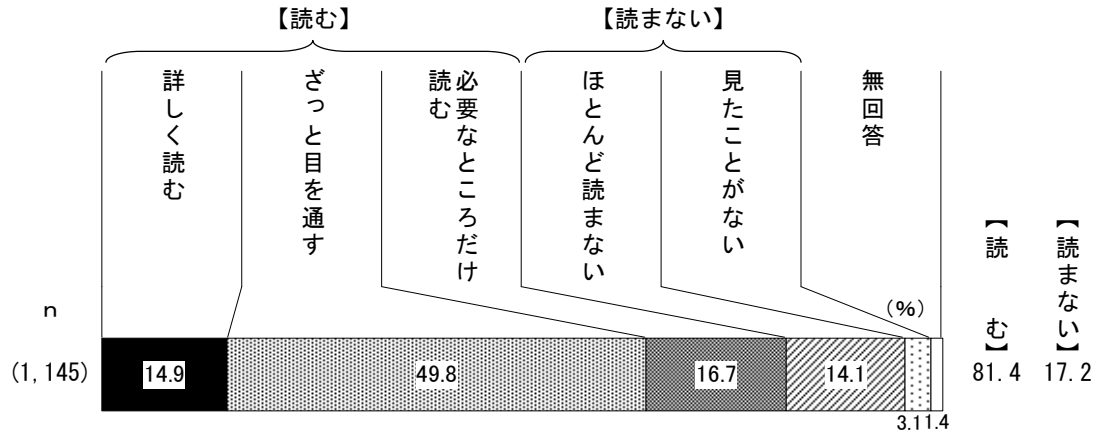
（１）「広報ふっさ」の閲読状況

◇【読む】が８割強

問41　市では、『広報ふっさ』、『福生市議会だより』、『福生の教育』を発行していますが、あなたはそれぞれどの程度読んでいますか。

（１）『広報ふっさ』をどの程度読んでいますか。（○は１つ）

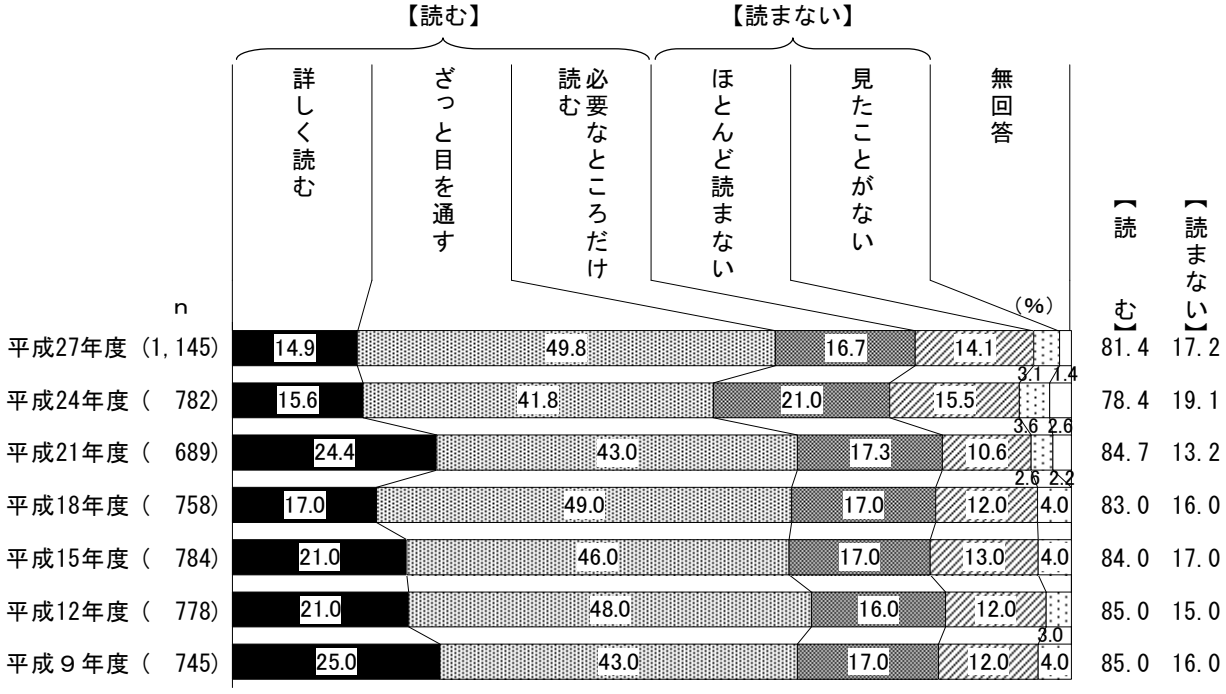
＜図表13－１＞「広報ふっさ」の閲読状況



「広報ふっさ」の閲読状況を聞いたところ、「詳しく読む」（14.9%）と「ざっと目を通す」（49.8%）、「必要なところだけ読む」（16.7%）の３つを合わせた【読む】（81.4%）が８割強と高くなっている。一方、「ほとんど読まない」（14.1%）と「見たことがない」（3.1%）の２つを合わせた【読まない】（17.2%）は２割弱となっている。（図表13－１）

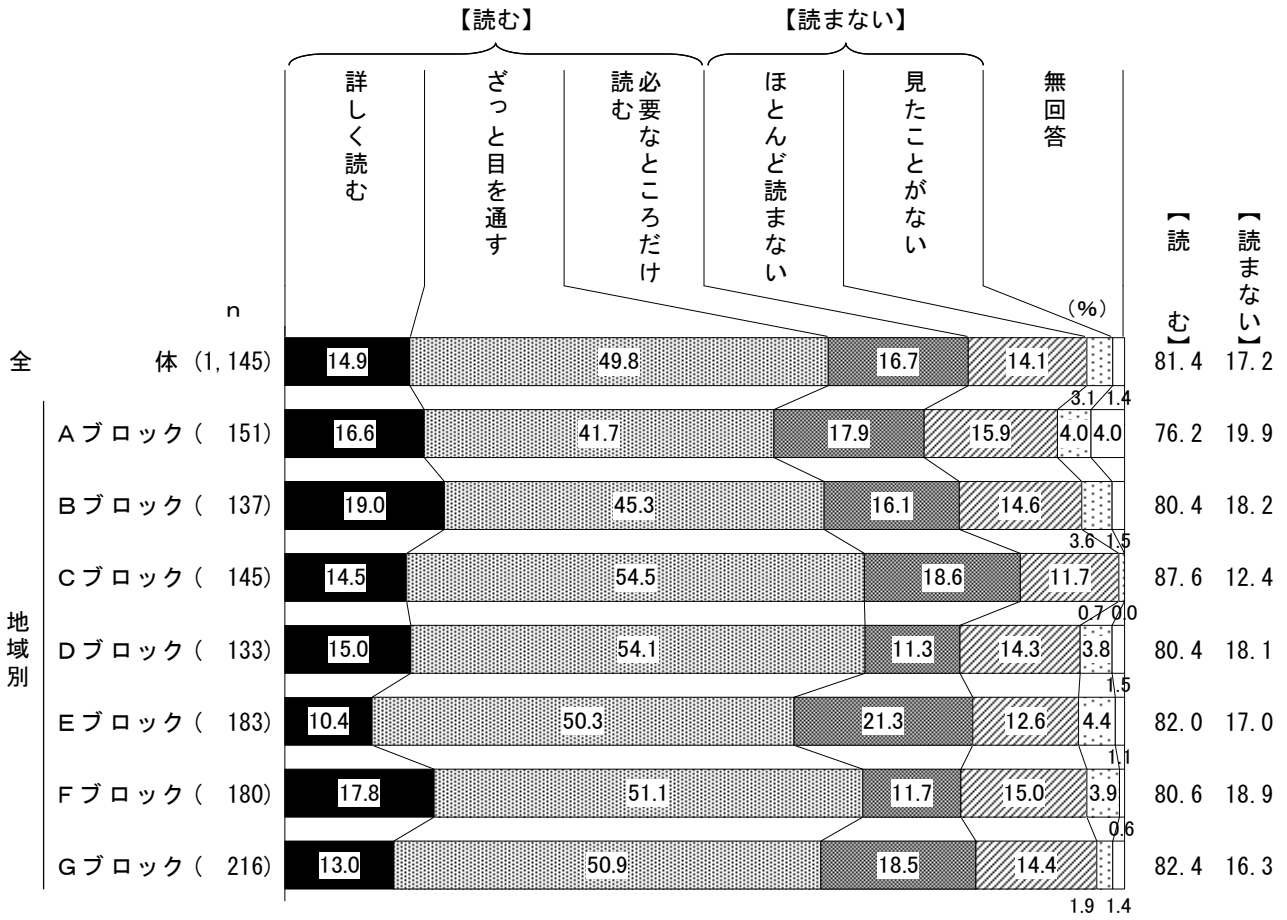
過年度の調査結果の推移をみると、【読む】は平成24年度と比べて3.0ポイント増加している。（図表13－２）

＜図表13－２＞「広報ふっさ」の閲読状況／過年度推移



地域別でみると、【読む】はＣブロック（87.6%）で９割弱と高くなっている。（図表13－３）

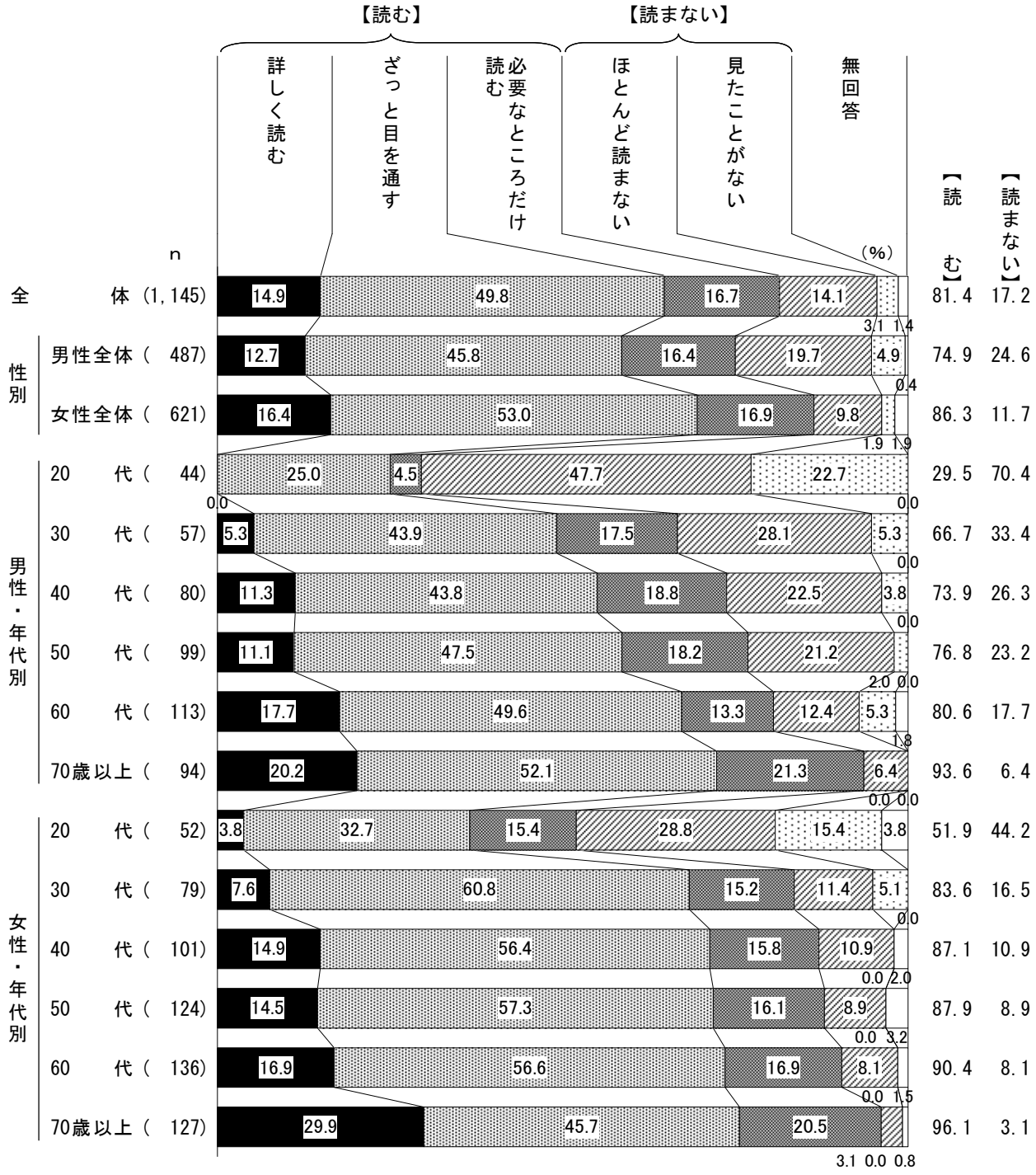
＜図表13－３＞「広報ふっさ」の閲読状況／地域別



性別でみると、【読む】は女性（86.3%）が男性（74.9%）より11.4ポイント高くなっている。

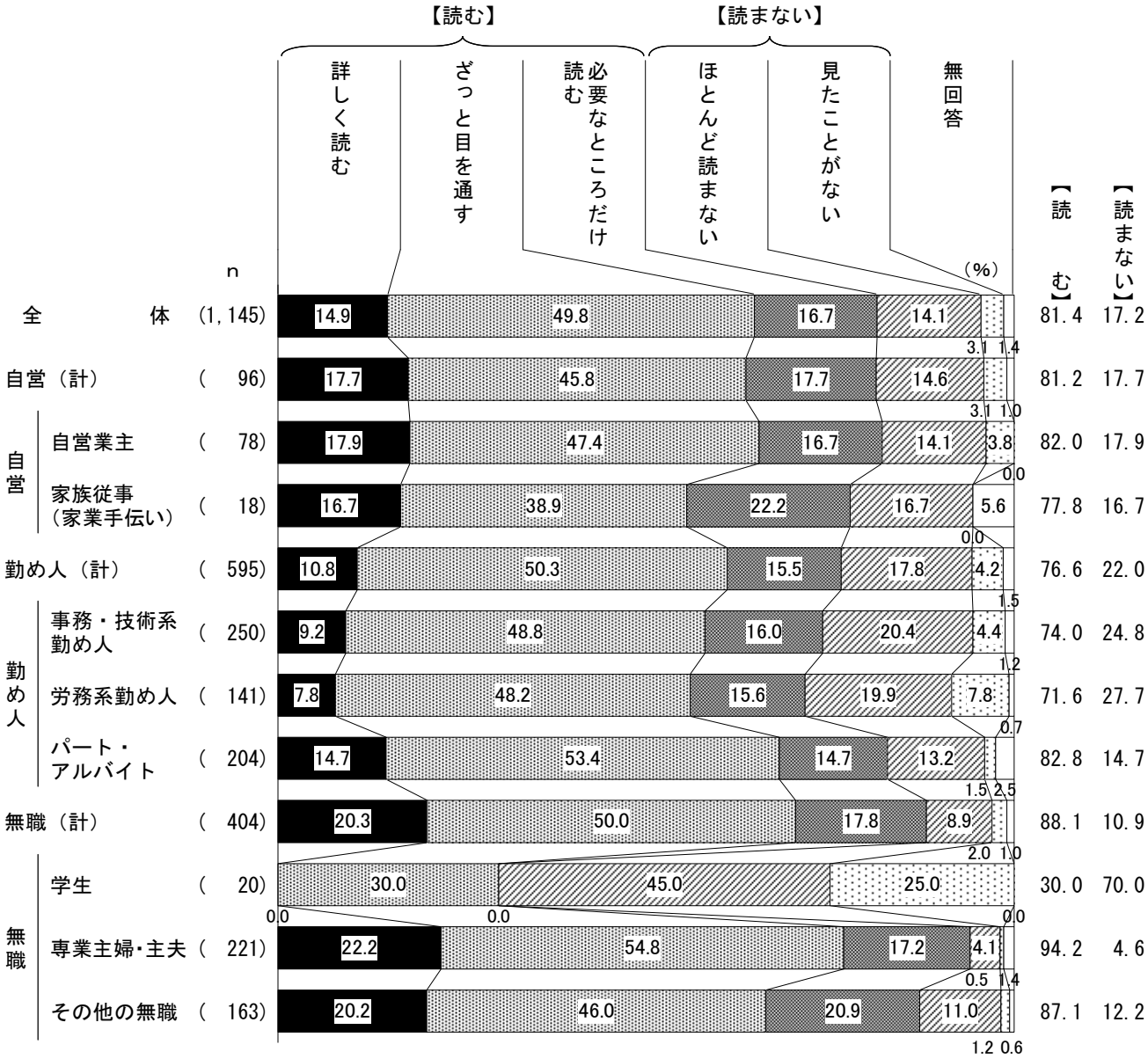
性・年代別でみると、【読む】は男性70歳以上（93.6%）と女性60代（90.4%）・女性70歳以上（96.1%）で９割台と高くなっている。一方、【読まない】は男性20代（70.4%）で約７割、女性20代（44.2%）で４割台半ばと高くなっている。（図表13－４）

＜図表13－４＞「広報ふっさ」の閲読状況／性別、性・年代別



職業別でみると、【読む】は専業主婦・主夫（94.2%）で９割台半ばと高くなっている。一方、【読まない】は学生（70.0%）で７割、労務系勤め人（27.7%）で３割弱、事務・技術系勤め人（24.8%）で２割台半ばと高くなっている。（図表13－５）

＜図表13－５＞「広報ふっさ」の閲読状況／職業別



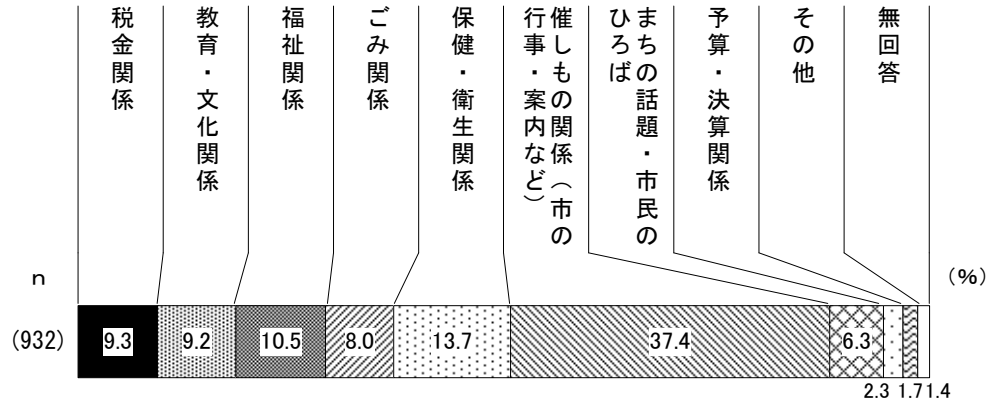
（２）「広報ふっさ」で関心のある記事

◇「催しもの関係（市の行事・案内など)」が４割弱

（問41（１）で、「詳しく読む」「ざっと目を通す」「必要なところだけ読む」を選んだ方に）

問41－１　主にどのような内容に関心を持って読まれますか。次の中から１つだけ選んでください。（○は１つ）

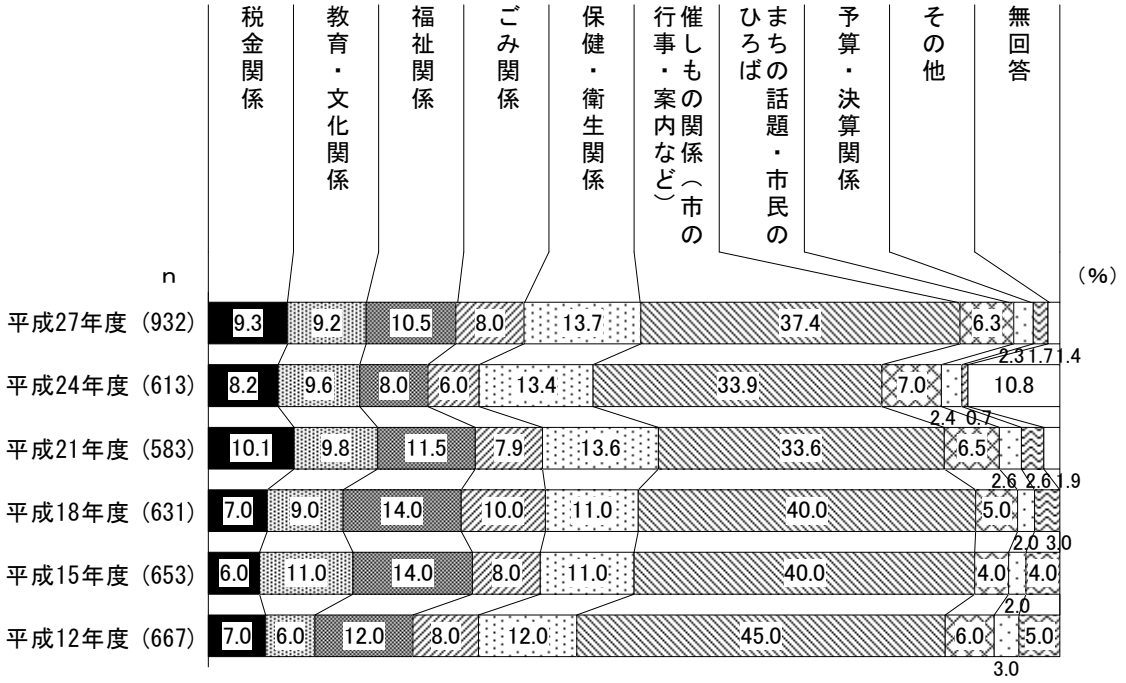
＜図表13－６＞「広報ふっさ」で関心のある記事



問41（１）で、「広報ふっさ」を「詳しく読む」、「ざっと目を通す」、「必要なところだけ読む」と答えた方に、関心のある記事を聞いたところ、「催しもの関係（市の行事・案内など)」（37.4%）が４割弱で最も高く、次いで「保健・衛生関係」（13.7%）、「福祉関係」（10.5%）、「税金関係」（9.3%）、「教育・文化関係」（9.2%）となっている。（図表13－６）

過年度の調査結果の推移をみると、「催しもの関係（市の行事・案内など)」は平成24年度と比べて3.5ポイント増加している。（図表13－７）

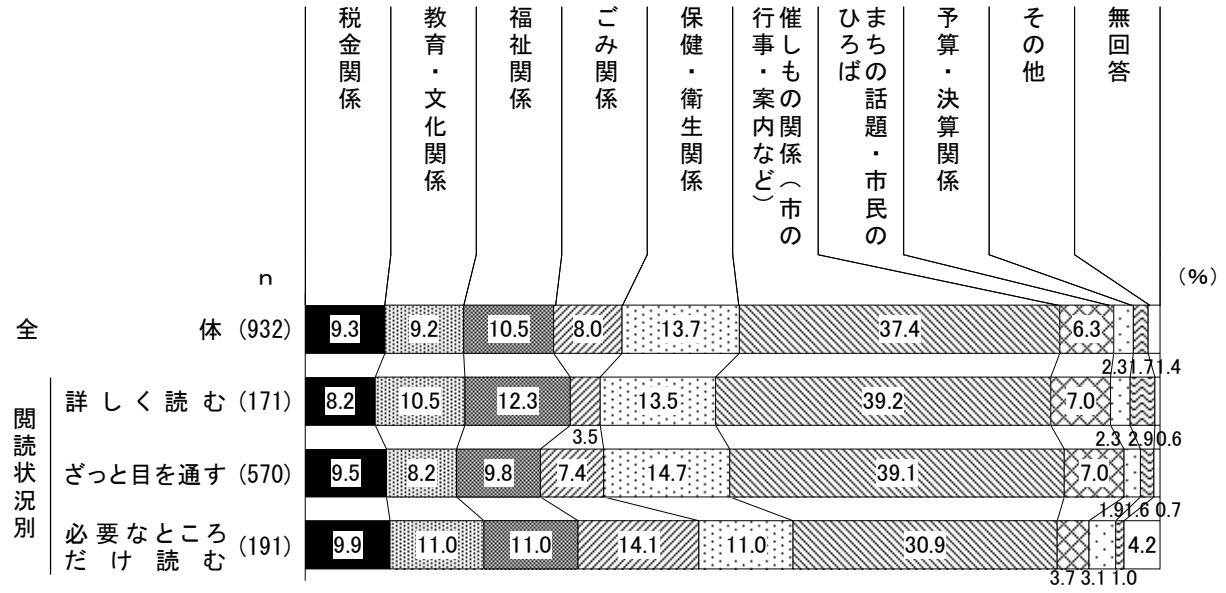
＜図表13－７＞「広報ふっさ」で関心のある記事／過年度推移



（注）平成18年調査以前の選択肢「市の大きな行事」は、「催しもの関係（市の行事・案内など）に含めている。

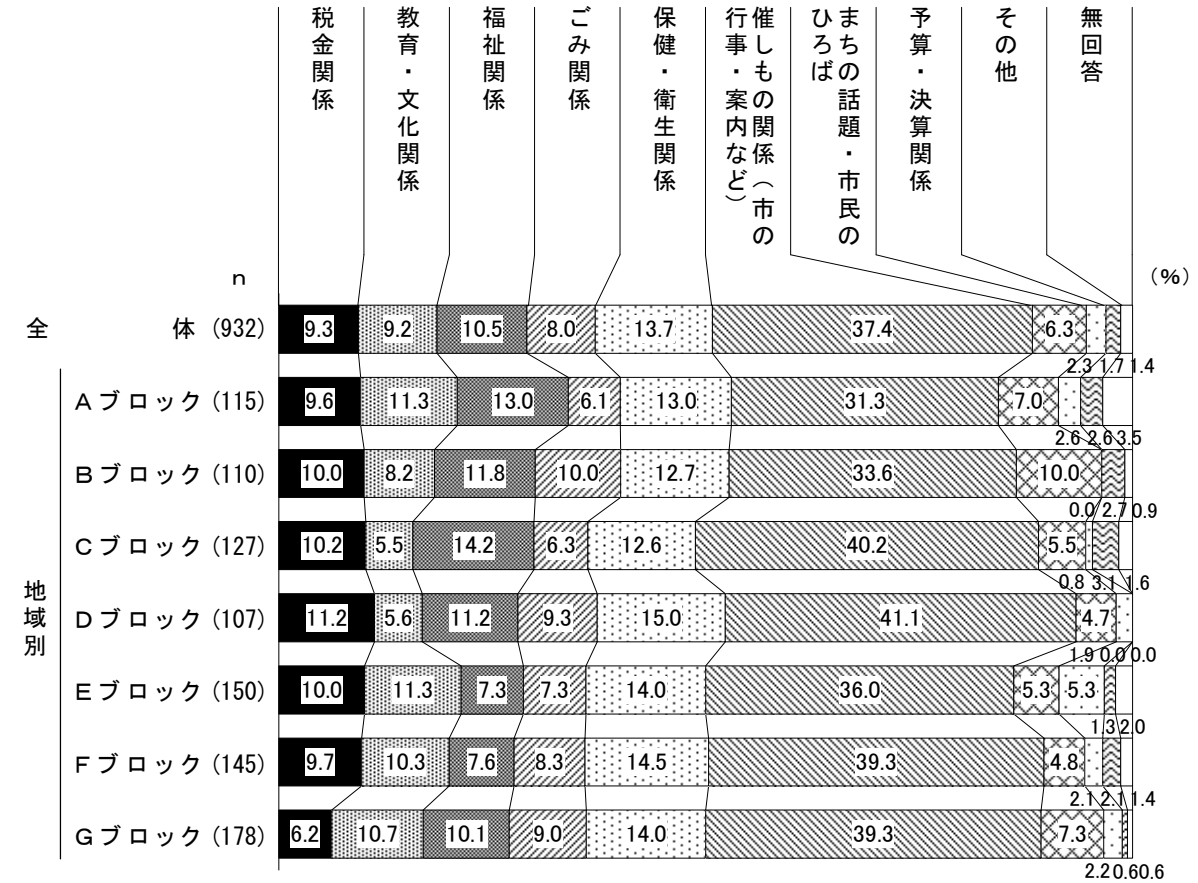
閲読状況別でみると、「ごみ関係」は必要なところだけ読む人（14.1%）で１割台半ばとなっている。（図表13－８）

＜図表13－８＞「広報ふっさ」で関心のある記事／閲読状況別



地域別でみると、「催しもの関係（市の行事・案内など)」はDブロック（41.1%）で４割強と高くなっている。「福祉関係」はCブロック（14.2%）で１割台半ばとなっている。（図表13－９）

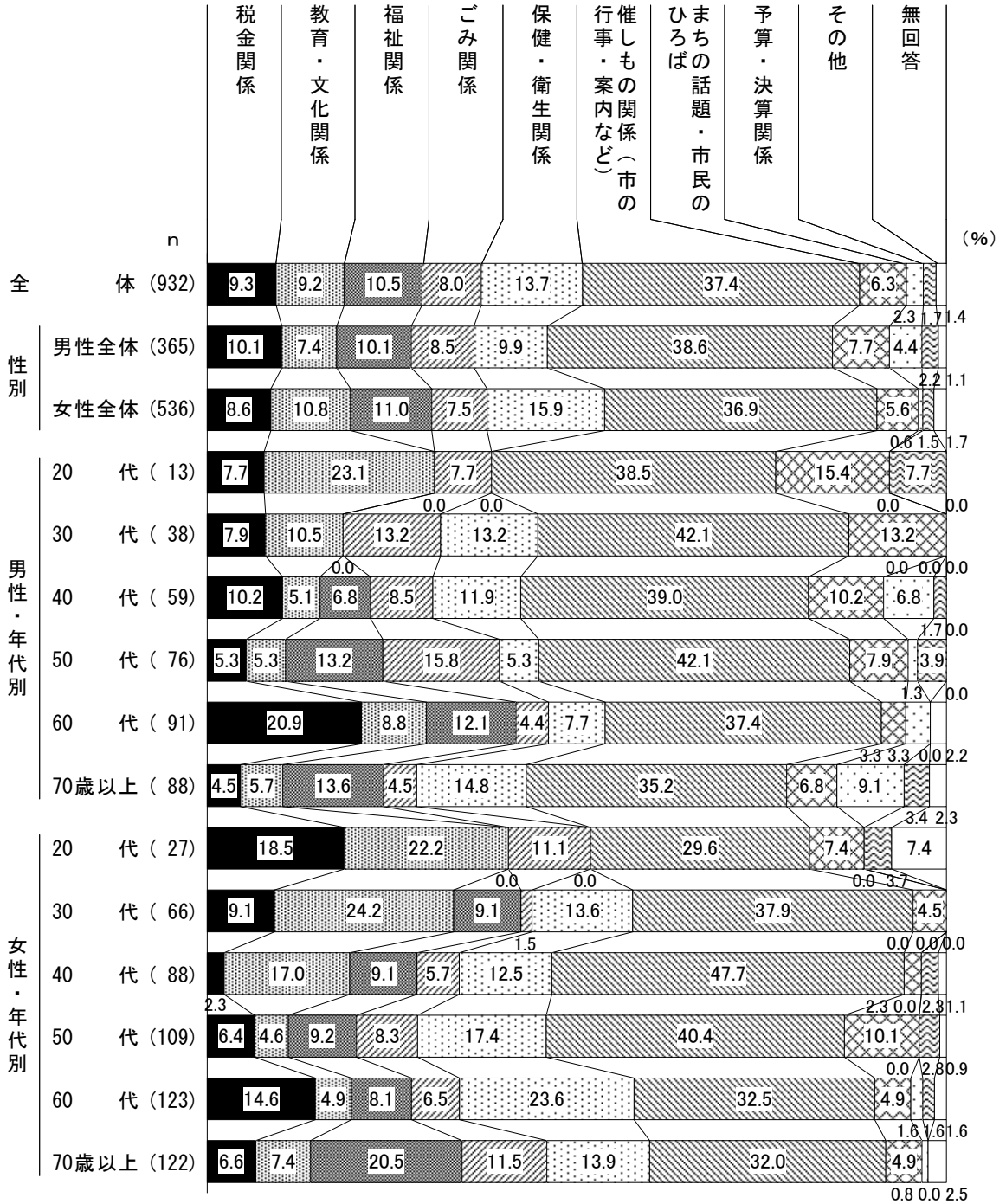
＜図表13－９＞「広報ふっさ」で関心のある記事／地域別



性別でみると、「保健・衛生関係」は女性（15.9%）が男性（9.9%）より6.0ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「保健・衛生関係」は女性60代（23.6%）で２割強と高くなっている。「福祉関係」は女性70歳以上（20.5%）で約２割と高くなっている。「税金関係」は男性60代（20.9%）で約２割と高くなっている。「教育・文化関係」は女性30代（24.2%）で２割台半ばと高くなっている。（図表13－10）

＜図表13－10＞「広報ふっさ」で関心のある記事／性別、性・年代別



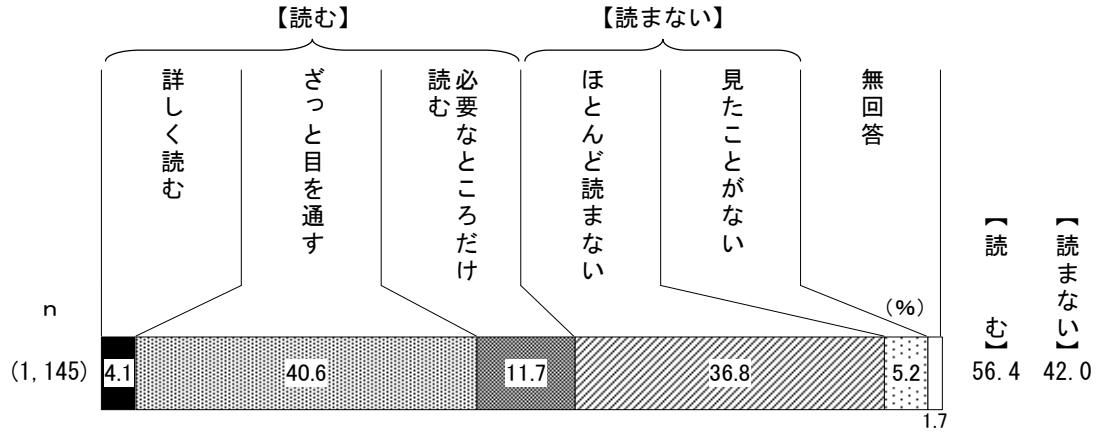
（３）「福生市議会だより」の閲読状況

◇【読む】が６割弱

問41　市では、『広報ふっさ』、『福生市議会だより』、『福生の教育』を発行していますが、あなたはそれぞれどの程度読んでいますか。

（２）『福生市議会だより』をどの程度読んでいますか。（○は１つ）

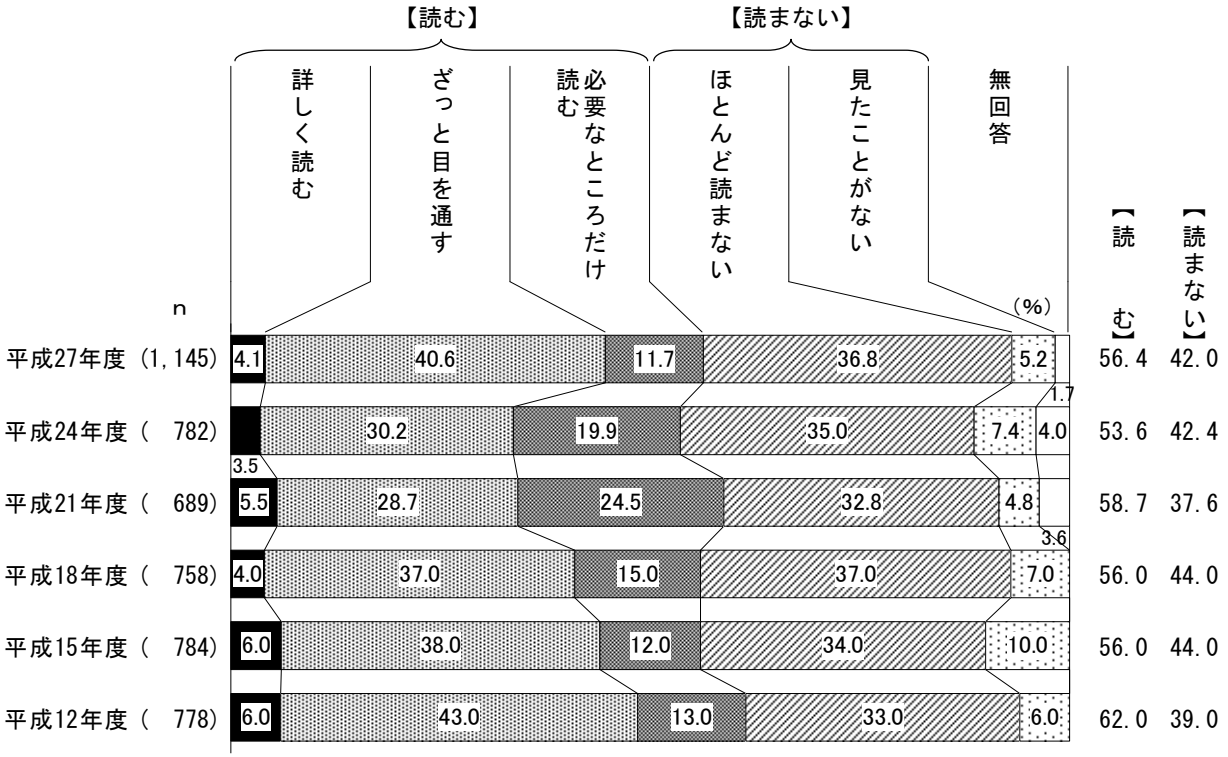
＜図表13－11＞「福生市議会だより」の閲読状況



「福生市議会だより」の閲読状況を聞いたところ、「詳しく読む」（4.1%）と「ざっと目を通す」（40.6%）、「必要なところだけ読む」（11.7%）の３つを合わせた【読む】（56.4%）が６割弱と高くなっている。一方、「ほとんど読まない」（36.8%）と「見たことがない」（5.2%）の２つを合わせた【読まない】（42.0%）は４割強となっている。（図表13－11）

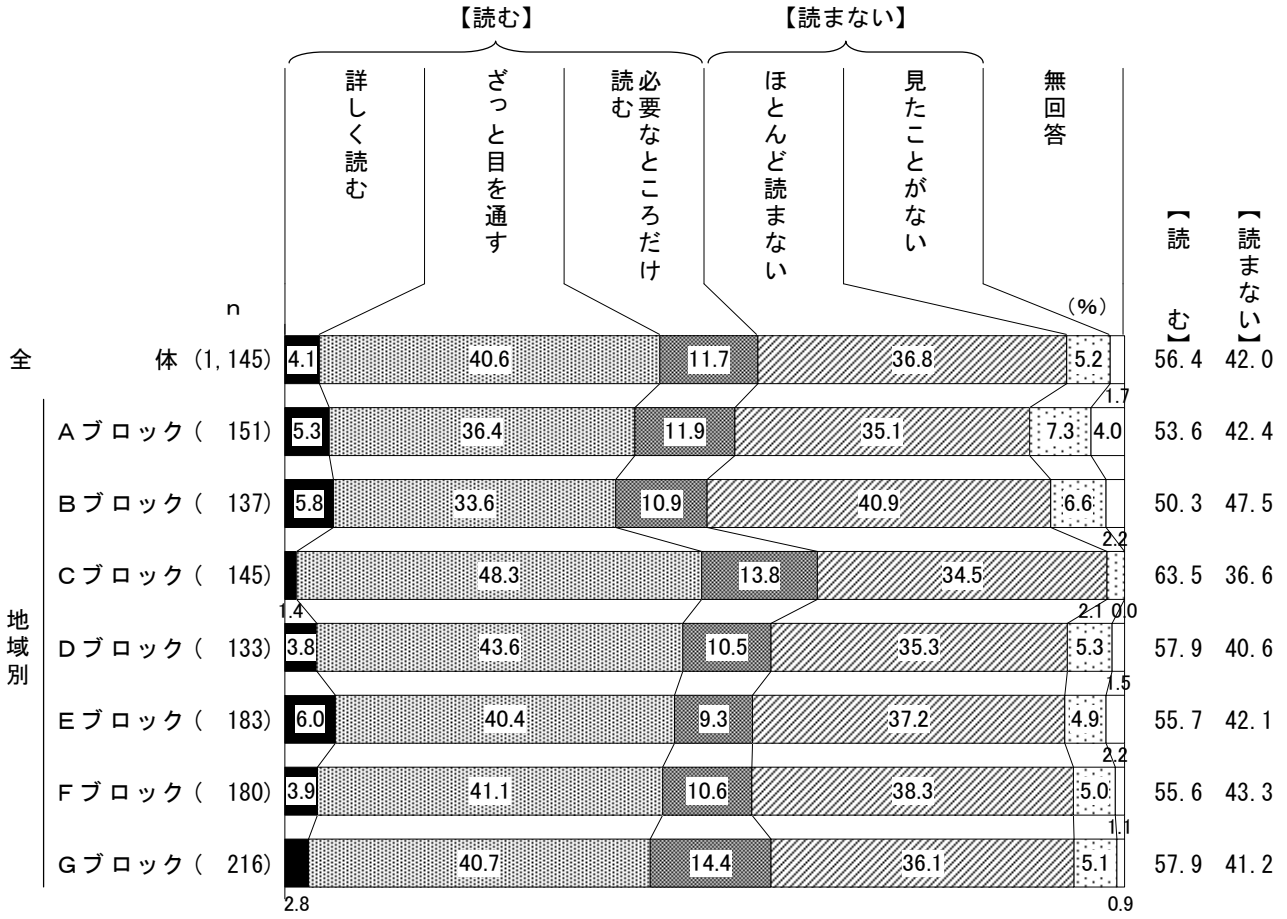
過年度の調査結果の推移をみると、【読む】は平成24年度と比べて2.8ポイント増加している。（図表13－12）

＜図表13－12＞「福生市議会だより」の閲読状況／過年度推移



地域別でみると、【読む】はＣブロック（63.5%）で６割強と高くなっている。一方、【読まない】はＢブロック（47.5%）で５割弱と高くなっている。（図表13－13）

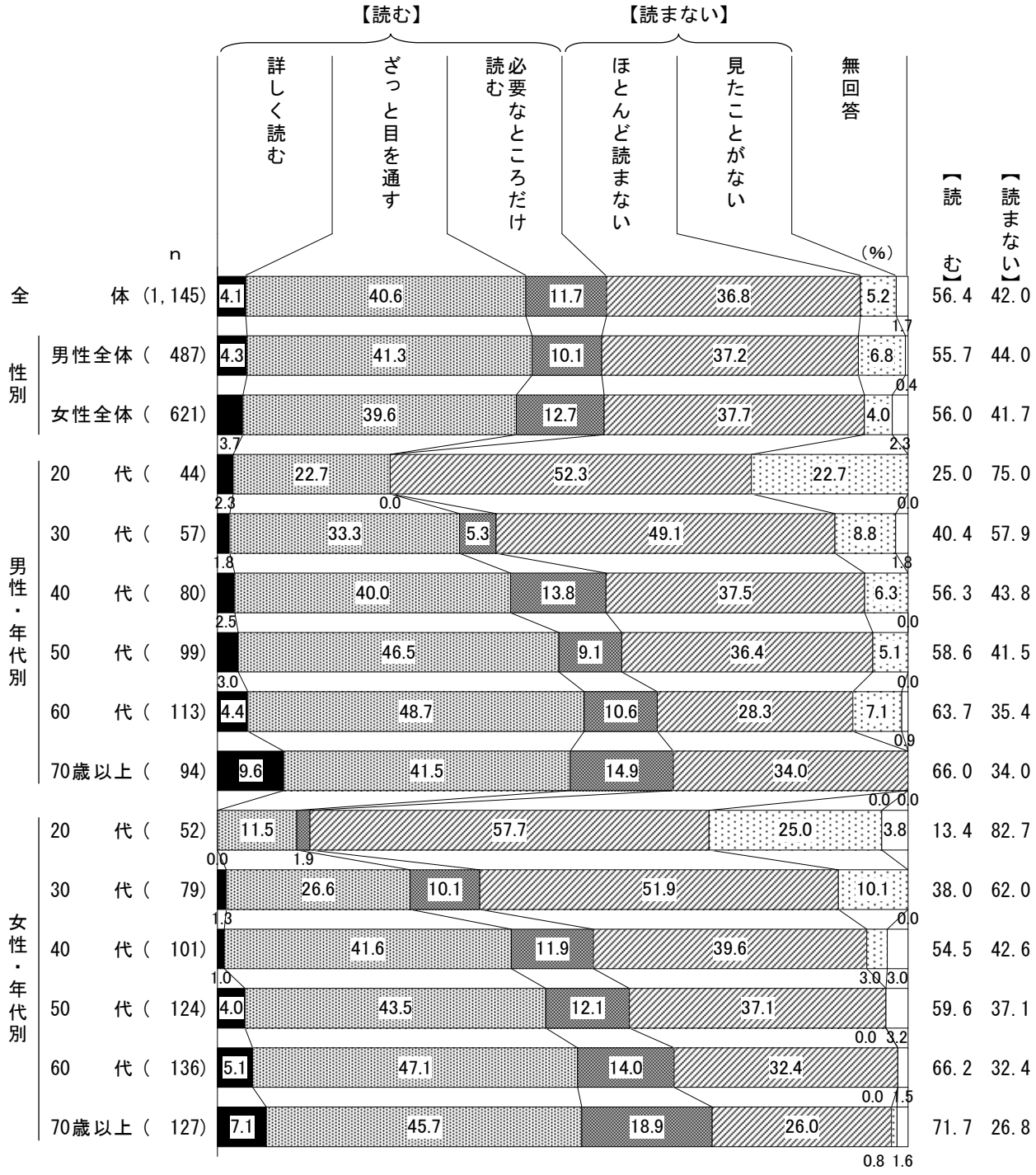
＜図表13－13＞「福生市議会だより」の閲読状況／地域別



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

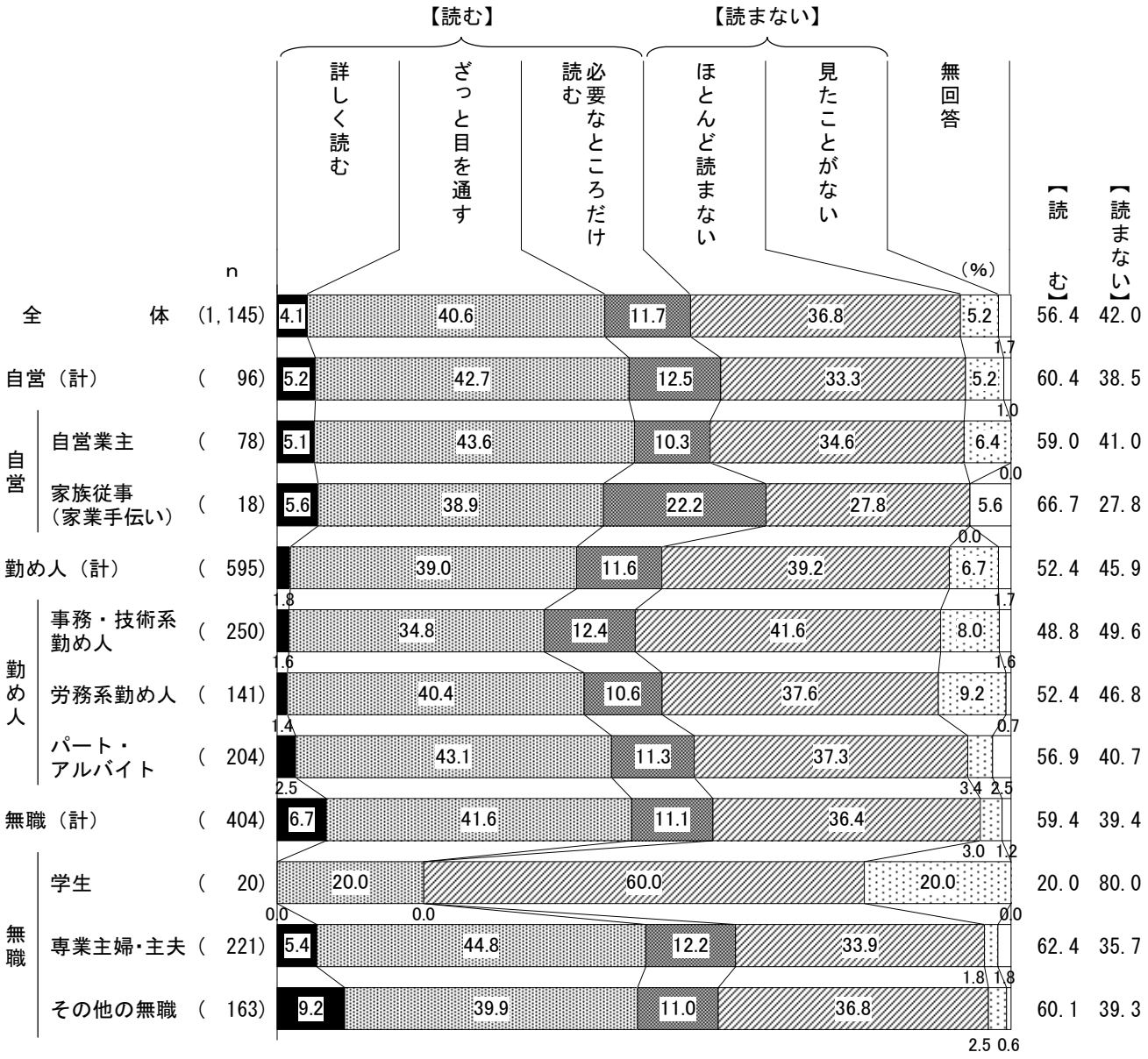
性・年代別でみると、【読む】は女性70歳以上（71.7%）で７割強、女性60代（66.2%）で７割弱と高くなっている。一方、【読まない】は女性20代（82.7%）で８割強、男性20代（75.0%）で７割台半ばと高くなっている。(図表13－14)

＜図表13－14＞「福生市議会だより」の閲読状況／性別、性・年代別



職業別でみると、【読まない】は学生（80.0%）で８割、事務・技術系勤め人（49.6%）で約５割と高くなっている。(図表13－15)

＜図表13－15＞「福生市議会だより」の閲読状況／職業別



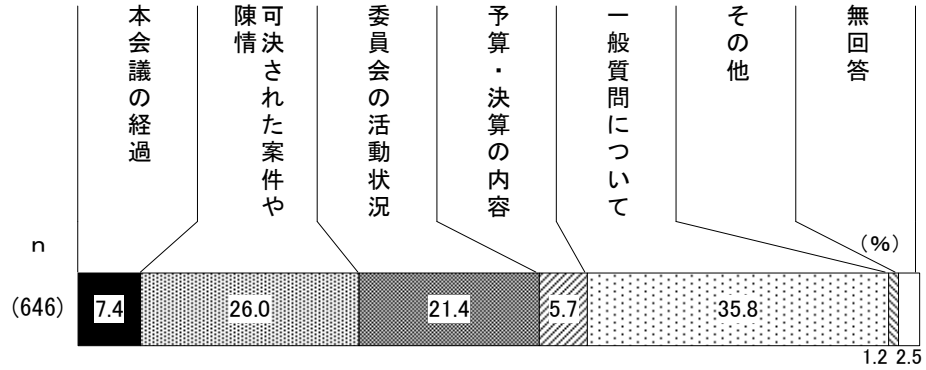
（４）「福生市議会だより」で関心のある記事

◇「一般質問について」が３割台半ば

（問41（２）で、「詳しく読む」「ざっと目を通す」「必要なところだけ読む」を選んだ方に）

問41－２　主にどのような内容に関心を持って読まれますか。次の中から１つだけ選んでください。（○は１つ）

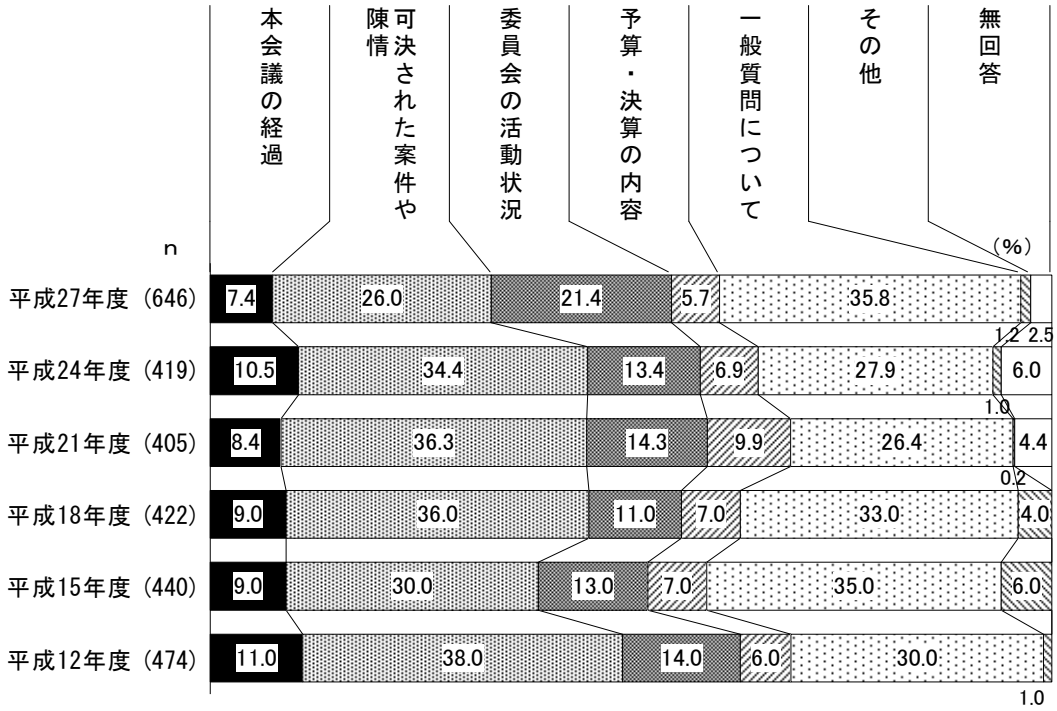
＜図表13－16＞「福生市議会だより」で関心のある記事



問41（２）で、「福生市議会だより」を「詳しく読む」、「ざっと目を通す」、「必要なところだけ読む」と答えた方に、関心のある記事を聞いたところ、「一般質問について」（35.8%）が３割台半ばで最も高く、次いで「可決された案件や陳情」（26.0%）、「委員会の活動状況」（21.4%）となっている。（図表13－16）

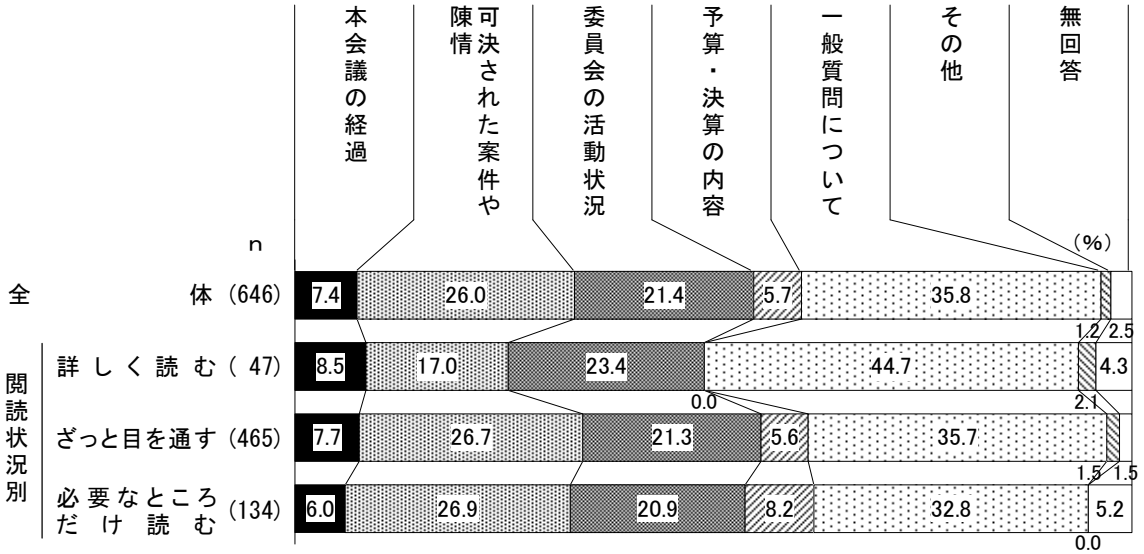
過年度の調査結果の推移をみると、「委員会の活動状況」は平成24年度と比べて8.0ポイント増加し、「一般質問について」は平成24年度と比べて7.9ポイント増加している。一方、「可決された案件や陳情」は平成24年度と比べて8.4ポイント減少している。（図表13－17）

＜図表13－17＞「福生市議会だより」で関心のある記事／過年度推移



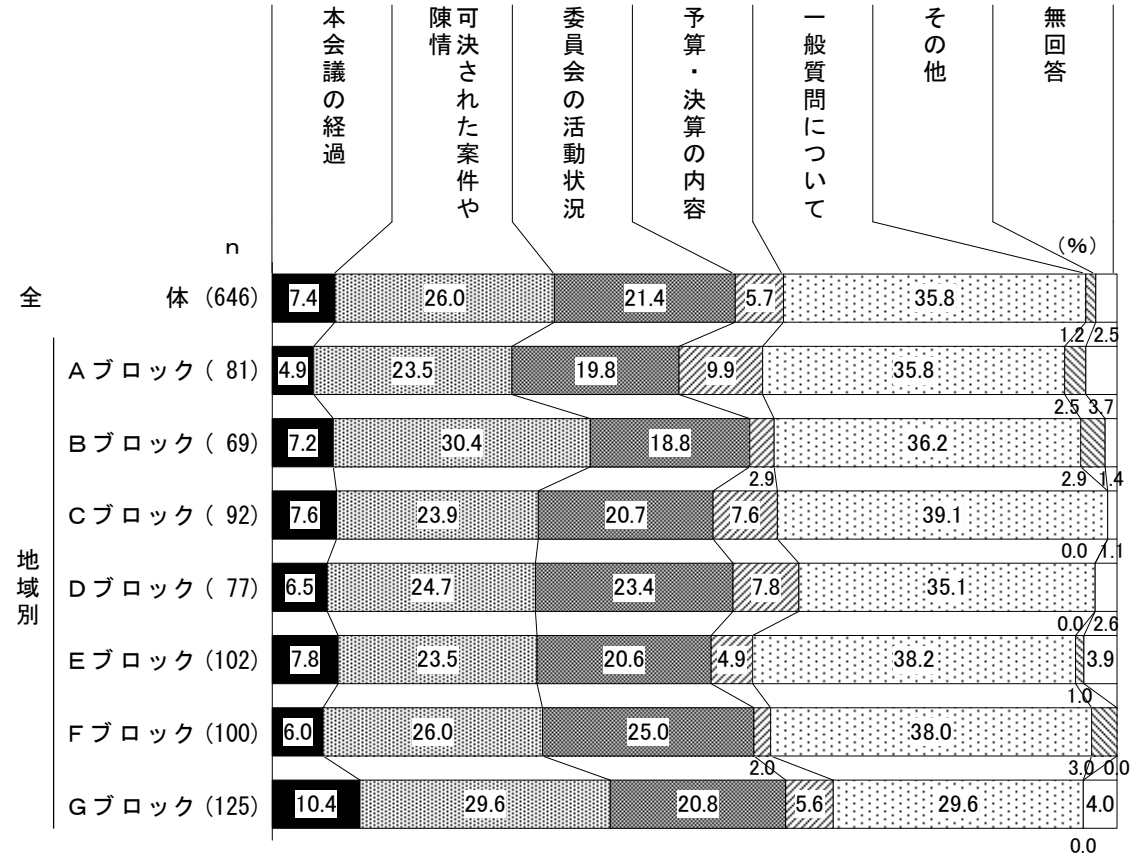
閲読状況別でみると、「一般質問について」は詳しく読む人（44.7%）で４割台半ばと高くなっている。(図表13－18)

＜図表13－18＞「福生市議会だより」で関心のある記事／閲読状況別



地域別でみると、「可決された案件や陳情」はＢブロック（30.4%）とＧブロック（29.6%）で約３割と高くなっている。(図表13－19)

＜図表13－19＞「福生市議会だより」で関心のある記事／地域別

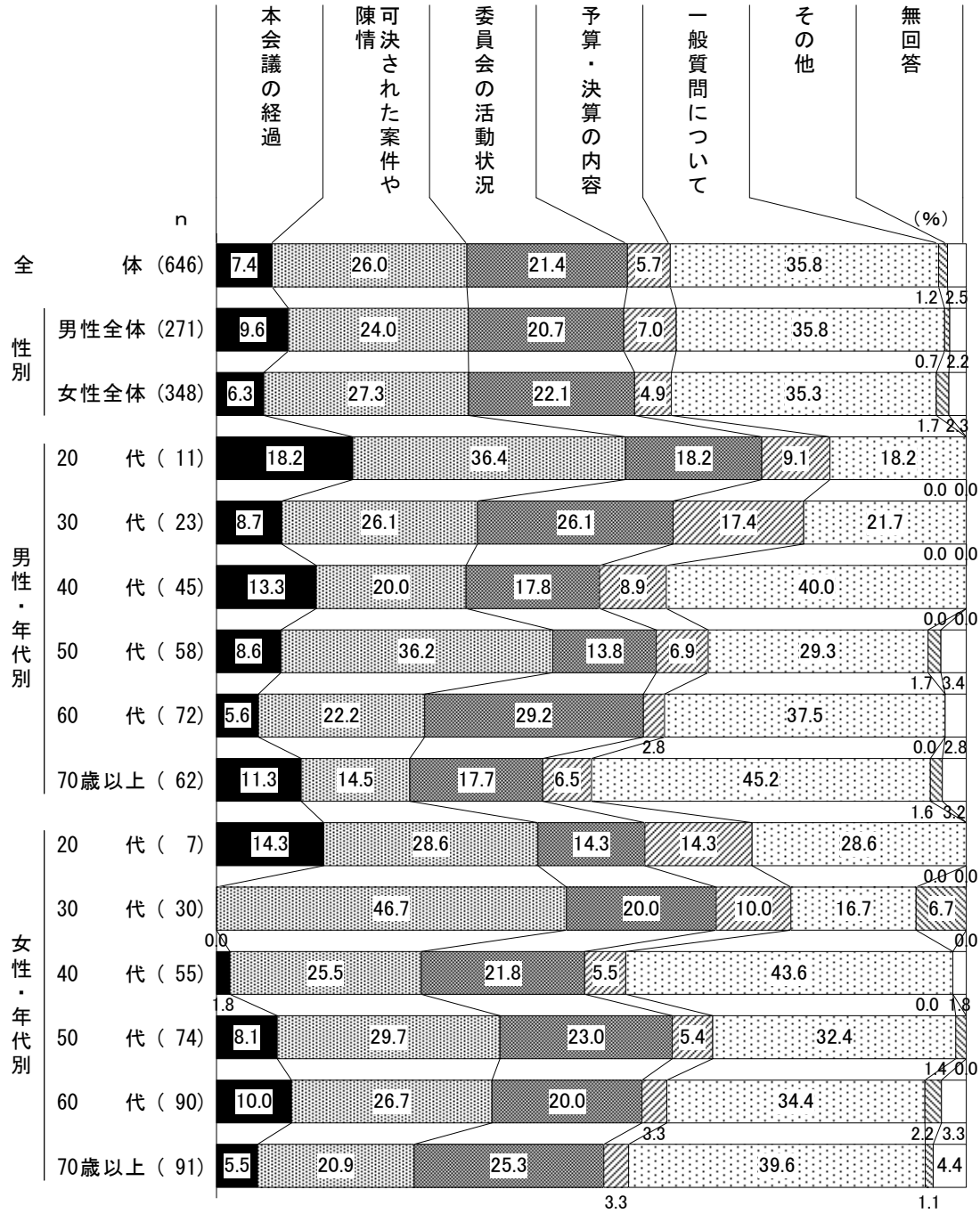


性別でみると、「可決された案件や陳情」は女性（27.3%）が男性（24.0%）より3.3ポイント高くなっている。「本会議の経過」は男性（9.6%）が女性（6.3%）より3.3ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「一般質問について」は男性70歳以上（45.2%）で４割台半ば、女性40代（43.6%）で４割強と高くなっている。「可決された案件や陳情」は女性30代（46.7%）で５割弱と高くなっている。「委員会の活動状況」は男性60代（29.2%）で約３割と高くなっている。

（図表13－20）

＜図表13－20＞「福生市議会だより」で関心のある記事／性別、性・年代別



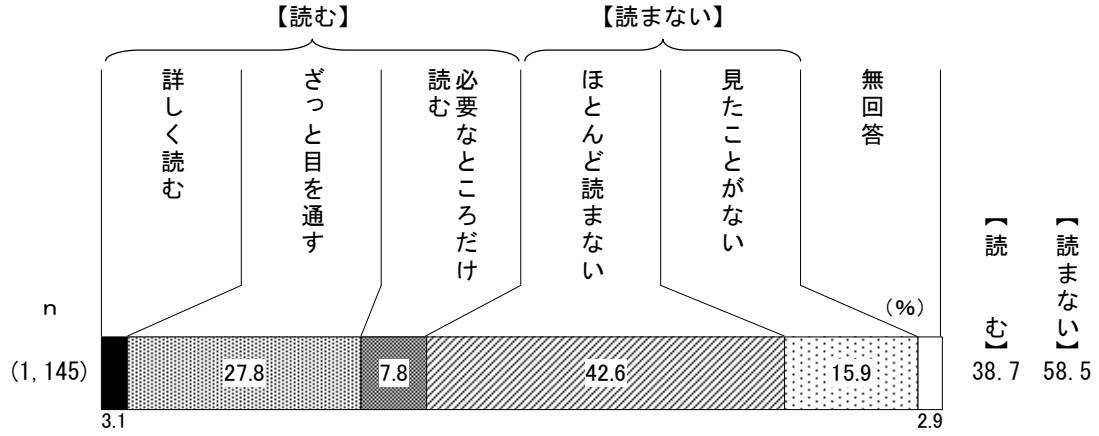
（５）「福生の教育」の閲読状況

◇【読む】が４割弱

問41　市では、『広報ふっさ』、『福生市議会だより』、『福生の教育』を発行していますが、あなたはそれぞれどの程度読んでいますか。

（３）『福生の教育』をどの程度読んでいますか。（○は１つ）

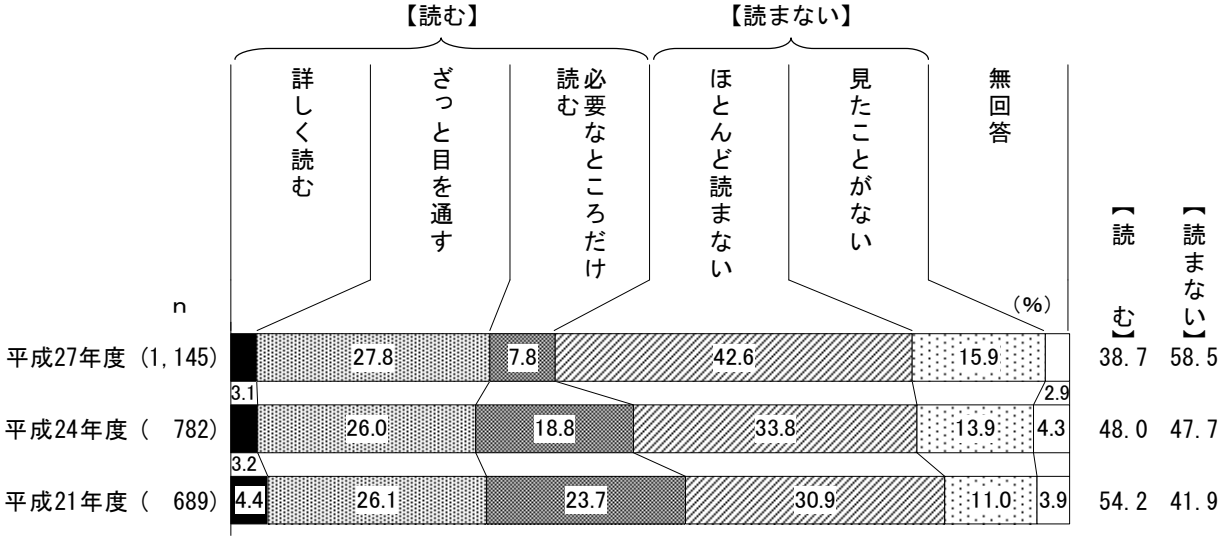
＜図表13－21＞「福生の教育」の閲読状況



「福生の教育」の閲読状況を聞いたところ、「詳しく読む」(3.1%)と「ざっと目を通す」(27.8%)、「必要なところだけ読む」（7.8%）の３つを合わせた【読む】（38.7%）が４割弱となっている。一方、「ほとんど読まない」（42.6%）と「見たことがない」（15.9%）の２つを合わせた【読まない】（58.5%）は６割弱となっている。(図表13－21)

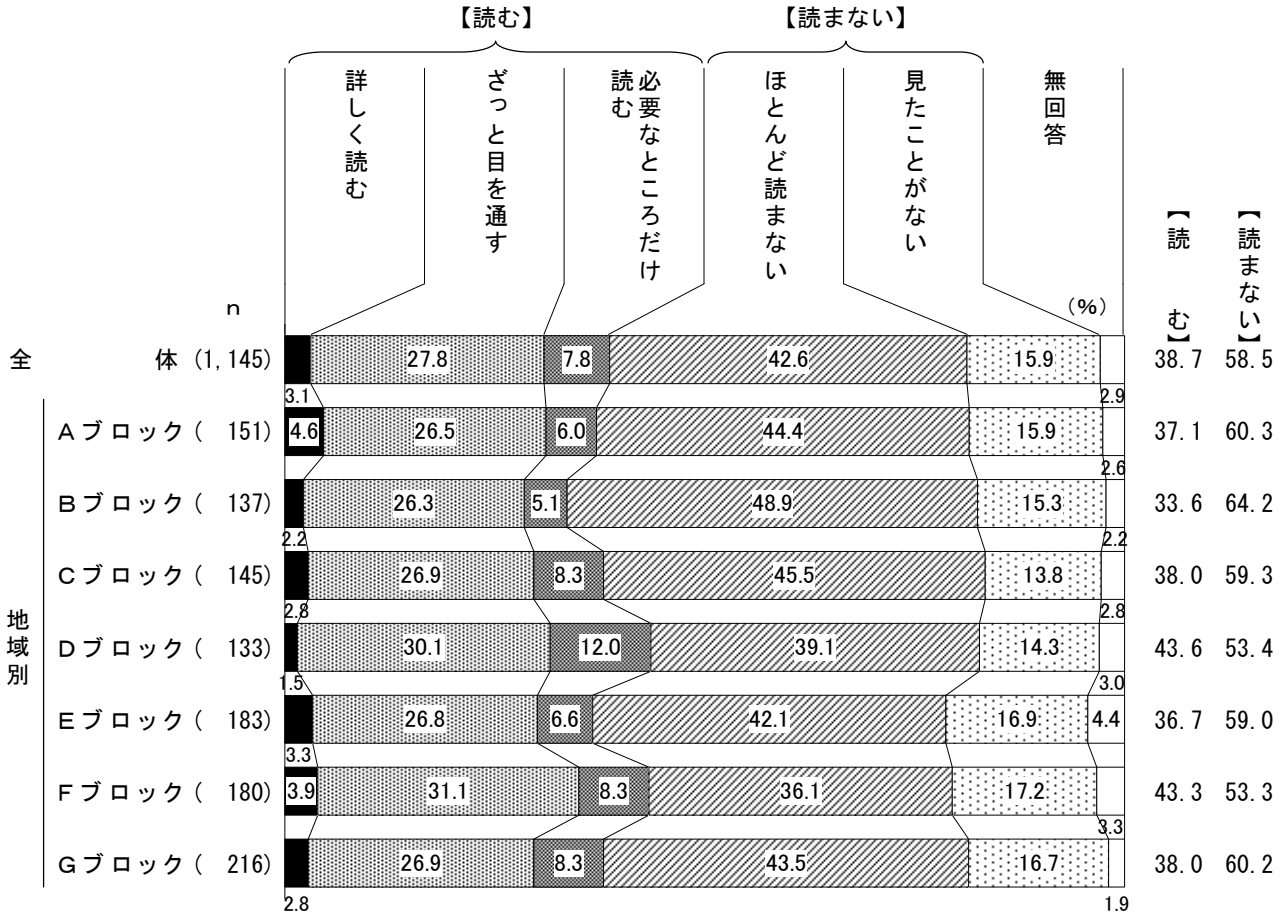
過年度の調査結果の推移をみると、【読む】は減少傾向にあり、平成24年度と比べて9.3ポイント減少している。(図表13－22)

＜図表13－22＞「福生の教育」の閲読状況／過年度推移



地域別でみると、【読む】はDブロック（43.6%）とFブロック（43.3%）で４割強と高くなっている。一方、【読まない】はBブロック（64.2%）で６割台半ばと高くなっている。(図表13－23)

＜図表13－23＞「福生の教育」の閲読状況／地域別

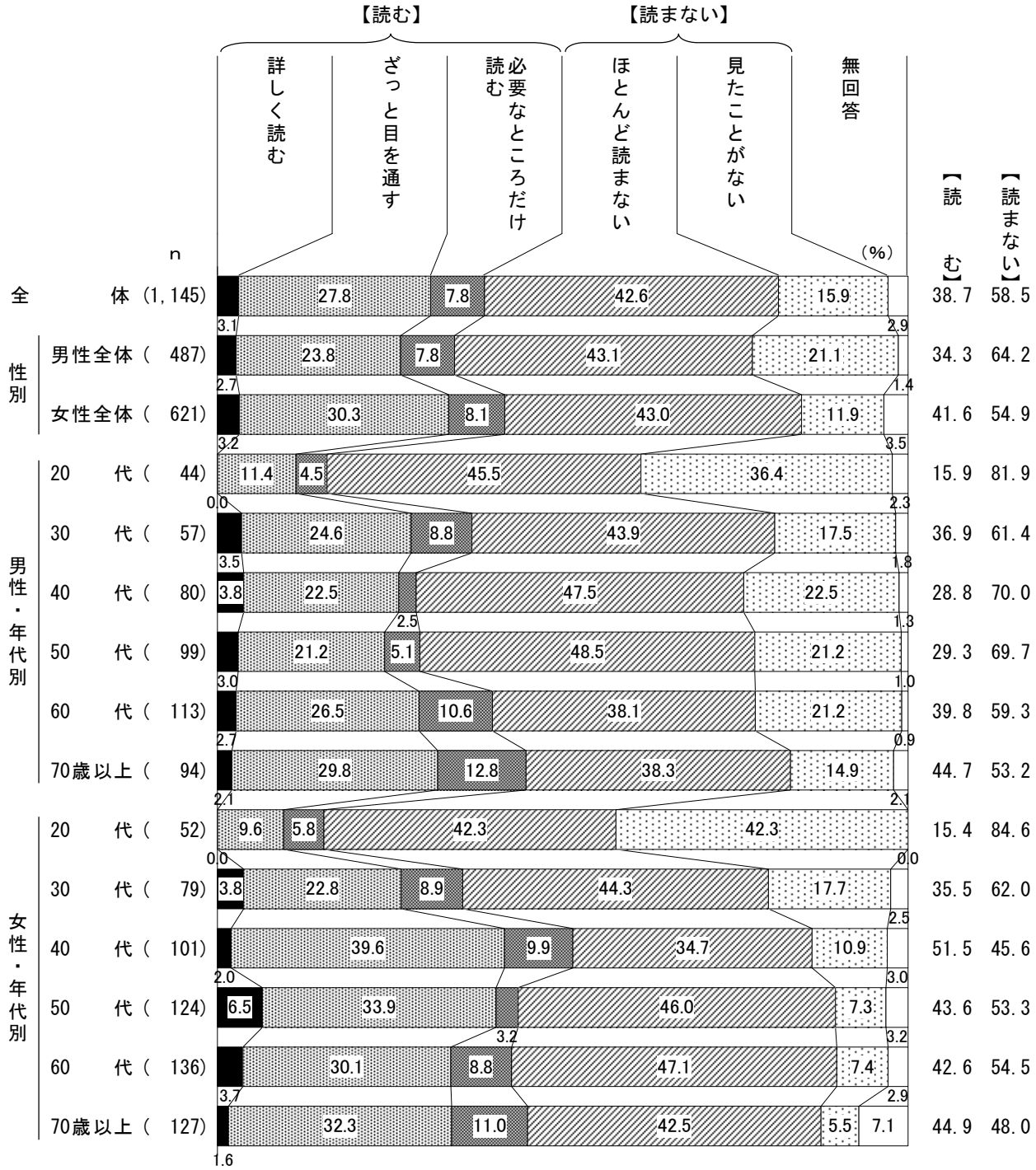


性別でみると、【読む】は女性（41.6%）が男性（34.3%）より7.3ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【読む】は女性40代（51.5%）で５割強と高くなっている。一方、【読まない】は女性20代（84.6%）で８割台半ば、男性20代（81.9%）で８割強と高くなっている。

（図表13－24）

＜図表13－24＞「福生の教育」の閲読状況／性別、性・年代別



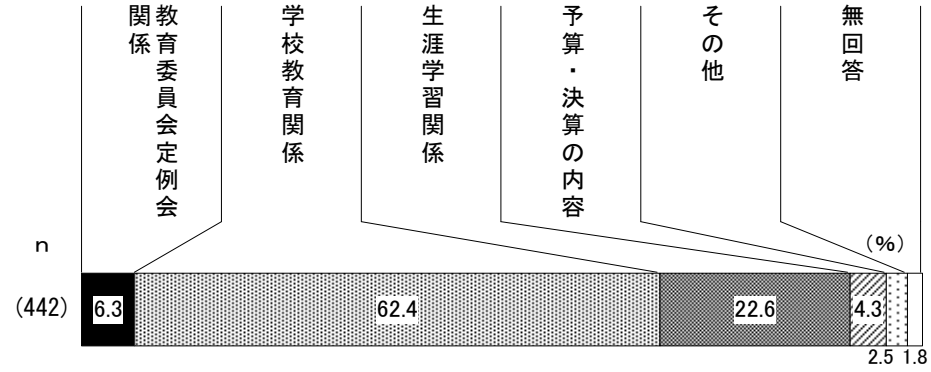
（６）「福生の教育」で関心のある記事

◇「学校教育関係」が６割強

（問41（３）で、「詳しく読む」「ざっと目を通す」「必要なところだけ読む」を選んだ方に）

問41－３　主にどのような内容に関心を持って読まれますか。次の中から１つだけ選んでください。（○は１つ）

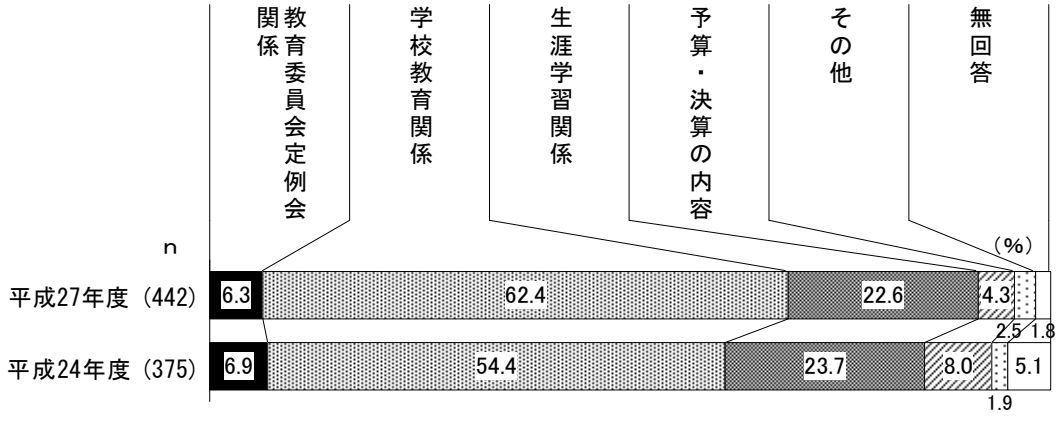
＜図表13－25＞「福生の教育」で関心のある記事



問41（３）で、「福生の教育」を「詳しく読む」、「ざっと目を通す」、「必要なところだけ読む」と答えた方に、関心のある記事を聞いたところ、「学校教育関係」（62.4％）が６割強で最も高く、次いで「生涯学習関係」（22.6％）、「教育委員会定例会関係」（6.3％）となっている。（図表13－25）

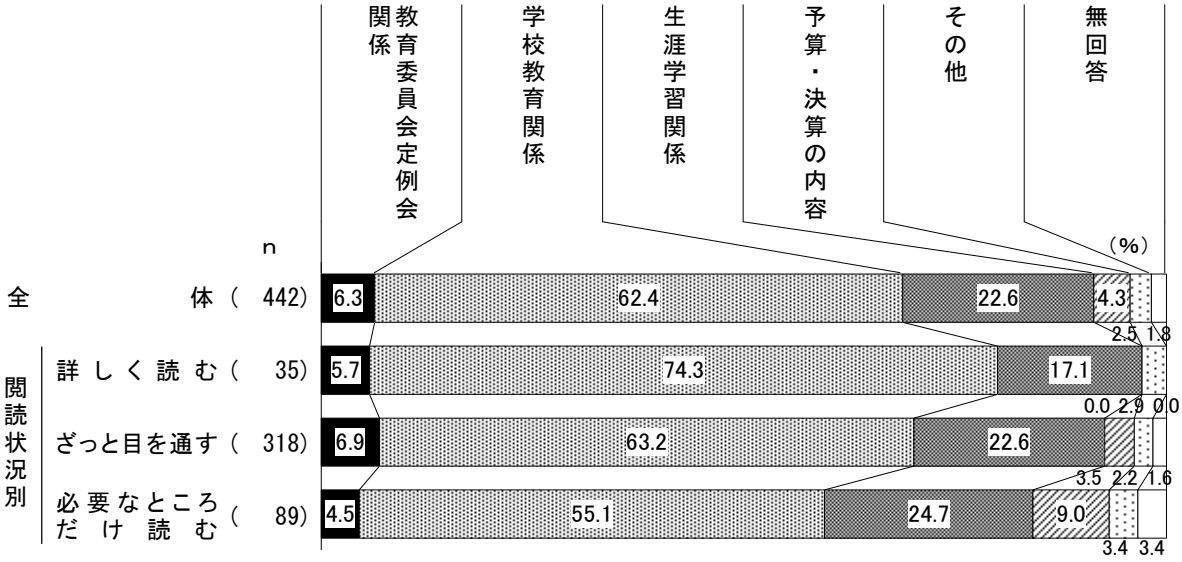
前回の調査結果と比較すると、「学校教育関係」は8.0ポイント増加している。一方、「予算・決算の内容」は3.7ポイント減少している。（図表13－26）

＜図表13－26＞「福生の教育」で関心のある記事／過年度推移



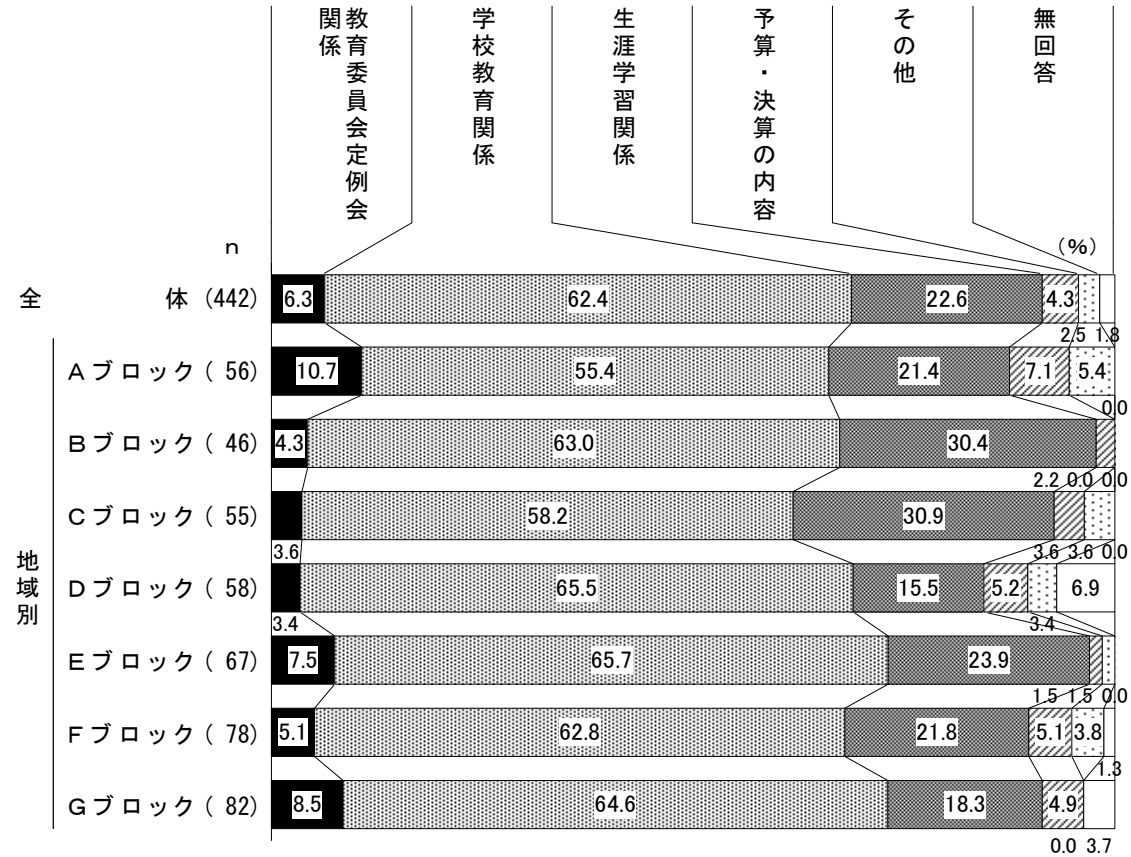
閲読状況別でみると、「学校教育関係」は詳しく読む人（74.3%）で７割台半ばと高くなっている。(図表13－27)

＜図表13－27＞「福生の教育」で関心のある記事／閲読状況別



地域別でみると、「生涯学習関係」はＢブロック（30.4%）とＣブロック（30.9%）で約３割と高くなっている。(図表13－28)

＜図表13－28＞「福生の教育」で関心のある記事／地域別

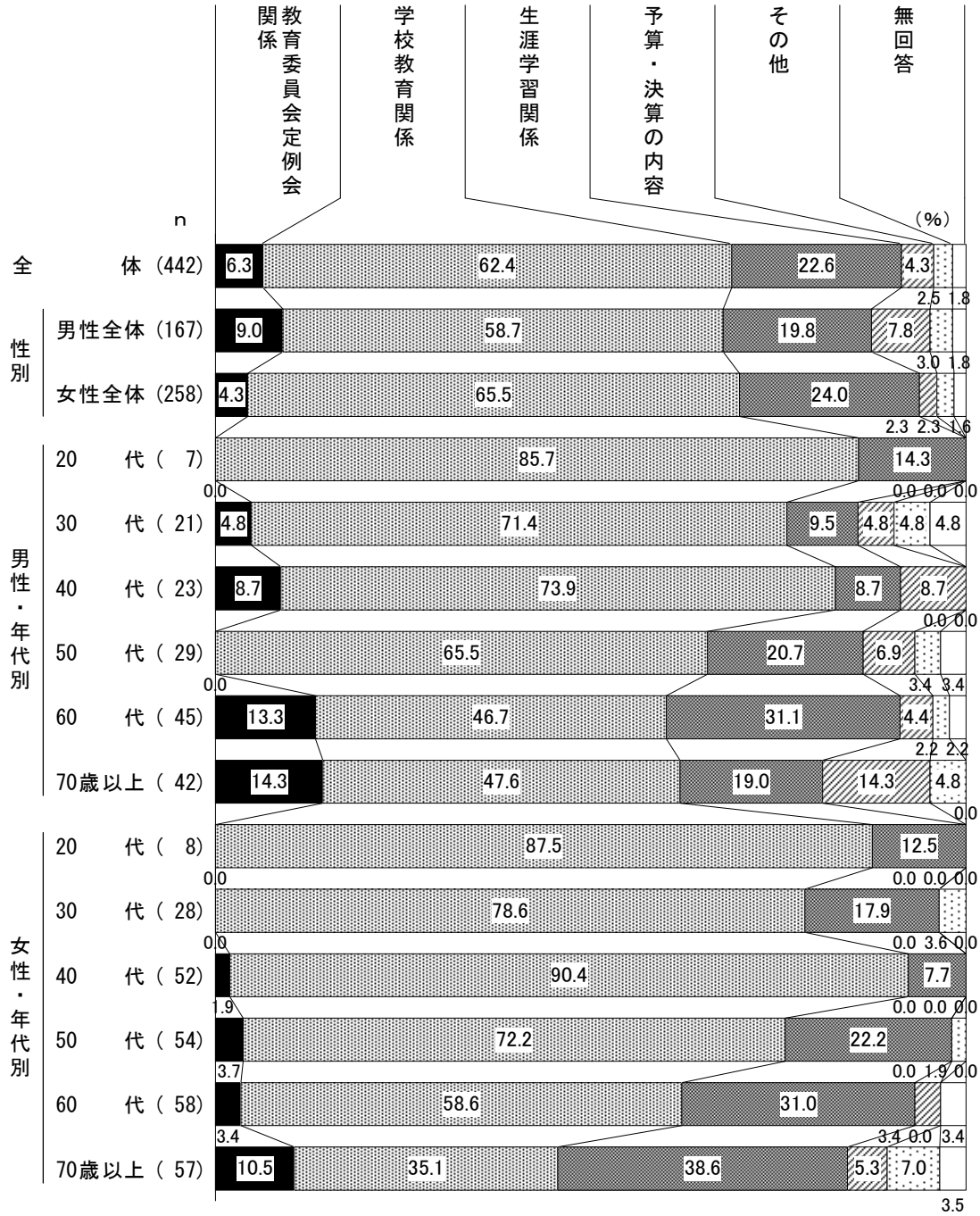


性別でみると、「学校教育関係」は女性（65.5%）が男性（58.7%）より6.8ポイント高くなっている。「予算・決算の内容」は男性（7.8%）が女性（2.3%）より5.5ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「学校教育関係」は女性40代（90.4%）で約９割と高くなっている。「生涯学習関係」は女性70歳以上（38.6%）で４割弱、男性60代（31.1%）で３割強と高くなっている。

（図表13－29）

＜図表13－29＞「福生の教育」で関心のある記事／性別、性・年代別

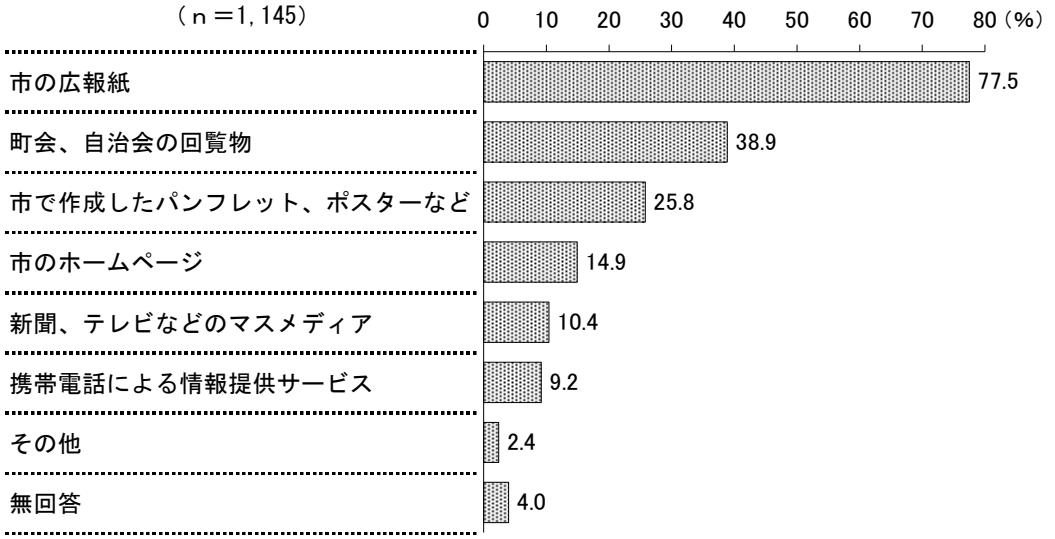


（７）市の情報を何から得ているか

◇「市の広報紙」が８割弱

問42　あなたは市の情報を特に何から得ていますか。あてはまるものを全て選んでください。
（○はいくつでも）

＜図表13－30＞市の情報を何から得ているか

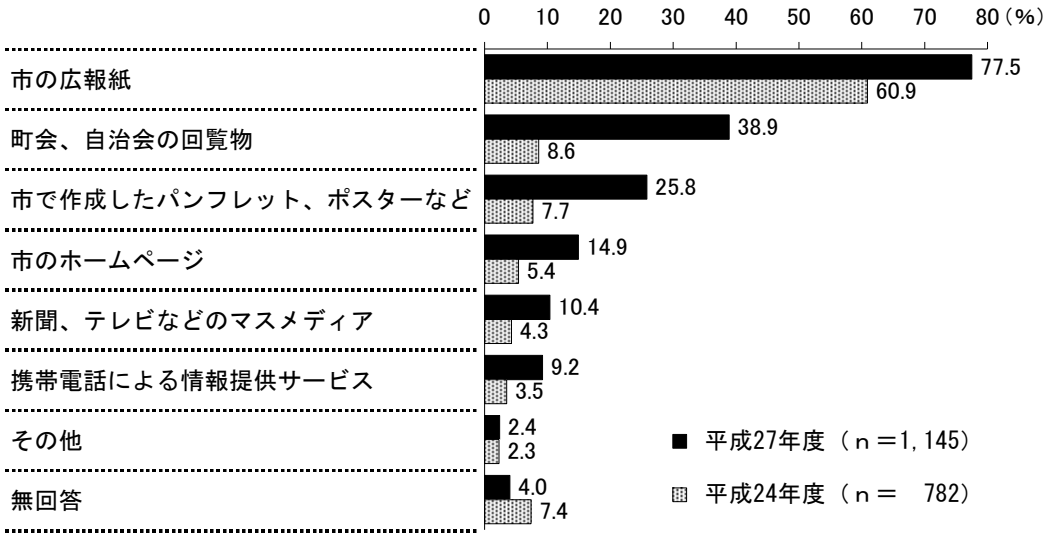


市の情報を何から得ているか聞いたところ、「市の広報紙」（77.5%）が８割弱で最も高く、次いで「町会、自治会の回覧物」（38.9%）、「市で作成したパンフレット、ポスターなど」（25.8%）、「市のホームページ」（14.9%）、「新聞、テレビなどのマスメディア」（10.4%）となっている。

（図表13－30）

前回の調査結果との比較については、前回調査では特に利用しているものを１つだけ選択する形式で質問していたため、参考に掲載する。（図表13－31）

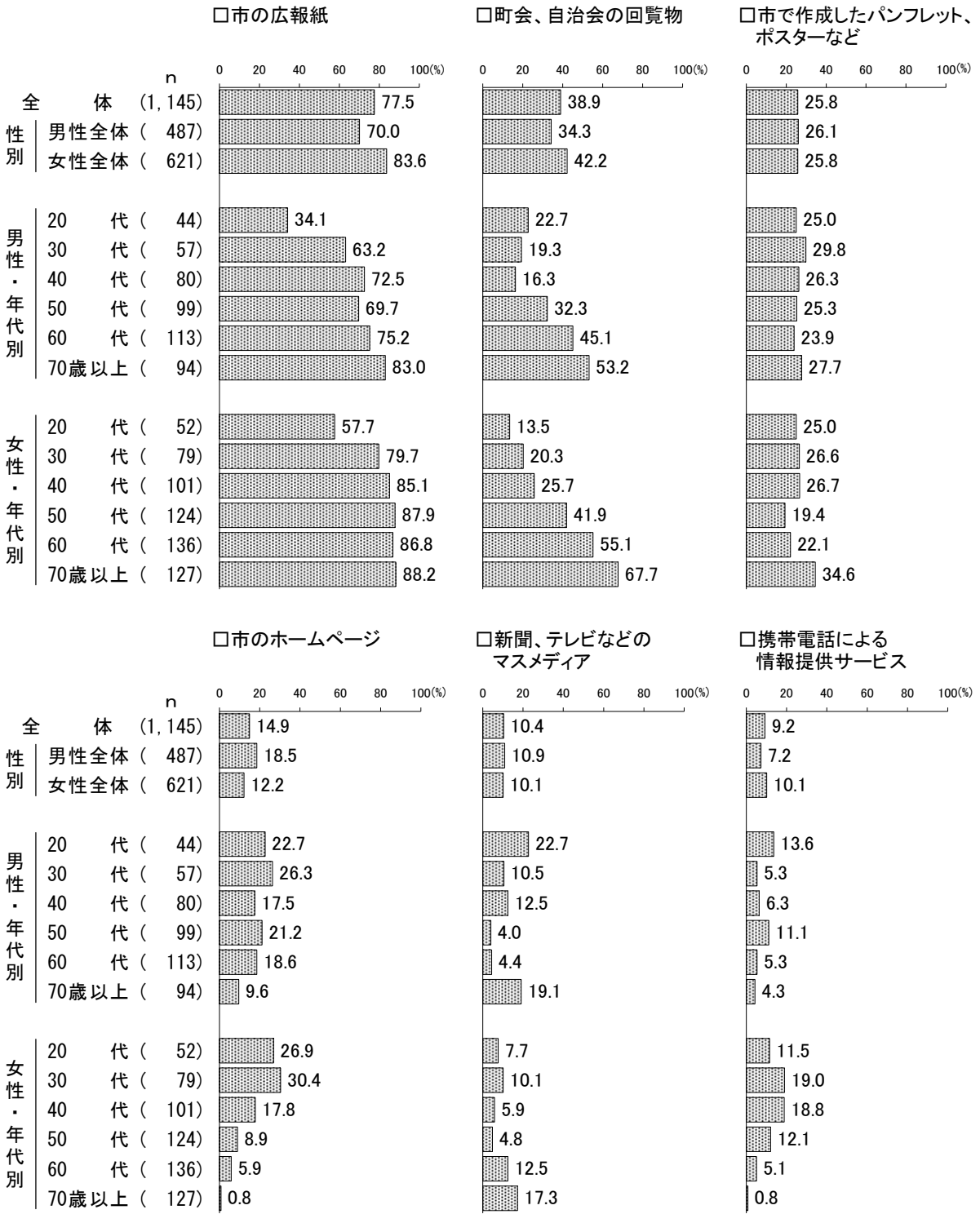
＜図表13－31＞市の情報を何から得ているか／過年度推移



上位６項目について性別でみると、「市の広報紙」は女性（83.6%）が男性（70.0%）より13.6ポイント高く、「町会、自治会の回覧物」は女性（42.2%）が男性（34.3%）より7.9ポイント高くなっている。「市のホームページ」は男性（18.5%）が女性（12.2%）より6.3ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「町会、自治会の回覧物」は女性70歳以上（67.7%）で７割弱と高くなっている。「市のホームページ」は女性30代（30.4%）で約３割と高くなっている。「新聞、テレビなどのマスメディア」は男性20代（22.7%）で２割強と高くなっている。（図表13－32）

＜図表13－32＞市の情報を何から得ているか／性別、性・年代別（上位６項目）

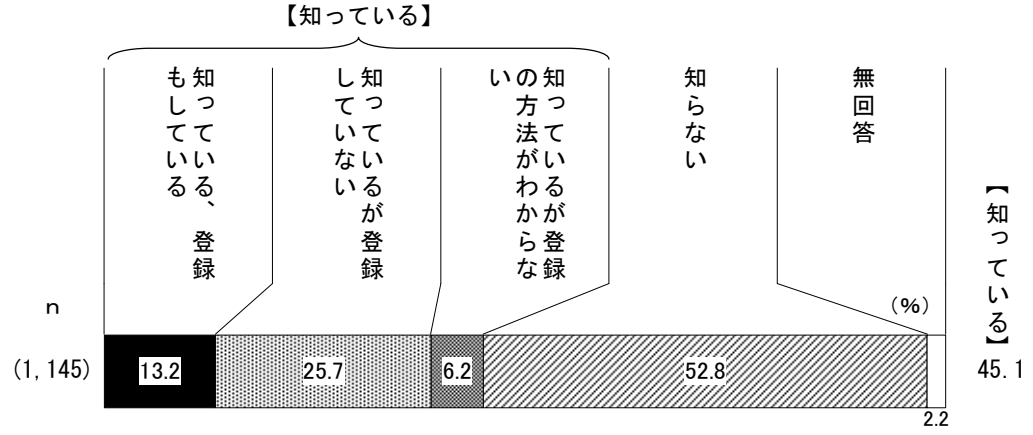


（８）「ふっさ情報メール」の認知状況

◇「知っている、登録もしている」が１割強

問43　市では携帯電話やパソコンのメール機能を活用し、あらかじめ登録していただいた利用者の携帯電話やパソコンに「ふっさ情報メール」として、防災情報や各種イベント情報など、生活に役立つ情報を配信しています。この「ふっさ情報メール」について次の中から１つだけ選んでください。（○は１つ）

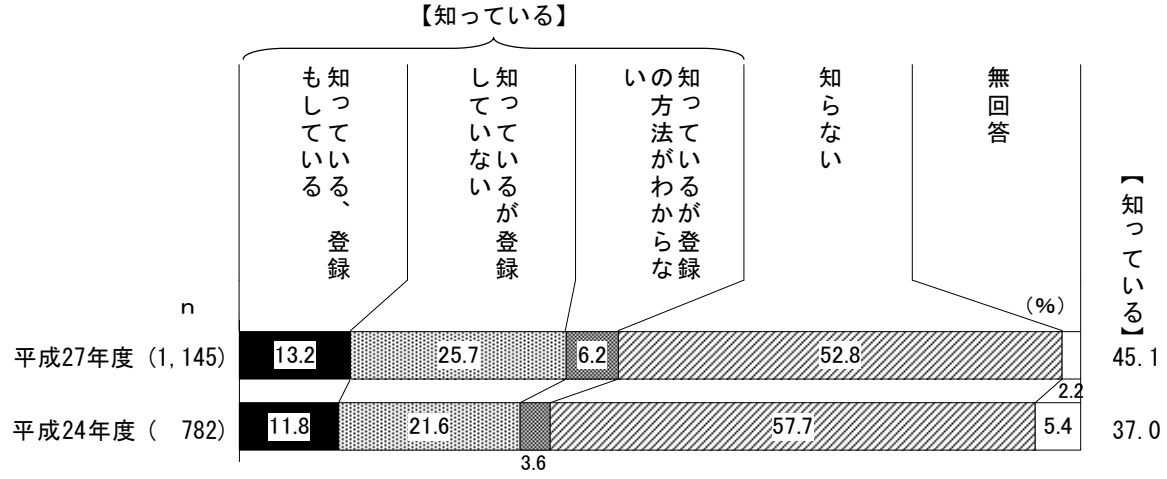
＜図表13－33＞「ふっさ情報メール」の認知状況



「ふっさ情報メール」の認知状況を聞いたところ、「知っている、登録もしている」（13.2%）が１割強となっており、これと「知っているが登録していない」（25.7%）、「知っているが登録の方法がわからない」の３つを合わせた【知っている】（45.1%）が４割台半ばとなっている。一方、「知らない」（52.8%）は５割強となっている。（図表13－33）

前回の調査結果と比較すると、【知っている】は8.1ポイント増加している。（図表13－34）

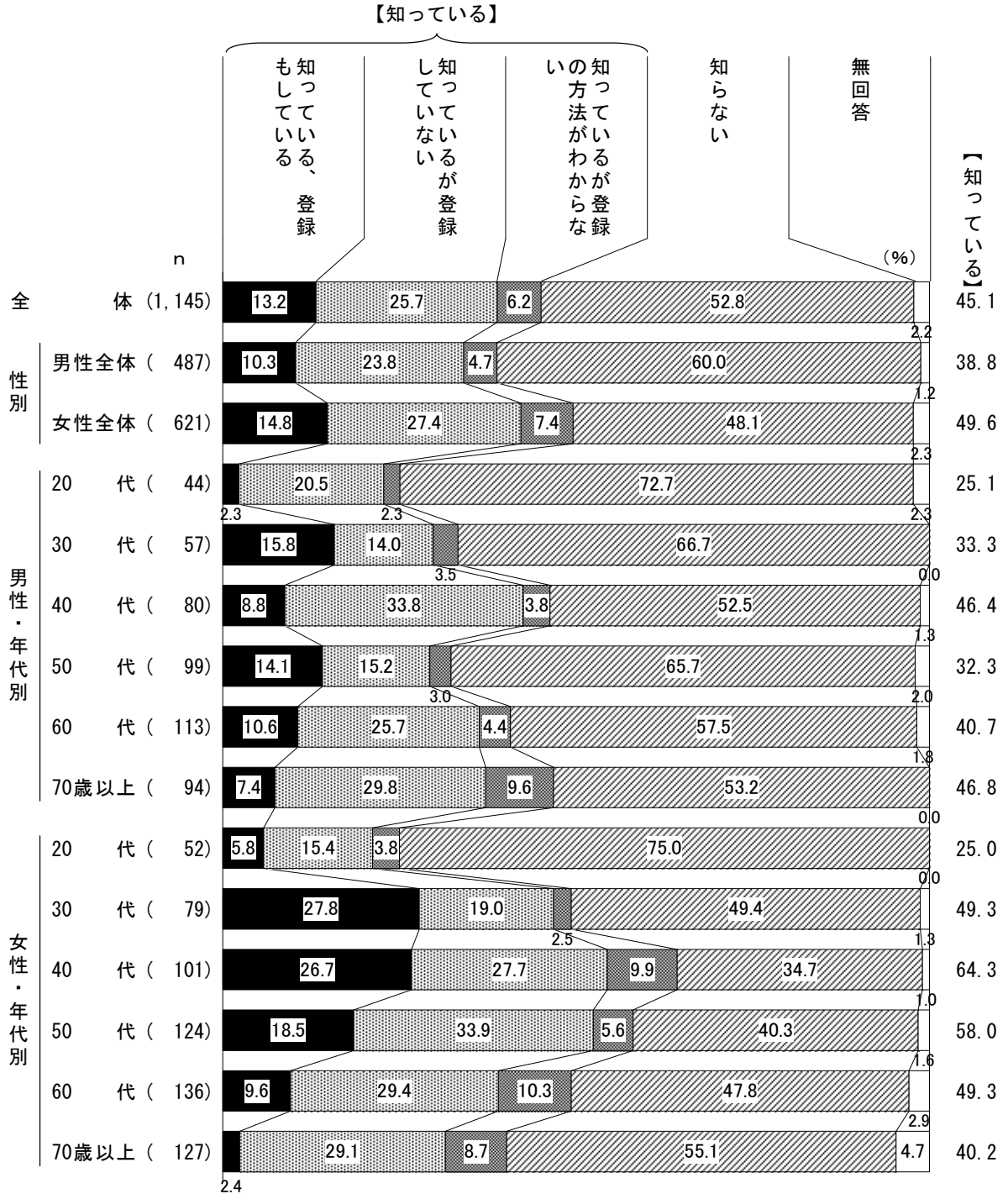
＜図表13－34＞「ふっさ情報メール」の認知状況／過年度推移



性別でみると、【知っている】は女性（49.6%）が男性（38.8%）より10.8ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は女性40代（64.3%）で６割台半ば、女性50代（58.0%）で６割弱と高くなっている。「知っている、登録もしている」は女性30代（27.8%）と女性40代（26.7%）で３割弱と高くなっている。「知らない」は女性20代（75.0%）で７割台半ば、男性20代（72.7%）で７割強と高くなっている。（図表13－35）

＜図表13－35＞「ふっさ情報メール」の認知状況／性別、性・年代別

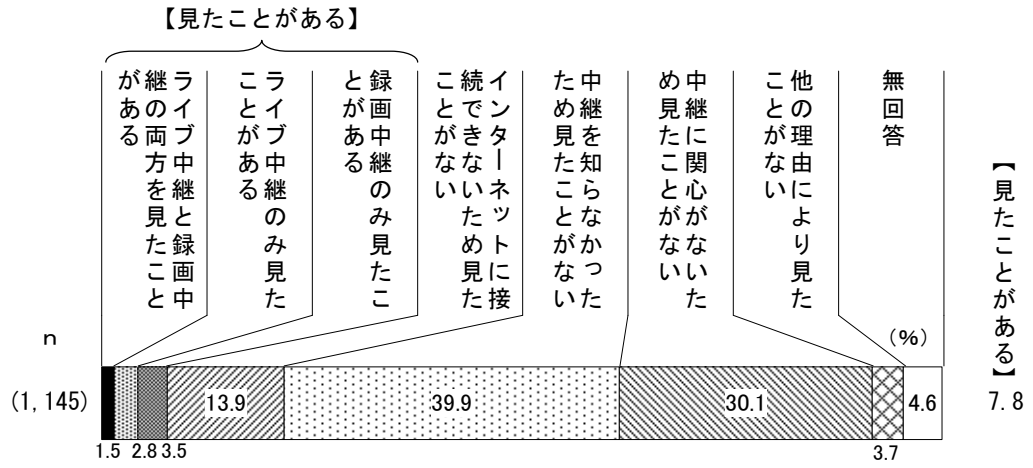


（９）福生市議会のインターネット中継閲覧状況

◇【見たことがある】が１割弱

問44　市ホームページで配信している福生市議会のインターネット中継についてお伺いします。次の中から１つだけ選んでください。（○は１つ）

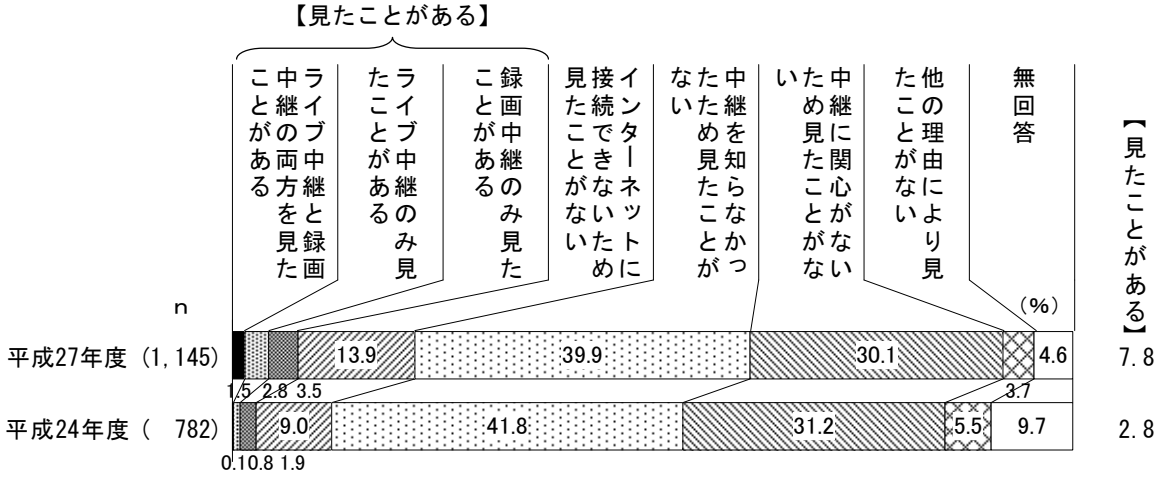
＜図表13－36＞福生市議会のインターネット中継閲覧状況



福生市議会のインターネット中継閲覧状況を聞いたところ、「ライブ中継と録画中継の両方を見たことがある」（1.5%）と「ライブ中継のみ見たことがある」（2.8%）、「録画中継のみ見たことがある」（3.5%）の３つを合わせた【見たことがある】（7.8%）が１割弱となっている。一方、「中継を知らなかったため見たことがない」（39.9%）は約４割、「中継に関心がないため見たことがない」（30.1%）は約３割となっている。（図表13－36）

前回の調査結果と比較すると、【見たことがある】は5.0ポイント増加している。（図表13－37）

＜図表13－37＞福生市議会のインターネット中継閲覧状況／過年度推移

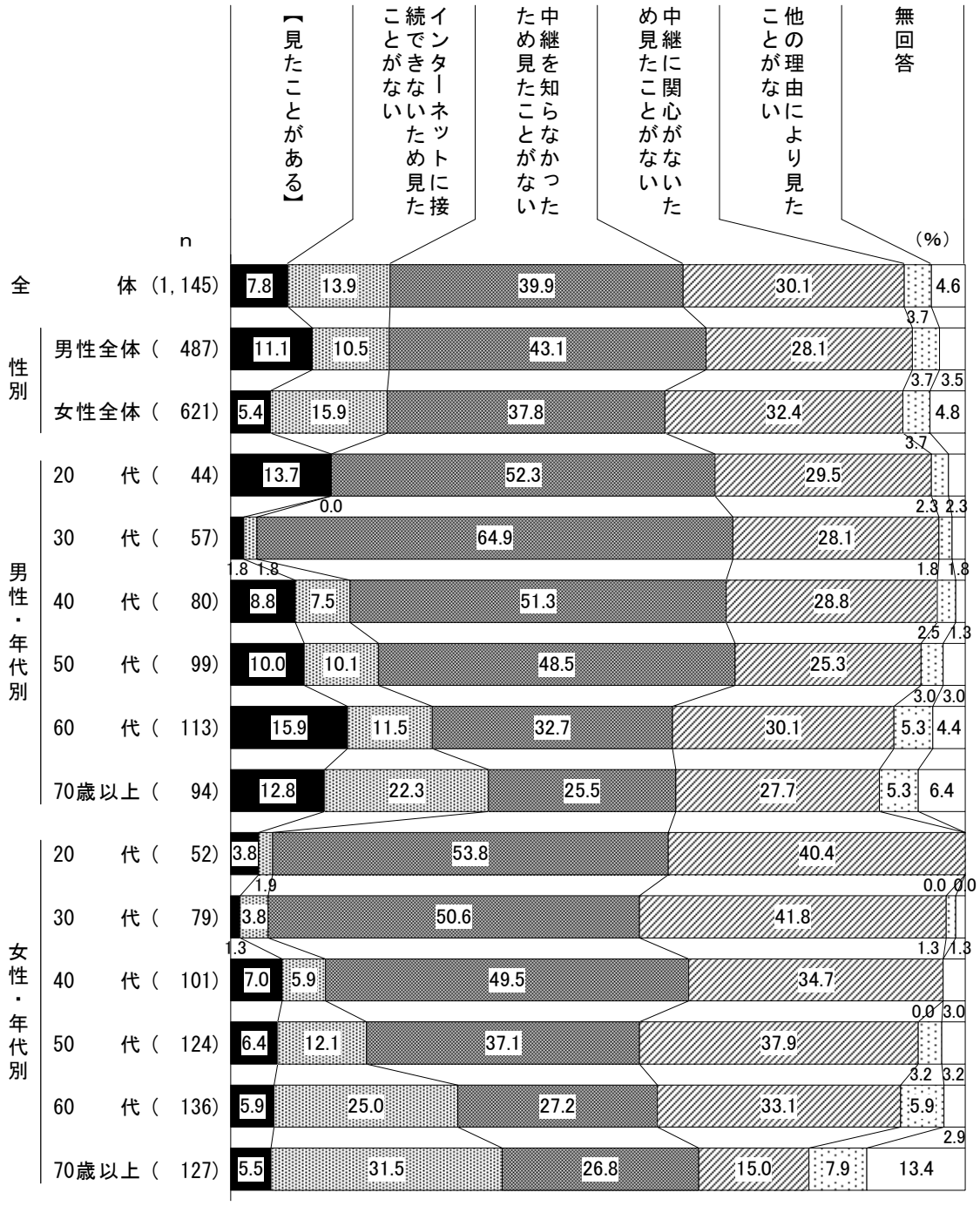


性別でみると、【見たことがある】は男性（11.1%）が女性（5.4%）より5.7ポイント高くなっている。「中継を知らなかったため見たことがない」は男性（43.1%）が女性（37.8%）より5.3ポイント高くなっている。「インターネットに接続できないため見たことがない」は女性（15.9%）が男性（10.5%）より5.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【見たことがある】は男性60代（15.9%）で１割台半ばとなっている。「中継を知らなかったため見たことがない」は男性30代（64.9%）で６割台半ばと高くなっている。「中継に関心がないため見たことがない」は女性30代（41.8%）で４割強と高くなっている。

（図表13－38）

＜図表13－38＞福生市議会のインターネット中継閲覧状況／性別、性・年代別

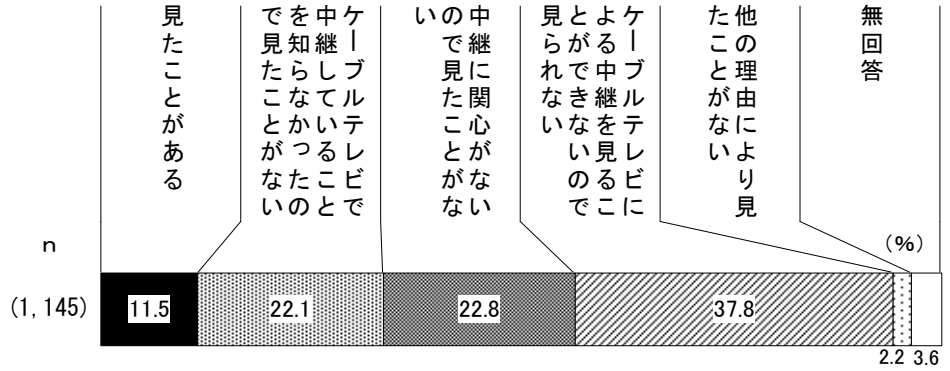


（10）福生市議会のケーブルテレビによる中継視聴状況

◇「見たことがある」が１割強

問45　福生市議会のケーブルテレビによる中継についてお伺いします。次の中から１つだけ選んでください。（○は１つ）

＜図表13－39＞福生市議会のケーブルテレビによる中継視聴状況



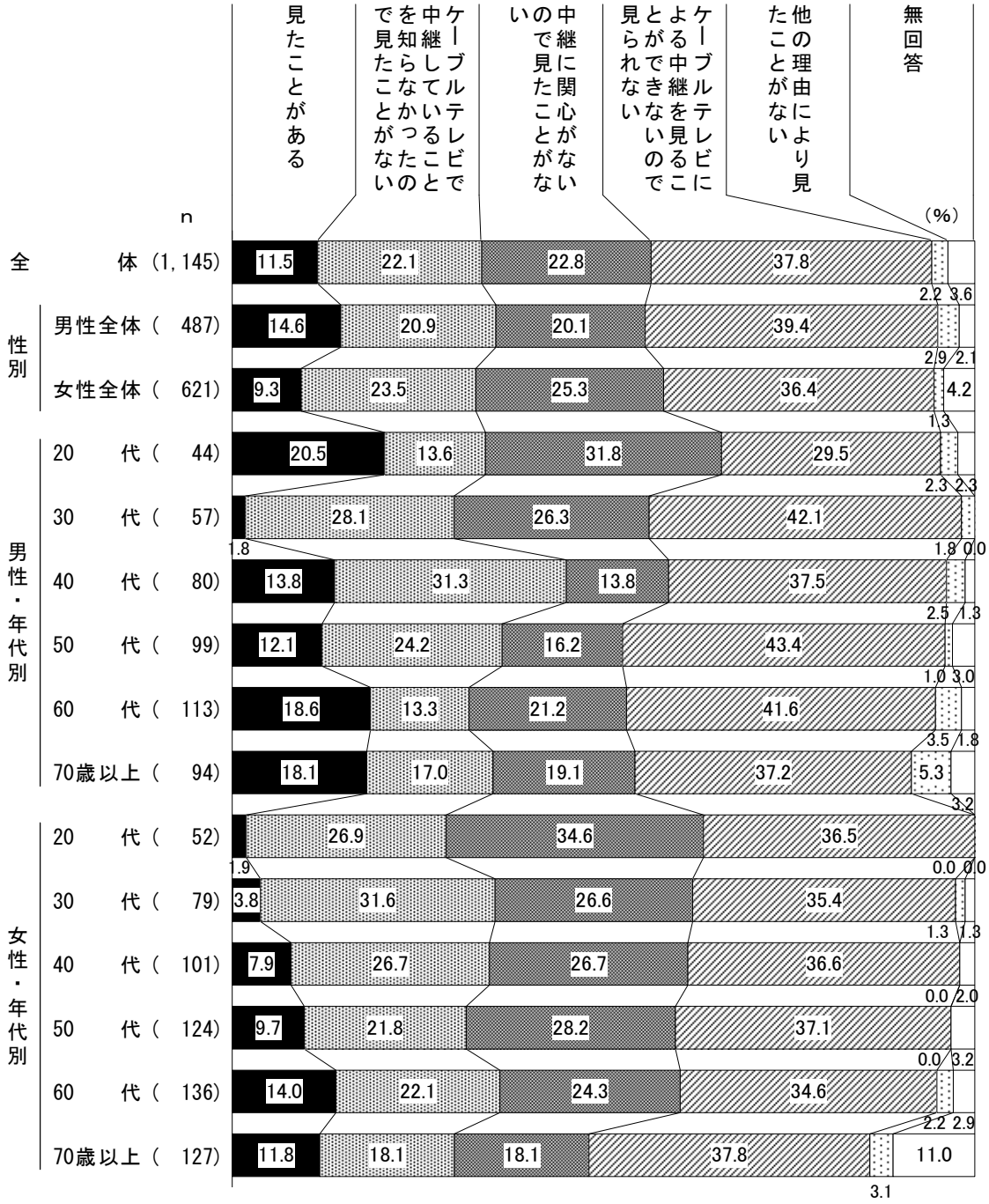
福生市議会のケーブルテレビによる中継視聴状況を聞いたところ、「見たことがある」（11.5%）が１割強となっている。一方、「ケーブルテレビによる中継を見ることができないので見られない」（37.8%）は４割弱、「中継に関心がないので見たことがない」（22.8%）と「ケーブルテレビで中継していることを知らなかったので見たことがない」（22.1%）はともに２割強となっている。

（図表13－39）

性別でみると、「見たことがある」は男性（14.6%）が女性（9.3%）より5.3ポイント高くなっている。一方、「中継に関心がないので見たことがない」は女性（25.3%）が男性（20.1%）より5.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「見たことがある」は男性20代（20.5%）で約２割と高くなっている。「ケーブルテレビによる中継を見ることができないので見られない」は男性30代（42.1%）と男性50代（43.4%）・男性60代（41.6%）で４割強と高くなっている。「中継に関心がないので見たことがない」は女性20代（34.6%）で３割台半ばと高くなっている。「ケーブルテレビで中継していることを知らなかったので見たことがない」は男性40代（31.3%）と女性30代（31.6%）で３割強と高くなっている。（図表13－40）

＜図表13－40＞福生市議会のケーブルテレビによる中継視聴状況／性別、性・年代別

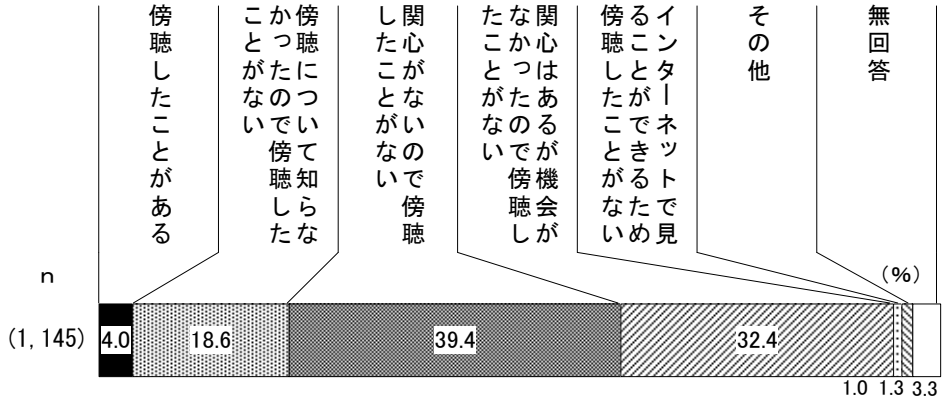


（11）福生市議会本会議の傍聴経験

◇「傍聴したことがある」が4.0%

問46　福生市議会本会議の傍聴についてお伺いします。次の中から１つだけ選んでください。
（○は１つ）

＜図表13－41＞福生市議会本会議の傍聴経験

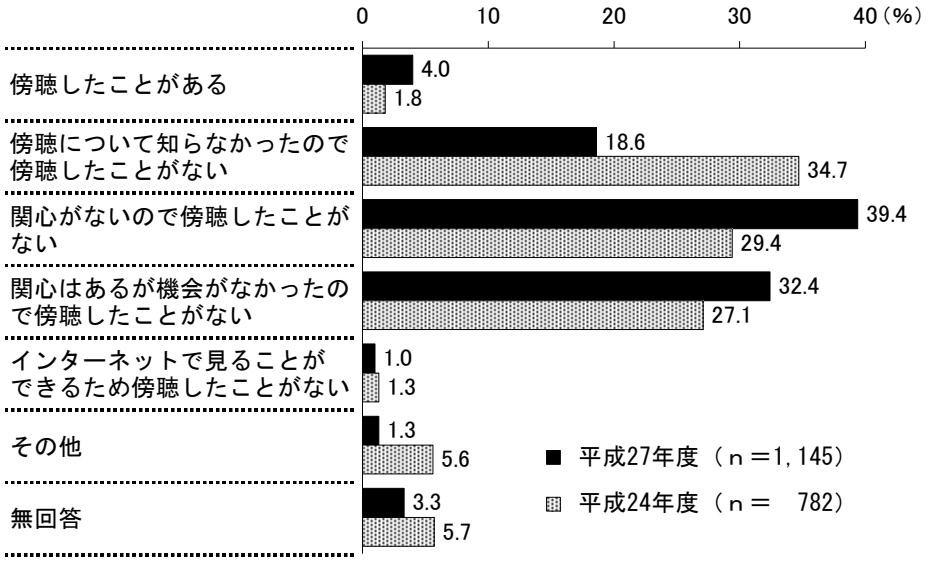


福生市議会本会議の傍聴経験を聞いたところ、「傍聴したことがある」が4.0%となっている。一方、「関心がないので傍聴したことがない」（39.4%）は約４割、「関心はあるが機会がなかったので傍聴したことがない」（32.4%）は３割強、「傍聴について知らなかったので傍聴したことがない」（18.6%）は２割弱となっている。（図表13－41）

前回の調査結果との比較については、前回調査では傍聴したことがない理由について複数回答で質問していたため参考にとどまるが、「傍聴したことがある」は2.2ポイント増加している。

（図表13－42）

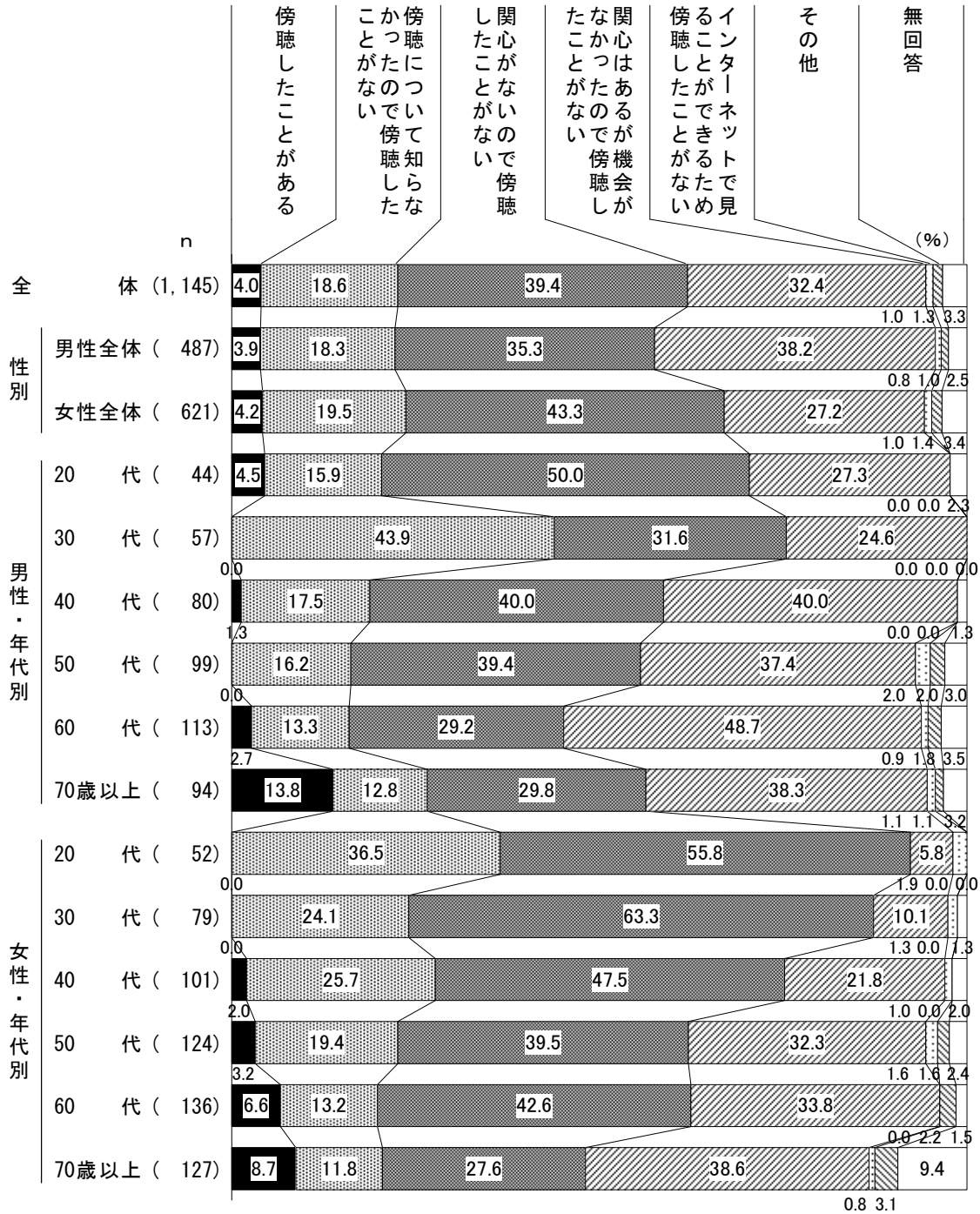
＜図表13－42＞福生市議会本会議の傍聴経験／過年度推移



性別でみると、「関心がないので傍聴したことがない」は女性（43.3%）が男性（35.3%）より8.0ポイント高くなっている。「関心はあるが機会がなかったので傍聴したことがない」は男性（38.2%）が女性（27.2%）より11.0ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「傍聴したことがある」は男性70歳以上（13.8%）で１割強となっている。「関心がないので傍聴したことがない」は女性30代（63.3%）で６割強と高くなっている。「関心はあるが機会がなかったので傍聴したことがない」は男性60代（48.7%）で５割弱と高くなっている。「傍聴について知らなかったので傍聴したことがない」は男性30代（43.9%）で４割強と高くなっている。（図表13－43）

＜図表13－43＞福生市議会本会議の傍聴経験／性別、性・年代別



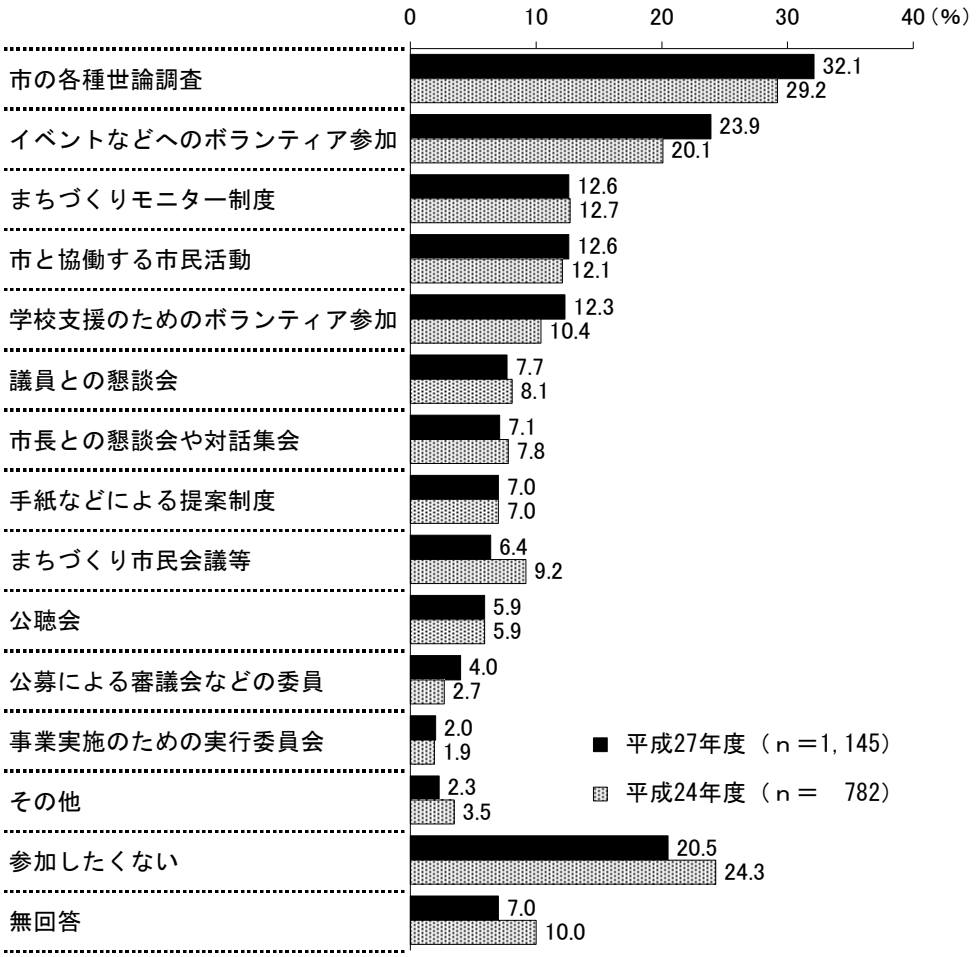
14. 市民と市政

（１）市政への市民参加

◇「市の各種世論調査」が３割強

問47　「市政への市民参加」ということが言われていますが、あなたはどのような方法で市政に参加したいと思いますか。次の中から３つまで選んでください。（○は３つまで）

＜図表14－１＞市政への市民参加



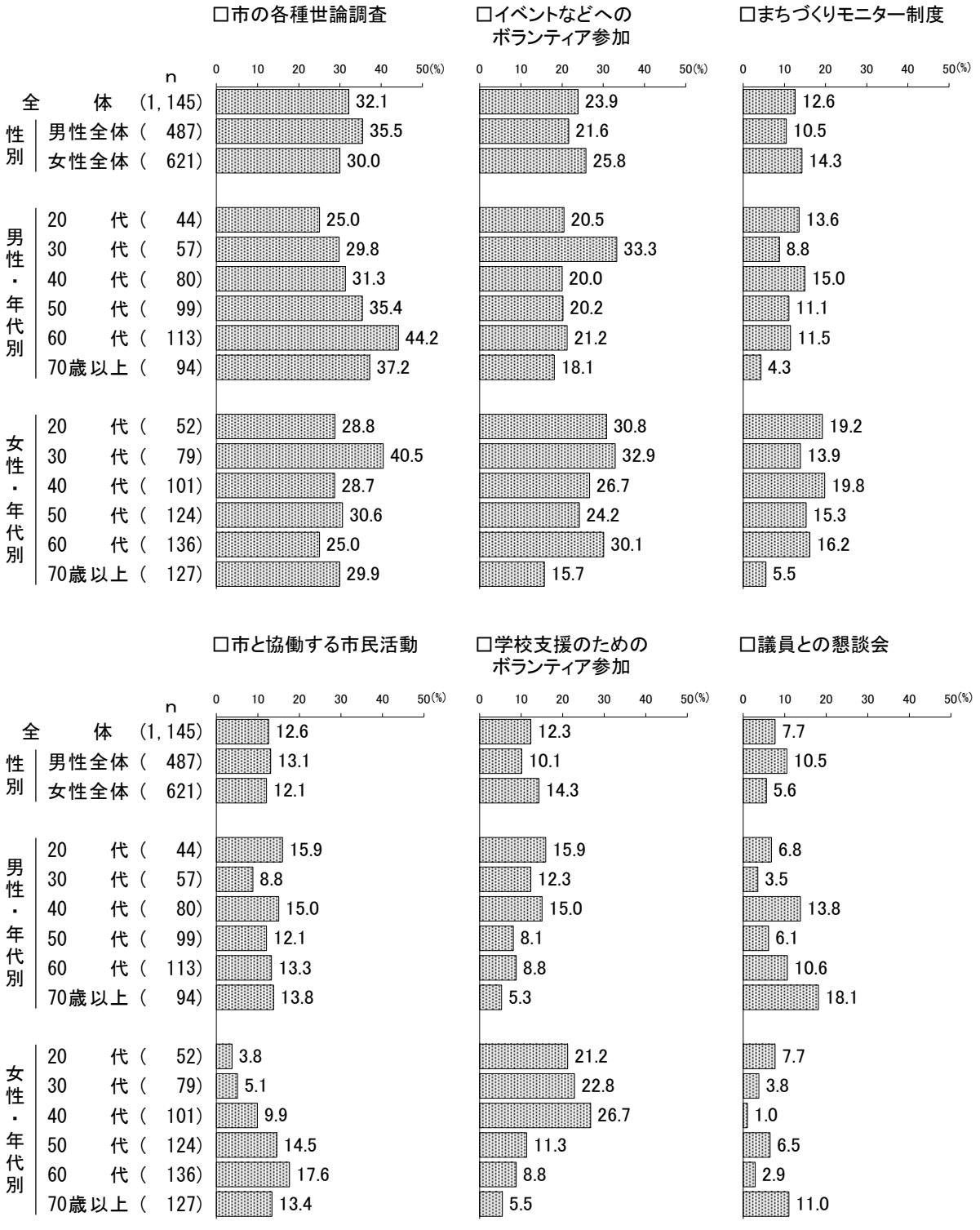
どのような方法で市政に参加したいと思うか聞いたところ、「市の各種世論調査」（32.1%）が３割強で最も高く、次いで「イベントなどへのボランティア参加」（23.9%）、「まちづくりモニター制度」（12.6%）、「市と協働する市民活動」（12.6%）、「学校支援のためのボランティア参加」（12.3%）となっている。（図表14－１）

前回の調査結果と比較すると、「イベントなどへのボランティア参加」は3.8ポイント増加している。一方、「参加したくない」は3.8ポイント減少している。（図表14－１）

上位６項目について性別でみると、「市の各種世論調査」は男性（35.5%）が女性（30.0%）より5.5ポイント高くなっている。

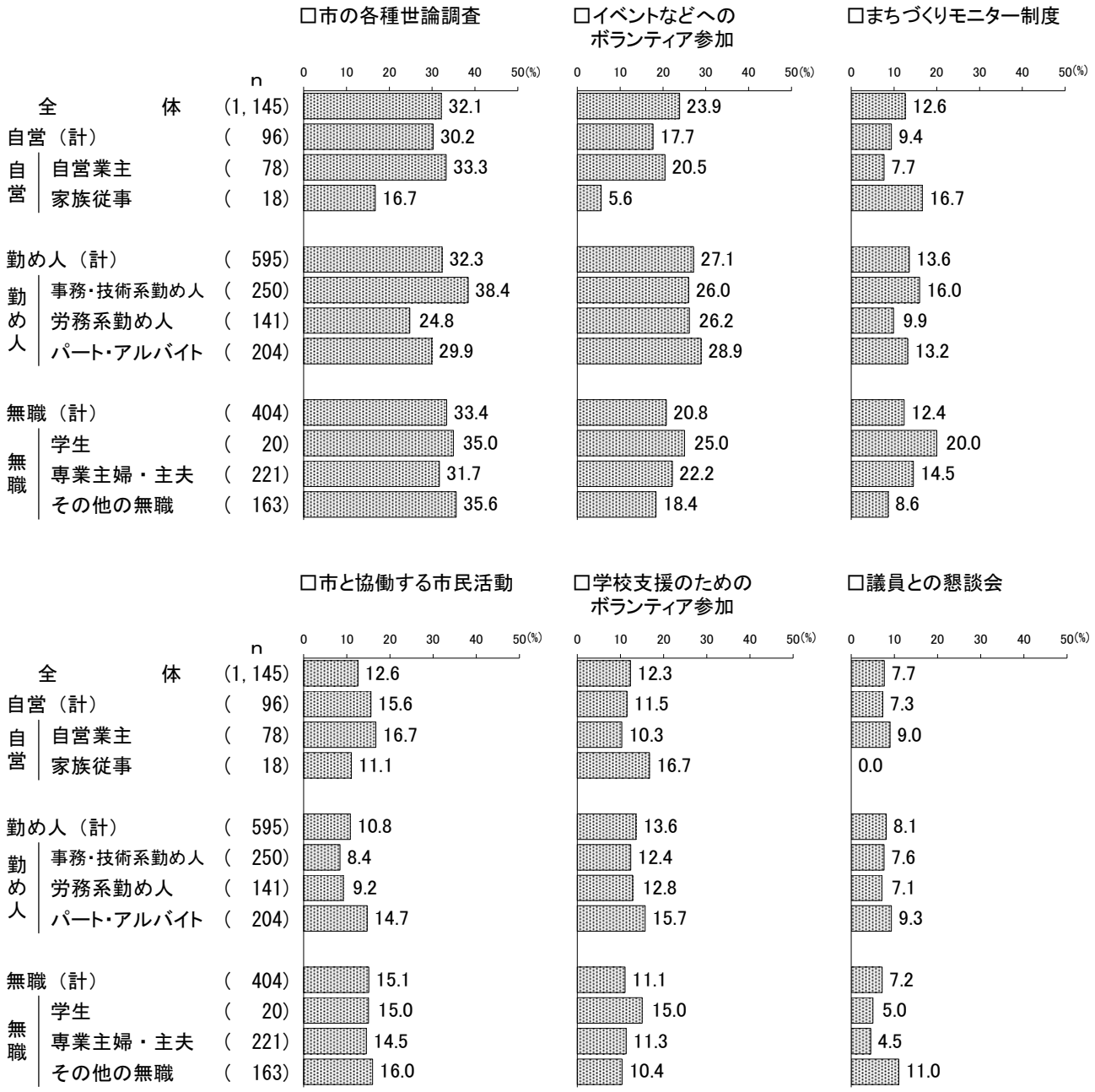
性・年代別でみると、「市の各種世論調査」は男性60代（44.2%）で４割台半ばと高くなっている。「イベントなどへのボランティア参加」は男性30代（33.3%）と女性30代（32.9%）で３割強と高くなっている。「学校支援のためのボランティア参加」は女性40代（26.7%）で３割弱と高くなっている。（図表14－２）

＜図表14－２＞市政への市民参加／性別、性・年代別（上位６項目）



上位６項目について職業別でみると、「市の各種世論調査」は事務・技術系勤め人（38.4%）で４割弱と高くなっている。（図表14－３）

＜図表14－３＞市政への市民参加／職業別（上位６項目）

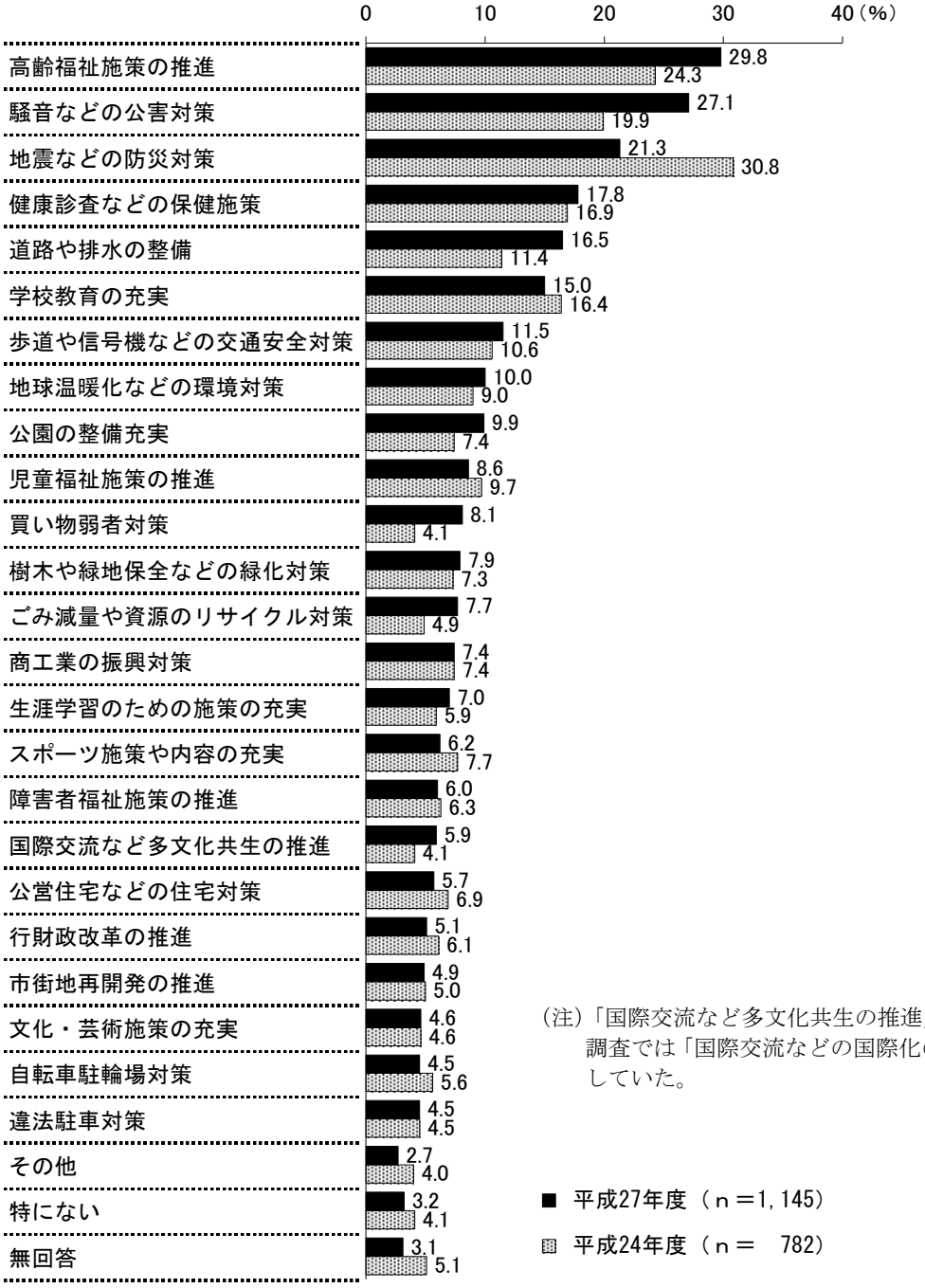


（２）施策への要望

◇「高齢福祉施策の推進」が約３割

問48　これからの市政に対して、あなたが特に力を入れて欲しいことがありましたら、次の中から３つまで選んでください。（○は３つまで）

＜図表14－４＞施策への要望

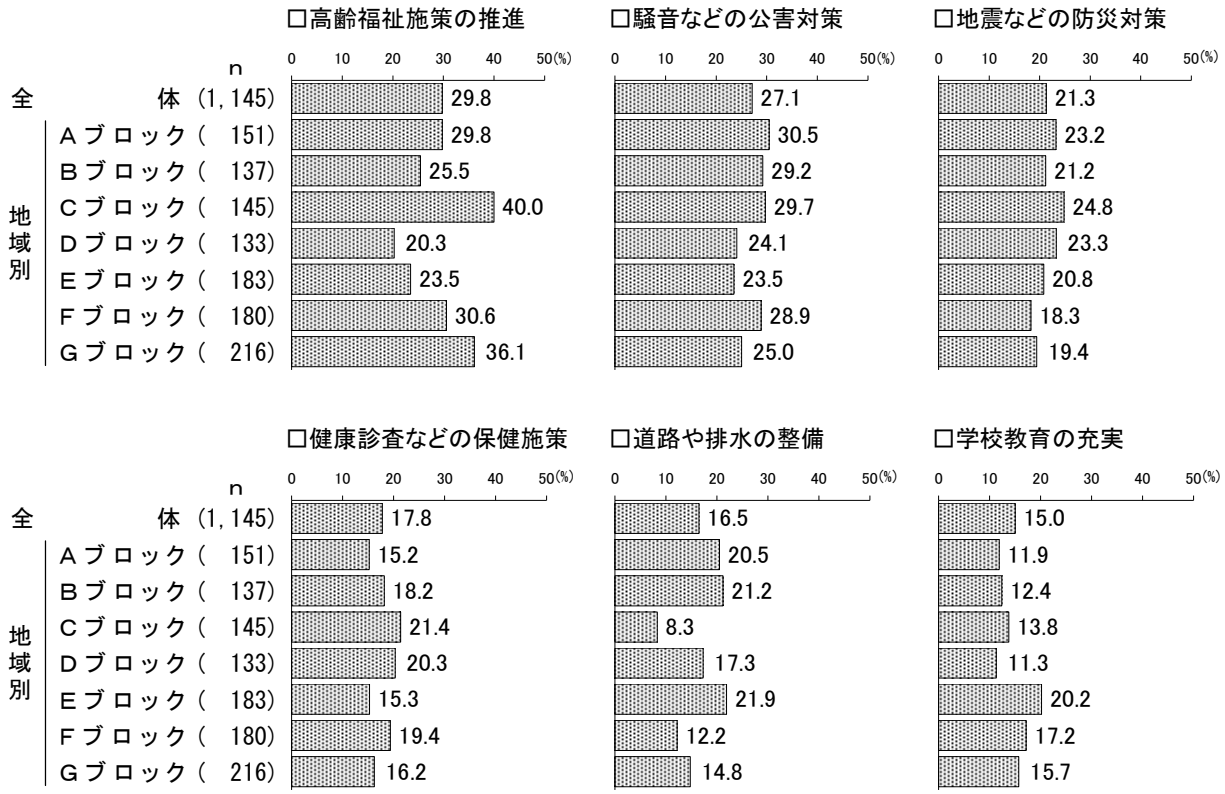


施策への要望を聞いたところ、「高齢福祉施策の推進」(29.8%) が約３割で最も高く、次いで「騒音などの公害対策」(27.1%)、「地震などの防災対策」(21.3%)、「健康診査などの保健施策」(17.8%)、「道路や排水の整備」(16.5%) となっている。（図表14－４）

前回の調査結果と比較すると、「騒音などの公害対策」は7.2ポイント増加し、「高齢福祉施策の推進」は5.5ポイント増加している。「道路や排水の整備」は5.1ポイント増加している。「地震などの防災対策」は9.5ポイント減少している。（図表14－４）

上位６項目について地域別でみると、「高齢福祉施策の推進」はＣブロック（40.0%）で４割、Ｇブロック（36.1%）で４割弱と高くなっている。「道路や排水の整備」はＢブロック（21.2%）とＥブロック（21.9%）で２割強と高くなっている。「学校教育の充実」はＥブロック（20.2%）で約２割と高くなっている。（図表14－５）

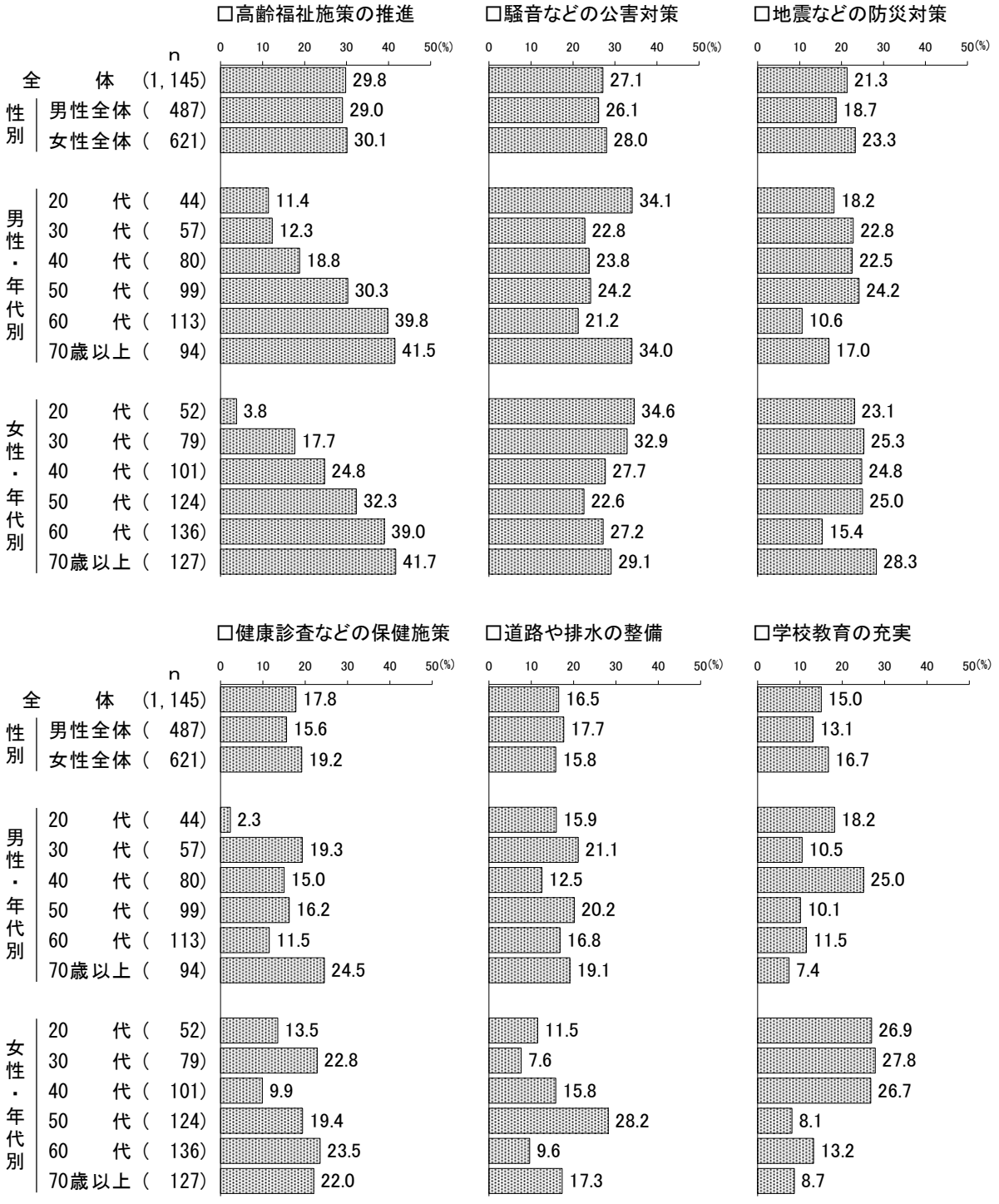
＜図表14－５＞施策への要望／地域別（上位６項目）



上位６項目について性別でみると、「地震などの防災対策」は女性（23.3%）が男性（18.7%）より4.6ポイント高くなっている。

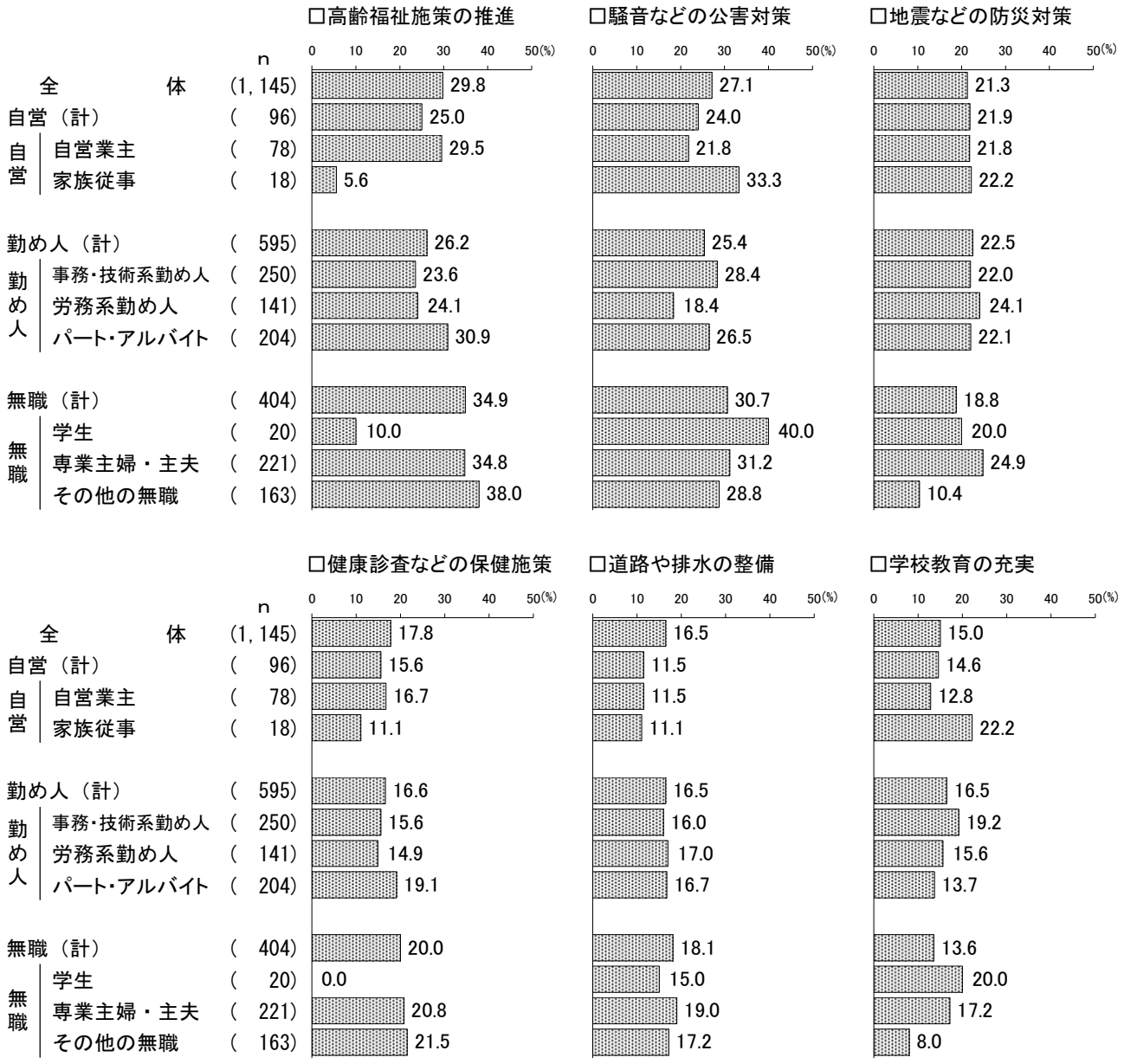
性・年代別でみると、「高齢福祉施策の推進」は男性70歳以上（41.5%）と女性70歳以上（41.7%）で４割強と高くなっている。「騒音などの公害対策」は男性20代（34.1%）と男性70歳以上（34.0%）・女性20代（34.6%）で３割台半ばと高くなっている。「地震などの防災対策」は女性70歳以上（28.3%）で３割弱と高くなっている。「道路や排水の整備」は女性50代（28.2%）で３割弱と高くなっている。「学校教育の充実」は女性の40代以下の年代でいずれも３割弱と高くなっている。（図表14－６）

＜図表14－６＞施策への要望／性別、性・年代別（上位６項目）



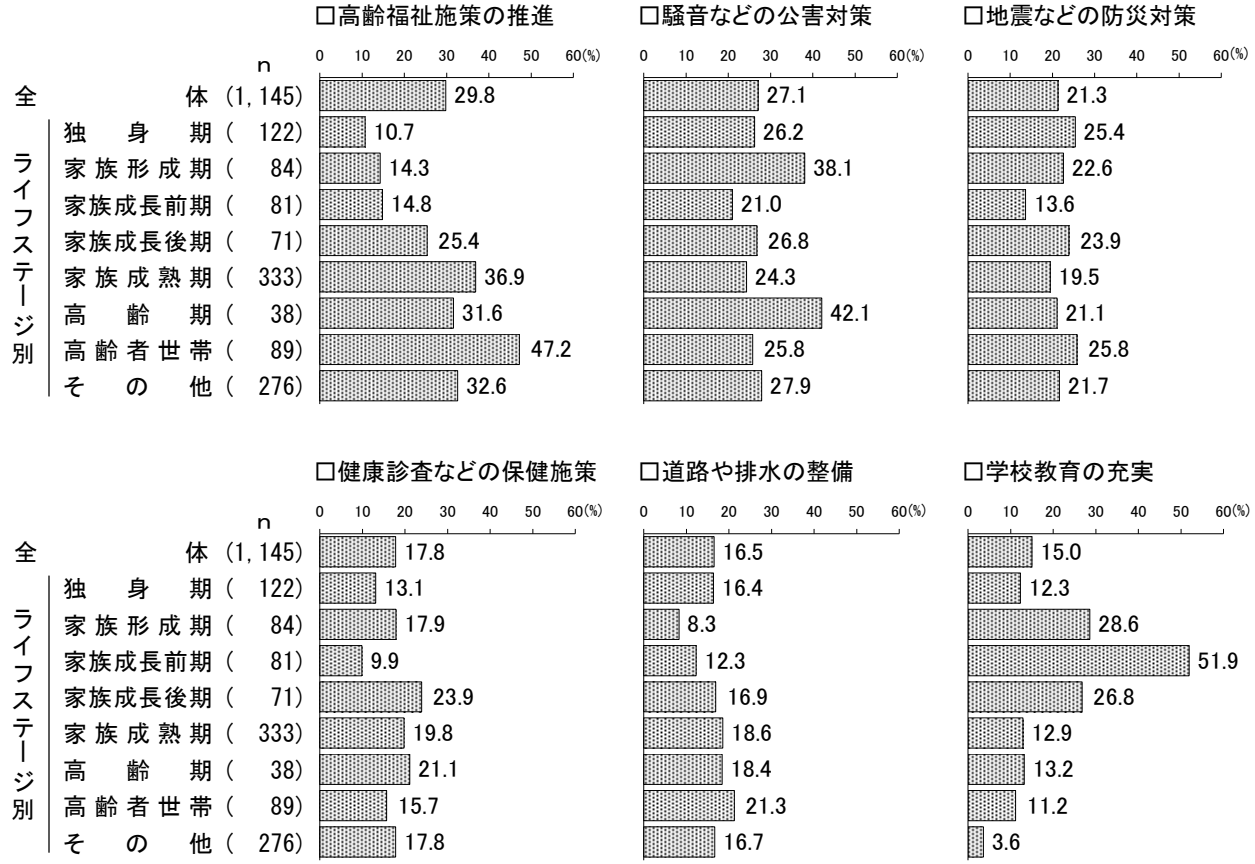
上位６項目について職業別でみると、「高齢福祉施策の推進」はその他の無職（38.0%）で４割弱と高くなっている。（図表14－７）

＜図表14－７＞施策への要望／職業別（上位６項目）



上位６項目についてライフステージ別でみると、「高齢福祉施策の推進」は高齢者世帯（47.2%）で５割弱と高くなっている。「騒音などの公害対策」は高齢期（42.1%）で４割強、家族形成期（38.1%）で４割弱と高くなっている。「学校教育の充実」は家族成長前期（51.9%）で５割強と高くなっている。（図表14－８）

＜図表14－８＞施策への要望／ライフステージ別（上位６項目）



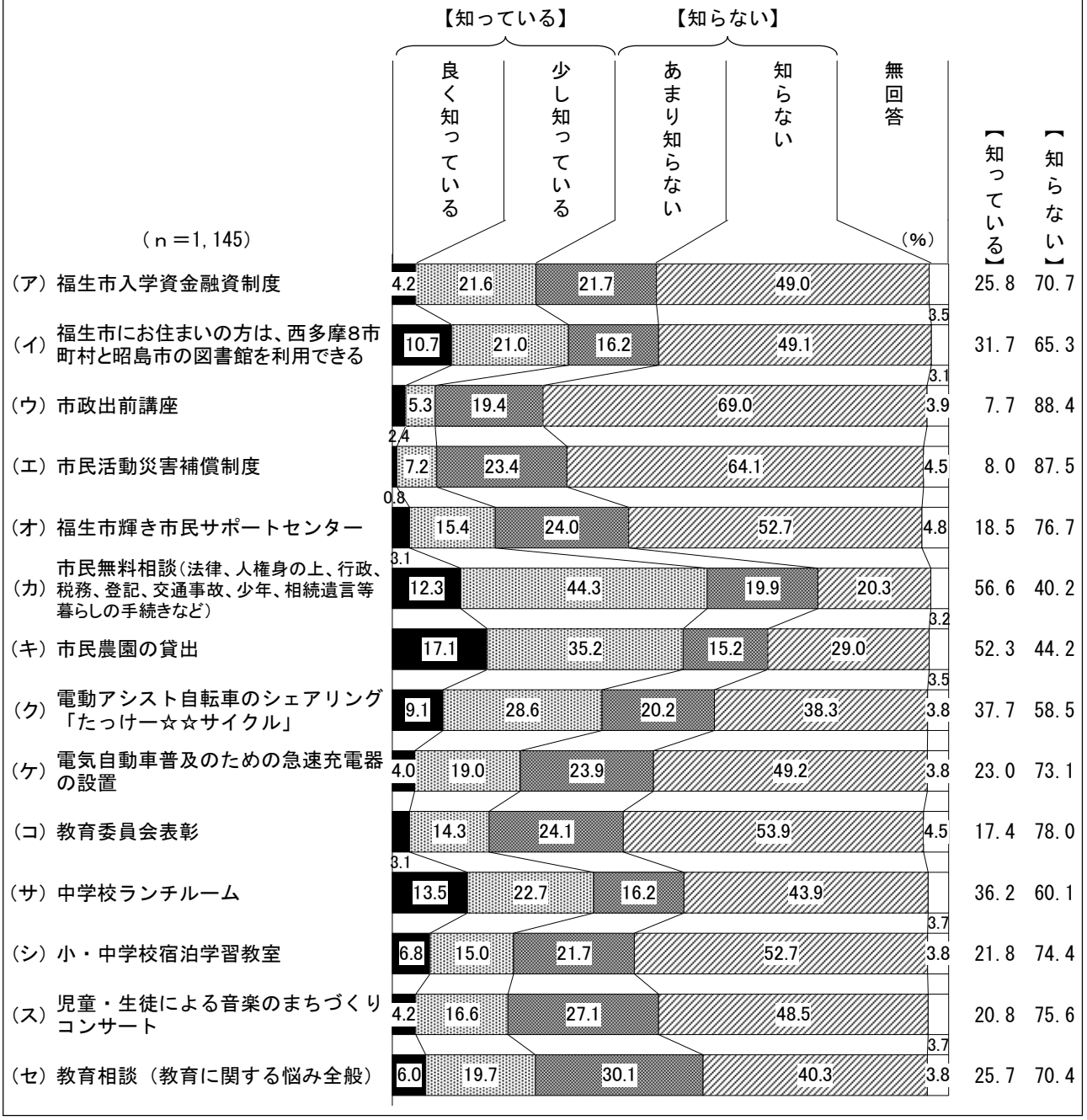
（３）施策の認知状況

◇【知っている】は「市民無料相談」が６割弱

問49　あなたは次の市の施策についてご存知ですか。下の表の（ア）から（セ）の項目について、それぞれ１つずつ選んで、下の表の番号に○をつけてください。

（○はそれぞれ１つずつ）

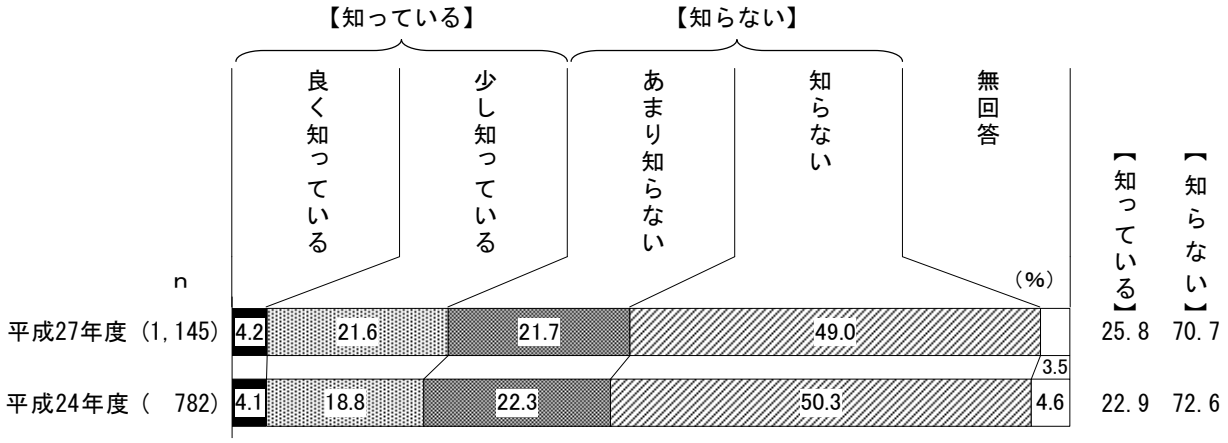
＜図表14－９＞施策の認知状況



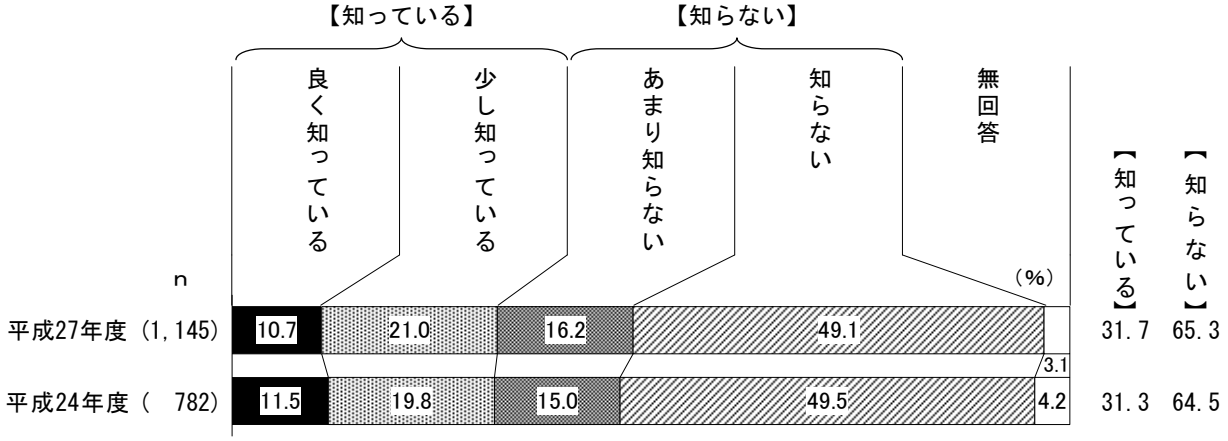
市の施策の認知状況を14項目に分けて聞いたところ、「良く知っている」と「少し知っている」の２つを合わせた【知っている】は、（カ）市民無料相談（56.6%）が６割弱で最も高く、次いで（キ）市民農園の貸出（52.3%）、（ク）電動アシスト自転車のシェアリング「たっけー☆☆サイクル」（37.7%）、（サ）中学校ランチルーム（36.2%）、（イ）福生市にお住まいの方は、西多摩８市町村と昭島市の図書館を利用できる（31.7%）となっている。（図表14－９）

前回調査でも質問していた（ア）～（ク）の８項目について前回の調査結果と比較すると、【知っている】は（キ）市民農園の貸出で10.4ポイント増加し、（カ）市民無料相談で6.7ポイント増加している。（図表14－10～14－17）

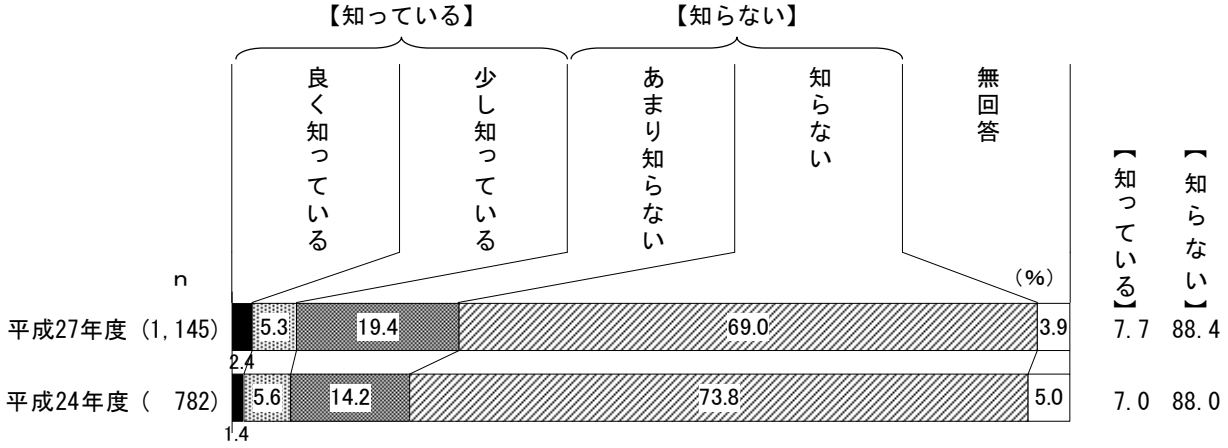
＜図表14－10＞施策の認知状況（ア）福生市入学資金融資制度／過年度推移



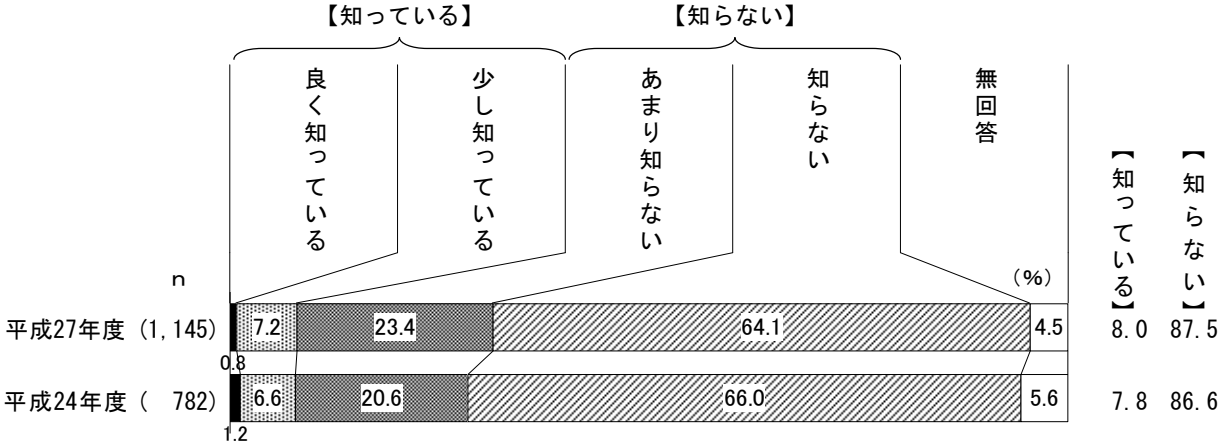
＜図表14－11＞施策の認知状況（イ）福生市にお住まいの方は、西多摩８市町村と昭島市の図書館を利用できる／過年度推移



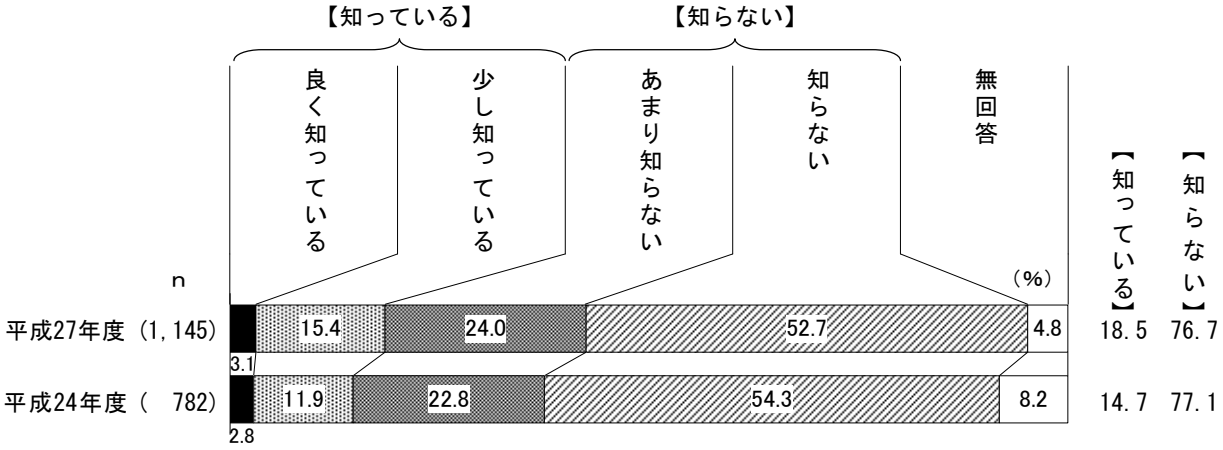
＜図表14－12＞施策の認知状況（ウ）市政出前講座／過年度推移



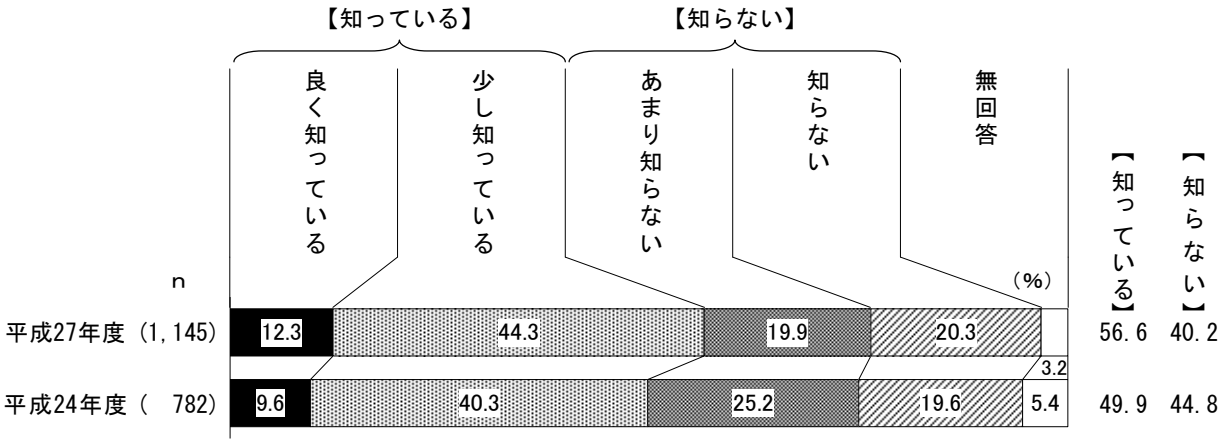
＜図表14－13＞施策の認知状況（エ）市民活動災害補償制度／過年度推移



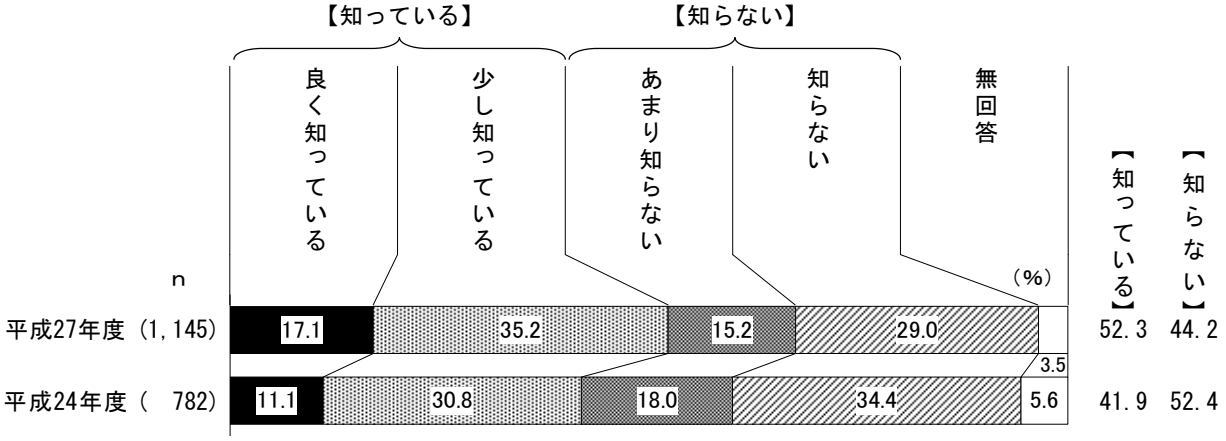
＜図表14－14＞施策の認知状況（オ）福生市輝き市民サポートセンター／過年度推移



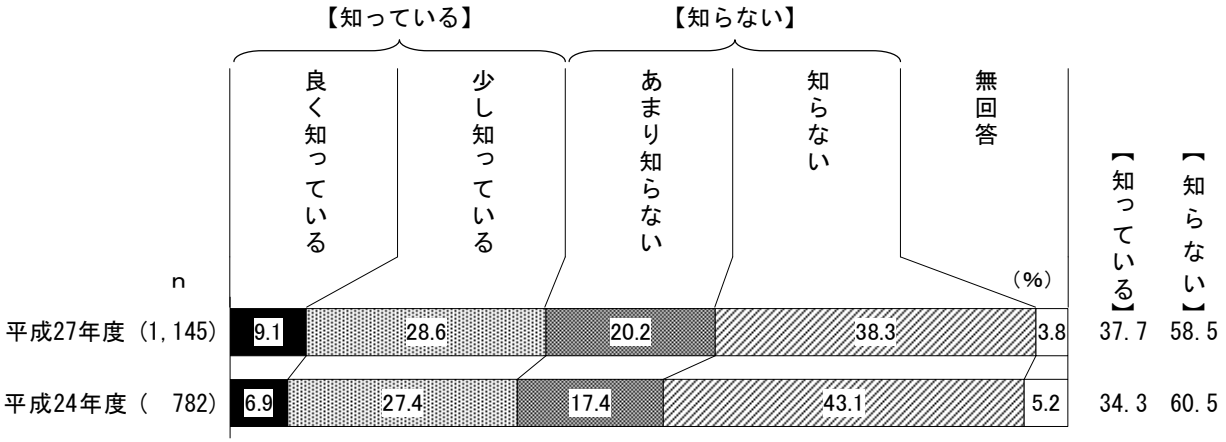
＜図表14－15＞施策の認知状況（カ）市民無料相談／過年度推移



＜図表14－16＞施策の認知状況（キ）市民農園の貸出／過年度推移



＜図表14－17＞施策の認知状況（ク）電動アシスト自転車のシェアリング「たっけー☆☆サイクル」／過年度推移

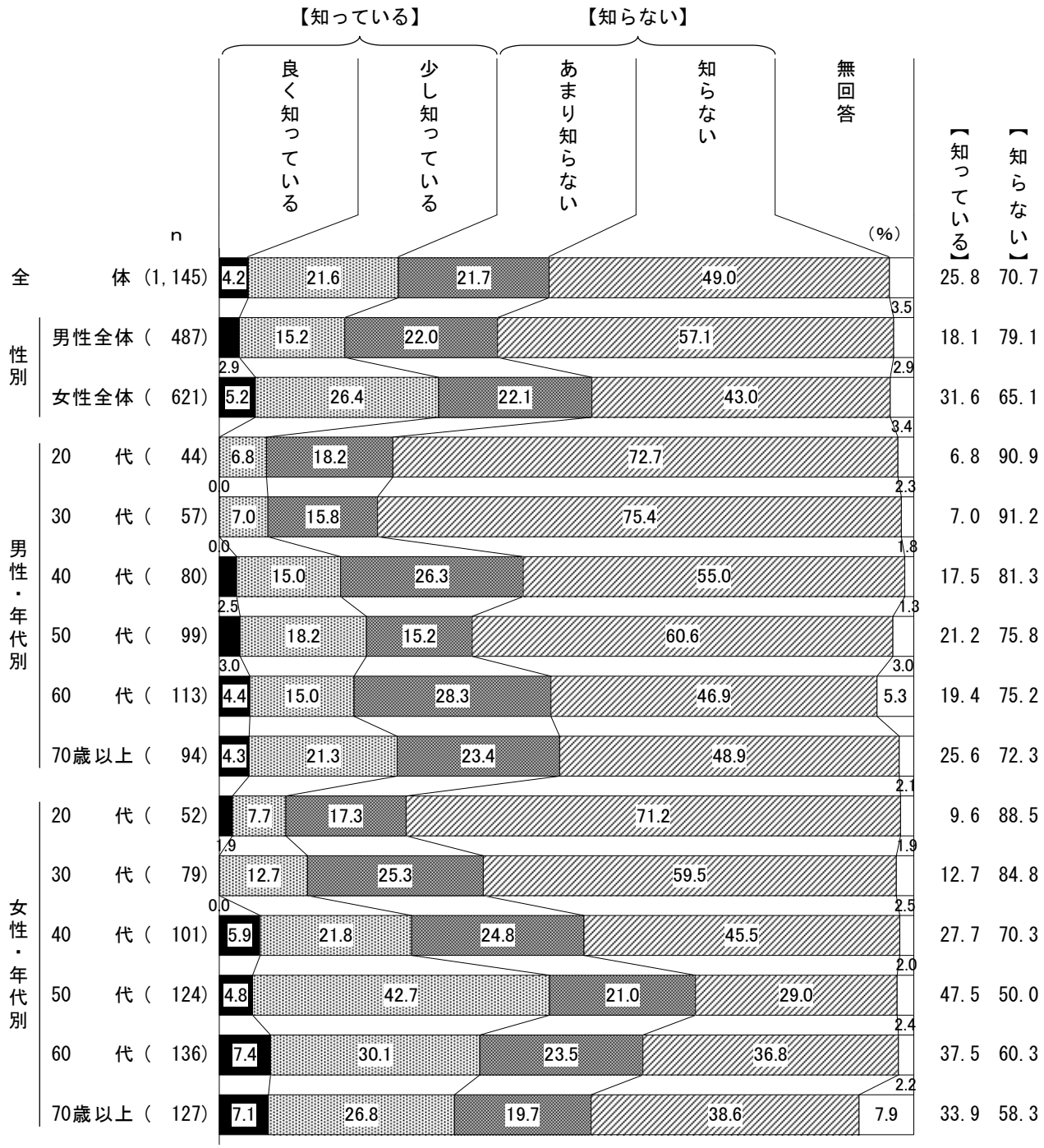


（注）平成24年度調査の結果は、「電気自動車・電動アシスト自転車のシェアリング」の認知状況について質問した結果を示す。

（ア）福生市入学資金融資制度について性別でみると、【知っている】は女性（31.6%）が男性（18.1%）より13.5ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は女性50代（47.5%）で５割弱、女性60代（37.5%）で４割弱と高くなっている。一方、【知らない】は男性20代（90.9%）と男性30代（91.2%）で９割台と高くなっている。(図表14－18)

＜図表14－18＞施策の認知状況（ア）福生市入学資金融資制度／性別、性・年代別

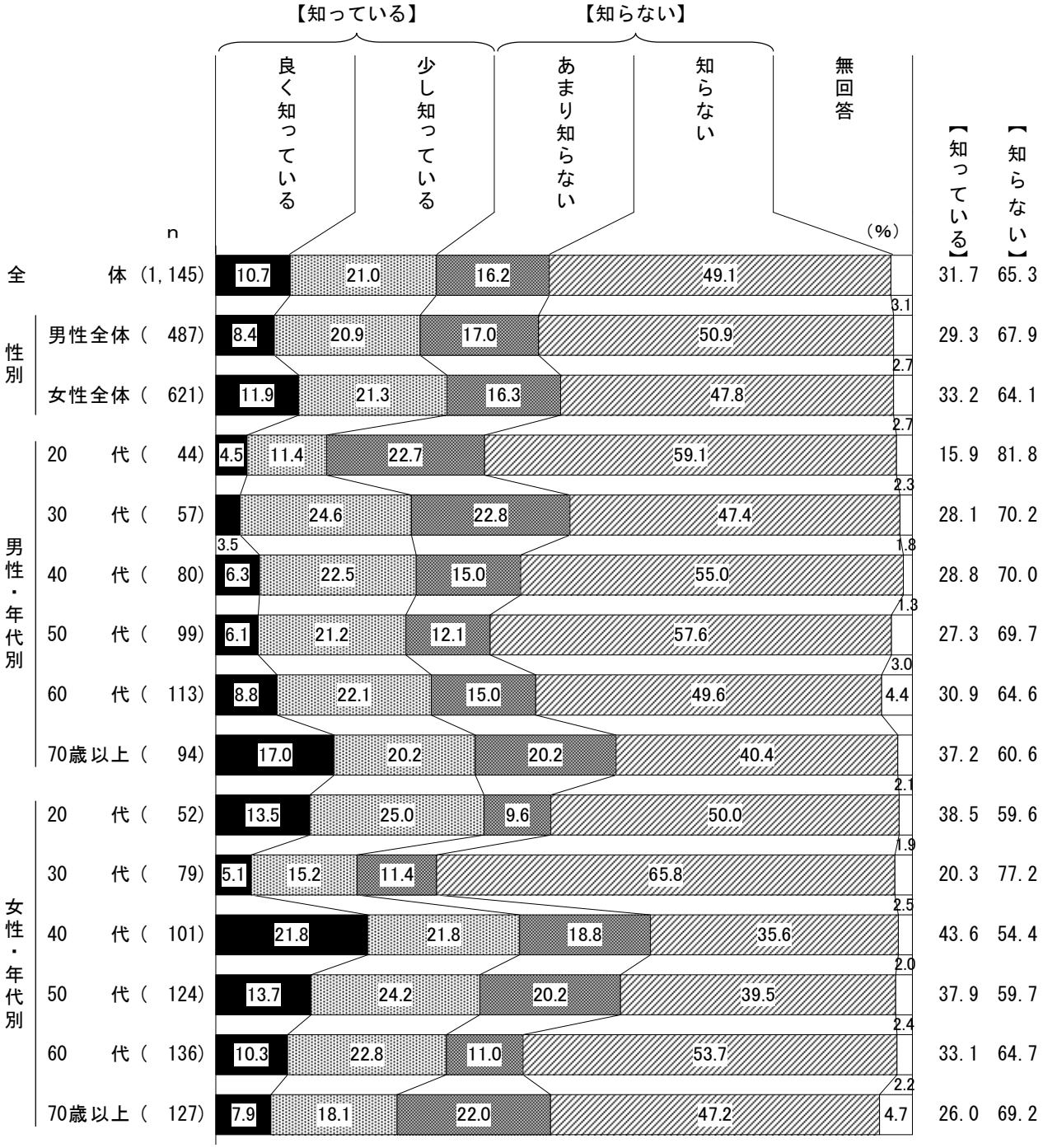


（イ）福生市にお住まいの方は、西多摩８市町村と昭島市の図書館を利用できるについて性別でみると、【知っている】は女性（33.2%）が男性（29.3%）より3.9ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は女性40代（43.6%）で４割強と高くなっている。一方、【知らない】は男性20代（81.8%）で８割強、女性30代（77.2%）で８割弱と高くなっている。

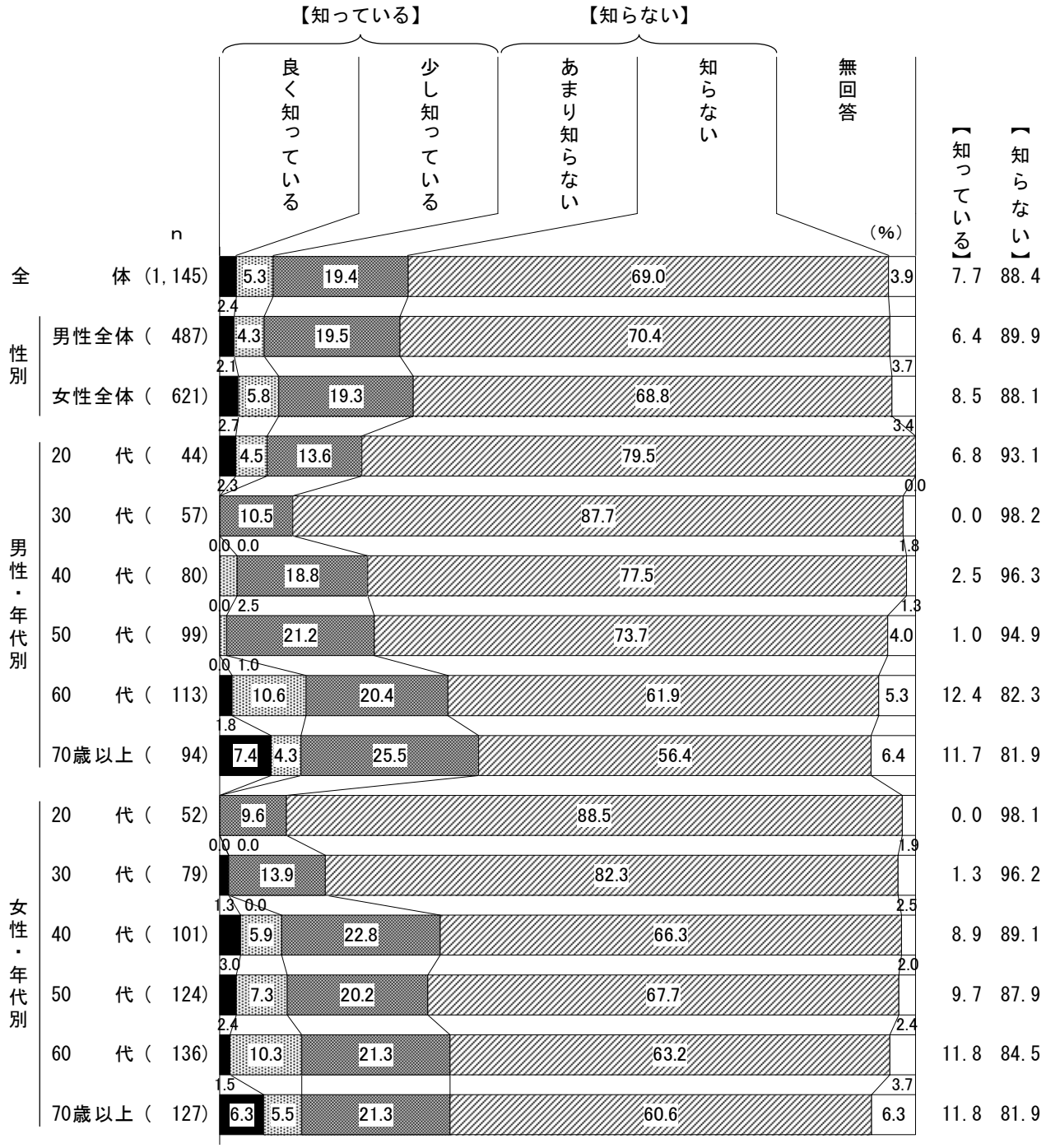
（図表14－19）

＜図表14－19＞施策の認知状況（イ）福生市にお住まいの方は、西多摩８市町村と昭島市の図書館を利用できる／性別、性・年代別



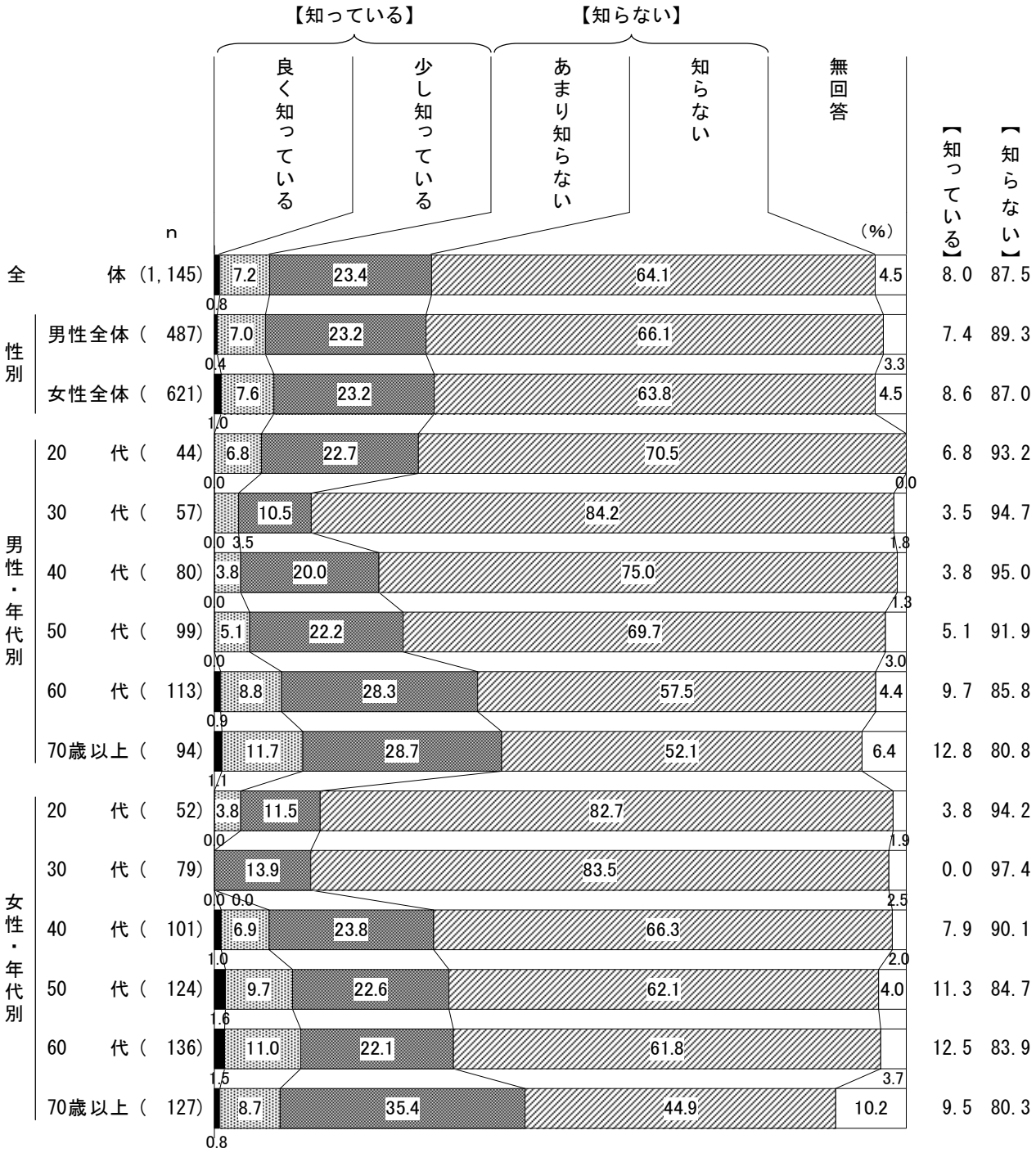
（ウ）市政出前講座について性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。
性・年代別でみると、【知っている】は男女とも60代以上の年代でいずれも１割強となっている。
（図表14－20）

＜図表14－20＞施策の認知状況（ウ）市政出前講座／性別、性・年代別



（エ）市民活動災害補償制度について性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。
性・年代別でみると、【知っている】は男性70歳以上（12.8%）と女性50代（11.3%）・女性60代（12.5%）で１割強となっている。（図表14－21）

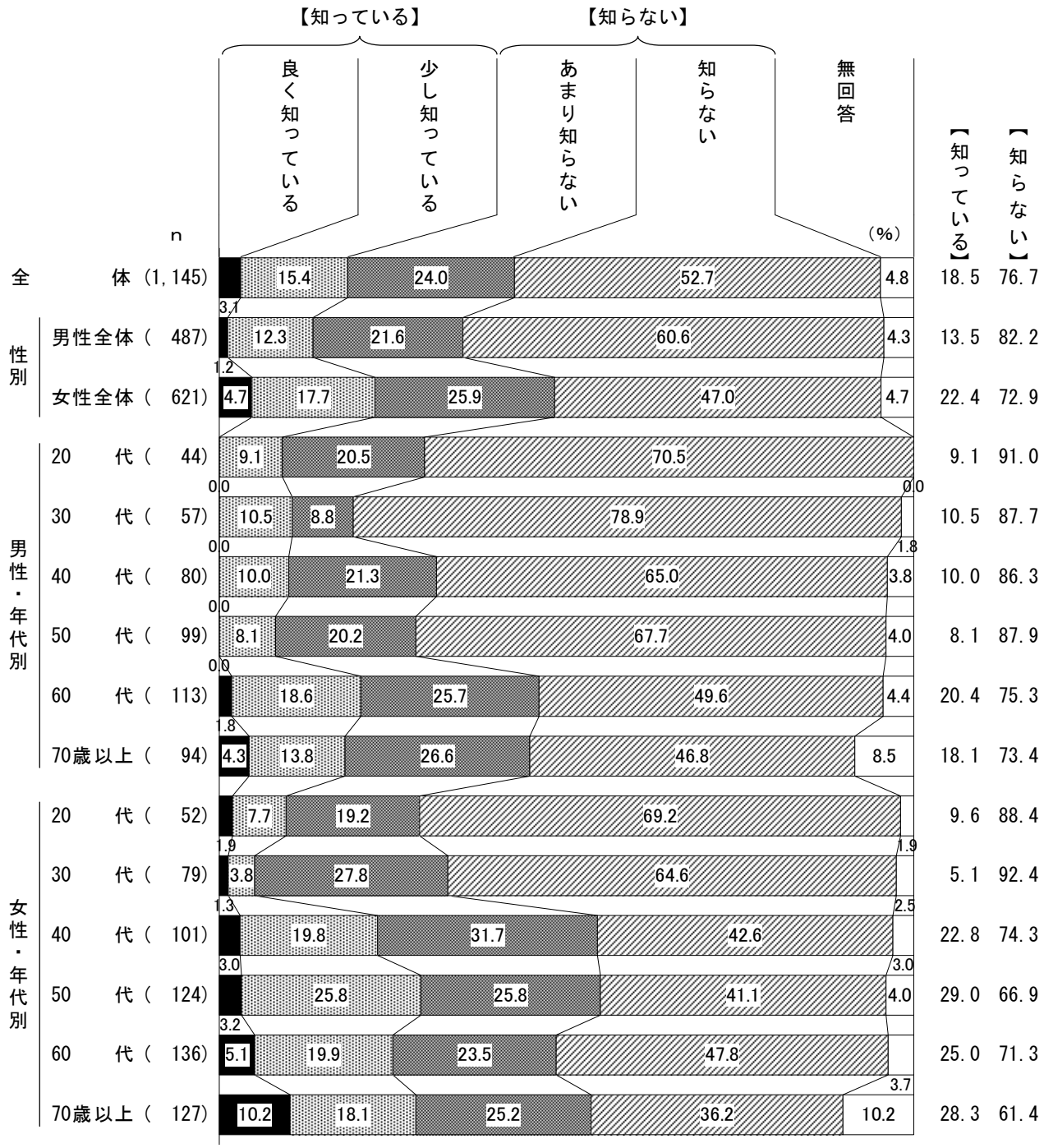
＜図表14－21＞施策の認知状況（エ）市民活動災害補償制度／性別、性・年代別



（オ）福生市輝き市民サポートセンターについて性別でみると、【知っている】は女性（22.4%）が男性（13.5%）より8.9ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は女性50代（29.0%）で約３割、女性70歳以上（28.3%）で３割弱と高くなっている。一方、【知らない】は男性20代（91.0%）と女性30代（92.4%）で９割台と高くなっている。(図表14－22)

＜図表14－22＞施策の認知状況（オ）福生市輝き市民サポートセンター／性別、性・年代別

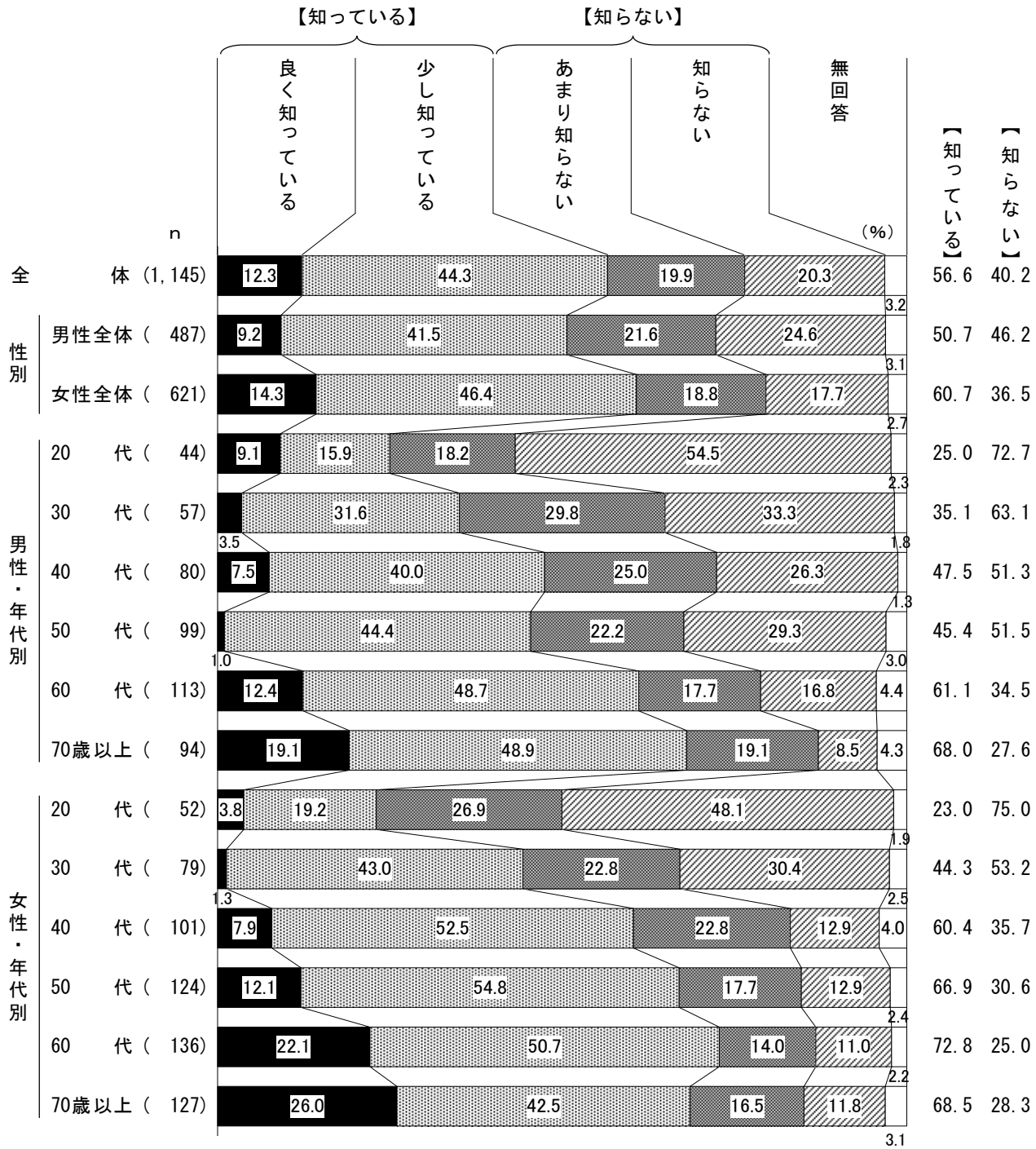


（カ）市民無料相談について性別でみると、【知っている】は女性（60.7%）が男性（50.7%）より10.0ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は女性60代（72.8%）で７割強と高くなっている。一方、【知らない】は女性20代（75.0%）で７割台半ば、男性20代（72.7%）で７割強と高くなっている。

（図表14－23）

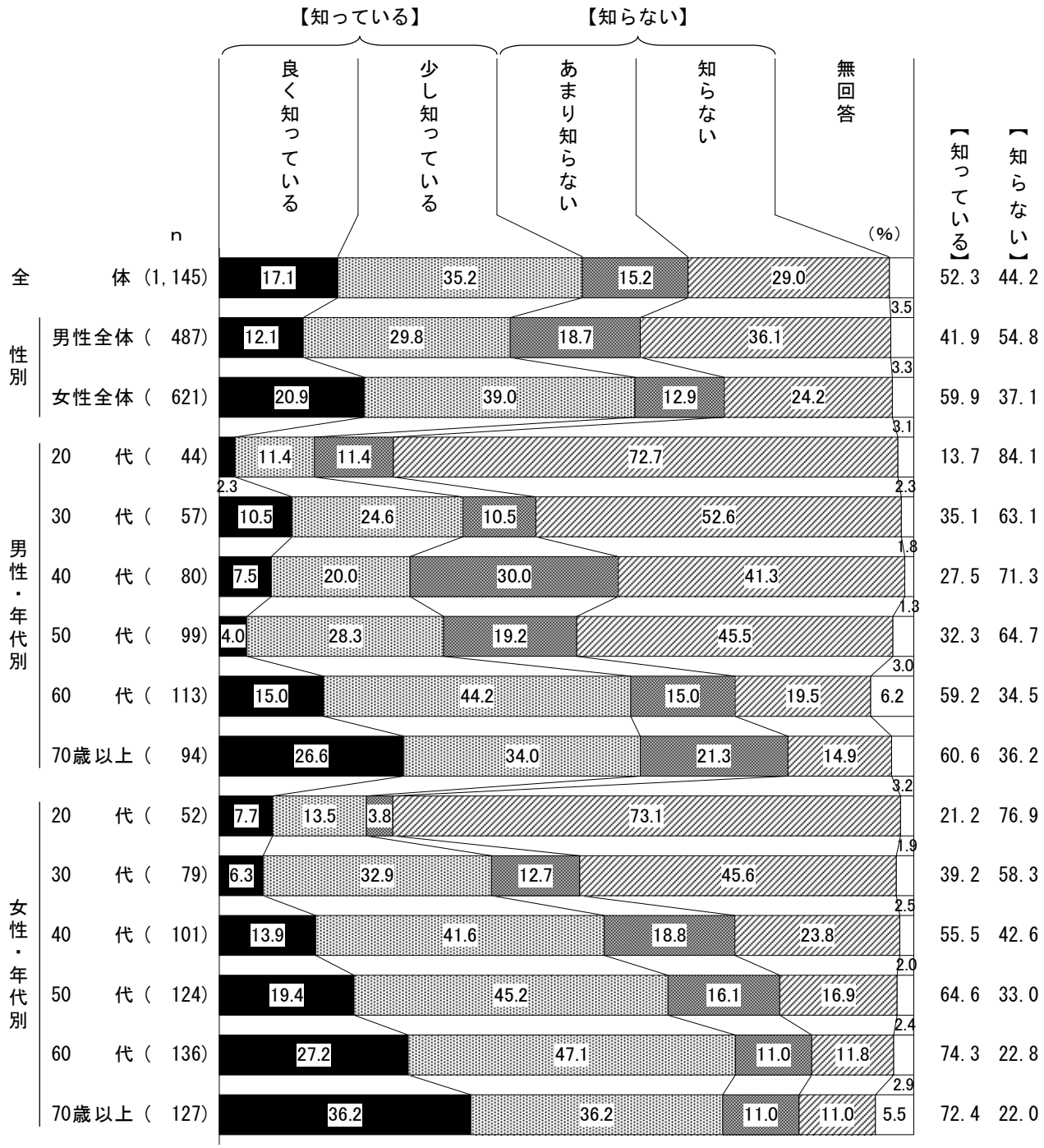
＜図表14－23＞施策の認知状況（カ）市民無料相談／性別、性・年代別



（キ）市民農園の貸出について性別でみると、【知っている】は女性（59.9%）が男性（41.9%）より18.0ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は女性60代（74.3%）で７割台半ば、女性70歳以上（72.4%）で７割強と高くなっている。一方、【知らない】は男性20代（84.1%）で８割台半ば、女性20代（76.9%）で８割弱と高くなっている。（図表14－24）

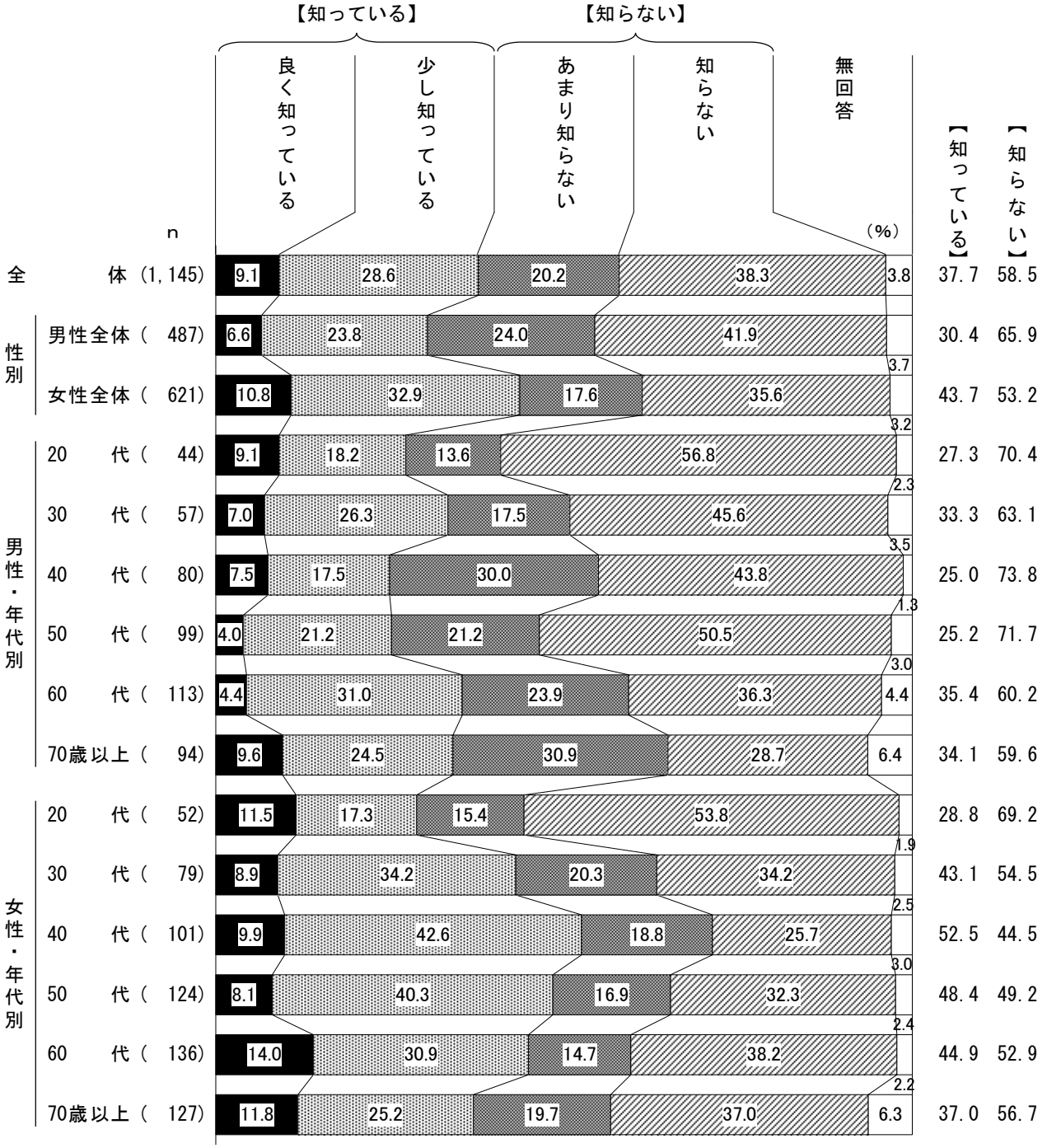
＜図表14－24＞施策の認知状況（キ）市民農園の貸出／性別、性・年代別



（ク）電動アシスト自転車のシェアリング「たっけー☆☆サイクル」について性別でみると、【知っている】は女性（43.7%）が男性（30.4%）より13.3ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は女性40代（52.5%）で５割強、女性50代（48.4%）で５割弱と高くなっている。一方、【知らない】は男性40代（73.8%）と男性50代（71.7%）で７割強と高くなっている。(図表14－25)

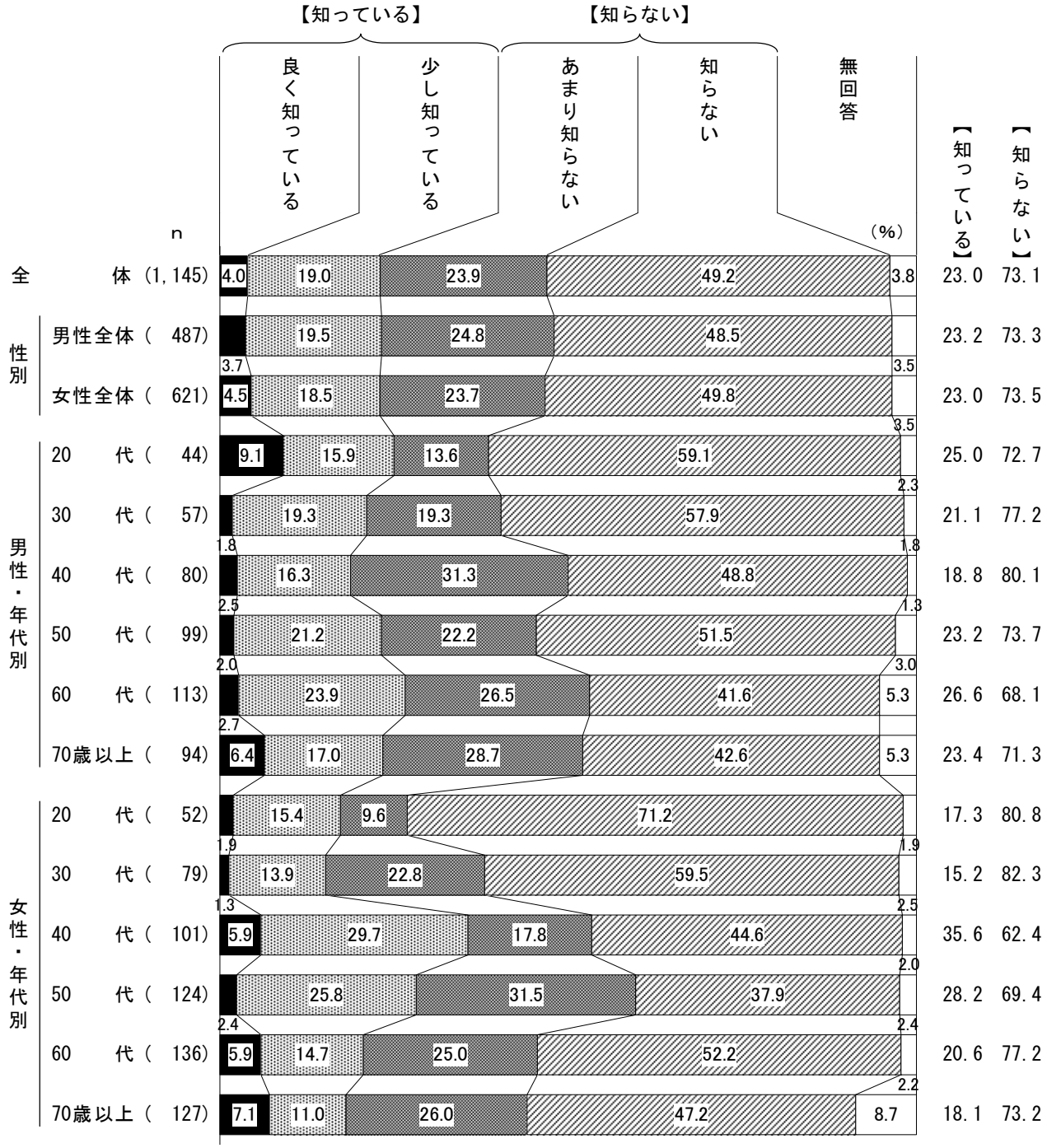
＜図表14－25＞施策の認知状況（ク）電動アシスト自転車のシェアリング「たっけー☆☆サイクル」／性別、性・年代別



（ケ）電気自動車普及のための急速充電器の設置について性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性・年代別でみると、【知っている】は女性40代（35.6%）で３割台半ばと高くなっている。一方、【知らない】は女性30代（82.3%）で８割強、男性40代（80.1%）と女性20代（80.8%）で約８割と高くなっている。(図表14－26)

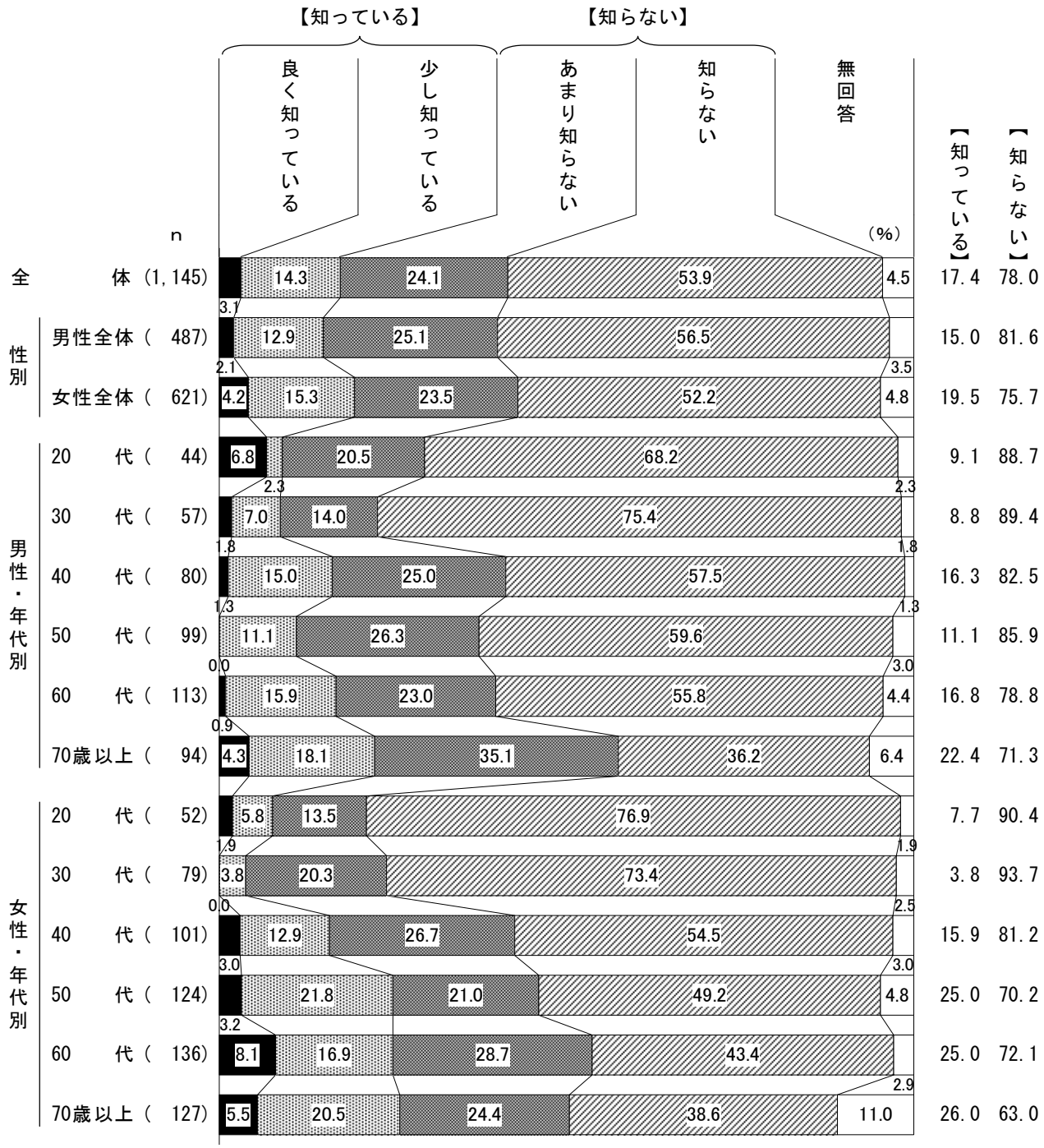
＜図表14－26＞施策の認知状況（ケ）電気自動車普及のための急速充電器の設置／性別、性・年代別



（コ）教育委員会表彰について性別でみると、【知っている】は女性（19.5%）が男性（15.0%）より4.5ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は女性の50代以上の年代でいずれも２割台半ばと高くなっている。一方、【知らない】は女性20代（90.4%）と女性30代（93.7%）で９割台と高くなっている。(図表14－27)

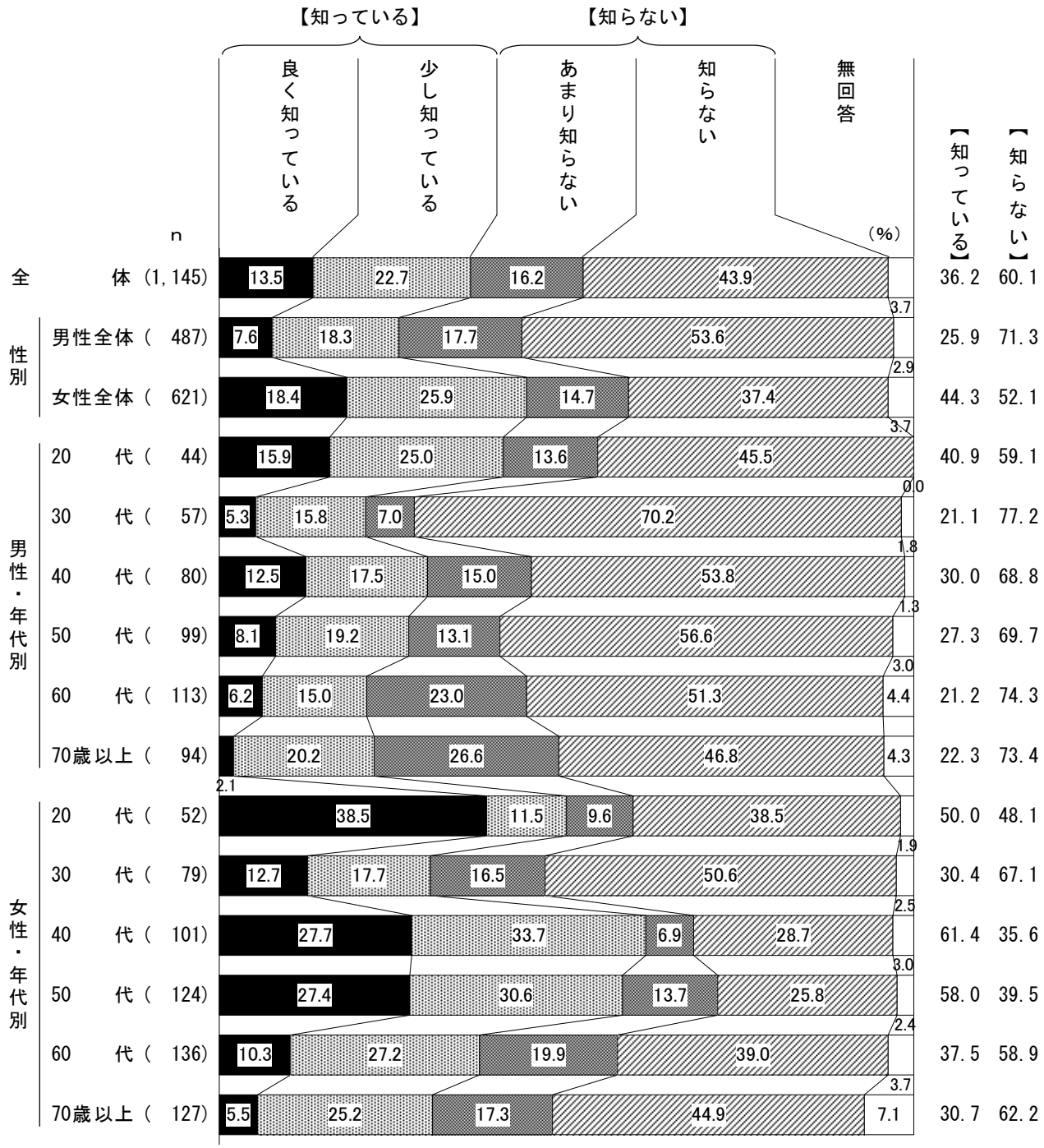
＜図表14－27＞施策の認知状況（コ）教育委員会表彰／性別、性・年代別



（サ）中学校ランチルームについて性別でみると、【知っている】は女性（44.3%）が男性（25.9%）より18.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は女性40代（61.4%）で６割強、女性50代（58.0%）で６割弱と高くなっている。一方、【知らない】は男性30代（77.2%）で８割弱、男性60代（74.3%）で７割台半ばと高くなっている。（図表14－28）

＜図表14－28＞施策の認知状況（サ）中学校ランチルーム／性別、性・年代別

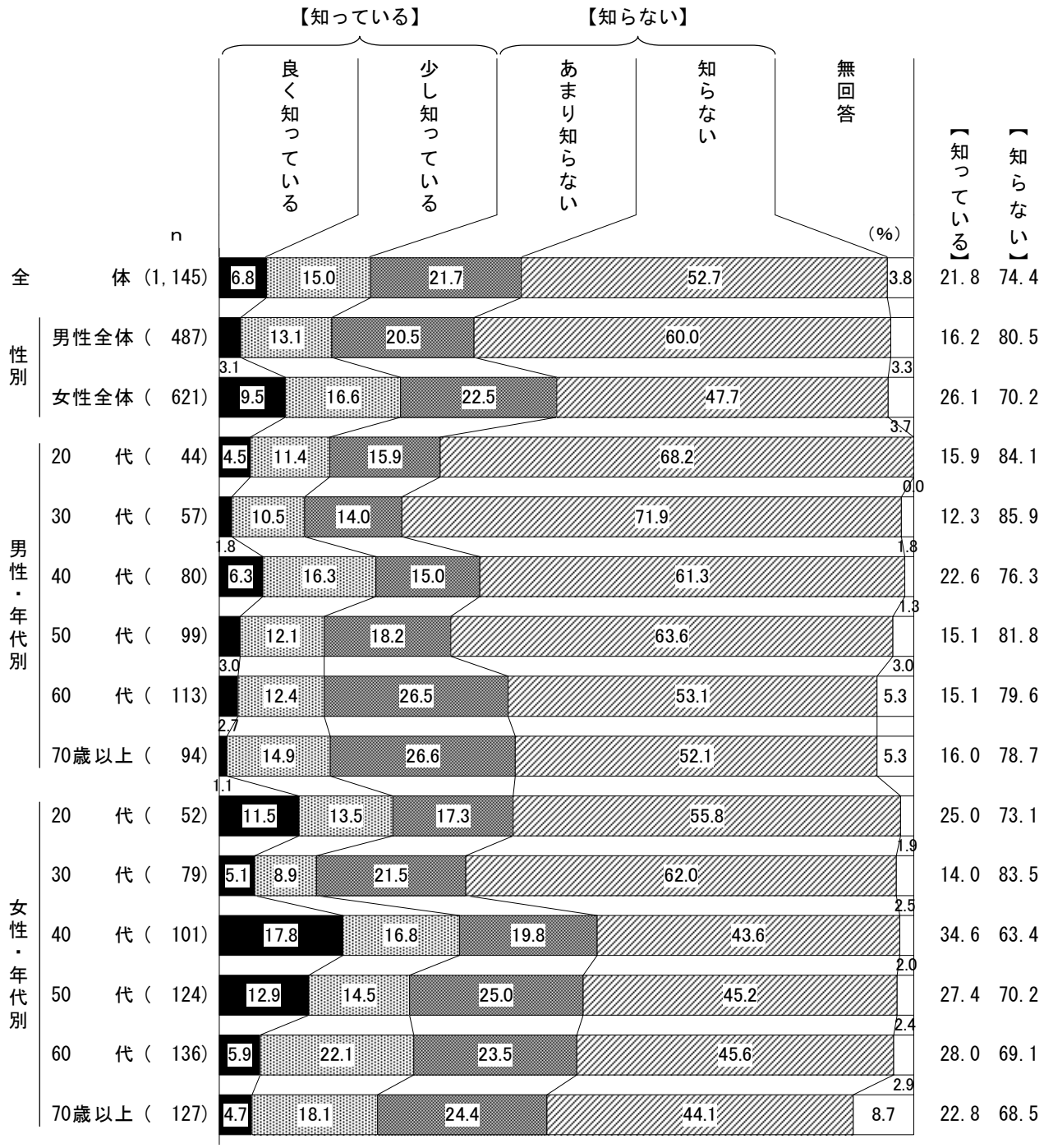


（シ）小・中学校宿泊学習教室について性別でみると、【知っている】は女性（26.1%）が男性（16.2%）より9.9ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は女性40代（34.6%）で３割台半ばと高くなっている。一方、【知らない】は男性20代（84.1%）と男性30代（85.9%）で８割台半ばと高くなっている。

（図表14－29）

＜図表14－29＞施策の認知状況（シ）小・中学校宿泊学習教室／性別、性・年代別

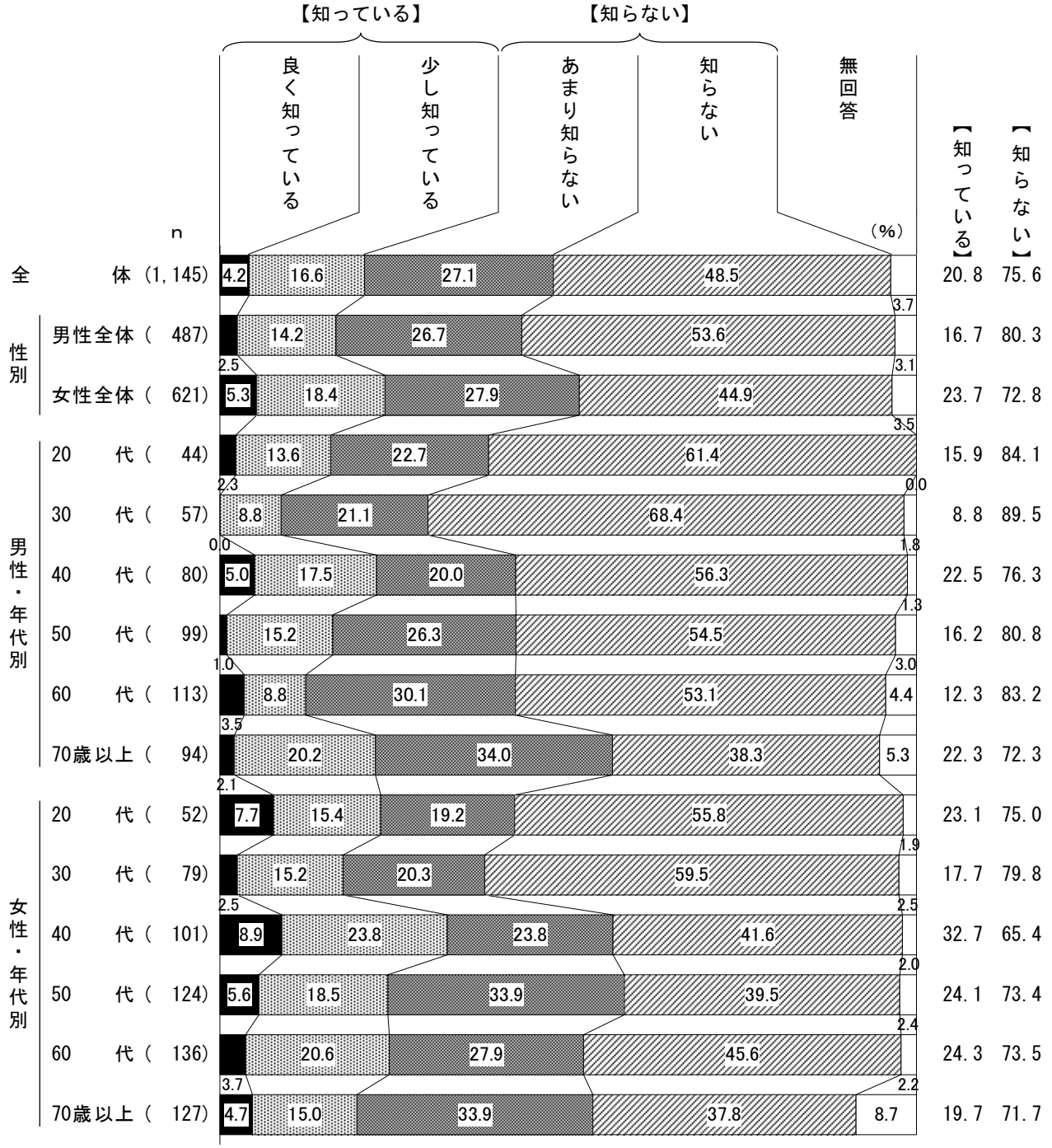


（ス）児童・生徒による音楽のまちづくりコンサートについて性別でみると、【知っている】は女性（23.7%）が男性（16.7%）より7.0ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は女性40代（32.7%）で３割強と高くなっている。一方、【知らない】は男性30代（89.5%）で約９割、男性20代（84.1%）で８割台半ばと高くなっている。

（図表14－30）

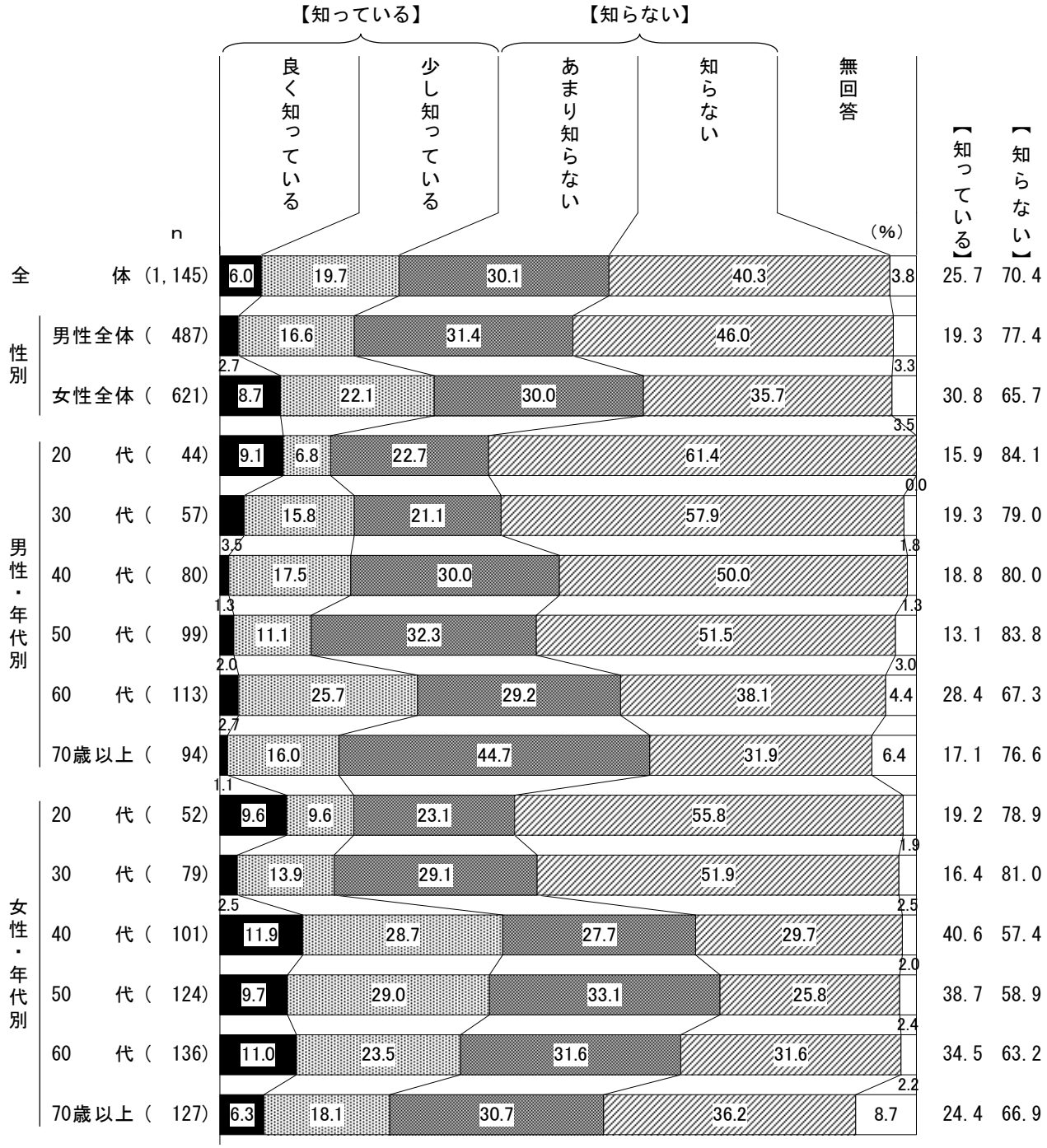
＜図表14－30＞施策の認知状況（ス）児童・生徒による音楽のまちづくりコンサート
／性別、性・年代別



（セ）教育相談（教育に関する悩み全般）について性別でみると、【知っている】は女性（30.8%）が男性（19.3%）より11.5ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は女性40代（40.6%）で約４割、女性50代（38.7%）で４割弱と高くなっている。一方、【知らない】は男性20代（84.1%）で８割台半ば、男性50代（83.8%）で８割強と高くなっている。（図表14－31）

＜図表14－31＞施策の認知状況（セ）教育相談（教育に関する悩み全般）／性別、性・年代別



15. 生涯学習

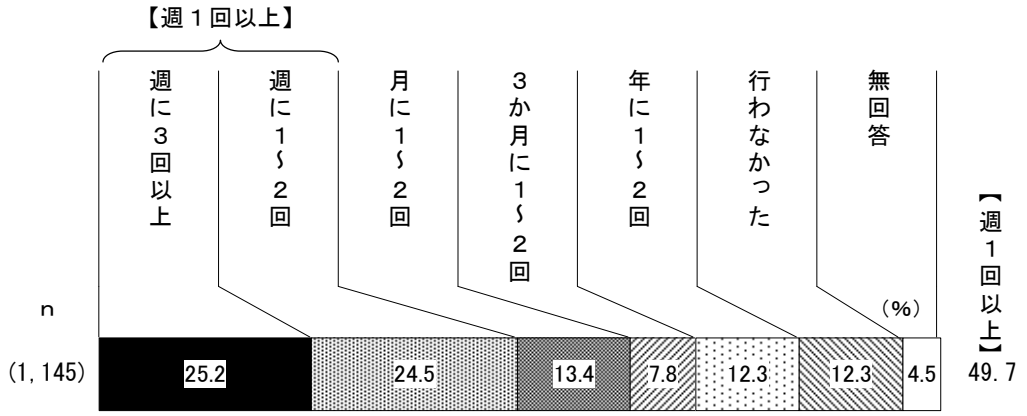
（１）運動・スポーツの実施頻度

◇【週１回以上】が約５割

問50　あなたは最近の１年間でどのくらいの頻度で運動やスポーツを行いましたか。（○は1つ）

※軽い運動（散歩、ウォーキング、軽体操、ヨガ、ボーリング、ゴルフ、水中ウォーキング等）を含む。

＜図表15－１＞運動・スポーツの実施頻度



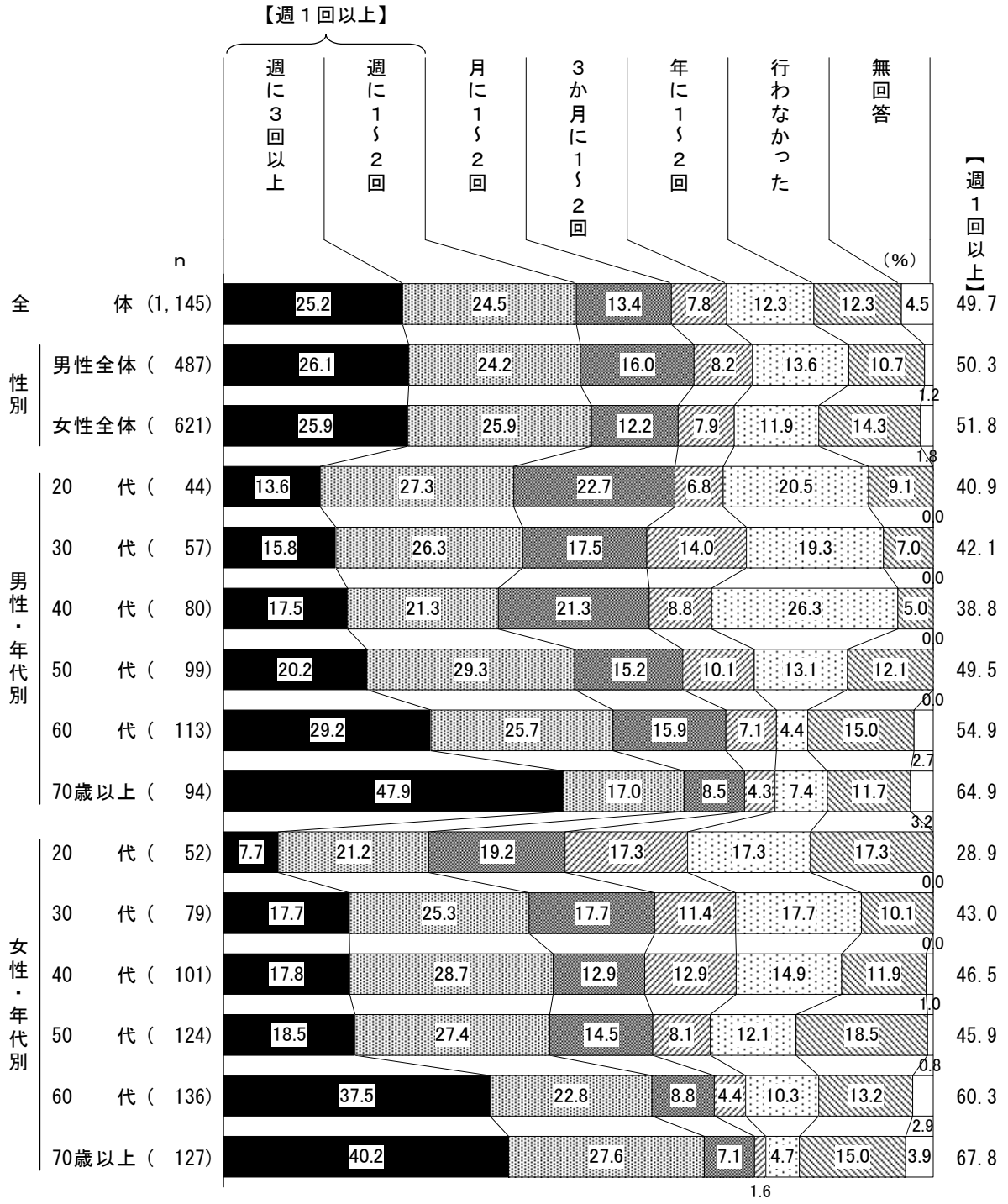
運動・スポーツの実施頻度を聞いたところ、「週に３回以上」(25.2%) と「週に１～２回」(24.5%) の２つを合わせた【週１回以上】(49.7%) が約５割となっている。「月に１～２回」(13.4%) と「年に１～２回」(12.3%)、「行わなかった」(12.3%) はそれぞれ１割強となっている。

(図表15－１)

性別でみると、「行わなかった」は女性（14.3%）が男性（10.7%）より3.6ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、【週１回以上】は女性70歳以上（67.8%）で７割弱、男性70歳以上（64.9%）で６割台半ばと高くなっている。「行わなかった」は女性20代（17.3%）と女性50代（18.5%）で２割弱となっている。（図表15－２）

＜図表15－２＞運動・スポーツの実施頻度／性別、性・年代別



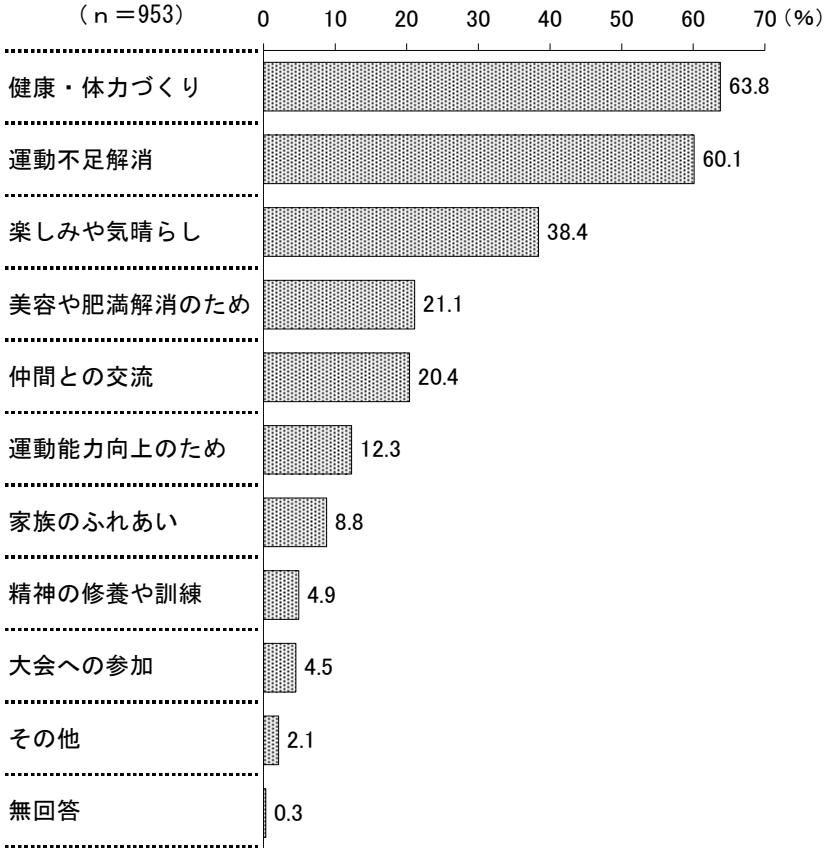
（２）運動する目的

◇「健康・体力づくり」が６割強

（問50で、「１」～「５」（最近の１年間で運動やスポーツを行った）を選んだ方に）

問50－１　運動する目的は何ですか。（○はいくつでも）

＜図表15－３＞運動する目的



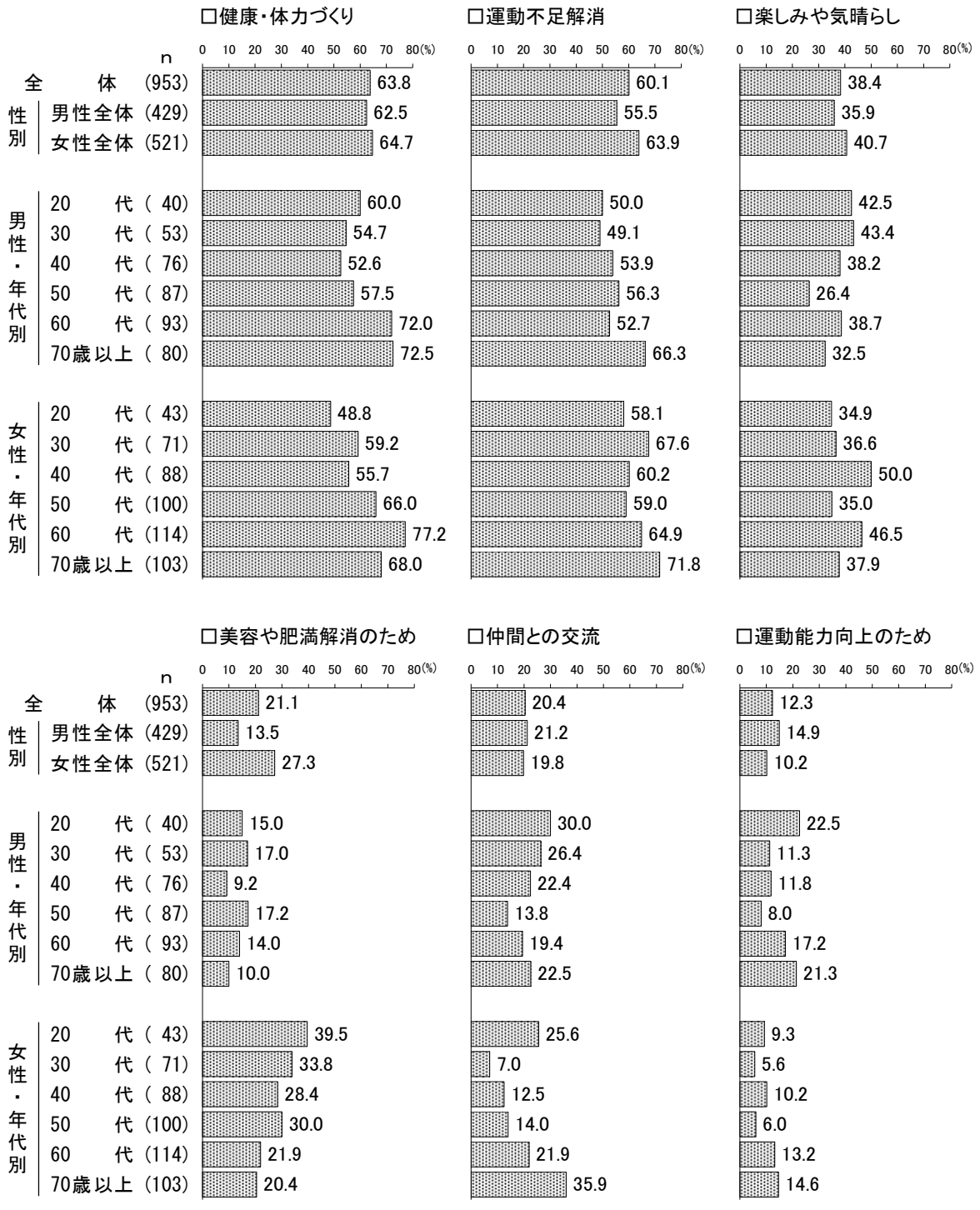
問50で、最近の１年間で運動やスポーツを行ったと答えた方に、運動する目的を聞いたところ、「健康・体力づくり」（63.8%）が６割強で最も高く、次いで「運動不足解消」（60.1%）、「楽しみや気晴らし」（38.4%）、「美容や肥満解消のため」（21.1%）、「仲間との交流」（20.4%）となっている。（図表15－３）

上位６項目について性別でみると、「美容や肥満解消のため」は女性（27.3%）が男性（13.5%）より13.8ポイント高く、「運動不足解消」は女性（63.9%）が男性（55.5%）より8.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「健康・体力づくり」は女性60代（77.2%）で８割弱と高くなっている。「運動不足解消」は女性70歳以上（71.8%）で７割強と高くなっている。「楽しみや気晴らし」は女性40代（50.0%）で５割と高くなっている。「美容や肥満解消のため」は女性20代（39.5%）で約４割と高くなっている。「仲間との交流」は女性70歳以上（35.9%）で３割台半ばと高くなっている。

（図表15－４）

＜図表15－４＞運動する目的／性別、性・年代別（上位６項目）



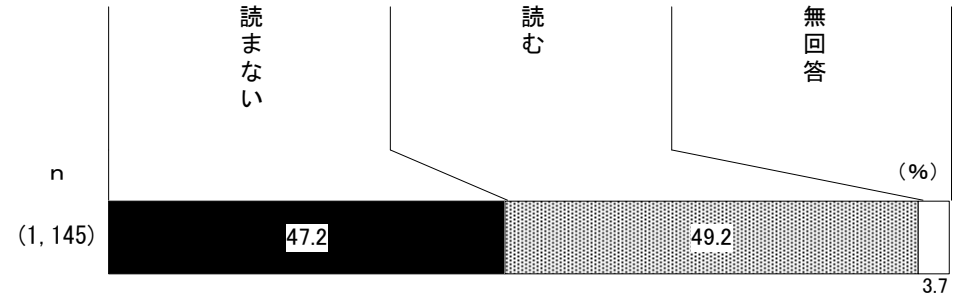
（３）読書の頻度

◇「読む」が約５割

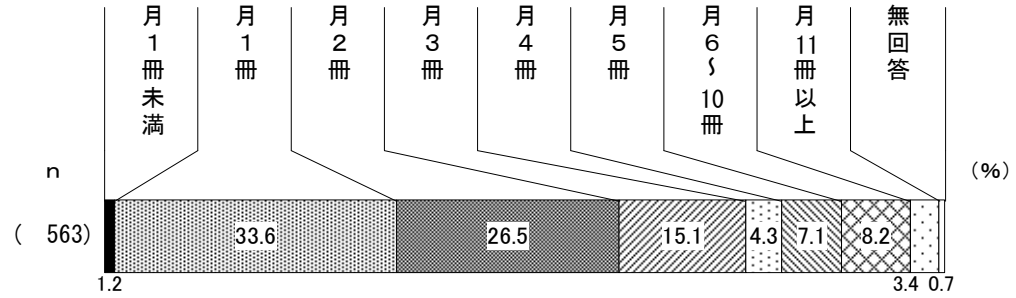
問51　あなたは１か月間に平均何冊本を読みますか。（読む方は冊数もお答えください。）

（○は１つ）

＜図表15－５＞読書をしているか



＜図表15－６＞１か月に読む冊数

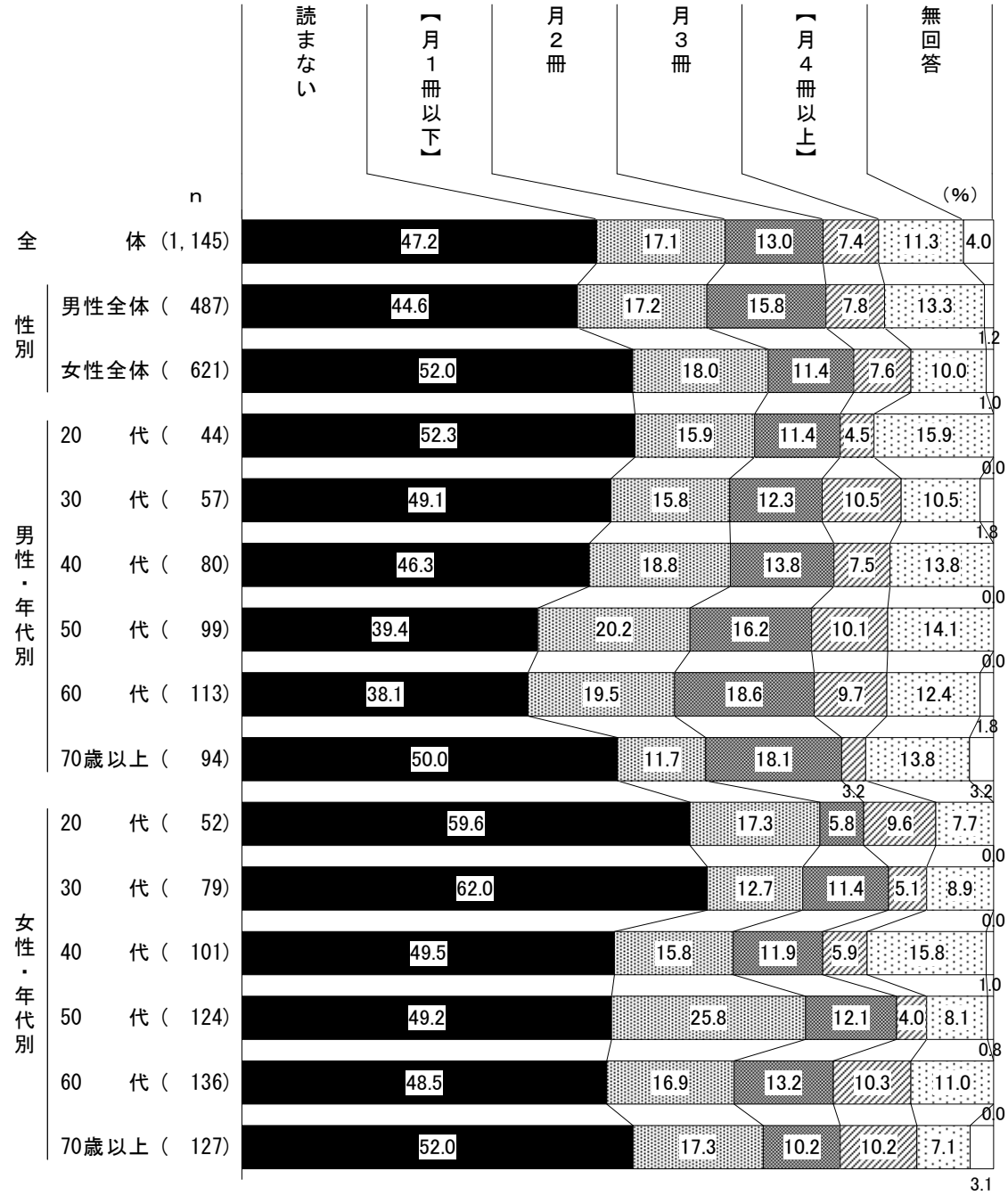


読書をしているか聞いたところ、「読む」（49.2%）が約５割となっている。「読まない」（47.2%）は５割弱である。（図表15－５）

「読む」と答えた方に、１か月に読む冊数を聞いたところ、「月１冊」（33.6%）が３割強で最も高く、次いで「月２冊」（26.5%）、「月３冊」（15.1%）となっている。（図表15－６）

性別でみると、「読まない」は女性（52.0%）が男性（44.6%）より7.4ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「読まない」は女性30代（62.0%）で６割強、女性20代（59.6%）で約６割と高くなっている。【月１冊以下】は女性50代（25.8%）で２割台半ばと高くなっている。

（図表15－７）

＜図表15－７＞読書の頻度／性別、性・年代別